

有又ハ所持ニ係ルモノニ對シテハ前項ノ規定ニ準シ不當廉賣者又ハ其ノ代理人ヨリ附加關稅ヲ追徵スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ追徵スル附加關稅ハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

第七條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 政府ノ輸入ニ係ル燃料用礦油

同條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四ノ二 直接燃料ニ供スル礦油ニシテ攝氏十五度ニ於ケル比重〇、九〇四ヲ超エタルモノ但

シ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル

同條第二十三號ヲ左ノ如ク改ム

二十三 國道府縣其ノ他ノ公共團體、政府ノ指定スル產業ニ關スル法人又ハ政府ノ許可ヲ受

ケタル者ノ輸入スル種用動物、獸疫免疫血清及獸疫豫防接種液

第八條中「提供スルコトヲ要ス」ヲ「提供セシムルコトヲ得」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

八 博覽會、展覽會、共進會又ハ品評會等へ出品スル爲輸入スル物品

別表輸入稅表中左ノ如ク改ム

第九號中「種魚」ヲ「種魚介」ニ改ム

第十號ノ次ニ左ノ如ク加フ

一〇ノ二 蠶種

無 稅

第十一號中「同」ヲ「從價」ニ改ム

第二十八號中「アイボリーナット」ノ下ニ「、ズームナット其ノ他類似ノ鈕釦製造核子」ヲ加フ

第二十九號ノ次ニ左ノ如ク加フ

二九ノ三 別號ニ掲ケサル採油用種子(桐子ヲ除ク)

無 稅

第六十一號及第六十二號中「一七、〇〇」ヲ「二四、二〇」ニ改ム

第六十三號中「一一、〇〇」ヲ「一六、四〇」ニ改ム

第六十四號中「四〇、〇〇」ヲ「四七、八〇」ニ、「一五、〇〇」ヲ「二二、八〇」ニ、「二〇、〇〇」ヲ「二七、

八〇」ニ、「三〇、〇〇」ヲ「三七、八〇」ニ改ム

第六十五號中「一〇〇、〇〇」ヲ「一〇八、〇〇」ニ改ム

第六十六號中「二〇、〇〇」ヲ「二七、八〇」ニ、「一一〇、〇〇」ヲ「一二四、〇〇」ニ、「六〇、〇〇」ヲ

「七三、九〇」ニ、「一圓」ヲ「一圓二十八錢」ニ改ム

第六十六號ノ次ニ左ノ如ク加フ

六六ノ二 鹽

無 稅

第六十九號第一項ヲ左ノ如ク改ム

一 綿羊皮及山羊皮

甲 鞣シタルモノ

乙 其ノ他

每百斤

九、四〇

無稅

第八十七號ヲ左ノ如ク改ム

八七 籠甲

無稅

第八十八號中「同」ヲ「從價」ニ改ム

第九十八號第一項中「每百斤」ヲ削リ「一、七〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第九十八號第二項ヲ左ノ如ク改ム

二 牛脂

無稅

同號ニ左ノ如ク加フ

三 其ノ他

每百斤

〇、八〇

一一五ノ二 柏油

無稅

第一百十六號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第一百二十三號中「每百斤」ヲ削リ「二、〇〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第一百二十四號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第一百二十五號中「同」ヲ削リ「八二、〇〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第一百二十七條中「同」ヲ削リ「二割」ヲ「無稅」ニ改ム

第一百二十八號中「每百斤」ヲ削リ「六、六五」ヲ「無稅」ニ改ム

第一百二十八號中「二」中「及ヤボランヂ葉」ヲ「ヤボランヂ葉及パッチェリー葉」ニ改ム

第一百二十九號中「每百斤」ヲ削リ「二、八五」ヲ「無稅」ニ改ム

第一百三十號中「同」ヲ削リ「二、六〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第一百三十二號ノ次ニ左ノ如ク加フ

一三二ノ二 杏仁及苦扁桃仁

無稅

一三二ノ三 番木鱉

無稅

第一百三十三號中「同」ヲ削リ「一四、三〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第一百三十七號中「同」ヲ削リ「六、一〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第一百三十八號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第一百四十一號ノ次ニ左ノ如ク加フ

一四一ノ二 甘草越幾斯

從 價 一 割

第百五十一號ノ次ニ左ノ如ク加フ

一五一ノ二 ブローム

從 價 三割五分

第百五十二號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第百五十七號ヲ左ノ如ク改ム

一五七 サリチール酸及アセチールサリチール酸

從 價 三割五分

第百五十八號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第百五十九號 削除

第百六十號中「每百斤」ヲ「同」ニ改ム

第百七十二號ヲ左ノ如ク改ム

一七二 サリチール酸曹達及サリチール酸曹達シオ
プロミン

從 價 三割五分

第百七十九號ヲ左ノ如ク改ム

一七九 ブローム 水素酸、ブローム加里其ノ他別號ニ
掲ケサルブローム鹽類

從 價 三割五分

第百八十號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第百九十七號及第百九十八號中「〇、七三」ヲ「一、〇〇」ニ改ム

第百六號中「同」ヲ「從價」ニ、「一一、〇〇」ヲ「三割五分」ニ改ム

第百七號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

二一五 コールタール分餾物ヨリ誘導シタル化學的
生成品(ベンザルデハイド、ナイトロベンゾ
ール及ナイトロトリユーオル以外ノ香料、石
炭酸、サリチール酸、ベクライト及醫藥ヲ除
ク)

從 價 三割五分

第百二十六號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第百二十號中「〇、七三」ヲ「一、〇〇」ニ改ム

第百三十七號ヲ左ノ如ク改ム

二三七 人造藍

同 二 割

第百四十三號ヲ左ノ如ク改ム

二四三 別號ニ掲ケサルコールタル染料

從 價 三割五分

第二百五十九號中「每百斤」ヲ削リ「〇、五五」ヲ「無税」ニ改ム

第四百十八號中「纖維狀ノモノ」ノ下ニ「白金粉ヲ有スルモノヲ含ム」ヲ加フ

第四百二十三號中「每百斤」ヲ削リ「〇、〇六」ヲ「無税」ニ、「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第四百三十五號第一項中「從價」ヲ削リ「五分」ヲ「無税」ニ改メ第二項甲中「同」ヲ削リ「一割」ヲ「無税」ニ、「同項乙中」ヲ「從價」ニ改ム

第四百五十八號中「鑛」ノ下ニ「燒キタルモノヲ含ム」、マツトポットム及鑛滓」ヲ加フ

第四百五十九號ヲ左ノ如ク改ム

四五九 白金、イリヂウム、オスミウム、バラヂウム、

ロヂウム、インヂウム及ルセニウム

無 税

第四百六十四號第七項中「每百斤」ヲ削リ「一、三〇」ヲ「無税」ニ改ム

第四百六十五號第一項中「同」ヲ「每百斤」ニ改メ第六項中「同」ヲ削リ「〇、三〇」ヲ「無税」ニ改ム

第四百六十六號中「同」ヲ「每百斤」ニ、「五分」ヲ「無税」ニ改メ第四項中「從價」ヲ削リ

第四百七十一號第七項中「同」ヲ削リ「二、二五」ヲ「無税」ニ改ム

第四百九十六號中「三七、五〇」ヲ「五〇、〇〇」ニ、「二二、五〇」ヲ「三〇、〇〇」ニ、「一四、三〇」ヲ

「一九、一〇」ニ、「二二、八〇」ヲ「一七、一〇」ニ、「一一、三〇」ヲ「一五、一〇」ニ、「九、八〇」ヲ「一三、一〇」ニ、「六、八〇」ヲ「九、一〇」ニ、「六、〇〇」ヲ「八、〇〇」ニ、「三、八〇」ヲ「五、一〇」ニ、「三、五〇」ヲ「四、七〇」ニ改ム

第六百十二號第一項己中「同」ヲ削リ「一、八〇」ヲ「無税」ニ、「壬中」及「ハコヤナギ」ヲ、「ハコヤナギ及胡桃」ニ改メ同號第二項丙ヲ左ノ如ク改ム

丙 燐寸軸木

無 税

同號第二項ニ左ノ如ク加フ

丁 其ノ他

從 價 二割五分

第六百四十四號中「每百斤」ヲ削リ「〇、三〇」ヲ「無税」ニ改ム

第六百四十五號中「同」ヲ削リ「〇、〇六」ヲ「無税」ニ改ム

附 則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ九年七月十二日本院ニ之ヲ提出ス翌十三日本案ノ第一讀會ヲ開キ高橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ關稅定率法中ノ改正デゴザイマシテ、政府ハ前議會ニ本會ト同様ノ提案ヲ致シマシテ、衆議院ニ於テ一ノ點ニ修正ヲ加ヘテ通過致シマシタガ、議會解散ノ爲メニ、未ダ貴族院ノ議ヲ經ルニ至ラズシテ終リマシタノデゴザイマス、今回ノ提案ハ前議會ニ衆議院ニ於テ修正可決セラレタル其案ヲ提出シタル次第デゴザイマス、元來現行關稅率ハ、世界大戰ノ影響ニ依リマシテ、根本的ノ整理改正ヲ行フノ必要モアルノデゴザイマスガ、右ハ其調査ニモ相當長キ時日ヲ要スベキコトデアリマスカラ、此際ハ差當リ急速ニ實施ヲ要シマスル種類ノモノヲ撰ンデ、提案シタル次第デゴザイマス、即チ本案ノ内容ハ、戰時中ニ勃發致シマシタル染料、並ニ藥品等ノ工業ニ對シマシテ必要ノ保護ヲ加ヘマスコト、又各種ノ原料品ノ關稅ヲ免除スルコト、又外國品ノ不當ナル廉賣ニ依ッテ、本邦ノ産業ガ危害ヲ被ルト云フ虞ノアル場合ニ對シマシテ、是ガ對策トシテ必要ノ場合ニ於テハ、不當廉賣品ニ對シマシテ、附加稅ヲモ爲シ得ルノ途ヲ開クコト、並ニ別ニ本會ニ提案サレテ居リマス酒ノ稅ノ改正ニ伴ヒマシテ、是ト權衡上輸入酒類ノ輸入稅ヲ增率スルコト等デゴザイマス、御審議ノ上協贊アラント願ヒマス

次テ本案ハ議長指名(十八名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス

委員ハ翌十四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長指田義雄君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

(前略)本案ノ趣旨ハ戰後我國ニ及ボシマシタル影響ニ刺戟セラレマシテ、種々ナル工業ガ勃興致シタノデゴザイマスガ、此工業ノ發達ヲ保護助長致シマスル爲メニハ、關稅法ノ關稅定率、其

他政策ノ按排ニ依ル必要ガアルノデアリマス、即チ此法案ハ現内閣ノ戰後經營ノ一デアアル産業政策ノ片鱗トシテ認メ得ベキ重大ナル意味ヲ有ッテ居ルト考ヘルノデアリマス、併シ私ハ此案ノ各品目、稅率ノ按排、其他詳細ナルコトハ前議會ニモ既ニ度々御審議ニ相成ッテ、當院ヲ通過シテ居リマスルモノデゴザイマスカラ、是ニ就キマシテノ説明ハ省略致シマシテ、總テ議案ニ依ッテ御審查ヲ願ヒタイト思フノデゴザイマスガ、唯ダ私ハ此改正ノ主義ダケヲ搔擗ンデ申上ゲテ置クト云フコトハ、此際多少ノ必要ガアルカト感ズルノデアリマス、此案ノ改正ノ第一ニハ不當廉賣、即チ彼ノ「ダンピング」ヲ如何ニシテ防止スルカト云フ點ニ關スル規定ガアルノデアリマス、此不當廉賣ニ就キマシテハ、此案ノ條件ト致シマシテハ、先ヅ第一ニ不當ナル價格ヲ以テ廉賣スルト云フ事實、更ニ其不當ナル廉賣ガ我國ノ重要ナル産業ニ、危害ヲ與ヘル虞ノアルト云フコトガ、第二ノ條件ト相成ッテ居リマス、第三ノ條件ハ此事情ニ基イテ、不當廉賣調査委員會ノ調査決定ヲ經ルト云フコトガ第三ノ條件ニ相成ッテ居リマスノデアリマス、此三ツノ條件ヲ備ヘマシタ不當ノ廉賣ノアル場合ニ於テハ、關稅定率ニ依ッテ定メラレテ居リマス課稅ノ外ニ更ニ其生産費ニ達スル迄ハ適當ノ課稅ヲスルコトガ出來ルト云フコトヲ以テ、先ヅ此第一ノ「ダンピング」ヲ防止シタイト云フ目的ニ相成ッテ居ルノデアリマス、第二ハ或種類ノ稅金ヲ増加シマシテ、即チ從來從量稅ニ相成ッテ居リマスルモノヲ、主トシテ從價一割五分ニ改正ヲ致シマシテ、此外國ノ輸入ヲ多少防ギマシテ、サウシテ内地製品ノ發達ヲ期スルト云フコトガ第二ノ簡條ニナッテ居ルノデアリマス、第三ノ主義ト致シマシテハ、我國工業ノ原料タルベキモノハ大體ニ於キマシテ無稅ニスル、斯様ナ意味ニ於テ規定セラレテアルノデアリマス、即チ此三ツガ主ナル要點デゴザリマシテ、此三ツニ依ッテ先ヅ産業保護助長ノ目的ヲ達セントスルコトニ歸著スルノデアリマス、更ニ此改正ノ中ニハ一箇條他ノ意味ガアルノデアリマス、ソレハ過日ノ御決定ニナリマシタ酒造稅法ノ改正ニ依リマシテ、此稅金ノ權衡ヲ得セシメマスルガ爲メニ、外國輸入ノ酒類ニ對シマシテ、稅率ノ變更ヲ致シマシタ、即チ是ハ稅率ノ權衡ヲ得ルト云フ目的デアアルノデアリマス、是等ノ理由ニ基キマシテ本案ヲ提出セラレタモノデアリマス、然ルニ此産業ノ保護助長ノ目的

ヲ以テスル税率ノ變更ハ、茲ニ提案セラレテ居リマスル以外ニ、マダ色々種類ガアルデハナイカ、例ヘバ曹達工業ノ如キ加里工業ノ如キ、或ハ亞鉛鐵其他ノ工業ノ如キ、是等モ亦税率ノ按排ニ依ッテ、是ガ保護獎勵ヲシナケレバ、内地ノ事業ハ行立タナイコトニナルノデアアルマイカト云フ意味ニ於ケル委員ノ希望ガ大方アッタノデゴザイマス、此點ニ就キマシテ、委員會ハ政府ニ對シテ色々ノ質問應答ガ繰返ヘサレマシテ、結局ソレ等ノ問題ニ就キマシテハ、一ノ希望決議ヲ致シマシタ、此希望決議ニ政府ガ若シ同意スルナラバ、所謂拙速ヲ尙ブ、時代ノ要求ヲ少シモ速カニ貫徹セシメルト云フ意味ニ於キマシテ、其他ノモノハ希望ヲ他日ニ繋ギマシテ、原案ヲ此儘通過セシメルガ却ッテ便利デアアルマイカト云フコトニ一致シタノデアリマス、即チ其希望ノ條件ヲ茲ニ讀上ゲマス「政府ハ速ニ曹達加里、亞鉛鐵等重要ナル産業ノ状態ヲ調査シ適當ナル關稅政策ヲ確立スルニ努ムヘシ」尤モ此希望決議ニ對シテ斯様ナ説明ヲ附加ヘテ、政府ノ言明ヲ求メタノデアリマス「從來政府ハ此關稅政策ノ調査ハ著手セラレテ居ルヤウデアアルケレドモ、若シ調査ノ全部ガ完了スルヲ待ッテ之ヲ提案セントスルナラバ、大ニ時間ヲ要スルコトニナルノデアアル、或ハ次ノ議會ヲ待ッテモ提案スベキ程度ニ達セヌカモ知レヌ、或ハ其次ノ議會マデ延ビルカモ知レヌノデアアル、財界ノ状態ハ斷ジテ左様ナ優柔不斷ヲ許サヌノデアアル、カルガ故ニ既ニ政府ニ於テ是等ノ品目ニ就キ、或ハ是等以外ノモノニ就テ調査ヲ進メラレテ居ルモノガアルナラバ、其調査ノ完了次第、縱令一ツニツノ品物デモ隨時ニ成ベク近キ機會ニ於テ之ヲ提案スルコトニシテ貫ヒタイ、特ニ此處ニ掲ゲテアルモノ、如キニ就テハ、希クハ次ノ議會ニ之ヲ提案セラレルヤウニ致シタイ、斯様ナ意味ニ於テ政府ノ意向ヲ確メテ見タノデアリマス、然ルニ政府ハ之ニ對シテ答ヘラレマスルニハ、鐵、曹達ノ如キハ現ニ財政經濟調査會ニ於テ問題ト相成リ、餘程其議事モ進行ヲシテ居ル模様デアアル、又亞鉛ノ如キ其他ノ品物ニ就テモ、大ニ調査ハ進行致シテ居ルノデアアル、故ニ豫テハ全部ノ調査ノ了了ヲ待ッテ提案スル積リデアッタガ、今ヤ調査ノ進行ノ模様ヲ見ルニ、必シモ全部ノ了了ヲ待タズシテ、調査ノ濟ミ次第切レ、成ベク速ニ議會ニ提案スルヤウニ致シタイト云フ希望ヲ持ッテ居ルト云フ、政府委員ノ言明デアッタノデアリマス、委員會

ハ此誠意アル言明ニ満足致シマシテ、此希望決議ヲ附帶條件ト致シマシテ、滿場一致ヲ以テ本案ヲ可決スルコトニ相成ッタノデアリマス、本會議ニ於テモドウゾ御賛成アラシコトヲ希望致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十三日可決奏上シ同月二十六日法律第四號ヲ以テ公布セラル

二九 電信事業公債法案

電信事業公債法

第一條 電信擴張及改良費支辨ノ爲政府ハ七千三百八十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

三〇 電話事業公債法中改正法律案

電話事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「一億二百五十萬圓」ヲ「三億二千八百萬圓」ニ改ム

第二條中「本法ニ依ル公債又ハ借入金借換ノ爲必要アルトキ亦同シ」ヲ削ル

三一 朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮事業公債法中左ノ通改正ス

「第一項」ヲ「前項」ニ、「一億七千八百萬圓」ヲ「二億六百五十萬圓」ニ改メ第二項ヲ削ル

三二 臺灣事業公債法中改正法律案

臺灣事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「事業費支辨ノ爲」ヲ「事業費又ハ事業費補助ニ要スル經費支辨ノ爲」ニ、「九千二百五十萬圓」ヲ「一億六百二十萬圓」ニ改ム

三三 樺太事業公債法中改正法律案

樺太事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「五百五十萬圓」ヲ「千二百五十萬圓」ニ改ム

第二條中「本法ニ依ル公債又ハ借入金借換ノ必要アルトキ亦同シ」ヲ削ル

右五案ハ孰レモ九年七月十二日本院ニ之ヲ提出ス同月十三日五案ヲ議事日程ヲ變更シテ議題トナリタル(三五)乃至(三七)ト一括シテ第一讀會ヲ開ク(委員會並議事ノ經過及公布ハ(三五)參看)

三四 明治二十九年法律第十三號中改正法律案

明治二十九年法律第十三號中左ノ通改正ス

第一條中「專門學校」ヲ「大學高等學校專門學校」ニ、「舍監」ヲ「幹事學生監舍監助手」ニ改ム

第三條及第四條ノ二中「舍監」ヲ「幹事學生監舍監助手」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ公立大學ノ幹事又ハ學生監ニシテ本法施行前退職又ハ死去シタル者、教育事務ニ從事スル文官又ハ他ノ待遇文官ニ轉任シ退職、退職又ハ死去シタル者及其ノ遺族ニ付亦本法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

右ハ九年七月三日貴族院ニ之ヲ提出ス同院ハ同月十二日本案ヲ可決シ即日之ヲ本院ニ送付ス
本院ハ同月十五日日本案ノ第一讀會ヲ開キ中橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

是ハ從來ノ公立學校ノ校長、其他職員ニ對シマシテ、退隱料扶助料等ノ如キモノヲ支給スル規定
ガアッタノデアリマス、然ルニ昨年ヨリシマシテ、公立ノ大學校、高等學校ヲ設立スルコトガ出來
ルヤウニナリマシタノデ、現ニ大阪ノ醫科大學ガ出來、又本年ニ入りマシテ、愛知ノ醫科大學ノ
認可ヲ得タ次第デアリマス、是等ノ學長職員ニ對シマシテ、矢張同様ノ規定ヲ適用シテ、退隱料
扶助料ヲ支給スルノ必要ガアリマスノデ、此改正ヲ必要トスル譯デアリマス、貴族院デ可決ニナ
リマシテ、コテラヘ送付ニナッタノデアリマス、ドウゾ御審議ヲ願ヒマス

次テ本案ハ政府提出帝國大學特別會計法中改正法律案(三八)外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス(委
員會並議事ノ經過及公布ハ(三八)參看)

三五 國債償還資金ノ繰入ヲ爲ササルコトニ關スル法律案

政府ハ國防ノ充實ニ關スル經費支辨ノ爲大正九年度乃至大正十二年度限リ國債整理基金特別會
計法第二條ノ規定ニ依ル元金償還資金ノ繰入ヲ爲ササルコトヲ得

三六 事業公債金特別會計法中改正法律案

事業公債金特別會計法中左ノ通改正ス

「事業公債金特別會計法」ヲ「公債金特別會計法」ニ改ム

第一條 各種ノ經費ノ支辨ニ充ツヘキ公債金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歳入歳出ト區分スヘ
シ

第二條 公債金ヲ使用セムトスルトキハ之ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ屬スル會計ノ歳入ニ繰入ル
ヘシ

第六條 公債金ハ之ヲ以テ支辨スヘキ經費毎ニ區分整理シ其ノ經費ヲ要セサルニ至リタル後剩
餘アルトキハ之ヲ其ノ經費ノ屬シタル會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第八條 本法ハ大正五年法律第四號ニ依リ發行スル公債ノ收入金ニ關シテハ之ヲ適用セス

附則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

三七 道路公債法案

道路公債法

第一條 國道改良費支辨又ハ國道、府縣道若ハ市ノ重要街路ノ改良費補助ニ關スル經費支辨ノ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

爲政府ハ二億八千二百八十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

右三案ハ孰レモ九年七月十二日本院ニ之ヲ提出ス同月十三日議事日程ヲ變更シ三案ヲ(二九)乃至(三三)案ト一括シテ五案ノ第一讀會ヲ開キ高橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(三三)案ト一括シテ五案ノ第一讀會ヲ開キ高橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ
國債償還資金ノ繰入ヲ爲サザルコトニ關シマスル法律案ト云フモノニ就テ、說明ヲ致シマス、國防ノ充實ニ關シマスル新規計畫ノ財源ニ充當スル爲メニ、大正九年度以後一時國債償還資金ノ繰入ヲ停止スルノ計畫ハ、既ニ追加豫算ノ提出ニ際シマシテ、申述ベマシタル通りデゴザイマシマス、然ルニ國債整理基金特別會計法ニ依リマスレバ、毎年度國債償還資金ニ繰入ヲ要スルコト、ナツテ居リマスル、仍テ本案ノ提出ヲ必要トシタル次第デゴザイマシマス、現在ノ豫算計畫ニ於キマシテ、大正十三年度以後優ニ之ヲ復活スル餘裕ヲ生ジマスガ故ニ、大正九年度ヨリ大正十二年度ニ至ル此四箇年ノ間ニ、元金償還資金ノ繰入ヲ爲サザルコトニ致シマシタ、尤モ此期間ニ於キマシテモ、歲計上餘裕ヲ生ジマスル場合ニハ、元金償還資金ニ繰入ヲ爲ス考デゴザイマシマス、事業公債金特別會計法中改正法律案ニ就テ一言說明ヲ致シマス、高等教育機關ノ増設、又ハ其擴張ニ關シマスル公債法、帝國鐵道會計法、及此度提案致シマシタ道路公債法等ニ依リマシテ發行スル、公債ノ收入金ヲ從來ノ事業公債金ト共ニ、第一整理致シマスルコトガ便利デゴザイマシマス、事業公債金特別會計法ヲ公債金特別會計法ト改メマシテ、之ニ伴ヒマシテ、二三ノ條項ヲ修正致シタイト考ヘルノデアリマス、道路公債法案ニ就キマシテハ、我國ノ道路ハ甚ダ不十分デゴザイマシマスカラ、政府ハ大正九年度ヨリ三十八年マデ三十箇年ノ間ニ、總額二億八千二百八十萬圓ヲ支出

致シマシテ、或ハ軍用國道ノ改良ヲ爲シ、或ハ府縣以下ノ公共團體ニ對シマシテ補助ヲ與ヘテ、國道縣道、若クハ市ノ重要街路等ノ改良ヲ爲サシムルノ計畫ヲ立テマシタ、其財源ハ之ヲ公債ニ求ムルコト、致シマシテ、是ガ起債ノ法律ヲ制定致サントスル次第デゴザイマシマス、電信事業公債法案、現在ノ電信ノ設備ハ、時勢ノ進歩ニ伴ッテ居リマセヌノデ、著シク不便ヲ感ジテ居ルノデゴザイマシマス、故ニ大正九年度ヨリ十五年度マデ七箇年間ニ、繼續費總額七千三百八十萬圓ヲ支出致シマシテ、電信線路ノ増築、又ハ改築、局所ノ増設、機械ノ敷替改良等、何レモ必要ナル施設ヲ遂行致シタイト考ヘルノデアリマス、是ガ財源ハ之ヲ經常歲入ニ求メルコトガ出來マセヌカラシテ、此起債法ヲ制定セントスル次第デゴザイマシマス、電話事業公債法中改正法律案——此度電話交換擴張費一億二百五十萬圓、之ヲ既定額ニ對シマシテ、大正九年度以降八箇年度間ニ、繼續費總額二億二千五百五十萬圓ヲ追加致シマシテ、其全部ヲ公債財源ニ依ルコトニ計畫ヲ致シマシタ、故ニ銀行ノ起債法定額一億二千五百五十萬圓トアリマスルノヲ、三億二千八百萬圓ト改正セントスルノデアリマス、其他ハ序ヲ以テマシテ、法規ノ整理ヲ爲サントスルノニ過ギナイノデアリマス、朝鮮事業公債法中改正法律案、朝鮮ニ於キマシテ鐵道建設及改良費、鹽田擴張費、醫院新營費、其他ノ事業費ノ爲メ、大正九年度ヨリ十五年度ニ互リマシテ、公債ヲ以テ支辨スベキモノノ總額二千八百四十六萬圓ヲ增加スルノ計畫ヲ立テマシタ、之ヲ銀行ノ起債法定額一億七千八百萬圓ニ追加致シマシテ、其法定額ヲ二億六百五十萬圓ニ改正セントスルモノデアリマス、其他ハ法規ノ整理ニ止マルモノデアリマス、臺灣事業公債法中改正法律案——是ハ從來政府ニ於テ經營致シテ居リマシタル官佃溪ハ、埤圳工事、水利組合ノ事業ニ移リマシテ、其經費ノ一部千二百萬圓ヲ、六箇年度間ニ補助スルコトノ計畫ヲ致シマシタ、此補助費ハ從來公債財源ニ依ッテ支辨シテ居リマシタル、水利事業費ノ一部ニ代ルベキモノデアリマス、ソレ故同ジク公債ヲ以テ支辨スルコトニ致シタイト考フルノデアリマス、是ガ改正ヲ要スル一點デアリマス、又基隆築港工事費、鐵道建設費等ノ公債ヲ以テ支辨スベキモノ、千三百六十五萬圓ヲ增加スルコトニ致シマシタカラ、銀行ノ既定法定額九千二百五十萬圓ヲ、一億六百二十萬圓ト改正スルノデア

リマス、是ガ此改正ノ第二點トナツテ居ルノデゴザイマス、樺太事業公債法中改正法律案——是ハ大泊港修築ニ要シマスル繼續費總額四百九十萬圓、鐵道建設費追加額二百十萬圓、合セテ七百萬圓ヲ公債財源ニ依ルコトニ致シタイト考ヘルノデゴザイマス、現行起債法定額五百五十萬圓ヲ、千二百五十萬圓ニ増加セントスルモノデゴザイマス、何レモ御審議ノ上、御協賛ヲ與ヘラレシコトヲ望ミマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シ後ニ併セ付託セラレタル(四五)乃至(四八)案ト共ニ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ三案(二九)乃至(三三)案及(四五)乃至(四八)案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長井上角五郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

國債償還資金ノ繰入ヲ爲サ、ルコトニ關スル法律案外十一件ノ委員會、昨日今日ニ互リマシテ、案ノ内容ニ就テ、當局ノ説明ヲ求メ、次デ決議ヲ爲シテ、十二案悉ク政府原案ヲ可決スルコトニ決定致シマシタ、其各案ニ就テノ大要ヲ御參考マデニ、爰ニ説明ヲ致シテ置キマス、國債償還資金ノ繰入ヲ爲サ、ルコトニ關スル法律案ハ、國防充實ニ關スル經費ヲ支辨スルガ爲メニ、所得稅法、酒造稅法等ヲ改正シテ、其費用ニハ充テタケレドモ、本年度乃至十二年度ノ四箇年度ニ於テ三千萬圓、合計シテ一億二千萬圓ダケヲ、此繰入ヲ中止シテ、國防充實ノ費途ニ充ツルトキハ、徒ラニ多額ノ増稅ヲ爲サズシテ、永年間に互ル此充實ノ設備ヲ完全ニスルコトガ出來ル、言換ヘレバ即チ國防充實ノ爲メニ、此金ヲ使用シテ、増稅ヲ或程度ニ止メタト云フニ外ナラヌノデアリマス、政府當局者ハ之ヲ説明致シマシテ、元來國債償還金ノ繰入ヲ爲スノハ、主トシテ外國公債償還ト云フコトヲ目的トシテ居タノデアアル、然ルニ今日ニ於テハ、即チ外國公債ノ償還スベキモ

ノハ如何ヤウニナツテ居ルカト云ヘバ、大正九年度ニ於テ約三百九十萬五千二百圓、是ハ本年内ニ償還スル積リデ居ル、其次ニ十二年ニ三千七百九十三萬二千九百九十二圓、十三年ニ二億三百三十三萬四千八百三十五圓、十四年ニ二億三千五百六十二萬六千五百六十五圓、ソレカラ十九年マデ外國債ノ償還スベキモノガナクシテ、十九年度ニ至ツテ更ニ二億四千四百六十六萬八千三百六十一圓償還スベキモノガアルノデアアル、言換ヘレバ約四億萬足ラズノモノヲ、大正十四年度末マデ償還スレバ、外國債ノ償還ハ是デ十分出來ル、然ルニ今政府ガ預金部ニ持ツテ居ル在外正貨ガ、三億九千三百七十萬アルト云フコトデアアルカラ之ヲ外國借替ヘルコトモ容易デアアル、若シ外國借替ヘルコトガ出來ルケレバ、預金部ノ即チ在外正貨ヲ之ニ嵌メテ償還スレバ、内國ニ於テ借替ヘルコトモ出來ルノデアアルカラ、其外國公債ノ償還ノ目途ニ置イテ、以テ拵ヘテ居ル、國際償還資金ノ繰入ハ、之ヲ一時中止スルモ、最初此案ヲ立テタ目的ノ如ク、尙ホ財政ノ信用ヲ維持シ、公債ノ時價ヲ維持スルコトガ出來ルノデアアルカラ、差支ハナイト云フノガ當局ノ説明デゴザイマシタガ、討議ヲ爲スニ方リマシテ、即チ憲政會ノ一員タル正木委員ヨリ、國庫ニハ剩餘ガアルカラ、彼ノ剩餘金ヲ以テ國防計畫ノ足ラナイ費用ニ充テ、モ宜カラウ、又或ハ彼ノ剩餘金ヲ此繰入ノ方ニ充テ、モ宜カラウ、兎ニ角何トカシテ或ハ所得稅ノ増加ヲ今一段多ク増加シテ、年々三千萬圓ヅ、先達決メタヨリモヨリ多ク取ツテ、サウシテ此繰入ヲ續ケタラ宜イデハナイカ、此繰入ヲ廢止スルト云フコトハ、公債政策ノ根本ヲ破ツテ、財政信用ヲ害スルモノデアアルカラ、之ニ反對スルト云フ御意見デアリマシタ、起立ニ問ヒマシタ結果、多數ヲ以テ可決シタノデゴザイマス、事業公債金特別會計法中改正法律案ト云ヒマスノハ、大正八年二月法律第十五號デ成立シタモノデアリマスガ、其第一條、第二條、第六條ヲ修正シテ、別ニ八條ヲ挿入シテ、且ツ此法律ハ從來事業公債金特別會計法ト稱シテ居タモノヲ、公債金特別會計法ト改メルト云フノデアリマス、其意味ハ事業公債ノミヲ此特別會計法デ是マデハ整理シテ居タノデアアルガ、今後ハ事業公債ナラザルモノヲモ、此特別會計法ヲ以テ整理シタイ、例ヘバ今回制定ニナツタ所ノ道路公債法案ノ如キハ、是ハ事業公債デハナイ、道路公債ヲ募集シテ、政府自ラ其公債ニ依リテ道路ヲ改良シ、若

クハ其公債金ヲ府縣都市ニ分配シテ、其道路ノ改良ヲ補助スルノデアルカラ、事業公債トスベキモノデナイケレドモ、此特別會計法デ整理シタイ、各鐵道國有ニ關スル國有鐵道ノ公債ハ、即チ是マデ事業公債ト稱シテ居ナカッタカラ、此特別會計法デ整理シテ居ナカッタガ、之ヲモ此中デ整理ラシタイ、要スルニ一切ノ公債臨時軍事費ニ關スル公債トカ、或ハ軍用ニ關スル公債ノ如キモノハ別ニシテ、其他ノモノハ總テ一括シテ整理シタイト云フコトノ爲メニ、事業公債金特別會計トアルノヲ公債特別會計ト改メテ、斯様ニ各條ヲ修正シタノデアリマス、別ニ異議ナク委員會ハ同意ヲ表シテゴザイマス、國債整理基金特別會計法中改正法律案、是ハ主トシテ政府ハ計算上利益アリト認メタル場合ニ於テ、國債ノ借替ノ爲メ、低利ノ公債ヲ募集スルコトヲ得ルト云フ條項ガアッタ、其條項ヲ改正シタノト、又一ツハ是マデ整理公債條令ト云フモノガゴザイマシテ、明治十九年ニ制定シテ、中々舊ク實行ニ適セナイモノガアッタガ、尙ホソレノ制裁ヲ受ケナケレバナラヌヤウナ事ガアッタノヲ除クガ爲メニ、國債整理基金特別會計法中一條ニ改正ヲ加ヘタイト云フノデアリマス、之ヲ改正シタ結果トシテ、家祿賞典祿處分法施行法中改正法律案、鐵道國有法中改正法律案、京釜鐵道買收法中改正法律案ト云フモノニ聯關シテ居ル條項ヲ、ソレゾレ改正シマシタノガ即チ是等ノ案デゴザイマシテ、是亦委員會ニ於テハ何等ノ議論モナク、同意ヲ致シタ次第デアリマス、電信事業公債法案ト云ヒマスノハ、電信事業ヲ改良シ、擴張スルガ爲メニ、七箇年繼續デ七千三百八十萬圓ノ公債ヲ發行スル、又場合ニ依レバ一時繰替支辨ノ方法ヲ執ッテ借入金ヲ爲シ得ルト云フ法案デアリマシテ、今日電信事務ノ改良スベキコトヲ熱心ニ主張シテ居ル吾トシテ又委員會ハ異議ナク協贊ヲ與ヘタ次第デアリマス、電話事業公債法中改正法律案ハ、是亦既ニ左様ナ法律案ガアッタノデアリマシタガ、更ニ今後八箇年度間ニ、二億二千五百五十萬圓ヲ追加シテ、電話ノ擴張ヲスルト云フノデアリマシテ、是モ極メテ必要ナル事トシテ協贊ヲ與ヘルコトニ決シマシタ道路公債法案ト云フノハ、豫テ本院ニ於テ道路法ヲ決定シタル結果トシテ、提出セラレタノデアリマス、全國ノ道路ヲ擴張スルガ爲メニ、又改良スルガ爲メニ、三十年度間ニ二億八千二百八十萬圓ノ公債ヲ募集スルト云フノデアリマス、其二億八千二百八十萬圓

ヲ三十年間ニ支出スル割合ハ、國道改良費補助トシテ一億六千七百五十萬圓、國道改良費トシテ六百八十萬圓、府縣道改良費補助トシテ一千七百萬圓、道路改良費補助トシテ——街路ト云フノハ市街ノ道路デアリマス、街路改良補助費トシテ、九千萬圓、並ニ事務費トシテ百五十萬圓、合計シテ唯今申シタ通り、總計ガ二億八千二百八十萬圓トナルノデアッテ之ヲ三十箇年度間ニ支出スルト云フノデアリマス、此道路公債法ニ對シテハ、勿論委員會ハ滿場異議ナク之ニ同意ヲ表シタ次第デアリマスガ、正木特別委員ヨリシテ一ノ希望ガ出テ居リマス、其希望ハ主トシテ東京市内ノ道路ニ關係シタル事デアリマシテ、大要ヲ言ヘバ東京市ノ道路ハ、道路トシテ適當ニ道路ナル名ヲ用ウベキ道路トナッテ居ナイ、實ニ兩ガ降レバ泥濘ヲ極メ、日ガ照レバ即チ塵埃ガ立ッテ、而モ道ハ甚ダ粗末ナモノデアアル、斯様ナ事トシテハ、連モ都市ノ體裁ヲ成シテ居ルモノデナイカラ、速ニ之ヲ改良シ、且ツ十分ニ之ヲ改良シナケレバナラヌ、是マデ當局ガ之ヲ怠ッテ居タノハ、甚ダ宜シクナイガ、斯様ナ法案ガ出テ之ニ著手スルト云フコトハ、大ニ贊成スルケレドモ、又徒ラニ著手スルト稱シツ、年數ヲ經テ平氣デ居ルガ如キコトノナイヤウニセラレタイト云フ、即チ希望デアリマシテ、正木特別委員ガ之ヲ述ベラレタ、別ニ採決致シマセヌガ、委員會多數ハ是認ラシタ次第デゴザイマス、又荻田特別委員カラモ一ツノ希望ガ出テ居リマス「府縣道以下ノ道路改良計畫ハ完全ナラザルモノト認ム、政府ハ更ニ地方開發上適切ナル計畫ヲ樹立セラレンコトヲ希望ス」斯様ナ意味ノ希望ヲ述ベラレマシテゴザイマシテ、是モ特別委員會ニ於テ、然ルベキ希望ナリト、多數ハ認メタガ如クニ見受ケタノデアリマス、故ニ特ニ此場合此兩君ノ御希望ヲ、此所デ御紹介ヲ申上ゲテ、併セテ政府當局ノ參考ニ供シタイト思ヒマス、朝鮮事業公債法中改正法律案、是ハ本年度更ニ二千八百五十萬圓ノ公債ヲ募集スルコトヲ定メマシテ、鐵道建設改正、醫院新營、警察官衙新營、警備電話擴張、監獄改良、鹽田經營ト云フヤウナ、諸費ニ充テルノデアリマス、詳細ハ昨日決議セラレタル所ノ豫算ニ上ッテ居ルノデアリマス、此朝鮮事業公債法中改正法律案ハ、又委員會ノ滿場一致ヲ以テ同意ヲ表セラレマシタガ、之ニ對シテ憲政會ノ委員タル正木照藏君ヨリ、一ノ警告ヲ出サレマシテゴザイマス、唯今申上ゲル如ク警察官衙ノ新營ト、監獄

ノ改良ト、左様ナモノハ事業トハ云ヘナイ、事業トハ——正木君ノ言葉ヲ藉リテ言ヒマスレバ、事業トハ「インダーストリー」ト云フコトデアアル、サウスレバ官衙ノ建築トカ、監獄ノ新營トカ、云フモノヲ之ニ加ヘルモノデナカラウ、故ニ今回ハ同意スルケレドモ、以後左様ナ事ヲ避ケ、事業公債ト云フモノ、中ニ載セルコトノナイヤウニシタイト云フコトガ、正木君ノ警告デゴザイマシタ、政府當局ハ、是ハ長キ前カラ慣例トナツテ居タル事デアツテ、正木君ノ言フガ如ク、事業ハ、即チ「インダーストリー」ト云フ言葉ヲ意味シテ居ルノデアリマス、現ニ臺灣事業公債法ヲ見テモ、數年前ニ於テ其事業公債ノ中ニ、土地調査ヲモ計上シタコトガアリマス、又大租權ノ整理ノ費用ヲ獄ノ建築、總督府ノ建築其他種々ノ官舎ノ建築ヲシタコトモアリマス、又大租權ノ整理ノ費用ヲモ、此公債デ支出シタコトガアリマス、今日朝鮮事業公債ニ於テ、始メテ斯様ナル費用ヲ計上シタ譯デハアリマセヌト云フコトハ、當局者ノ説明デゴザイマシテ、即チ委員中ノ大島實太郎君ヨリ、正木君ノ警告ニ對シテ反對ノ説ガ出マシテ、會議ニ諮リマシタ所ガ、即チ警告スル必要ナシト云フコトニ、多數ヲ以テ決定致シマシテゴザイマス、此段ヲ特ニ御報告申上ゲテ置キマス、臺灣事業公債法中改正法律案ハ、是ハ本年度ヨリ千三百七十萬圓ヲ増加シテ、鐵道建築ト、基隆ノ築港ノ費用ニ充テルト云フノデアリマス、樺太事業公債法中改正法律案、是ハ今年度ヨリ七百萬圓ヲ増加シテ、鐵道線路ノ變更、改良物價騰貴ニ因リ凡ソ二百十萬圓、大泊改良諸費凡ソ四百九十萬圓、合セテ七百萬圓ヲ本年度ヨリ以降支出スルト云フガ爲メニ、樺太事業公債ノ金高ヲ増加シテ居リマス、以上十二件ガ私共ノ委員會ニ於テ審議調査シタ所デゴザイマシテ、要スルニ總テ政府案ニ賛成ヲシタ次第デゴザイマス、此段御報告ニ及ビマス

正木照藏君ハ(三)、(三五)案ニ付反對意見及希望ヲ述ヘ井上角五郎君之ヲ反駁ス

正木照藏君ノ反對意見及希望

私ハ唯今議題ニナツテ居リマス所ノ、十二件ノ中ノ二件ダケニ就キマシテ、意見ヲ持ツテ居ルモノデゴザイマスカラ、是カラ申述ベルデゴザイマス、先ヅ國債償還資金ノ繰入ヲ爲サハルコトニ

關スル法律案ニ就キマシテハ、私ハ反對ノ意見ヲ有シテ居ルモノデゴザイマス、本案ハ頗ル重要ナル案デハゴザイマスケレドモ、又同時ニ簡單ナル案デゴザイマス、即チ國防充實ノ經費ニ充テルガ爲メニ、減債資金ノ繰入ヲ、四箇年間延バスコトノ出來ルヤウニシテ置クト云フ法律案デアリマス、此減債資金ノ繰入ハ、多年實行致シ來ツテ居ルノデゴザイマスカラ、之ヲ唯今中止ヲ致シマスルト、自ラ我が國債ノ聲價ノ上ニ影響ヲ及ボシ、又同時ニ是ガ整理ノ上ニモ、大ナル影響ヲ及ボスモノデゴザイマスカラ、容易ニ中止ナドスベカラザルモノト考ヘラレマス、殊ニ御承知ノ通り、今日ハ我國ノ内國債ハ益、下落シツ、アル、一方ニ於キマシテハ、募集センケレバナラヌ所ノ國債ノ高モ、大變多イヤウナ場合デモゴザイマスカラ、先ヅ慎重ニシナケレバナラヌト考ヘル、萬々已ムヲ得ヌ場合、即チ國家危急ノ場合トカ、或ハ事變ノ勃發シタル場合ニ於テハ已ムヲ得マセケレドモ、今日ハ左様ナ時デナイト考ヘテ居リマス、國防費ノ爲メトゴザイマスレド、勿論他ノ費用トハ違ヒマスケレドモ、ソレニハ大藏大臣モ屢、述ベラレマシタ通りニ、的確ナル歳入ヲ要スル、是ハ其的確ナル歳入ト申スコトハ出來マセヌ、四箇年間減債資金ヲ中止シテ置クト云フコトデ、ソレモ中止スルコトガ出來ルト云フコトデ、頗ル不的確ナルモノデアアル、尙ホ恰モ公債ニ依ルト申スト同ジ事ニナルノデアリマス、決シテ的確ナル歳入ト申スコトハ出來マセヌ、若シ之ニ依ラナケレバナラヌト云フコトデゴザイマシタナラバ、一方ニ於テハ剩餘金ガ大正九年度ニ繰越スベキ所ノ金額三億二千七百萬圓、ソレヲ色々ニ割當テマシテ、尙ホ大正十年度ヨリ十三年度ニ至ル所ノ歳入ノ不足ヲ補ヒマシテ、尙ホ殘ツテ居ル、其外ニ經常部ノ收入ガ豫想ヨリ殖エマシタ高ガ、一億二千幾ラト云フモノガゴザイマス、之ヲ以テ流用致シマスレバ、一向差支ナイコトニナルト思ヒマス、委員長ハ、私ガ所得稅カラ取ツタ宜イト云フコトヲ申シタト云フコトヲ申サレマシタガ、私ハ左様ナコトハ申シマセヌ、的確ナル財源ヲ求メントスルナラバ、或ハ所得稅其他稅制整理ノ時分ニ、何トカ道ハ付キハシナイカト云フコトヲ申シテ、政府ノ意見ヲ質シタノニ止ツタノデ、決シテ私ハ所得稅取ツタ宜イト云フコトハ申シマセヌ、此事ハ正誤致シテ置キマス、斯ウ云フヤウナ性質ノ金ハ、保險ノ掛金ヲ中止スルヤウナモノデ、一旦中止スルト、復

舊スルコトハ困難デアリマス、終ニハ此爲メニ中止致スコトガ續キマスルト、我國ノ國債政策ノ根本ヲ破壞スルコトニ相成ルノデゴザイマスカラ、萬々已ムヲ得ヌ場合ヲ除クノ外ハ、中止ナドヲ致シテハイカヌモノト私ハ信ジテ居リマス、政府當局者ハ、十四年度ノ末ニ償還ノ期限ノ來ル所ノ英國債ニ對スル途ハ、已ムヲ得ヌ場合ニハ、預金部ノ在外正貨ヲ以テ之ニ充ツレバ宜イカラ、其點ハ安心シテ宜シイ、差支ナイト思フト云フ御説明ガゴザイマシタケレドモ、此減債資金ガ必ズシモ外國債ノミノ償還ニ充テル資金ト信ジマセヌ、今日ニ於テハ斯様ナル事ヲスルノハ宜シカラヌ、又少クトモ宜シイモノトモ思ヒマセヌ、此點カラ反對ヲ致シマスモノデゴザイマス、次ニ此朝鮮事業公債法改正ノコトニ就キマシテハ、此度増加セントスル八千八百五十萬圓ノ内譯ハ、千百萬幾ラト云フモノハ鐵道ノ關係、ソレカラ六百五十九萬幾ラト云フモノハ醫院ノ新營費、ソレカラ警察ノ官舎ヲ新營スル所ノ費用ガ二百五十八萬幾ラ、警備電話ノ費用ガ百二萬、監獄新營費ガ、二百萬幾ラ、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、斯様ナル監獄トカ、或ハ醫院トカ、警察警備ノ電話等ノ費用ハ、決シテ事業公債ニ依ルベキモノデゴザイマセヌ、先例ガアルト申シテモ、其先例ハ間違ッタル先例デアアル、必ズ之ヲ襲踏スベキモノデゴザイマセヌ、殊ニ此度同時ニ大藏省カラ出テ居ル議案ニ於テ、事業公債ト云フ中ノ「事業」ト云フ字ヲ削ッテシマツテ、唯ダ「公債」ニスルト云フ案ガ出テ居リマス、是ハ教育費ノ如キモノニ關スル公債、或ハ道路ニ關スル公債ノ如キハ、事業ト謂フベキモノデナイカラ、事業公債トシテ置クト甚ダ窮屈デ困ルト云フ案ガ、大藏省カラ出サレテ居リマス、然ラバ此朝鮮事業公債ノ中ニ、ソレニ類スル、或ハソレ以上ニ性質ノ違ッタモノヲ含マセテ置クコトハ、政府トシテハ矛盾シタル話デアリマス、斯ノ如キ事ハ、明々白白分リ切ッタ事デアリマスカラ、政府ニ於テモ今後斯様ナ事ヲ再ビシナイヤウニ、御注意アラシコトヲ私ハ茲ニ警告旁、希望致シテ置ク次第デゴザイマス

井上角五郎君ノ反駁

國債償還資金ノ繰入ヲ爲サハルコトニ關スル法律案ニ對シテハ長キ歴史ガアリ、當議場ニ於テ

モ、屢、討論ヲ圖ハサレ居ルノデアリマスケレドモ、今尙ホ之ニ對スル反對ノ議論ガアル以上ハ、極メテ簡單ニ其大要ノ歴史ヲ申上ゲテ、諸君ノ參考ニ供シタ方ガ宜カラウト思フ、即チ日露戰役ノ後ニ於テ、戰後ノ爲メニ生ジタル公債ヲ整理スルガ爲メニ、當時特別課稅ヲ爲シタル其特別課稅ヲ廢止スル代リニ、此公債整理ノ爲メニ、年々此金ヲ繰入レルト云フコトヲ決メタノデアリマシテ、一面カラ言ヘバ、此繰入ヲ中止スル場合ニハ、人民ノ負擔ヲ輕減スル、輕減セズトモ、増加シナイ方法ノ爲メニ使ハナケレバナラヌト云フコトヲ意味シテ居ル、又一面カラ云ヘバ、國ノ財政ノ信用ヲ保チ、公債ノ時價ヲ落サヌヤウニシナケレバナラヌト云フ意味ヲ持ッテ居ッタノデアリマス、然ルニ其後國民黨ハ鹽專賣法ヲ廢止シ、若クハ通行稅ヲ廢止スルガ爲メニ此繰入ヲ中止シタイト云フコトヲ、屢、此議會ニ於テ發論セラレテ居ルノデアリマス、吾々ハ即チ此金ヲ以テ鹽專賣法ヲ廢止シ、此金ヲ以テ通行稅ヲ廢止スルト云フコトハ、日露戰役當時ノ意思ニ反カザルヲ知ッテ居リマスケレドモ、其時ノ狀態ニ於テ、財政ノ信用ヲ保チ、公債ノ時價ヲ保ツ上ニ於テハ、之ヲ廢止スルコトハ出來ナイト云フノデ、殘念ナガラ國民黨ノ度々ノ提案ニハ反對ヲシテ來タ次第デアリマス、憲政會ハ大隈内閣ノ當時ニ於テ、當時ハ年々繰入五千萬圓デアッタモノヲ三千万圓ニシタ、其二千萬圓ニ減ラシタ趣意ト云フモノハ、如何ナル事デアッタカト云ヘバ、即チ鐵道事業ノ爲メニ公債ヲ募ル、一方ニハ減債資金繰入トシテ、年々金ヲ五千萬圓ヅ、繰入レテ、一方デハ鐵道デ二千萬圓ノ金ヲ募ル、左様ナ一方デハ繰入レ、一方デハ借リルト云フ馬鹿ラシイ事ヲセズシテ、即チ其二千萬圓ノ繰入ヲ減少シテ、其減少シタダケノ金ヲ鐵道ノ方ヘ貸シテ、鐵道ノ金ヲ募ラヌコトニスレバ、國ノ信用ノ上ニ於テ同一デハナイカト云フ議論ヲ以テ、憲政會ハ嘗テ此議場ニ其案ヲ出シ、又之ヲ豫算ニ大隈内閣ハ組ンデ出シ、議會ガ解散ニナツテ一度ハ豫算ガ不成立ニナツタガ、更ニ其事ヲ大隈内閣ハ豫算ノ上ニ多數ヲ以テ實行シタノデアリマス、此時吾吾ハ憲政會ノ趣意ガ、當初此繰入ヲ爲スコトヲ制定シタトキニ、人民ノ負擔ニ關係ヲ持ツベキ費途ニ使フベキデアルト云フ意見ニ反イテ居ルガ爲メニ、又當時ノ我國ノ狀態ニ於テハ、五千萬圓ヲ三千万圓ニ減ラスト云フコトハ、財政ノ信用ノ上ニ穩當ナラザルモノデアルト思フガ爲メニ、

吾ハ反對シタノデアリマス、其後寺内々閣ニ依ッテ一度ハ復活セラレマシタ、殊ニ貴族院ニ於テ吾ト同一ノ意見ガ盛ニ行ハレテ、寺内内閣ニ於テハ、三千萬圓ノ繰入ヲ大隈内閣ガ變更シタモノヲ、更ニ五千萬圓ニ復活致シマシタ、其當時寺内内閣ハ國防ヲ充實スルノ必要ヲ感ジテ、所得稅其他ノ増稅ヲ行ヒマシタ、所得稅其他ノ増稅ヲ行ッテ、國防ノ充實ヲヤル費用ニ供シマシタガ、唯ダ徒ラニ國民ノ負擔ヲ増スト云フ譯ニハ行カナイカラ、即チ五千萬圓ノ繰入ヲ三千萬圓ニ直シテ、其二千萬圓ハ増稅スル代リニ繰入ヲ減少スル、幸ニ戰爭ニ依ッテ段々正貨ハ我國ニ入ッテ來ル、貿易ハ漸クニシテ其金額ノ増加ヲ見テ來タ、是ニ於テ五千萬圓ヲ二千萬圓ニスルノハ、國ノ信用ノ上ニ於テ左マデノ支障ハナカラウ、サウシテ是ゾ即チ増稅スベキモノヲ或程度ニ止メテヤルノデアアルカラ、當初ノ意思ニ反カヌモノデアラウト云フノデ、三千萬圓ニ直シタノハ寺内内閣ノ時代デアリマス、今回原内閣ガ此繰入ヲ中止スル、三千萬圓ヲ中止スルト云フノハ、先刻申上ゲタ通り、所得稅法ヲ改正シ、酒稅其他ヲ改正シテ、相當ノ増稅ヲ爲シタ、初メニ於テ這入ル所ノモノガ、偶、國防充實ノ費用ニ較ベテ不足ヲ感ズルガ、併シ長イ先ニ入ルダケノ國防充實ノ費用ハ、是ガ増稅ニ於テ十分デアアルカラ、其一時的中途ニ於テ不足ニナルモノダケ、此繰入ヲ中止シテ償ハウト云フノデアアルカラ、強ヒテ私ハ理窟ヲ付ケルノデハナイケレドモ、歷史上ノ經歷ヲ有ッテ居ル此繰入金、當初ノ如ク即チ特別課稅ヲ廢止セズ其儘國ノ信用ヲ保ツモノトシタ其意思ニハ副フノデアッテ、寺内々閣ガ五千萬圓ヲ三千萬圓トシタノト、原内閣ガ一時之ヲ中止スルノト同一論法トシテ、此點ニハ反カヌモノデアルト云フコトヲ言ハナケレバナラヌト思フノデアアル、且ツ今日世界ノ狀勢ヲ考ヘ、各國ノ財政ヲ考ヘテ、唯今正木君ハ日本ノ公債ハ廉クナッタ、此上コンナモノノ繰入ヲ爲サズシテ、益、廉クナッタラドウスルカ、成程時事新報ヤ報知新聞ノ日々ノ相場付ヲ御覽ニナレバ、日本ノ相場ハ廉クナリマシタ、世界ノ市場ニ於ケル各國ノ公債ノ相場ト、我日本ノ公債ノ相場ヲ較ベテ見レバ、決シテ廉クナッテ居リマセヌ、財界ノ變動ハ各國ソレゾレデアリマスケレドモ、今日殊ニ甚シク財界ノ變動ヲ感ジテ居ルノハ、我國ノ狀態デアッテ、其相場付ハ時事新報、報知新聞ニ載テ居ルノデアッテ、之ノミヲ見テ我國ノ財政ノ信用如何ヲ判斷ナサ

テハ、少シク淺見ニ失シハシナイカト云フノ誹ヲ免レヌダラウト私ハ思フノデアリマス、諸君、試ミニ各國ノ公債ガ大ニ増加シタ、我國ノ公債ト之ヲ較ベテ見タナラバ、人口ノ上カラ考ヘ、面積ノ上カラ考ヘ、人民ノ富ノ上カラ考ヘテ、如何ニ前ニ大隈内閣ガ五千萬圓ヲ三千萬圓ニシタ時ノ我國ノ公債ト各國ノ公債ノ割合、今日五千萬圓ヲ三千萬圓ニシタノヲ更ニ中止スル、今日ノ我國ノ公債ト各國ノ公債ガ如何ナル割合ヲ保ッテ居ルカト云フコトヲ見タナラバ、此中止ヲ行ッテ所ガ國ノ信用ニ關ハルモノデナイ、此中止ヲ行ッテ國ノ信用ニ關ハルト極力論辯ナサルナラバ、先年五千萬圓ヲ三千萬圓ニナサッタ當時ハ、何ノ標準ニ依ッテ左様ナル案ヲ御立テニナッタカト云フコトヲ反問セザルヲ得ヌノデアアル、第二ニ我國ノ所有シテ居ル正貨ハ大ニ増加シタ、大隈内閣ノ當時ハ如何デアッタラウ、確ニ三億五千萬ニハ上ッテ居ナイ、三億四千萬圓位デアッタ、今日ハ如何デアアルカ、三億四千萬ヲ五倍スルト幾ラニナリマスカ六倍スルト幾ラニナリマスカ、兎ニ角六七倍ノ多キニ上ッテ居ルト云フコトハ御考ニナラナケレバナラヌコトデアアル、又第二ニハ先刻申上ゲマシタルガ如ク外債ノ償還スベキモノ、殊ニ此繰入ハ外債ヲ目的トシテ居ッタ、其外債ノ償還スベキモノガ幾ラデアアルカト云フト、極メテ少ナイ高デアアルノデアリマス、故ニ今日ニ於テ此事ヲ實行スルノハ、徒ニ多額ノ増稅ヲナサズ、徒ニ經濟ノ狀態ヲ紊ラズ、現ニ正木君ノ如キハ剩餘金ガアルヂヤナイカ、此剩餘金ヲ使ッテ充テラウ、剩餘金ハ今後十年間ノ財政計畫ヲ立テ、或年ハ餘リ、或年ハ不足ガアル其不足ニ向ッテ充テルノデアアル尙ホ臨時ニ追加豫算其他ノ支出ヲ要スルモノガアルカラ、其使途ニ充テナケレバナラヌト云フ剩餘金デアリマス、サウスルト正木君ハ曰ク、ナニ八年度ノ分ニモ剩餘金ガアル筈デアアルト、私モ出ル筈ト思ッテ居リマス、出ル筈デアアルカラソレヲ充テタラバ宜イヂヤナイカト、兎角一方ニハ此上物價ハドウナルゾ、此上將來ノ經濟ハドウナルゾ、此上公債ハ迎モ募集ハ出來ナイデアアラウ、此上歳入ハ迎モ得ラレナイデアアラウト、極メテ悲觀的ノ議論ヲナシ、動モスレバ國民ヲシテ落膽セシムルガ如キ議論ヲナサル所ノ憲政會ノ正木君トシテ、ナニ剩餘金ガ出ルダラウ出ル筈デアアル、其出ル筈ノ金ヲ以テ使ヘバ宜イデハナイカト、マダ今日ニ於テハ締切ラナイ豫算ノ其數字ヲ當ニシテ、此繰入ヲ是非續ケテヤラウ

ト云フ如キコトハ、是ハ到底取ルニ足ラヌ議論デアッテ、要スルニ今日ニ於キマシテハ、唯今申上
ゲルガ如キ歴史ヲ有ツタ、問題唯今申上グルガ如キ議論ハ度々闘ハシテ、其可否ハ既ニ決定シテ
居ル問題デゴザイマスカラ、此上更ニ多クノ辯論ヲ費ス必要ハナイト思ヒマスケレドモ、折角正
木君ノ熱心ナル御議論、敢テ一言ヲ呈シテ、其御熱心ニ酬イタ次第デアリマス

別ニ討論ナク院議多數ヲ以テ(三五)案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ
省略シテ原案ノ通可決確定シ次ニ(二九)乃至(三三)、(三六)、(三七)及(四五)乃至(四八)案ノ第二
讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決確定シ即日十二案全
部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十七日(三七)案ヲ修正議決シ同日本院ニ之ヲ回付シタルモ他ノ
十一案ハ孰レモ之ヲ可決奏上セリ

(三七)(回付案)

(小字ハ貴族院修正ハ削除)

道路公債法

第一條 國道改良費支辨又ハ國道、府縣道若ハ市ノ重要街路ノ改良費補助ニ關スル經費支辨ノ
爲政府ハ二億八千二百八十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコト
ヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制
限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

本院ハ同七月二十七日議事日程ヲ變更シテ右回付案ヲ院議ニ付ス

三土忠造君ハ貴族院ノ修正ニ同意ス

三土忠造君ノ同意

唯今ノ貴族院ノ修正案ハ、道路改良計畫ニ何等ノ支障ナキモノト認メマスガ故ニ、同意致シマス
院議起立者多數ニテ貴族院ノ修正ニ同意スルニ決シ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通
知ス七月二十八日法律第九號(三六)、八月四日法律第四十二號(二九)、法律第四十三號(三〇)、法
律第四十四號(三一)、法律第四十五號(三二)、法律第四十六號(三三)、法律第四十號(三五)、法律第
三十八號(四五)、法律第四十一號(四六)、法律第四十七號(四七)、法律第四十八號(四八)、八月十日
法律第五十九號(三七)ヲ以テ孰レモ公布セララル

三八 帝國大學特別會計法中改正法律案

帝國大學特別會計法中左ノ通改正ス

第二條中「金百六十七萬七千三百二十圓」ヲ「金二百五十萬七千九百七十六圓」ニ、「金百三萬五千
百圓」ヲ「金百四十七萬三千三百十八圓」ニ改ム

三九 大正八年法律第十二號中改正法律案

大正八年法律第十二號中左ノ通改正ス

「東京帝國大學工學部」ヲ「東京帝國大學醫學部及工學部」ニ、「百五十萬圓」ヲ「百八十萬圓」ニ改メ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依ル臨時政府支出金ノ外擴張ニ伴ヒ要スル經常費ニ充ツル爲當分ノ内毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ必要ナル金額ヲ一般會計ヨリ當該帝國大學特別會計ニ繰入ルヘシ

東京帝國大學及京都帝國大學ノ入學期繰上ニ關シ臨時授業ヲ爲スノ費用ニ充ツル爲必要ナル金額ハ東京帝國大學ニ在リテハ大正九年度乃至大正十二年度ニ互リ、京都帝國大學ニ在リテハ大正九年度乃至大正十三年度ニ互リ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ當該帝國大學特別會計ニ繰入ルヘシ

四〇 公立學校職員年功加俸國庫補助法案

公立學校職員年功加俸國庫補助法

第一條 師範學校並公立ノ中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ノ年功加俸ニ要スル經費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年度豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ補助スヘキ金額ハ前年六月一日現在ニ於テ五年以上勤績スル學校職員ノ數ニ比例シテ之ヲ北海道府縣ニ交付ス

第三條 學校職員ノ範圍及勤績ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四條 第一條ノ實業學校ニハ實業專門學校ヲ包含セス

附則

本法ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

右三案ハ就レモ九年七月十二日本院ニ之ヲ提出ス翌十三日議事日程ヲ變更シテ三案ノ第一讀會ヲ開キ中橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此帝國大學會計法中改正案ハ、此度官吏ノ増俸其他旅費雜費等ノ増額ヲ要スルコトニナリマシタノデ、豫算ニ提出致シマシタカラ、其金額繰入ノ爲メニ、法律ノ改正ヲ必要トスル次第デアリマス、又大正八年法律第十二號中改正法律案モ、略、同様ノ案デアリマシテ、帝國大學ノ擴張ヲ致シマスルデ、相當ノ金額ヲ豫算ニ見込居リマスル、デ其繰入ヲスルガ爲メニ、法律改正ノ必要ヲ認メタ次第デアリマス、ソレカラ年功加俸國庫補助法案ハ、久シイ問題デアッタノデアリマス、デ大抵御承知ノ事ト思ヒマス、即チ此前ノ第四十二議會ニ於テ之ヲ提出致シマシテ、本院ハ通過シタ譯デアリマスルガ、途中ニシテ解散ノ爲メニ止ッタ譯デアリマス、此度ソレト同様ノモノヲ提出シタ譯デアリマスル、デ金額ハ豫算ノ中ニ計上致シ、新ニ此法案ヲ提出シテ、茲ニ御審議ヲ願フ次第デアリマス、宜シク御審議ヲ願ヒマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名ノ同一委員)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シ後ニ併セ付託セラレタル政府提出明治二十九年法律第十三號中改正法律案(三四)ト共ニ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ三案及(三四)案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長坪田十郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

帝國大學特別會計法中改正法律案、大正八年法律第十二號中改正法律案、明治二十九年法律第十三號中改正法律案右三件ハ、審査ノ結果全會一致テ確定致シマシタ、次ニ公立學校職員年功加俸國庫補助法案デゴザイマス、本案ニ就キマシテハ、私立學校モ公立學校ト同様ニ、待遇シタラドウデアアルカト云フ意見ガ出マシタノデゴザイマス、政府ニ於テ私立學校ノ教員ノ待遇ニ就テ、公立學校ト成ベク同一ナ處置ヲ執ルコトヲ委員會ニ於テ望ミ、又政府委員ニ於テモ、十分考慮ヲスルト云フ答辯ノ下ニ、本案モ全會一致可決致シマシテゴザイマス御賛成ヲ願ヒマス

院議異議ナク各案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決確定シ貴族院ヨリ送付ニ係ル(三四)案ハ即日裁可ヲ奉請シ他ノ三案全部ハ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十五日就レモ可決奏上シ七月二十六日法律第二號(三四)、八月二日法律第二十六號(三八)、法律第二十七號(三九)、法律第三十二號(四〇)、ヲ以テ公布セラル

四一 現受恩給者ノ増額ニ關スル法律案

第一條 大正九年三月三十一日現在ニ於テ軍人恩給ヲ除クノ外國庫ヨリ恩給、退隱料又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ恩給、退隱料又ハ扶助料ノ年額ハ左ノ區分ニ依ル

一 増加恩給又ハ増加退隱料

勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年額ニ其ノ十割以内ノ金額ヲ加ヘタルモノ

二 前號ニ掲クルモノヲ除キタル恩給又ハ退隱料ニシテ年額千九百圓未滿ノモノ

甲 年額七十五圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額

乙 年額七十五圓ヲ超エ三百圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ三分ノ一ニ相當スル金額及二十五圓ヲ加ヘタル額

丙 年額三百圓ヲ超エ七百五十圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ十分ノ三ニ相當スル金額及三十五圓ヲ加ヘタル額

丁 年額七百五十圓ヲ超エ千四百四十圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ二百六十圓ヲ加ヘタル額

戊 年額千四百四十圓ヲ超エ千六百圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ年額ト千七百圓トノ差額ヲ加ヘタル額
己 年額千六百圓ヲ超ユルモノ
其ノ年額ニ百圓ヲ加ヘタル額但シ年額千九百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

三 扶助料ニシテ年額六百四十圓未滿ノモノ

甲 年額二十五圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額

乙 年額二十五圓ヲ超エ百圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ百分ノ三十四ニ相當スル金額及八圓ヲ加ヘタル額

丙 年額百圓ヲ超エ二百五十圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ十分ノ三ニ相當スル金額及十二圓ヲ加ヘタル額

丁 年額二百五十圓ヲ超エ四百八十圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ八十七圓ヲ加ヘタル額

戊 年額四百八十圓ヲ超エ五百三十三圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ年額ト五百六十七圓トノ差額ヲ加ヘタル額

己 年額五百三十三圓ヲ超ユルモノ

其ノ年額ニ三十四圓ヲ加エタル額但シ年額六百四十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

増加恩給若ハ増加退隱料ヲ受クル者ノ遺族又ハ公務ノ爲死去シタル者若ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ノ受ケ又ハ受クヘキ扶助料ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年額ヲ二分シ各部分ニ付

前項第三號ノ規定ヲ適用ス

第二條 大正九年三月三十一日現在ニ於テ軍人恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ恩給年額ハ其ノ年額ニ左ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ加ヘタルモノトス但シ増加恩給ニ付テハ前條第一項第一號ノ例ニ依ル

官等	將官及相當官								准士官 下士及卒
	高				等				
加給割合	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	判任官 一等
	二、	二、二	三、	三、六	三、八	四、三	四、七	四、七	判任官 二等以下

前項ノ規定ニ該當スル軍人ノ遺族大正九年四月一日以後扶助料ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ扶助料年額ニ付前項ノ規定ヲ準用ス

第三條 第二條ノ規定ハ恩給、軍人恩給、退隱料、扶助料、増加恩給又ハ増加退隱料ニ準スヘキモ

ノニ之ヲ準用ス

第四條 第一條第一項第二號ノ規定ハ大正二年法律第七號ニ依リ休職ヲ命セラレタル判事及檢事並大正二年法律第十二號ニ依リ休職ヲ命セラレタル會計検査院及行政裁判所ノ高等官ノ休職給ニ付之ヲ準用ス

第五條 第一條及第三條ノ規定ハ大正九年三月三十一日現在ニ於テ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法明治二十九年法律第十三條、巡査看守給助例、巡査看守退隱料及遺族扶助料法又ハ明治四十三年法律第三十號ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第六條 本法ニ依ル加給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

附則

本法ハ大正九年四月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス但シ第四條ノ休職給ニ付テハ大正九年八月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人又ハ其ノ遺族ニシテ大正九年三月三十一日現在ニ於テ進級前ノ階等ニ應スル恩給(給助金及賑恤金ヲ除ク)又ハ之ニ基テ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ハ同日ヨリ名譽進級ニ因ル階等ニ應スル恩給又ハ之ニ基テ扶助料ヲ受クルノ權ヲ有スルモノトス

前項ノ規定ハ大正九年四月一日以後同年四月二十一日迄ノ間ニ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人又ハ其ノ遺族ニシテ進級前ノ階等ニ應スル恩給又ハ之ニ基テ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ事由ノ生シタル者ニ之ヲ準用ス

四二 軍人恩給等ノ増額ニ關スル法律案

第一條 大正九年四月一日以後軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル場合ニ於テハ同法第一號表乃至第四號表ノ恩給金額ハ各其ノ金額ニ左ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ加ヘタルモノトス但シ大正九年三月三十一日現在ニ於テ軍人恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ遺族カ大正九年四月一日以後ノ恩給ニ基キ受クヘキ扶助料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

官等	將官及相當官								准士官 下士及卒
	高 等 官								
加給割合	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	判任官
	二、 <small>割</small>	三、 <small>割</small>	四、 <small>割</small>	五、 <small>割</small>	五、 <small>割</small>	六、 <small>割</small>	七、 <small>割</small>	七、 <small>割</small>	判任官 二等以下

第二條 大正九年四月一日以後國庫ヨリ軍人恩給以外ノ恩給、退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキ事由

ノ生シタル場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額又ハ月俸額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ臨時手當又ハ之ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額トス但シ大正九年四月一日前ニ受クヘキ事由ノ生シタル恩給又ハ退隱料ニ基ク扶助料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 前條ノ規定ハ大正九年四月一日以後市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法、明治二十九年法律第十三號、巡查看守退隱料及遺族扶助料法又ハ明治四十三年法律第三十號ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキ事由ノ生シタル場合ニ之ヲ準用ス
第四條 本法ニ依ル加給金額圓位未滿ハ之ニ圓位ニ滿タシム

附則

本法ハ大正九年四月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

右兩案ハ孰レモ九年七月十三日本院ニ之ヲ提出ス翌十四日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ横田政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

政府ハ現受恩給者及軍人恩給ノ増額ヲ經濟上ノ事情ニ鑑ミテ必要ト考ヘタノデアリマス、是ニ於テ本案ヲ提出スルコトニナリマシタ、御參考ノ爲メニ二三本案ノ要點ヲ申上グレバ、本案ハ増加恩給其他ノモノヲ包括シテ、大體五割ノ増額ヲ豫算ニ計上シテ要求シテアリマス、唯ダ此分配方法ハ上ニ薄ク下ニ厚キ方法ニ依ッテ率ヲ定メタノデアリマス、本案ガ簡單ナルベキ等デアッテ、

幾多複雑ノ規定ノアルノハ之アルガ爲メデアリマス、第一ニハ此増額ヲ四十二議會デ通過シタルト同一ノ成ルベク現狀ニ置キタイ、此意味ニ於テ適及シテ、本年四月ヨリ之ガ適用ヲ受クルコトニ致シマシタ、第二ニハ上ニ薄ク下ニ厚キ所ノ分配ノ率ハ、官吏増俸ノ率ト努メテ權衡ヲ同一ニスルコトヲ主トシタノデアリマス、詳細ノ事柄ハ種々複雑ナ規定ガアリマスカラ、委員會ニ於テ申上ゲル考デアリマス

高木正年君ハ質疑ヲ爲シ横田政府委員之ニ應答ス

高木正年君ノ質疑

私ハ今日政府ヨリ提出シテ日程ニ上リマシタ恩給法案、此法案ハ一見甚ダ……讀ミ來リマスルト云フト、頗ル二者ノ間ノ了解ヲ得ナイヤウナ現象ニナッテ居ル、併シ能ク之ヲ仔細ニ讀ミ來リマスレバ、大體ノ了解ノ出來ナイコトハナイノデアリマス、デ私ノ質問致シタイト思フ點ハ二ツアル、第一ハ現時ノ國民ノ生活程度ニ對シテ、此恩給ナルモノヲ與フル所ノ分量ガ、如何ニモ少額デアルト云フコトガ一ツデアリマス、第二ハ何故ニ嘗テ四十四年ニ一度試ミテ屢、議會ノ問題ニナッタ所ノ新舊ノ差ヲ、此際ニ於テ再ビ繰返スカト云フ點ニ在リマス、此文官ニ對スル分ト軍人ニ對スル分ト、法案ノ第一ニ現受ノ恩給トアル、第三ノ日程ニ上ッテ居ルノガ軍人恩給バカリデアアルカト云フト、讀ミ來リマスレバ文官ノ恩給モ矢張此間ニ掲ゲテアル、其故ニ私ガ此法案ハ極メテ讀ミ惡イト云フノハ、兩者ノ間ノ分界ガハッキリ立ッテ居ラヌ、併ナガラ恩給ヲ與ヘル程度ニ於テハ、讀ミ來リマスレバ判ルニハ判ルノデアリマスガ、極メテ分リ惡イ法案デアルト云フコトハ言ヘルノデアリマス、私ハ此法案ヲ讀ンデ見マシテ、文官ノ方ノ歩合ハドウナッテ居ルカト云フト、是モ矢張新舊ノ差ガアル、軍人程ニ甚シクハナイガ、矢張其間ニ差ガアル、文官ノ新ナル階級ノ方ハ如何ニナッテ居ルカト云フト、現受ノ俸給ニ所謂臨時事件費デ與ヘラレタ所ノ臨時手當ヲ加ヘテ、之ニ依ッテ恩給額ヲ計算シテアル、唯今横田法制局長官ハ五割ト申サレタ、五割ノ金額甚ダ少カラザルヤウデアリマスケレドモ、今日ノ程度ノ上ニ於キマシテ、横田法制局長官

ノ言ハレルガ如ク、一般ニ能ク是等ノ生活ノ上ニ、最モ薄キ所ニ能ク均霑シテ居ルカト云フト、其點ニ於テハ甚ダ疑問ガ多イ、私共二者ヲ通ジテ考ヘ來リマスレバ、今少シク今日ノ物價ノ程度ニ合ウテ、相當ノ恩給ノ方法ヲ考ヘ出スニ非ザレバ、身ヲ官界ニ託シテ、而シテ忠實ニ國務ニ從事セシムルト云フ點ニ於テハ、甚ダ多クノ遺憾ヲ感ズベキ點ガアルト思ヒマスガ、政府ハ此點ニ就テ、何故今日ノ程度ニ恩給ヲ増加スルニ止ツテ居ルカト云フコトガ一ツデアリマス、次ハ新舊ノ差デアリマス——私共ハ唯今ノ點ニ於テモ、今少シク補足致シテ置キマスルガ、軍人ノ待遇ノ上ニ就キマシテ、決シテ恩給者ハ、老後ノ扶養ノミヲ目的トスベキ性質ノモノデナイト私ハ考ヘテ居ル、身ヲ軍職ニ捧ゲテ、所謂青年士官ノ間ニハ、今日ノ状態ニ於テハ極メテ其生活ハ悲惨ナモノデアアル、青年士官ニ於テ家庭ヲ作ルト云フコトハ、殆ド今日ハ望ミナイト云フヤウナ社會ノ状態ニ在リ、是等軍人ノ俸給ノ状態ハサウナツテ居ル、切メテハ老後ニ於テ其一身ヲ託スルダケ、國家ガ之ニ對シテ相當ナ待遇ヲ爲スカト云フト、今日ノ軍人ノ恩給ニ於ケル所ノ待遇ナルモノハ、全ク生活保障ヲ爲ス程ダケノ金額ヲ得テ居ラヌ、是ハ現在ノ状態デアアル、之ガ爲メニ恩給法ノ改正ハ行ハレルノデアリマスケレドモ、今日此額ニ於テ、果シテ老後ノ生活ノ保證ガ出來ルカハ是亦甚ダ悲惨ナモノデアアルト私ハ思フノデアリマス、殊ニ甚シキハ新舊ノ差ヲ設ケテ、是ハ初メニ申シタ如ク、四十四年ノ官吏増俸ノ際ニ一度試シテ、年々歳々議會ノ問題トナツテ、漸ク大正六年ニ此事ハ解決シタノデアリマス、所ガ再ビ今度此新舊ノ差ヲ設ケル、新舊ノ差ガドレダケ違フカト云フト、軍人恩給ニ於テハ、中將級ニ於キマシテハ、此間ノ差ハ無イ、少將級ニ於テハ新ガ三割、舊ガ二割二分ト云フ、即チ此間ニ八分ノ差ガアル、マダ將官ノ階級ニ於テ苦痛ハ無イト申シマスケレドモ、最モ甚ダシイノハ、此下級ノ將校乃至下士卒ニ於ケル所ノ恩給ノ程度デアリマス、一番今日悲惨ナ境遇ニ在ル所ノ尉官ノ、所謂大尉中尉以下ノ此新舊ノ差異ニ就テ、是ノ比例ヲ申シマスレバ、極ク最下級ノ所謂下士以下ノ者ニ對シテハ、新タナル恩給法ハ十割ノ増加ニナツテ居ル、然ルニ大正九年ノ三月三十一日以前ニ、所謂恩給ヲ受ケル身分ニナツタ者ニ對シテハ、トウスルカト云フト、七割六分デアリマス、新タナル者ガ十割デアツテ、舊キ者ハ七割六分、更ニ中

尉ノ階級ニ於テドウナルカト云フト、新タナル者ハ七割デアツテ、舊ハ如何デアアルカト云フト四割七分デアアル、更ニ大尉ノ階級ニ於テ幾何デアアルカト云フト、新タナル者ハ六割四分デアツテ、舊ハ四割三分デアアル、又文官ノ方ニ就キマシテモ、最下級者ハ十ト六トノ差ガアルノデアリマス、現在三月三十一日以前ノ者ハ、四月一日以後ノ者トノ差ガ文官ニ於テモ最下級ニ於テ十ト六トノ差ガアル、中階級ニ於テハ六ト四トノ差ガアル、矢張軍人ノ恩給ノ新舊ノ差ト餘リ變ラヌノデアリマス、斯ノ如キ事ハ果シテ我が軍人ノ待遇ノ上ニ、是ガ可ナリヤ不可ナリヤト云フヨリハ、之ヲ軍人ノ階級ニ於テ考ヘテ見マスレバ、國防ノ上ニ果シテ斯ノ如キ新舊ノ差ヲ置クト云フコトガ、能ク士氣ノ統一ガ出來ルカ否ヤト云フコトヲ、私ハ疑ハザルヲ得ヌノデアリマス、一朝事有ツテ動員ヲ爲ス場合ニ於テ、諸君ノ御承知ノ如ク、我國ノ國防ハ不斷在營スル兵士ニ依ツテ爲シ得ラルルモノデナイト、一朝今日ノ西伯利ノ出兵デアルトカ、或ハ尼港問題ニ關係シタ所ノ出兵デアルト云フガ如キハ、現時ノ在營兵デ間ニ合フノデアリマスガ、所謂有事ノ日ニ在リマシテハ、ドウシテモ豫備後備ノ軍隊ヲ動員セザレバ、我が國防ノ働ト云フモノハ爲シ得ルモノデナイト、此場合ニ於テ所謂在郷軍人ナル所ノ將校ヲ召集シ、若クハ下士卒ヲ動員シテ、斯ル時ニ於テ一ノ軍隊ニ在ル者ハ、一ハ十割ヲ受ケ、一ハ七割六分ヲ受ケ、一ハ七割ヲ受ケ、一ハ四割七分ヲ受ケルト云フガ如キ等差ヲ置イテ、如何ニシテ我が國防ノ上ニ、統一セル所ノ士氣ヲ保持スルコトガ出來ルカト私ハ言ハネバナラヌノデアアル、私ハ年來此青年士官ノ待遇ニ就テ考慮シテ、ドウシテモ今日ハ兵器ヲ殖スヨリモ、人ニ對スル待遇ヲ好クスルコトガ肝腎デアアル、是ハ單リ陸海軍ベカリデハナイ、政府ガ總テノ官業ノ上ニ於テモ、將來ハ總テノ上ニ於テモ、徒ラニ事ヲ擴張スルヨリモ、先ヅ人ヲ整ヘ相當ナル働ヲ爲シ、國家ノ上ニ忠實ナル效果ヲ現サシムルニハ、人ノ待遇ノ改善ガ第一デアルト云フコトヲ唱ヘ來ッタノモ、此意ニ外ナラヌノデアリマス、此事ヲ考ヘ來ッタナラバ、此法案ハ如何ニモ不備デアアル、ソレ故ニ先ヅ此法案ヲ一見シマシタ當時、私及同志ノ人ト共ニ、軍人恩給令ノ改正案ヲ出シタノデアリマス、文官ニ就キマシテハ、此法案ニ就テ出來得ル限リノ修正ヲ爲シテ、以テ今日俸給ニ衣食セラル、人々ノ安心シテ國務ニ盡瘁セラル、途ヲ

得タイト思ヒマス、茲ニ唯今申上ゲタ恩給ナルモノ、待遇ノ上ニ於テ、何故ニ政府ハ斯ル程度ノ恩給ニ就テ、今日ノ恩給者ニ對スル待遇ノ途ヲ得タリト爲サル、ヤト云フコトガ一點、更ニ新舊ノ差ヲ付ケルコトハ、如何ナル基礎ニ於テ斯様ナル考ヲ持ッテ居ラル、カ、斯様ナル考ニ依ッテ、文武官ヲ統一シテ國務ニ執掌セシムルコトガ出來ルカ、此點ニ就テ答辯ヲ得タイト思ッテ、態々登壇シタ次第アリマス

横田政府委員ノ應答

高木正年君ノ御質問ノ要項ニ對シテ簡單ニ御答致シマス、恩給ニ就テ新舊ノ區別ガアルノハ、是ハ恩給法全體ヲ通ジテノ大精神デアリマス、退官若クハ退職——公務ヲ去ッタ時ノ俸給ヲ基準トシテ恩給ヲ與ヘルト云フコトガ、是ガ恩給法全體ヲ貫イテノ精神、之ヲ變更スルコトハ一大革新デアリマシテ、今政府ハ其必要ヲ認メマセヌ、此一ニ例外トシテ、此原則ヲ餘リニ貫イテ事情ト副ハザル點ニ就テハ、若干ノ按排ヲシタ例ハアリマス、此法案ニ於テ實施ヲ遡及スル所以、亦此邊ニ考慮ヲ拂ッタ爲デアリマス、第二ノ點ハ政府ハ此程度ノ恩給額ノ増加ニ於テ、果シテ軍人恩給者ノ生活ニ安慰ヲ與ヘルカドウカ、人心ヲ繋グ所以デアルカドウカ、斯ウ云フ意味ノ御質問デアラウト思フ、若シ恩給ニ關スル法令ガ、此増額ノ數量ノミニ固著シテ見マスレバ、高木君ノ御質問ハ洵ニ御深切ナル御質問デアリマシテ、敬意ヲ拂ハナクテハナラヌデアリマス、併シ國家ガ爲サントシテ力ノ及バザル點ハ、マダ單リ是バカリデアリマセヌ、官吏増俸ノ事ト云ヒ、國防ノ事ト云ヒ、種々ノ鈞合カラ考ヘテ見テ、日本現在ノ國力、國民ノ負擔力、諸般ノ鈞合權衡カラ見マスレバ、政府ハ此法案ニ現レタ所ヲ以テ適當ナリト信ズルデアリマス、是ダケ御答シテ置キマス

次ヲ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名ノ同一委員)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十五日委員會

ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末兩案ヲ併合シ表題ヲ「恩給扶助料等ノ増額ニ關スル法律案」ニ改メ且修正スヘキモノト決シ七月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

第一條 大正九年三月三十一日現在ニ於テ軍人恩給ヲ除クノ外國庫ヨリ○軍人恩給以外ノ恩給、退隱料又ハ扶助

料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ恩給、退隱料又ハ扶助料ノ年額ハ左ノ區分ニ依ル 勅令ノ定ムル所ニ依

リ其ノ年額ニ其ノ十割以内ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス但シ七千五百圓以上ノ年俸ニ基ク恩給又ハ扶助料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 増加恩給又ハ増加退隱料

勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年額ニ其ノ十割以内ノ金額ヲ加ヘタルモノ

二 前號ニ掲クルモノヲ除キタル恩給又ハ退隱料ニシテ年額千九百圓未滿ノモノ

甲 年額七十五圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額

乙 年額七十五圓ヲ超エ三百圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ三分ノ一ニ相當スル金額及二十五圓ヲ加ヘタル額

丙 年額三百圓ヲ超エ七百五十圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ十分ノ三ニ相當スル金額及三十五圓ヲ加ヘタル額

丁 年額七百五十圓ヲ超エ千四百四十圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ二百六十圓ヲ加ヘタル額

戊 年額千四百四十圓ヲ超エ千六百圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ年額ト千七百圓トノ差額ヲ加ヘタル額

己 年額千六百圓ヲ超ユルモノ

其ノ年額ニ百圓ヲ加ヘタル額但シ年額千九百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

三 扶助料ニシテ年額六百四十圓未滿ノモノ

甲 年額二十五圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額

乙 年額二十五圓ヲ超エ百圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ百分ノ三十四ニ相當スル金額及八圓ヲ加ヘタル額

丙 年額百圓ヲ超エ二百五十圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ十分ノ三ニ相當スル金額及十二圓ヲ加ヘタル額

丁 年額二百五十圓ヲ超エ四百八十圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ八十七圓ヲ加ヘタル額

戊 年額四百八十圓ヲ超エ五百三十三圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ年額ト五百六十七圓トノ差額ヲ加ヘタル額

己 年額五百三十三圓ヲ超ユルモノ

其ノ年額ニ三十四圓ヲ加エタル額但シ年額六百四十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

本法施行ノ際休職、非職、待命中ノ者又ハ其ノ遺族本法施行前ノ俸給ニ基キ國庫ヨリ軍人恩給以外ノ恩給、退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額又ハ月俸額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

增加恩給若ハ增加退隱料ヲ受クル者ノ遺族又ハ公務ノ爲死去シタル者若ハ之ニ準スヘキ者ノ

遺族ノ受ケ又ハ受クヘキ扶助料ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年額ヲ二分シ各部分ニ付

前項第三號ノ規定ヲ適用ス

給助金及賑恤金ヲ除ク

又ハ本法施行後軍人恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル者

第二條 大正九年三月三十一日現在ニ於テ軍人恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ恩給年額ハ其

恩給法第一號表乃至第四號表ノ金ノ年額ニ左ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ加ヘタルモノトス但シ増加恩給ニ付テハ前條第一

項第一號ノ例ニ依ル

居リマスル所ノ法律案、或ハ法律ノ改正案デアリマス、委員會ハ審議ノ結果、政府提出ノ二案ヲ修正可決ノコトニ決定致シ、近藤君提案ノ法律案並ニ高木君提案ノ法律案ハ、未了ノ儘留保スルコトニ決定ヲ致シテ居リマス、政府提案ノ趣旨ハ、即チ現下ノ經濟上ノ事情ニ顧ミテ、恩給ヲ増額スルト云フコトガ、法律ノ趣旨ニナツテ居ルノデアリマス、而シテ増額サレマシタ所ノ恩給ノ金額ハ、成ルベク、上ニ薄ク成ルベク下ニ厚イ配分ヲ率ヲ以テ、法律ガ分配致シテアルノデアリマス、而シテ此案ノ問題ノ焦點ト相成ツテ居リマスル事ハ、政府ノ原案ニ依レバ、大正九年四月一日ヲ限リトシ、此四月一日以前ノ恩給者ニハ、五割ノ増額ト云フコトニナツテ居リ、四月一日以後ノ恩給ヲ受ケル人ハ、増俸ノ結果七割ノ恩給ノ増額ト云フコトニ相成ルノデアリマス、即チ新舊ノ恩給ヲ受ケル人ハ此法律ニ依ッテ見レバ二割有餘ノ差額ガ生ズルコトニ相成ルノデアリマス、委員會ノ全體ノ意嚮ハ、成ルベク此差別ヲ撤廢シテ、新舊恩給者ヲ同等ノ待遇ニシタイト云フコトガ、各委員大體ノ意見デアッタノデアリマス、中ニモ在郷軍人ノ長老タル仙波陸軍中將ノ如キハ、委員トシテ屢々發言ヲ求メラレマシテ、而モ感激ニ滿チタル口調ヲ以テ、色々ノ議論ヲ致サレタノデアリマス、其議論ノ二ニテ御紹介申シマスレバ、今回ノ法律ニ依ッテ新舊ノ恩給者ニ差別ノ待遇ヲスルト云フコトハ、軍人ノ協同一致ノ精神ニ向ッテ、爆裂彈ヲ投ジタモノデアルト云フヤウナ議論モアリ、又今回ノ豫算ノ眼目タル所ノ國防充實計畫ノ如キモ、假令國防充實計畫ガ實行サレルモ形骸徒ラニ存スルノミニシテ、軍人ノ精神ガ空虚ニ陥ルコトニナルデアラウト云フヤウナ議論モアリ、随分極端ノ御話ガアッタノデアリマスルガ、政府當局ノ是等ノ主張ニ對スル態度ハ、十分ナル了解ト、十分ナル同情トヲ以テ、應酬ヲ致サレテ居ッタノデアリマス、斯クシテ大體ノ質問ガ終了致シマシテ、討議ニ入ル前ニ至ッテ三土忠造君ヨリ政府案ニ對スル所ノ修正案ガ提議致サレタノデアリマス、修正案ハ、政府提案ノ二件ノ法律案ヲ合併シテ、一ツノ法案ニ作り、形式ヲ恩給扶助料等ノ増額ニ關スル法律案ト云フ名義ニ改メ、其内容ハ曩ニ申上ゲマシタ委員會ニ於ケル問題ノ焦點トナツテ居ル所ノ、新恩給者並ニ舊恩給者ノ差別ヲ撤廢スルコトガ、主要ノ目的ニナツテ居ルノデアリマス、而シテ此差別ヲ撤廢ノ爲メニ生ズル所ノ豫算ノ増額ハ、

何所ニ求ムルカト云ヘバ、原案ニ依レバ曩ニ申上ゲマシタ如ク、四月一日ヲ期限トシ、四月一日ヲ新恩給者ニ對スル效力發生期限ト規定致シテアルノデアリマスルガ、此四月一日ノ期限ヲ延ベテ、七月一日ニ改メ、即チ法律ノ效力ヲ發スル期限ヲ七月一日トシ、四月ヨリ七月ニ至ル二箇月ノ剩餘金ヲ以テ、増額スベキ恩給ニ割振ッタノデアリマス、斯ク便宜ノ處置ヲ執リマスレバ、豫算ノ數字ノ上ガ何等ノ變更ヲ來サズシテ、新舊恩給者ノ待遇ヲ同等ニスルト云フ目的ガ完全ニ達セラレルコトニ相成ルノデアリマス、而シテ其修正ノ條文ヲ一々皆様ニ紹介スルコトガ然ルベキカト考ヘルノデアリマスガ、是ハ御手許ニ廻シテアル所ノ報告書ニ就テ、御覽ヲ願フコトニ致シマシテ、唯ダ此際申上ゲタイ事ハ、提案ノ理由トシテ、委員會ニ發表致サレタ意見ノ二三ヲ御紹介申上ゲルコトガ必要ト考ヘルノデアリマス、最初委員會ノ議論ノ中ニハ、豫算ヲ増額スル必要ハ無イ、財源ガ困難デアラナラバ、豫算ハ政府ノ原案通りデ宜シイ、而モ豫算ヲ政府ノ原案通りトシテ新舊ノ恩給者ニ差別ヲ作ルコトヲ撤廢シテ、新舊ノ恩給者ヲ平均ニシタラバ、公平ニナツテ宜イデハナイカト云フ議論ガ度々起ッタノデゴザイマスガ、此議論ハ此修正案ノ中ニハ、少シモ採用サレテ居ラヌノデアリマス、而シテ之ヲ採用セザル理由ハ、提案者ノ説明ニ依リマスレバ斯ウデアリマス、若シ新舊軍人ノ差別ヲ撤廢シテ、之ヲ平均ニスルト云フコトデアレバ、文官トノ恩給ニ對スル非常ナ不權衡ニナルノミナラズ、新恩給者即チ現ニ國家ノ爲メニ今仕事ヲシツ、アル人ノ利益ヲ犧牲ニシテ、舊恩給者ニ均分スルト云フ如キハ、言フベクシテ行フベカラザル議論デアルト云フ理由ニ依リ、此議論ヲ排斥シテ、修正案ニハ、其意見ハ少シモ用キテナイノデアリマス、第一ニ提案者ノ説明ノ中ニ、此修正案ニ依ッテ新舊恩給者ノ差別ヲ撤廢シテ、舊來ノ恩給者ノ恩給ヲ増額スルト云フコトハ、之ヲ法律上ノ議論デ云ヘバ、所謂豫算並ニ法律ノ遡及ニナルノデアリマシテ、豫算法律ノ遡及ト云フコトハ、餘リ好マシカラヌ事デアアルノデアリマス、我が帝國ハ今ヤ戰後ノ經營ノ時期ニ入ッテ居ルノデアリマシテ、國家ハ甚ダ多事ナル際デアアルノデアリマスガ、茲ニ七百萬圓ノ巨額ヲ犠牲トシ、將來我が帝國ノ財政上ノ迷惑ヲ覺悟ヲ爲シナガラ、舊恩給者ニ對スル増額ヲ決行シタト云フコトハ、是レ非常ナル場合、即チ此特別ナル場合ニ

處シテ、特別ナル考慮ヲ施シタノデアツテ、固ヨリ之ヲ以テ將來ノ例トスベキモノデハナイノデア
アル、隨テ此法律ニ依ッテ利益ヲ受ケル人々ハ、國家ノ勤勞者ニ對シテ、國家ガ如何ニ特別ナル待
遇ヲ爲シタルモノデアアルカト云フコトヲ、十分ニ了解セラレンコトノ希望ヲ力説サレタノデア
リマス、斯ノ如キ經過ニ依ッテ此修正案ノ内容ガ明カニナルニ至リマシテ、是マデ頗ル囂々トシ
テ紛擾ヲ極メテ居リマシタ委員會ハ、滿場肅トシテ聲無ク、委員各自ノ希望ガ達成セラレマシタ
結果トシテ、各、感激ニ滿チタル満足ヲ以テ此修正案ヲ迎へ、滿場一致ヲ以テ可決スルコトノ結
果ニ相成リマシタノデアリマス、尙ホ此修正案ニ對シテハ、政府ノ所見ヲ聽クノ機會ハ委員會ニ
於テ無カッタノデアリマス、或ハ本會議ニ於テ政府ヨリ何等カノ聲明ガ有ルコト、考へマスノデ
アリマス、大體以上ノ通り御報告申上ゲマス

齋藤宇一郎君ハ希望ヲ述へ委員長之ヲ諒トシ尙齋藤宇一郎君ハ辯明ヲ爲ス

齋藤宇一郎君ノ希望

委員長ハ餘程詳細ニ報告サレタヤウデアリマスガ、吾々カラ提出致シマシタ修正案ノ事ニ就テ、
御報告ガ無カッタヤウデアリマス、委員會ハ小委員ヲ設ケマシテ、此議案ヲ審議研究シテ、今御報
告ニナッタ二土君ノ案ニ一致シタト云フ經過ハ、是非御報告ニナラナケレバナラヌ等デアリマス、
ソレヲ御報告願ヒマス

委員長木下謙次郎君ノ補足

御叱ヲ蒙リマシテ恐縮デアリマスガ、高木君ヨリ修正案ノ御提議ノアッタコトハ事實デアリマス、
ソレカラ三土君ヨリ修正案ノ提案ニナリマシタ後、一時休憩ヲ致シマシテ、小委員ガ懇談會ヲ開
イタコトモ事實デアリマス、而シテ其懇談會ノ結果ハ、三土君ノ修正案ハ一言一句モ變更サレテ
居ラヌノデアリマス、再ビ會議ヲ開キマス際ニ當ッテ、委員長ハ高木正年君ニ對シテ、高木君ノ提

案ノ修正案ヲ撤回ノ意味デアアルカ、ソレトモ消滅ノ意味デアアルカト云フコトヲ御尋シマシタノ
デアリマスガ、高木君ハ吾々ノ提案シタル修正案ハ、三土君案ニ吸收ヲサレタノデアアルト云フ御
答デアリマシタカラ、吸收サレタモノヲ別段報告スルニモ及ブマイト考へマシテ、ツイ報告ヲ省
略致シマシタ次第デアリマス、ドウゾ惡カラズ

齋藤宇一郎君ノ辯明

尙ホ質問ガアリマス、ソレハ少シ委員長トシテ聊カ言葉ガ足りヌヤウニ思フノデアリマス、吸收
セラレタト云フコトハ、三土君ノ修正案ニ吾々ノ修正案ノコトモ書イテアルノデアアルカラ、其意
味デ言ウタノデアアツテ、何モソレガ消エタ譯デナイ、二案ガ合シテ一案トナッタト云フ形式ニ於テ、
圓滿ニ議了致シタノデアリマス、其事ハ明瞭ニシテ置ク必要ガアルノデアリマス

次テ討論ニ入り近藤達兒君及齋藤宇一郎君ハ委員長報告ニ賛成ノ演說ヲ爲ス

近藤達兒君ノ賛成演說

私ハ委員長報告ノ修正案ニ賛成ヲ致スモノデアリマス、最初政府ノ提案セラレマシタル案ニ依
リマスレバ、新舊恩給者ノ間ニ著シキ差等ヲ設ケテ居ッタノデアリマスガ、此問題ニ對シマシテ
ハ、各方面ヨリ熱心ナル方々ノ反對論ガアリマシタガ、政府ハ財政上ノ都合ト法律上ノ見地ヨリ
致シマシテ、容易ニ新舊ノ區別ヲ除クコトニ同意致シ難イ模様ガ見エタノデアリマス、然ルニ熱
心ナル委員方々ノ主張ト又政府ノ反省ニ依リマシテ、稍、茲ニ一致點ヲ認ムルニ至リマシテ、憲
政會ノ高木正年君ヨリ修正案ノ提出トナリ、又政友會ノ三土忠造君ヨリ修正案ノ提出トナリ
マシテ、其結果小委員會ヲ開キ、互ニ讓歩致シマシテ、圓滿ナル解決ヲ見テ、此修正案ヲ成立スル
コトニ至ラシメタノデアリマシテ、此新舊ノ差等ヲ取りマシタコトニ就キマシテハ、私共ハ満足
ヲ致ス次第デアリマス、併ナガラ政府當局ノ言明ニ依リマシテモ、本案ハ根本的ノ修正案ニ非ラ

ズシテ、一時的ノモノデア、將來ハ根本的ノ改正ヲ行ウテ、尙ホ受恩給者ヲシテ満足セシムル程度ニ至ラシメタイト云フコトヲ言明致サレテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ私共ハ不満足ナガラモ此處マデニ進ンダト云フ點ニ於テ、贊成ヲ致シタ次第デアリマス、尙ホ序ヲ以テ同一委員ニ付託セラレテ居リマス所ノ私ノ提案ニ依ル所ノ、軍人恩給ノ改正案デアリマスガ、是ハ所謂增加恩給ノ改正ニ關シタ問題デアリマシテ、一口ニ申シマスレバ、廢兵ノ恩給ヲ増加致スト云フ案デアリマス、此案ハ私ハ是非共通過ヲ望ンデ居ルモノデアリマスガ、此案ニ對シマシテハ、陸軍當局モ頗ル同意ノ意志ヲ漏ラサレテ居リマスルシ、又根本的改正ヲ行ヒタイト云フコトデアリマスカラ、此短期議會ニ於キマシテハ、既ニ此修正案ガ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ以上ハ、此場合強テ私ハ此案ヲ維持スル必要ハ認メマセヌ、仍リマシテ撤回致サウト考ヘテ居ルノデアリマス、此案ノ撤回ノ手續等ニ就キマシテハ、議長ニ於テ然ルベク御取計アラントヲ希フ次第デアリマス

齋藤宇一郎君ノ贊成演說

本員モ唯今議題ニナッテ居リマス修正案ニハ贊成ヲ致スノデアリマス、其結果イキサツハ委員長カラモ一通リ報告ニナリマシタ、又私カラモ質問シタコトニ依ッテ、諸君ハ十分ニ御了解ニナッダト思フノデアリマス、此案ハ餘程重大ナ問題デアリマシテ、隨分長イ間議論ガアッタノデアリマス、最初政府ノ提案トシテ吾々ノ満足シナカッタコトハ、提出ノ理由トシテ、一般ニ對スル俸給ノ増加ニ伴フ、其率ヲ殖ストシテ恩給モ増加シナケレバナラス、此趣旨カラ申シマスレバ、即チ俸給ノ増加率ヲ平均七割ヲ増サナケレバナラスト云フコトニナルノデアリマス、然ルニ五割ニナッテ居ルト云フコトハ、是ハ満足シナイ點、ソレカラ第二ノ點ハ、此新舊區別ヲ付ケタト云フコトハ甚ダ是ハ面白クナイ事デアッテ、即チ先輩トモ見、又多クノ功勞者トモ見ルベキ舊イ人ニ對シテ、非常ニ薄イ取扱ヲスルト云フコトハ、軍人ノ精神上ニモ、動モスレバ惡影響ヲ及ボシハセヌカト云フヤウナコトカラ、大分研究ヲ爲シタモノデアリマス、其間ニ於テ私共ハ此問題ガ、ドウ云

フ風ニ歸著スルダラウカト云フコトハ、實ハ此受恩給者ノ爲メニ心配ラシタノデアッタノデアリマス、併ナガラ幸ニデス、此委員會ノ熱心ナル研究ガ政友會ニ於テモ大ニ諒トセラレ、又政府委員モ、大ニ從來ノ主張ノ理由ガ甚ダ薄弱デアルト云フコトヲ理解セラレテ、サウシテ茲ニ圓滿ナル解決ヲ見ルニ至ッタノデアリマス、而シテ此案ニ對スル研究ノ結果トシテ、吾々ノ方カラモ修正案ヲ提出致シマシタ、又政友會ノ方カラモ三土君ノ修正案ガ出マシタ、其修正案ガ既ニ印刷サレテ、吾々議員ニ配付サレテアルノデアリマスカラ明カデアリマスガ、吾々カラ提出シタ所ノ其修正案ナルモノハ、先刻委員長ノ報告ニ漏レ、私ノ質問ニ依ッテ其事ノアッタト云フコトヲ、追加報告セラレタ位デアリマス、是ハ委員長トシテハ餘リニ省略ニ過ギタノデアアルカ、忘レタノデアアルカ、重大ノ事ノ取落シヲサレタト云フコトハ、此重大ナル問題ニ於テ、私ハ甚ダ遺憾トスルノデアリマス、故ニ私ハ今修正案ヲ茲ニ讀ンデ、サウシテ御紹介シテ置クノデアリマスケレドモ、大分時間モ遅クナッテ居リマスルシ、倦怠ノ状態デアリマスカラ、ソレハ議長ノ許可ヲ得テ私ガ讀ンダ積リデ、速記録ニ載セテ戴クコトニ致シマス、而シテ此案ガ其内容ヲ研究致シマスレバ殆ド一致シテ居ル、唯ダ三土君提出ノ案ノ中ニ、罷職待命等ニ關スル事項ガ一ツ餘計アル、是ハ洵ニ結構ナ事項デアッテ、是コソ總テ均霑スルコトニナルノデアリマスカラ、其簡條ハ吾々モ同意致シマシテ、之ヲ綜合シテ言ヘバ、三土君ノ方ノ提案ハ、即チ先刻吸收サレタト云フ言葉ガアッタト云フコトデアリマスガ、包容シテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ三土君ノ案ノ中ニ含ンダモノト致シマシテ、ソレデ小委員會ニ於テ、三土君ノ案ニ贊成ヲ致シタノデアリマス、斯ノ如キ景況ニ於テ此委員會ハ圓滿ニ、而シテ當座ノ法律案トシテ、相當ナ程度ニ改善ヲサレタノデ、即チ差別ハ撤廢サレ、率ハ七割ニ増シ、總テノ方面ノ文武官ヲ通シテ均霑シタト云フコトハ、先ヅ以テ洵ニ結構ナ結了ヲ見タト謂フベキモノデアリマス、併ナガラ御同様ニ考ヘマシテ、此恩給ノ全體ヲ見マスレバ、マダ、甚ダ不備デアリマス、殊ニ此増加恩給ノ如キハ非常ニ低イノデアリマシテ、今日ノ經濟状態ニ於テ不具癡疾ニナッテ居ル人ガ、此修正案ニ依ッテ與ヘラル、所ノ金デモ、到底生活ガ出來ナイト云フコトハ明カデアアルノデアリマス、斯ノ如キ事ハ、ドウシテモ將來

改メナケレバ、屢、事變ガ起ツテ、此哀レナル傷病兵ノ居テ其家族マデモ苦ンデ居ル場合ニ於テハ、ドウシテモ満足ヲスルコトハ出来ナイノデアリマスカラ、是ハドウシテモ總テニ向ツテ、根本的改善ヲシナケレバナラヌ、然ルニ政府モソレハ考ヘテ居ツテ、今研究中デアル、出来得ルダケ速ニ全體ノ根本改正ヲヤリタイト云フ考ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ明カニ言明致シマシタカラ、ソレデ私モ、先ヅ以テ最善ヲ望ンデ、其次善ヲ取ルト云フ意味ニ於テ、贊成ヲ致ス譯デアリマス、其意味ニ於テ吾々ハ、近ク此恩給法ガ最モ完全ニ改正セラレテ、而シテ長ク其職ニ在ッテ功勞アル者ハ、老後其生活ヲ安定シテ、愉快ニ生活ノ出来ルヤウニシテヤリタイ、斯ウ云フ趣旨ヲ以テ、先ヅ以テ之ニ贊成ヲ致シタノデアリマス、尙ホ此際ニ於テ一言致シテ置キマス事ハ、高木君外二名カラシテ、恩給法中改正案ガ提出サレテ居リマス、ソレハ委員長ノ報告ノ通りニ保留サレテ居ルノデアリマス、而シテ今此案ニ贊成致シマス以上ハ、又將來根本的改正ガ出ルト云フコトヲ政府ガ言明致シマシタ以上ハ、他日更ニ意見ヲ述べルコトニシテ、今回ハ撤回ヲ要求致シマス

(参照)

第一條 軍人恩給法ニ依リ現ニ恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者將來受クヘキ事由ノ生シタル場合ニ於テハ同法第一號表乃至第四號表ノ恩給金額ハ各其ノ金額ニ左ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ加ヘタルモノトス

加給割合	官等								
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	
二、一	三、一	四、七	五、三	五、七	六、四	七、一	七、一	七、一	
	將官及相當官							准士官	下士及卒
	高 等 官							判任官	判任官
								一等	二等
								以下	以下

第二條 國庫ヨリ軍人恩給以外ノ恩給、退隱料又ハ扶助料ヲ現ニ受ケ又ハ受クヘキ者及將來受クヘキ事由ノ生シタル場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額又ハ月俸額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ相當ノ金額ヲ加ヘタル額トス

第三條 前二條ノ規定ハ恩給、軍人恩給、退隱料、扶助料、増加恩給又ハ増加退隱料ニ準スヘキ者ニ之ヲ準用ス

第四條 前二條ノ規定ハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法、明治二十九年法律第十三號、巡查看守退隱料及遺族扶助料法又ハ明治四十三年法律第三十號ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキ事由ノ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條 本法ニ依ル加給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ適用ス

本法施行ノ際現ニ恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキモノニシテ現官相當ノ恩給ヲ受ケサル者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ規定スル其官相當ノ恩給ヲ給ス之ニ基ク扶助料ニ付亦同シ

横田政府委員ハ政府ノ意思ヲ表明ス

横田政府委員ノ意思表明

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項

法律案

此機會ニ於テ政府ハ修正案ニ對シテ、其意ノ在ル所ヲ表明致シタイト思ヒマス、提案ノ最初ヨリ新舊差別待遇ノ撤廢ニ就テハ、幾多ノ質問討論ヲ承タツノデアリマス、政府ガ今日ニ至ルマデ之ヲ難ンジタ所以ハ、修正案ノ要旨、獨リ軍人ノ方ニ厚キガ如キ傾向ガアル、文官ニ及バヌノデア
 ル、然ルニ文官方面ニ於テハ、今日マデ遡及ノ未タ露ヲ受ケザルノミナラズ、更ニ現在ノ政府案ニ對スル修正案ヲ見マスルト、是亦單リ軍人方面ノミノ遡及ノ恩典デアリマス、斯ノ如キハ國家重要ノ公務ニ文武平等、車ノ兩輪ノ用ヲ以テ働イテ居ル場合ニ於テ、如何ナルモノデアルト云フコトヲ、政府ハ考慮シナケレバナラヌノデアリマス、文官ノ中ニハ此系統ヲ引イタル警察官、看守、地方費ノ分擔ノ部分モアリマスケレドモ、學校ノ教員、是等ノ者ヲ皆ナ包括シテ居ルノデア
 リマス、斯ウ云フ點カラ考ヘテ行キマスルト、輒スク政府案ニ對スル修正案ニ御同意ガ出來ナカッタノデアリマス、加之恩給制度ニ就キマシテハ、現ニ議員中ノ松下禎二君ヨリモ重要ナル點ニ就テノ質問書モ出テ居リマス、攻究スベキ點ハ多々アルノデアアル、是等根本的革新ノ要ガ刻々迫
 テ來テ、政府ハ刻下之ヲ作り成スベク努力シツ、アル、此期限ニ就キマシテ、必シモ四十四議會ト云フコトハ明言ハ出來ナイ、出來ルダケ早ク致シタイト云フ考デアッタノデアリマス、然ルニ更ニ政友會ノ三土君其外憲政會ノ高木君モ御提出ニナリマシタガ、此提案ニ依ッテ見マスルト、文武官合セテ新舊ノ差別ノ待遇ヲ撤廢スルト云フ提案デアアル、此意味ニ於テ政府ハ考ヲ再ビスル
 ダケノ價値アリト見タノデアリマス、第二ニハ歐洲ノ大戦亂以後、經濟事情ガ此數年間ニ著シク、激變シタ、是亦委員諸君ガ熱誠ニ力說サレル點デアリマシテ、政府ハ再ビ考慮ヲ此點ニ廻ラス必
 要ヲ感ジタノデアリマス、此意味カラ致シマシテ、即チ恩給制度ノ根本原則、常ニ恩給ヲ増加スル場合ニ於テ之ヲ元ヘズト遡ラセルト云フコトハ、政府ハ今日ニ於テ未ダ承認スルコトハ出來
 ナイノデアリマス、是ハ自ラ曩ニ御話シ致シマシタ所ノ恩給制度ノ根本革新ノ場合ニ於テ、諸般ノ問題ヲ攻究シタ後ニ始メテ決定スベキ事項デアアル、此點ヲ明カニ政府ハ茲ニ表明シテ置カナケレ
 バナラヌノデアリマス、唯ダ今回ノ改正ハ此數年間ニ於ケル著シキ經濟事情ノ變化、之ニ應ズルガ爲メニ、而シテ在郷軍人其他一般ノ文官、教員、巡查、看守、是等ノ人、及其遺族、是等ノ實際生活

ノ現狀ニ鑑ミテ、此程度ノ改正デアラナラバ、政府ハ敢テ同意ヲ表スコトニ吝ナルモノデナイ、斯ウ云フ意味デアリマスカラシテ、今日ニ於テ恩給制度ノ根本方針、根本原則ヲ變改シタモノデ
 ナイト云フコトヲ、再ビ茲ニ繰返シテ申上ゲル必要ガアルノデアリマス
 院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告
 ノ通修正議決ヲ爲シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十五日可決奏上シ七月三十一日法律第
 十五號ヲ以テ公布セラル

四三 大正五年法律第四號中改正法律案

大正五年法律第四號中左ノ通改正ス

「二億二千萬圓以内」ヲ「四億八千萬圓以内」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ九年七月十三日本院ニ之ヲ提出ス翌十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

大正三年臨時事件ニ關シマシテ、臨時事件費ニ於テ、大正九年度分ト致シマシテ、更ニ追加要求

ヲ爲スノ必要ガアルノデアリマス、ソレ故ニ追加豫算トシテ、一億三千四百餘萬圓ヲ要求シテ居ルノデアリマス、其中一千百萬圓ハ軍事費特別會計ノ收入ヲ以テ支辨致シマシテ、残り一億二千二百餘萬圓ハ、借入金又ハ公債ヲ以テ支辨スル計畫ニナツテ居リマス、然ルニ其後尙ホ局面ノ變化ニ伴ヒマシテ、軍事費ニ於テ追加要求ヲ爲スノ必要ガ生ジマシテ、其額ハ約三千三百餘萬ト見積ツテ居リマス、是ハ更ニ追加豫算トシテ、不日議會ニ提出ヲ致ス積リニナツテ居リマス、此二口ヲ合計致シマスト一億五千五百餘萬圓トナルノデアリマス、之ヲ切上ゲテ一億六千萬圓ト致シマシテ、現在ノ三億二千萬圓ニ加ヘテ、合計四億八千萬圓ノ公債又ハ借入金ノ制限額ト致シタイト云フノガ、本改正案ノ趣意デアリマス、御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

次テ本案ハ政府提出大正四年法律第十六號中改正法律案(二六)委員ニ併セ付託ニルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長菅原傳君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

簡單ニ委員會ノ經過ト結果ヲ御報告致シマス、本案ハ大正三年ノ臨時事件費ヲ尙ホ繼續シテ支辨スルノ必要ガアル、其財源ニ充テル爲メニ、借入金公債ノ制限額ヲ改正スルノデアリマス、今日迄ノハ三億二千萬圓ノソレヲ四億八千萬圓以内ト改メルノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、政府當局者トモ質問應答ヲ致シ、殊ニ祕密會マデ開キマシテ、此經費ノ支出ノ事ニ就テ尋ネタノデアリマス、露西亞或ハ西伯利其他ノ方面、或ハ今同占領ヲ聲明シタ所ノ薩哈噠等ニ於ケル此海軍ノ設備ニ就テモ、十分ニ當局者ニモ質シタノデアリマスガ、刻下必要ト認メマシテ殊ニ緊急ヲ要スルモノデアリマスカラ、全會一致可決致シタ次第デアリマス、此段御報告致シマス

院議異議ナク議會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十

七日可決奏上シ八月四日法律第三十九號ヲ以テ公布セラレ

四四 朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中左ノ通改正ス

第二條中「七十一萬圓」ヲ「九十二萬圓」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ九年七月十三日本院ニ之ヲ提出ス翌十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ古賀政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ朝鮮ノ官立醫院特別會計法中ノ一部ヲ改正シヤウト云フ法案デアリマス、朝鮮ニ於テハ朝鮮總督府醫院、朝鮮總督府慈惠醫院、ソレカラ朝鮮總督府濟生院、此三ツデゴザイマスルガ、是ハ政府ノ支出ト料金ノ收入、基本金ノ利子等ヲ以テ經營シ來ツテ居ッタノデアリマス、而シテ政府ノ支出ハ、現行法ニ於テハ七十一萬圓デゴザイマス、目下物價ノ騰貴ニ伴ウテ、藥品其他ノ資料ノ騰貴ヲ來シ、且又醫員其他職員ノ俸給手當等ノ増額ヲ必要トスル所カラ、此政府ノ七十一萬圓ノ支出デハ中々足ラヌト云フ次第デ、今度更ニ二十一萬圓ヲ増加シテ、都合政府支出ヲ九十二萬圓ニシヤウト云フ改正案デアリマス、何卒御審議ノ上、御協賛アラントヲ望ミマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十五日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長齋藤壽雄君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

此法律案ハ特別會計ノ七十一萬圓ト云フノヲ九十二萬圓ニ増額シタイ云フ案デゴザイマス、其中ドウシテモ増額ヲ要スルト云フコトハ、物價騰貴ニ依リマスノト、ソレカラ十六箇所ノ醫院ニ對スル増俸、臨時手當等ノ爲メニ費用ヲ要スルノデゴザイマス、併シ醫院ハ藥價ハ益、暴騰ヲ致シマスノデ、藥價等ノ値上モサレタノデアリマスケレドモ、中々其値上ヲ致シタト云フ位ノコトデ足リル譯ニ參リマセヌ、ソレ故ニ基金ヲドウシテモ増加シテ參ラナケレバナラヌト云フコトデゴザイマス、全體朝鮮ノ醫院ハ中央部ヲ首メ十六箇所デアアル、其院長或ハ醫長ト云フヤウナ人ハ軍人デアアル、或ハ豫備後備等ノ軍人デアアル、軍醫デアアル、他カラハ此病院ニ就職スルコトガ出來ヌト云フ話デアアルガ、ソレハドウ云フ都合デアアルカト云フヤウナ質問ガ出マシタ、所ガ政府委員ノ御答ニハ別ニ意味ノアル譯デハナイ、併シ中央ノ醫院ノ院長ハ軍醫デアアル、サウ云フ關係カラシテ自然軍醫ノ人ヲ多ク採用スルコトニナツテ居ルノト、ソレカラモウ一ツハ、軍醫デアアル採用ヲスル時分ニ俸給其他ニ餘程任用スルニ便利ノコトガアル、サウ云フ事カラシテ多クハ醫長アタリハ軍醫ガ入ッテ居ルノデアアルガ、他ニ意味ノアル譯デモ何デモナイ、若シ此法案ガ通過致シタナラバ或ハ他カラ入レルト云フヤウナコトモ出來得ルデアラウ斯ウ云フ答辯デゴザイマシタ、審議ノ末原案ノ通り全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

四五 國債整理基金特別會計法中改正法律案

國債整理基金特別會計法中左ノ通改正ス

第五條 政府ハ國債ノ整理又ハ償還ノ爲必要ナル額ヲ限度トシ起債スルコトヲ得

附則

大正五年法律第三十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前國債整理基金特別會計法ニ依リ發行シタル國債ノ元金ノ消滅時效ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

四六 家祿賞典祿處分法施行法中改正法律案

家祿賞典祿處分法施行法中左ノ通改正ス

第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ公債ハ發行ノ年ヨリ五年据置キ其ノ翌年ヨリ五十年内ニ之ヲ償還ス

第六條第二項ヲ削ル

附則

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案 六百二十九

本法施行前祿高整理ノ爲發行シタル公債ノ元金ノ消滅時効ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

四七 鐵道國有法中改正法律案

鐵道國有法中左ノ通改正ス

第十五條 削除

第十六條 削除

第十八條中「第十六條」ヲ「第十四條」ニ改ム

附則

本法施行前鐵道國有法ニ依リ發行シタル國債ノ元金ノ消滅時効ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

四八 京釜鐵道買收法中改正法律案

京釜鐵道買收法中左ノ通改正ス

第十三條 削除

第十四條 削除

附則

本法施行前京釜鐵道買收法ニ依リ發行シタル國債ノ元金ノ消滅時効ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

右四案ハ孰レモ九年七月十四日本院ニ之ヲ提出ス同月十四日議事日程ヲ變更シ四案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

國債整理基金特別會計外三案ハ國債ノ整理統一ヲ圖ラウト云フノガ主タル趣意ト、一ツハ國債整理基金特別會計法ノ公債借換ノ手續ニ關スル規定、其他ヲ改正致シタイト云フノガ趣旨デアリマス、即チ整理基金特別會計法ハ第五條ノ借換ニ關スル規定ガ、餘リ窮屈ニナツテ居リマシテ、實行ガ殆ト不能デアアルノデアリマスルカラ、之ヲ改正致シタイト云フノガ一ツデアリマスル、ソレト整理基金特別會計並ニ家祿賞典祿處分法施行法、鐵道國有法、京釜鐵道買收法等ニ依リマシテ發行セラレマシタル所ノ公債ハ、整理公債條例ヲ適用シテ其利拂期限並ニ時効等ノ規定ハ整理公債條例ノ規程ニ依ルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ整理公債條例ハ古イ規程デアリマシテ、時勢ニ適セナイノデアリマスルカラ、其適用ヲ廢シテ一般ノ國債ニ關スル規程ヲ適用シタイト云フノガ、改正案ノ趣意デゴザイマスル、御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

次テ四案ハ政府提出國債償還資金ノ繰入ヲ爲ササルコトニ關スル法律案(三五)外七件委員ニ併セ付託スルニ決ス(委員會並議事ノ經過及公布ハ(三五)參看)

四九 貨幣法中改正法律案

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

貨幣法中左ノ通改正ス

第三條中「二十錢」ヲ「二十錢」ニ、「五錢」ヲ「十錢」ニ改ム

第五條中「二十錢十錢」ヲ「二十錢」ニ改ム

第六條中「十錢銀貨幣 四分」ヲ「十錢白銅貨幣 一匁」ニ、「白銅貨幣 一匁一分四厘」ヲ「五錢白

銅貨幣 七分」ニ改ム

第七條中「白銅貨幣及」ヲ「白銅貨幣ハ五圓マテ」ニ改ム

第十條中「十錢ハ每片八毛一千枚毎ニ四分」ヲ削ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ十錢銀貨幣及五錢白銅貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

右ハ九年七月十四日本院ニ之ヲ提出ス翌十五日本案ノ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

我國ノ銀貨ハ大正七年四月ニ改正セラレマシタノガ最近ノ改正デゴザイマスガ、爾後銀貨ガ暴騰ヲ致シマシテ、銀貨ノ鑄造點以上ニナラテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、我國ノ銀貨

ヲ改正致スノ必要ガアルノデゴザイマスガ、銀相場ハ今尙ホ動搖シマシテ、安定致サナイノデアリマス、ソレデアリマスカラ、今日直チニ我ガ補助銀貨ノ改正ヲ致スト云フコトハ、マダ早計ニ失シマスルカラ、此場合ニ於キマシテ、取敢ヘズ十錢ノ銀貨ヲ廢止シテ其代リニ十錢ノ白銅貨ヲ鑄造發行致シタイト云フノガ本案ノ趣意デアリマス、是ト同時ニ白銅貨ノ法定通用制限ハ、現ニ一圓デゴザイマスガ、十錢ノ白銅貨ヲ造リマスカラ、之ヲ法定制限額ヲ五圓ト致シタイト云フ趣意デゴザイマス、御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十六日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長陣軍吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

貨幣法中改正法律案ノ委員會ニ於ケル經過並ニ其結果ヲ報告致シマス、本案ハ銀塊相場ニ依リマシテ、十錢銀貨幣ヲ廢止シ、十錢白銅貨並ニ五錢白銅ノ改正ヲ要スルト云フ案デゴザイマス、極メテ簡單ナル案デゴザイマシテ、委員會ニ於キマシテハ、滿場一致可決致シタノデゴザイマス、此段報告致シマス

院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十三日可決奏上シ七月二十六日法律第五號ヲ以テ公布セラル

五〇 賠償金特別會計法案

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

賠償金特別會計法

第一條 獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領スル賠償金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第二條 本會計ノ資金ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第三條 本會計ハ賠償金及其ノ利子、本會計所屬物件ノ賣拂代金及貸付料、運用利殖金並附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ法令ノ定ムル所ニ依リ支出スル交付金、事務取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第四條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第五條 本會計ノ資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ 本會計ノ毎年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第六條 獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領スル有價證券其ノ他ノ物件ハ本會計ノ所屬トス

本會計ノ收入支出及本會計所屬物件ノ保管出納ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ九年七月十四日本院ニ之ヲ提出ス翌十五日日本案ノ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此度ノ歐羅巴戰爭ニ關シマシテ獨逸國等トノ平和條約ガ結バレマシテ、其條約中ノ賠償條項ニ依リマシテ、同盟並ニ聯合國政府ノ受領致シマスル賠償金ノ總額、並ニ本邦ガ受クベキ分配額ニ就キマシテハ、目下各國間商議中デアリマシテ、マダ決定ハ致シマセヌ、併シ右賠償條項ハ既ニ實施セラレツ、アルノデアリマシテ、賠償ノ一部分トシテ染料ノ如キハ、本邦ニ於テ受領ノ手續ヲ既ニ了シタルモノガアルノデアリマス、賠償金ノ經理ニ就キマシテハ、其仕拂期限ガ三十年以上ノ長期ニ涉ル關係上、又現金ノミナラズ現物ヲ以テ仕拂ハレルト云フコトニナツテ居リマスル關係上、餘程複雑ニナツテ居ルノデアリマス、又賠償金ヲ使用スル途ニ就キマシテモ、其特殊ノ性質ニ鑑ミマシテ、決定スベキモノデアリマシテ、之ヲ一般會計ニ直接ニ受入レテ、處理スルト云フコトハ不便デアリマスカラ、日清戰役後ニ於ケル賠償金ノ經理ノ前例ニ鑑ミマシテ、之ヲ一般會計ト區分シテ、特別會計ヲ設ケテ整理致シタイト云フノデアリマス、御協賛アラントヲ希望致シマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十六日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ 七月十九日日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長牧山耕藏君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

世界大戰ニ關シ、獨逸國等トノ平和條約ガ締結サレタノデアリマシテ、此條約中賠償條項ニ依ッテ帝國政府ガ受取ルベキ所ノ賠償金ハ、目下賠償委員會ニ於テ商議中デアリマス、隨ッテ此賠償金額等ハ未ダ決定ヲシナイノデアリマスガ、賠償條項ハ既ニ實施ヲセラレテ居リマシテ、現ニ染料ノ如キハ、一部分之ヲ受領ノ手續ヲ了シテ居ルノデアリマス、此後受領致シマスル所ノ償金及物件ヲ處理スルコトニ就キマシテ、之ヲ一般會計ニ繰入レマスルコトハ甚ダ不便デアリ、殊ニ之ガ處理ハ極メテ、複雑デアリマシテ、今年三十年若クハ四十年モ掛ルヤモ知レナイノデアリマスカラ、之ヲ特別會計ノ經理ニスル、即チ日清戰爭ノ後ニ於テモ、賠償金ハ特別經理ノ方法ヲ執ツタノデアリマスカラ、此意味ニ於テ此法案ガ提出サレタノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、此戰爭ニ依ッテ帝國ガ被ル所ノ損害ノ總額、並ニ「スパー」ニ於ケル賠償委員會ノ經過、及帝國政府ガ要求ヲ致シテ居リマスル、賠償金額等ニ就テ質問ガアリマシタケレドモ、目下商議進行中デアッテ、唯今ハ之ヲ明言スルノ時機ニ非ズト、政府ハ明言ヲ避ケタノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、之ヲ特別會計トシテ處理スルコトヲ適當ナリト認メマシテ、全會一致ヲ以テ可決致シタ次第デアリマス、此段報告致シマス

五一 明治三十八年法律第十七號中改正法律案

明治三十八年法律第十七號中左ノ通改正ス
 第一條中「二千萬圓」ヲ「九千萬圓」ニ、「千二百萬圓」ヲ「六千萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ九年七月十四日本院ニ之ヲ提出ス翌十五日本案ノ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

專賣局ノ据置運轉資本ノ補足ノ爲メニ借入金又ハ融通證券ノ制限額ガ從來二千萬圓デアリマシタノガ、今回九千萬圓ニ増加致シ、又製鐵所ノ据置運轉資本補足ノ爲メニ致シマスル借入金、又ハ融通證券ノ制限額ガ、從來千二百萬圓デアリマシタノヲ、六千萬圓ニ増加セントスルノ案デアリマス、是ハ專賣局及製鐵所ノ事業擴張、並ニ物價ノ騰貴、原料及貯藏品ノ増加等ニ伴ヒマシテ、資金ノ増額ヲ必要トスルノデアリマス、御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス
 次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十六日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ
 翌二十日本案ノ第一讀會ヲ續會ヲ開キ委員長龍野周一郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ極メテ簡單ナル法律ノ改正案デアリマスガ、其内容ニ至ッテハ、サウ輕クシク取扱フベキ案デハナイノデアリマス、ソレ故ニ委員會ニ於キマシテハ、最モ慎重ニ政府ニ向ッテ質問ヲ致シマシタノデアリマス、此質疑應答ハ速記録ガ出來上ッテ、諸君ノ御手許ヘ廻ッテ居リマスレバ、

私ハ此處デ極メテ簡單ナ報告ヲスル積リデアッタノデアリマス、然ルニ速記者不足ノ爲メニ、此速記録ハ十日後ニ出來ルカ、二十日後ニ出來ルカ判ラヌト云フコトデアリマス、又此案ハ國民生活ノ上ニモ關係ヲ及ボシテ居ル案デアアル、ソレカラシテ國家ノ産業ノ上ニモ、直接間接ニ至大ノ關係ヲ持ッテ居ル案デアリマス、又軍器ノ獨立、國防ノ上ニモ直接間接ニ關係ヲ持ッテ居ル案デアリマスカラ、私ハ委員會ニ起リマシタル所ノ重要ナル質疑應答ヲ整理シマシテ、其主ナルモノダケヲ此本會ニ於テ報告ヲ致シ、周ク國民ニ知ラシメ置ク必要ガアルト考ヘマス、專賣局ノ据置運轉資金デハ一千萬圓デアリマシテ、若シ足ラナイ場合ニハ、豫金部カラ借入ヲナシ、又ハ融通證券ヲ發行致シマシテ、二千萬圓ダケ合セテ三千萬圓ダケノ金ハ、專賣局ガ使ヘルト云フデアリマス、然ルニ經濟社會ノ狀態ガ今日ノ如クナッテ參リマシタカラ、專賣局デ扱ッテ居リマスル所ノ煙草ノ如キハ、殆ド未曾有ノ盛況ヲ來タシマシテ、之ガ爲メニ原料ノ買入ニモ非常ナ金ヲ使ハナケレバナラヌ、又事業モ益、擴張シナケレバナラズ、年度末ニナリマスルト、持越シマスル所ノ製品、並ニ材料ニ於テ數量モ金額モ、多額ニ持越サナケレバナラヌヤウニナッタノデアリマス、然ルニ政府ハ此僅カ二千萬圓ノ金ダケテ專賣局ノ操事ヲサセテ居ルノデアリマスルカラ、年末決算期ニ至リマスルト、金ガ足りナクテ仕方ガアリマセヌカラ、其年ノ利益ヲ之ヲ翌年ニ於テ納入シテ宜シイト云フ、一時逃レノ勅令ヲ出シマシテ、臨機ノ處置ヲ致シテ居ッタルデアリマス、然ルニ現在專賣局ガ葉煙草ノ貯藏高ハト聞キマスルト、千九百六十三萬五千貫、ソレカラ鹽ノ貯藏高ハ三億五千五百萬斤デ、是等ノモノガ大正八年度末ニ於キマシテ持越シマシタル物品ノ總價格ハ、六千九百九十餘萬圓ニ達シマシテ、大正九年度末ニハ九千八百餘萬圓ニ達スル見込ダサウデアリマス、其種類ハ葉煙草ニ於キマシテ七千七百七十四萬三千圓、製造煙草ニ於キマシテ七千六百二十二萬四千圓、鹽ニ於キマシテ一千零二十萬七千圓餘、是ダケノ事業ヲスルノデアリマスルカラシテ、三千萬圓ノ金デハ、トテモ圓滿ニ且堅實ニ此仕事ヲ遂行スルコトガ出來ナイカラ、是ニ於テ即チ之ヲ九千萬圓ニ増額擴張ヲシタイト云フ趣意カラ此案ガ出來テ居ルノデアリマス、ソコデ專賣局デ物品ノ賣行ノ狀況如何ト云フコトヲ質問致シマシタルニ對シテ、其答ニ煙草ニ於キマシテ

ハ、大正四年度ノ賣渡高ハ卷煙草ガ七十六億五千七百餘萬本、刻煙草ガ六百四十萬貫餘デアリマス、ソレカラ、年々増加ヲ致シマシテ大正七年度ニ於キマシテハ、卷煙草ガ百四十一億七千九百餘萬本、刻煙草ガ六百八十八萬貫餘、大正八年度ハ卷煙草ガ百七十五億四千七百餘萬本、刻煙草ガ七百二十四萬貫餘デアリマシテ、即チ大正八年度ト大正四年度ヲ比較致シマスルト云フト、刻煙草ニ於テハ僅々一割餘ノ増加デアリマスケレドモ、卷煙草ニ在ッテハ實ニ十二割餘ノ増加ヲ示シテ居リマス、ソレカラ鹽ノ方ニ於キマシテハ、大正四年度ノ賣渡シ高ガ十一億五千二百餘萬斤デアリマスガ、大正七年度ハ十二億七千九百餘萬斤トナッテ居リマス、大正八年度ハ十六億六千二百餘萬斤、大正八年度ニ於テハ大正四年度ニ較ベマスルト、是モ四割餘ノ増加ヲ示シテ居ルノデアリマス、次ニ專賣品ヲ賠償及購買致シマスル所ノ價格ハ内地產ノ葉煙草ハ、近年物價騰貴、勞銀モ亦騰貴シ、生産費ガ非常ナ増加ヲ致シ、對抗作物ニ對スル比較ノ必要上、屢之ガ値上ゲヲサレマシタノデアリマスカラ、非常ナ騰貴ヲ來シテ居ルノデアリマス、外國產モ亦之ト同ジク非常ニ昂騰致シテ居リマス、其一貫目ノ單價ハ、大正四年度ノ内地產ハ八十五錢六厘、外國產ハ二圓九十七錢九厘、ソレカラ大正七年度ノ内地產ガ一圓九十七錢四厘、外國產ガ六圓二十錢三厘、大正八年度ハ内地產ガ三圓七錢五厘、外國產ガ四圓十八錢九厘、大正八年度ハ大正四年度ニ較ベマスルト、内地產ニ於テハ二十五割餘、外國產ニ於テハ四割餘ヲ増加シテ居リマス、尙ホ九年度ノ專賣局ノ意見ヲ聽キマスルト、内地產ハ三圓三十五錢六厘、外國產ハ七圓十五錢九厘ヲ要スル見込デアルト云フコトヲ答ヘテ居リマス、鹽ハ内地ノ鹽ハ燃料其他一般ノ物價勞銀ノ騰貴ニ依リマシテ、是モ亦賠償金ヲ漸次引上ゲラレタノト、外國鹽モ年々價格ガ騰貴致シテ參リマシタカラ、百斤當リノ單價ヲ調べテ見マスルト、大正四年度ノ内地ノ鹽ハ一圓十三錢、支那各地カラ輸入致シマスル所ノ鹽ガ六十四錢六厘、臺灣カラ移入シテ來マス所ノ鹽ガ六十八錢二厘トアリマシタガ、大正七年度ハ内地ノ鹽ガ二圓二十錢三厘、支那カラ參リマスル鹽ガ一圓六十一錢七厘、臺灣カラ移入致シマスル所ノ鹽ガ一圓六十錢六厘、大正八年度ノ内地ノ鹽ガ三圓六錢四厘、ソレカラ支那各地カラ輸入シマスル鹽ガ一圓九十七錢九厘、臺灣カラ輸入シマスル所ノモノガ一圓三十五錢

四厘、大正八年度ニ於キマシテハ、大正四年度ニ較ベマスルト、内地ノ鹽ガ十七割、支那カラ輸入スル所ノモノガ二十割餘、臺灣カラ移入スルモノガ九割餘ノ増加ヲ示シテ居リマス、本年度ノ見込ハ内地ノ鹽ハ三圓七十五錢五厘、ソレカラ支那カラ輸入シマスル鹽ハ二圓二十五錢四厘、臺灣カラ移入スルモノハ一圓八十五錢六厘ヲ要スル見込デアルト答ヘテ居ラレマス、斯クノ如ク經濟上ノ膨脹ノ結果、原料品ヲ買入レマスニモ金ガ要ル、又年度末ニ製品並ニ材料品ヲ持越シマス爲メニ、多額ノ金ガ要ルト云フ譯デアリマシテ、ソコデ此本案ハ提出サレタノデアリマス、之ニ就キマシテ委員諸君カラ色々ノ質問ガアリマシタガ、其中最モ重要ト思ヒマスルモノヲ御紹介致シマスレバ、斯ノ如クニ借入金ヲ融通證券デナクテ、根本ノ据置運轉資本ヲ増シタラ如何デアルカト云フ質問ニ對シテ、當局トシテハサウ致シタイノデアリマスケレドモ、一般會計ヨリ繰入レマシテ、据置資本ヲ増加致スト云フ事柄ハ、財政計畫豫算編成ノ上ニ於テ、頗ル困難デアラウト思ヒマスルカラ、先ヅ差當リ之ニテ宜イト云フコトノ答辯ヲ致サレタノデアリマス、又持越物品ノ中ニ於テ製品ト材料品トノ區別ヲ質シマシタ所ガ、其主ナルモノハ製造煙草ガ七百六十萬圓餘、葉煙草ガ七千七百萬圓餘、鹽ガ一千萬圓餘デアリマス、材料品ヲ製品マデニスル間、寢テ居ル所ノ期間ヲ尋マシタ所ガ、葉煙草ハドウ致シテモ一年ハ寢セテ置カネバナラヌ、又一年以上寢セタモノヲ約三割位ハ使ハネバ、煙草ノ風味ガ出ナイカラ、ドウシテモ寢セテ置カネバナラヌ必要ガアル、鹽ハ一部分ダケハ精製ヲスル必要ガアルガ、大部分買込メバ直グ賣ルコトガ出來ル、併シ此問題ニ就キマシテ大正七年ニハ鹽ガ非常ニ不足デアリマシタルガ爲メニ、到ル處鹽ノ不足ヲ告ゲテ、國民ガ困難ヲ致シタコトガアル、故ニ今後ハサウ云フコトノ無イヤウニ、平常需要供給ヲ圓滑ナラシムルガ爲メニ、當局ハ常ニ二億二千萬斤ノ鹽ヲ持ッテ居ラナケレバナラヌガ、此外ニ於テ備荒貯蓄用鹽ヲ一億二千萬斤ト云フモノハ常ニ持ッテ居ラナケレバナラナイカラ、是ハドウシテモ今後はダケノ鹽ヲ蓄ヘテ置ク必要ガアルト云フ答辯デアリマシタ、ソレカラ近頃煙草ノ非常ニ缺乏ヲ致スノハ、何方原因デアアルカト云フ問ニ對シマシテ、是ハ需要ガ非常ニ激増致シマシタルガ爲メデアアル、又煙草ノ卷方ガ緩クシテ、謂ハハ粗製品ノ如キモノガ往々アル、是ハ已ムヲ得ズ

熟練ノ足ラザル職工ヲ使ッテ需要激増ニ對シ供給ヲ充サントスルノ結果デアアルガ、政府ハ常ニ十分ニ注意監督ヲシテ居ルガ、今後は等ノコトニ就テハ一層監督モ十分ニシ、又警戒注意モシテ、其事ノ無イヤウニ致シタイト言明シテ居リマス、然ラバ是ダケノ金ヲ増シテヤッタナラバ、今後或ハ鹽ニ就テ、或ハ煙草ニ就テ、國民ニ不滿ノ考ヲ起サセルヤウナ製造品、煙草ヤ鹽ノ不足ヲ來サヌト云フヤウナ事ハアリマセヌカト云フ問ニ對シテハ、是ダケノ金ヲ運用スルコトガ出來レバ、十分ナル操業ヲナシ得ル見込デアルト言フ言明ヲ致シテ居リマス、ソレカラ時々此議院内ニ於テモ議論ガ出マス所ノ元賣捌人ヲ市町村ニサセテハ如何ト云フ質問ニ對シマシテ、政府ノ答辯ハ斯クノ通りデアリマス、元賣捌人ハ現在四百四十三人アルケレドモ、是ハ地理、地勢、交通ノ便否、若クハ人口ノ粗密需要ノ多少等ニ依ッテ、之ヲ按排配置致シテ居ルノデアッテ殊ニ元賣人ニハ商業上ノ技能ト云フモノモ要ルシ、又熱心モナケレバナラヌ、然ルニ之ヲ市町村ニ任セルト云フト、一律ニ行政區劃ヲ以テ總テノ市町村ニ元賣捌ヲ爲セルト云フガ如キコトハ、前ニ述ベタ如キ點ニ於テ、十分ナル働キヲ爲サシムルコトガ出來ナイデアラウシ、市町村ニ幾分ノ利益ヲサセヤウト云フ目的デ、元賣捌ヲサセマシタ所ガ、四百四十三人ノ元賣捌ヲ止メテ、一萬以上ノ市町村ニ元賣捌ヲサセマスレバ、却ッテ小サイ村落ノ如キハ損ヲ致シテ手錢ヲ出サナケレバナラヌト云フヤウナ結果ニナル町村モ出來マスカラ、此事ハ政府トシテ屢々考慮シ種々研究致シマシタケレドモ、今日直チニ是ニ同意ハ出來ナイト云フ言明デアリマシタ、其他種々ナル質問モ出マシタガ、先ヅ大體主ナル質問ハ唯今陳述致シマシタ位デアリマス、ソレカラ製鐵所ノ方ニ於キマシテハ今更私ガ諄々シク申上ゲルマデモナク、最初製鐵所ハ四百五十萬圓ノ据置資本デ操業ニ掛リマシテ、九萬噸ノ製鋼ヲ產出スルト云フ目的デ始メタノデアアル、不足ノ時ハ一千二百萬圓ノ借入ガ出來ルノデアリマスガ、後チ第二期ノ擴張ヲ致シテ三十五萬噸第三期ノ擴張ハ今工事半バデ、遠カラズ竣工致スノデアアル、此第三期擴張ガ出來上リマスルト七十五萬噸ノ製鋼ヲ造ルト云フコトニナルノデアリマス、而シテ今日物價騰貴ノ結果、或ハ原料燃料其他ノ物モ非常ナ騰貴ヲ來シ又製鐵所ノ事業モ斯ノ如ク膨脹致シタノデアリマスカラ、僅ニ四百五十萬圓ノ据置資本一千二

百萬圓ノ借入金位デ以テ、此事業ヲ圓滿ニ發達進歩セシムルコトハ出來ナイカラ、是ハ即チ借入金ヲ六千萬圓ニ増額擴張シタイト云フ案デアリマス、ソコデ此分ニ就キマシテモ委員カラ種々ナル質問ガ出マシタガ之ニ直接ノ關係ハアルカ否ヤ分リマセヌガ、斯様ナ質問ガ出マシタ、數年前以前即チ今ノ内閣ノズツ前ノ前ノ内閣時代カラ、製鐵所ト云フモノハ一ツノ魔窟同様ノヤウニ國民ニ感ゼラレタコトガアル、原料ヲ買ヘバ頭ヲハネル、製品ヲ賣レバ又頭ヲハネルト云フガ如ク、腐敗シタル官吏ノ巢窟所ノヤウナ工合ニ認メラレ、一例ヲ示セバ彼ノ影島丸ノ如キ、惠山丸ノ如キ、ア、云フ船ノ貸借等ニ就テモ面白カラザル歴史ナドモアリ、製鐵所ナルモノハ一種ノ魔窟殿ノヤウニ世間カラ感ゼラレテ、今ノ内閣ノ下ニ現長官ニナツテ之ヲ整理スル任務ニ當ツテ居ルデアルガ、現在長官ハ此内部ノ革新、紀綱ノ振肅ニ就テ、如何ナルコトヲ居ラレルカト云フコトニ就キマシテ、質問ガ出マシタ所ガ、現長官ガ政府委員トシテ答ヘラレタ答ハ、私が赴任シマシテカラ先ヅ内部ノ風紀ヲ刷新シ、紀綱ヲ引締メテ、十分製鐵所ノ機能ヲ圓滿ニ働カセナケレバナラヌト云フ考カラシテ、種々ナル法規ヲ改正ヲシタ、併シ法規ヲ改正ダケデハイカナイ、法規ハ死物デアアル、人ヲ十分ニ改メナケレバナラヌト云フ考ヲ以テ、著々内部ノ刷新改革ヲ致シテ、今日ハ先ヅ其改革モ略、出來上ツタと思フ、併シ今後ニ於テモ國家重要ナル所ノ機關デアアルカラ、之ヲ十分ニ引締メテ製鐵所ノ機能ヲ完フセシムルコトニ就テハ、本官任ジテ之ヲヤル積リデアルト言ウテ、亦誠面ニ現レマシテ、此事ニ就テ答辯サレマシタ、次ニ斯様ナ質問ガ出タノデアリマス、現在衆議院ヲ通過シテ將ニ貴族院ヲ通過セントスル所ノ國防充實ノ大豫算ガ通過シタ場合ニ、製鐵所ノ今日ノ能力ニ於テ、我海陸ノ國防充實ニ要スル所ノ材料ハ、十分供給シ得ルヤ否ヤト云フ質問ニ對シ、政府委員中製鐵所長官ハ之ニ答ヘテ申サレマス、マダ正式ニ海陸軍大臣ト打合セモセズ交渉モシマセヌガ、第三期ノ擴張ガ出來上ツテ、七十餘萬噸ノ鋼材ヲ產出スルコトガ出來、又民間ノ會社モアリマスカラ、ソレ等ノ民間ノ諸會社モ製鐵ヤ製鋼ノ事ヲ勵ミマシタナラバ、國防充實ヲ實行スル上ニ於テ、即チ自給自足ヲ爲スニ就テハ、餘リ差支ハナカラウト自分ハ考ヘマスルト、斯ウ答辯ヲサレマシタノデアリマス、要スルニ此改正案ハ今申上ゲマシタ通

リ金額ハ非常ニ一時ニ膨脹致シマスルノデアリマスルガ、是ハ即チ一時ノ借入金、融通證券、此融通證券借入金ハ相當ノ利子ヲ附ケテ借ルモノデアリマシテ、遅クモ翌年度ニ於キマシテ、之ヲ返サナケレバナラヌ、法律ノ規定ガアリマス、唯今迄ノヤウニ勘定足ツテ繰ラズト云フガ如ク、法律デ決メテ置カナケレバ年々利益ガアツテモ、利益ヲ納入スルコトガ出來ズ、利益ハ勅令ヲ以テ資本ノ方ニ使ツテ、次ノ年度マデ其利益金ヲ抱イテ居ッテ、仕事ヲシテ居ルト云フヤウナル、融通資金デアアルヤラ利益デアアルヤラ分界ノ立タヌヤウナ仕事ヲシテ置クト云フヤウナ事ハ、事業ノ實質上甚ダ得策デナイト考ヘマス、仍テ此案ハ憲政會ノ委員諸君モ庚申俱樂部ノ委員諸君モ、亦政友會委員諸君モ、研究ノ末二期セズシテ同一意見トナツテ經濟上ノ實狀ニ鑑ミ速ニ可決シテ、此議會ニ於テ貴衆兩院ノ通過ヲ圖ルガ宜シイト云フ意味ヲ以テ、全會一致可決セラレタノデアリマス、此議案ノ歴史ヲ申シマスレバ、前四十二議會ニ出マシテ、審議ヲ始メヤウト云フ場合ニ解散ニナリマシタノデアリマスカラシテ、更ニ政府ハ緊急已ムヲ得ナイモノトシテ、茲ニ提出セラレタ譯デアリマスカラ、本會ニ於テモ議會ノ手續ヲ省略ニサレテ、速ニ確定議決サレンコトヲ希望致シマス

院議異議ナク議會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十五日可決奏上シ八月二日法律第二十四號ヲ以テ公布セララル

五二 關稅法中改正法律案

關稅法中左ノ通改正ス

第二十四條 外國貨物ハ保稅地域ニ非サル場所ニ藏置スルコトヲ得ス但シ難破貨物、稅關ノ認許ヲ受ケタル貨物其ノ他法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條ノ二中「其ノ他法令ニ依リ外國貨物ヲ藏置シ得ル地域」ヲ「稅關長カ外國貨物ヲ藏置シ得ヘキ場所トシテ指定又ハ特許シタル場所」ニ改ム

第三十一條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ左ニ掲クル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ檢査及免許ヲ受クルコトヲ得

一 遭難船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ

二 遭難船舶ニ積載セル損傷貨物又ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ

三 遭難船舶又ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ

四 遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

第九十八條 船舶修繕ノ爲又ハ開港ニ於テ積卸シ難キ巨大量ノ貨物ヲ陸揚若ハ船積スル爲必要ト認ムルトキハ稅關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得開港トノ交通著シク不便ナル場所ニ於テ貨物ヲ陸揚又ハ船積スル爲必要ト認ムルトキ亦同シ

第一百一條ノ二 稅關官吏ハ關稅定率法第五條ノ二ニ規定スル不當廉賣品ノ輸入又ハ不當廉賣ニ關シ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十四條、第八十六條、第八十七條、第

八十九條及第九十一條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

五三 明治四十三年勅令第三百三十一號等ノ廢止ニ關スル法律案

明治四十三年勅令第三百三十一號、大正二年法律第十七號、大正五年法律第二十六號及大正七年法律第三十七號ハ之ヲ廢止ス

附 則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前朝鮮ヨリ移出シタル貨物ノ移入ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前朝鮮ニ移出シタル貨物ニ對スル稅金ノ免除若ハ下戻又ハ交付金ノ下付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

五四 關稅法關稅定率法保稅倉庫法及假置場法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關

スル法律案

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

第一條 朝鮮ニ輸入スル物品ニシテ別表ニ掲クルモノニハ別表ニ依リ輸入税ヲ課ス

第二條 朝鮮ニ輸入スル左ノ物品ニハ輸入税ヲ免除ス

一 國、道、府、面其ノ他ノ公共團體又ハ朝鮮總督ノ指定スル産業ニ關スル法人ノ輸入スル播種用ノ種子

二 朝鮮ニ於ケル金、銀、銅ノ掘採、採取又ハ製鍊ノ事業ニ必要ナル器具、機械、爆發藥、鎔解劑トシテ使用スル鹽基性礦物又ハ化學藥料ニシテ自己ノ使用ニ供スル爲鑛業者又ハ製鍊業者ノ輸入スルモノ但シ税關カ相當ト認メタルモノニ限ル

三 朝鮮ニ於ケル鐵、石炭ノ掘採ノ事業ニ必要ナル器具、機械、爆發藥又ハ化學藥料ニシテ自己ノ使用ニ供スル爲鑛業者ノ輸入スルモノ但シ税關カ相當ト認メタルモノニ限ル

四 旅客又ハ貨物ヲ運搬スル爲國境ヲ出入スル車輛其ノ他ノ運搬具及其ノ備品、附屬品

五 前號ノ車輛内ニ於テ消費スル食料品、燃料其ノ他ノ消耗品但シ税關カ相當ト認メタルモノニ限ル

六 朝鮮ニ於テ從來關稅免除ノ特許ヲ受ケタル者ノ輸入スル免稅品

第三條 朝鮮ニ於ケル製鐵業者一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製銑能力若ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ爲ス爲又ハ一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製銑能力若ハ製鋼能力ヲ

増加スル設備ヲ爲ス爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ朝鮮ニ輸入スルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除ス

前項ノ設備ヲ爲ス者朝鮮總督ノ指定シタル副生物製造ノ設備ヲ爲ス爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ朝鮮ニ輸入スルトキ亦前項ニ同シ

第四條 朝鮮總督ハ凶作其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキハ期間ヲ指定シ朝鮮ニ輸入スル米、粃、大麥、小麥、小麥粉、粟、高粱、大豆、小豆、玉蜀黍及稗ノ輸入税ヲ低減又ハ免除スルコトヲ得

第五條 平安北道新義州停車場ヨリ咸鏡北道豆滿江口ニ至ル陸接國境ニ於テハ朝鮮總督ノ指定スル地點ニ由ルノ外貨物ノ輸出又ハ輸入ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ陸接國境ニ於ケル貨物ノ輸出入、積戻又ハ運送ニ關スル手續ハ朝鮮總督ノ指定スル場合ヲ除クノ外最初ノ到着地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第六條 左ニ掲クル物品ハ平安北道義州郡水口鎮ヨリ咸鏡北道豆滿江口ニ至ル陸接國境ニ於テハ前條ノ規定ニ拘ラス之カ輸出又ハ輸入ヲ爲スコトヲ得但シ朝鮮總督ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 鐵道旅客以外ノ旅客ノ用品及職業上必要ナル器具

二 朝鮮總督ノ定ムル陸接國境隣接地域内ノ住民カ其ノ地域内ニ於テ收穫又ハ生産シタル物品ニシテ自ラ輸出又ハ輸入スルモノ

三 前號ノ住民カ前號ノ地域内ニ於テ爲ス作業ニ必要ナル物品ニシテ自ラ輸出又ハ輸入スルモノ

第七條 前條ノ規定ニ依リ輸出又ハ輸入スル物品ニ付テハ關稅法ヲ適用セス

第八條 朝鮮ニ於テハ關稅法、保稅倉庫法又ハ假置場法中大藏大臣又ハ主務大臣トアルハ朝鮮

總督、市町村役場トアルハ府廳又ハ面事務所、市町村吏員トアルハ府ノ官吏若ハ吏員又ハ面ノ

吏員、國稅徵收法トアル國稅徵收令トス

第九條 從來ノ開港ノ外開港ト爲スヘキ場所及開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ朝

鮮ニ於テハ朝鮮總督之ヲ定ム

附 則

第十條 本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本法施行前朝鮮ニ於ケル保稅倉庫ニ庫入シタル外國貨物ニハ仍從前ノ輸入稅ヲ課ス

第十二條 本法施行前朝鮮關稅令朝鮮保稅倉庫令又ハ朝鮮陸接國境關稅令ニ依リ爲シタル處分、

手續其ノ他ノ行爲ハ關稅法、保稅倉庫法又ハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本法施行前朝鮮關稅定率令第三條第十六號、第四條、第四條ノ三及第八條ノ規定ニ依リ輸入稅又ハ移入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

輸 入 稅 表

品 名	單 位	稅 率
馬(生活力ヲ有スルモノ)	無	無 稅
綿羊(生活力ヲ有スルモノ)	無	無 稅
鹽		
天日鹽(碎カサルモノ)	每 十 百 斤	〇 一 〇
其ノ他	從 價	三 割
煙草		
葉煙草	從 價	二 割
葉卷煙草、紙卷煙草及刻煙草	從 價	四 割
咀嚼煙草	每 斤	〇 二 五

輸入稅表

品名	單位	稅率
嗅煙草	每斤	〇・五八
其ノ他	從價	四割
礦油(關稅定率法別表輸入稅表第一一二號ニ乙ニ該當スルモノ)	每十ガロン	〇・一九
コークス	無	稅
木材(關稅定率法別表輸入稅表第六一二號一ノ己及癸ニ該當スルモノ)	無	稅
備考 從量稅率ノ單位ハ圓トス		

五五 内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル法律案

左ニ掲クル物品ニシテ内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スルモノニ關シテハ命令ノ定ムル所

ニ依リ内國稅ヲ免除若ハ拂戻シ又ハ交付金ヲ交付スルコトヲ得

酒類、麥酒、酒精、酒精含有飲料、醬油、砂糖、糖蜜、糖水、織物、織物製品、石油、賣藥、賣藥類似品、骨牌、

附則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

五六 朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ内地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律案

第一條 朝鮮又ハ臺灣ヨリ内地又ハ樺太ニ移出スル物品ニ關シ移出地ノ法令ノ規定ニ依リテ課セラルヘキ出港稅ヲ逋脱シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ出港稅ニ相當スル金額ヲ徵收ス但シ罰金額ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ出港稅ニ相當スル金額ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第二條 前條ノ出港稅ヲ逋脱シタル物品ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三條 第一條ノ罪ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項

法律案

一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第四條 朝鮮又ハ臺灣ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件

ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第五條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯則事件ニ付之ヲ

準用ス但シ間接國稅犯則者處分法ニ定メタル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

右五案ハ孰レモ九年七月十四日日本院ニ之ヲ提出ス翌十五日五案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ神野政
府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

韓國併合當時朝鮮ノ關稅ハ、合併ノ時カラ十年間ハ、其儘ニ據置クト云フコトニナツテ居ッタノデ
アリマス、ソレ故ニ今日ニ至ルマデ依然トシテ韓國時代ノ關稅ヲ施行致シマシテ、其結果關稅關
係ニ就キマシテハ、内地ト朝鮮トハ、互ニ外國同様ノ取扱ヲ爲シ來ッタノデアリマス、然ルニ右十
年據置ノ期間ハ、今年八月二十八日ヲ以テ滿了致スノデアリマス、右期間滿了後ハ朝鮮ニモ、内
地ノ關稅制度ヲ施行致シマシテ、是ト同時ニ内地朝鮮間ニ於ケル貿易交通ハ、特殊ノ事由アルモ
ノヲ除キテ、原則トシテハ自由ニ致シタイト云フ積リデアリマス、此目的ヲ以テ關稅法、其他關
稅關係ノ諸法規ヲ朝鮮ニ施行スル手筈ニ致シテ居ルノデアリマスルガ、關稅法ヲ朝鮮ニ施行ス

ルニ就キマシテハ、關稅法ノ規定中修正ヲ要スル點ガアルノデアリマス、次ニ内地朝鮮間ノ關稅
ヲ統一致シマスルニ就キマシテハ、從來内地朝鮮間ノ關稅關係ヲ規定シテ居リマス法律並ニ緊
急勅令等ハ、之ヲ廢止スル必要ガアルノデ、明治四十二年勅令三百二十一號ノ廢止ト云フノガ即
チ其意味デアリマス、又内地ノ關稅制度ヲ朝鮮ニ施行スルト致シマシテモ、朝鮮ノ民度、産業狀
態、並ニ地理ノ關係カラ致シマシテ、朝鮮ニ於キマシテハ多少特例ヲ用キル必要ガアリマス、ソ
レニ關稅法——關稅定率法、保稅倉庫法、並ニ假置場等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル法律案ヲ提
出致シマシタ、又内地ト朝鮮間ノ消費稅關係ノ統一セラル、マデハ、内地カラ朝鮮ニ移出セラ
ル物品ニ對シマシテハ、依然トシテ從來ノ如ク内地消費稅ノ免除、拂戻等ヲ存續スル必要ガアリ
マス、即チ朝鮮ニ移出スル物品ノ、内國稅免除ニ關スル法律案ヲ提出シタル次第デアリマス、尙
ホ之ニ關係致シマシテ、内地ニ於ケル消費稅制度擁護ノ爲メニ、移入品ニ對シテ相當取締ノ途ヲ
講ズルノ必要ガアリマス、即チ朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ、内地又ハ樺太ニ於ケル取締
ニ關スル法律案ヲ提出シタル次第デアリマス、何卒審議ノ上御協贊ヲ願ヒマス

次テ五案ハ政府提出關稅定率法改正法律案(二八)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審查ノ末各原
案ヲ可決スヘキモノト決シ七月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ同日議事日程ヲ變更シ五案ヲ一括
シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長指田義雄君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

諸君、唯今ノ議題ト相成マシタ五案ハ、先般切離シテ御報告ヲ申上ゲマシタ關稅定率法中改正法
律案ト同時ニ付託セラレタ案デアリマス、本案ノ大體ノ趣意ハ御承知ノ如ク、韓國併合ノ宣言中
ニ含マレテ居リマスル關稅ヲ十年間置クト云フコトガ、丁度本年ノ八月二十九日ヲ以テ滿期ト
相成ルノデアリマス、即チ此五案ノ成立ニ依リマシテ、我國ハ世界列強ニ對シマシテ、朝鮮ニ關
スル關稅政策ノ確立致シマスコトヲ宣明スル結果ニ相成ルノデアリマス、案ノ内容ハ其説明ヲ
極ク重要ナル部分ダケニ省略ヲ致シマシテ、他ハ議案及速記録ニ就テ御審查ヲ願ヒタイト思フ

ノデアリマス、關稅法ノ改正ノ主ナル要點ハ、御承知ノ通り朝鮮ヲ除キマシタ本土ニ於キマシテハ、總テ四面海ヲ以テ圍マレテ居ルノデゴザイマスカラ、外國品ノ輸入ト云フコトヲ、開港場即チ港トシテ開カレテ居ル場所ニ於テ行フベキ制度ニ相成テ居リマスルニ依ッテ、朝鮮ト内地トノ關稅ヲ統一致シマスル結果ト致シマシテハ、朝鮮ハ大陸ニ其境ヲ接シテ居ルノデゴザイマスカラシテ、外國貨物ノ取扱ヲ致シマス場所ヲ保稅區域、即チ稅關行政ノ行ハレテ居ル場所ト云フコトニ改正セラレタノデゴザイマス、又此結果ト致シマシテ、從來内地ニ於キマシテモ、各方面デ開港場ヲ開キタイト云フノ要求モアッタノデゴザイマスルケレドモ、此度ハ開港場ニ限ッテ、外國貿易品ノ輸出入ヲ許スト云フ意味デナイノデアリマスカラ、即チ稅關行政ノ行ハレテ居リマスル場所ハ、ドノ場所ニ於キマシテモ、自由ニ移出入ガ出來ルト云フコトニ改メラレタ結果ニナラシムルデアリマス、ソレカラ尙ホモウ一點ハ、朝鮮ニ於テ從來規定サレテ居ッタノデアリマスガ、之ヲ更ニ此關稅法ノ上ニ明カニ定メテ重要ナ點ガアリマス、ソレハ船舶ノ修理ノ爲メ、又ハ此開港場ニ於テ積卸ヲスルニ不便ナル機械デアルトカ、大砲デアルトカ云フ、左様ナ巨大ナル重量ヲ持ッテ居リマスル荷物、之ノ陸揚ハ、從來モ開港場以外ニ於テモ出來タノデアリマスルケレドモ、更ニ此積出ヲ致シマスルニ就テモ、開港場以外ニ於テ行フコトガ出來ル、若クハ開港場ト交通ノ著シク不便ナル場所ニ於テハ、矢張此陸揚又ハ船積ヲスルコトガ出來ル、斯様ナルモノガ、先ヅ關稅法中改正ノ主ナル要點デアリマス、其次ハ明治四十二年勅令第三百三十一號等ノ廢止ニ關スル案、是ハ内地ト朝鮮トノ關稅ガ統一サレマシテ、共通ノ關係ト相成リマスルガ爲メニ、從來勅令若クハ法律ヲ以テ、此間ノ移出移入ノ關係ヲ定メテゴザイマスルモノヲ、總テ關稅法ニ統一致シマシタカラ、其結果ト致シマシテ之ガ廢止セラル、ノデアリマス、一例ヲ申シマスレバ、從來米穀等ノ輸入稅ハ課セナイ、或ハ朝鮮ニ生産スル物品中、或ル種類ノ物ニハ輸入稅ヲ課セナイト云フヤウナ單行法律ノゴザイマスモノガ、關稅法及關稅定率法ニ統一サレル結果トシテ、是等ノ勅令若クハ法律ハ廢止トナルノデゴザイマス、其次ニ關稅定率法保稅倉庫及假置場法等ノ朝鮮トノ特例ニ關スル法律案、此法律案ニハ色々ゴザイマスルガ、主ナル點ハ朝鮮人ノ生活ニ必要ナル物品、

若クハ産業ノ保護ヲ目的トシテ移入致シマスル物品ニ就テハ、内地ノ關稅定率ヨリモ更ニ輕減致シマシタ稅率若クハ無稅ニ致シマスルト云フ政策ガ、之ニ現レテ居ルノデアリマス、其他色々ノ規定ガゴザイマスルケレドモ、別段取立テ、御報告申上ゲル事モ無イヤウデアリマス、次ハ此内地ヨリ臺灣又ハ樺太カラ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除、即チ内地カラ朝鮮ノ方ヘ移出致シマスル所ノ內國稅、是ハ或ル種類ニ限リマシテ免除ラヌル、内地ニ於テ消費稅ガ課ッテ居ル、其他ノ內國稅ノ課ッテ居ル物品ニ付テ、朝鮮ニ入ル時分ニ、今申上ゲマシタ所ノ朝鮮ノ産業保護、乃至ハ生活ヲ安定セシムルト云フ意味ニ於テ、內國稅ノ拂戻シ、若クハ交付金ヲ交付スルト云フ法律デアリマス、其次ハ朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタ物品ノ内地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律案、是ハ脫稅ヲ防グノ目的ヲ以テ、總テ朝鮮ニ若クハ臺灣ニ於テ法令ヲ以テ規定セラレマシタモノニ違反シテ、脫稅行爲ノアッタ者ハ、内地同様ニ間接國稅ノ處分法ニ依ッテ處分スルト云フ規定ヲ以テ之ヲ取締リマス、斯ウ云フ法案デアリマス、此五案ニ依リマシテ、今申シマシタ如ク韓國併合ニ依リ、十年据置ノ關稅ハ内地ト普通ニ相成ッタ次第デアリマス、併ナガラ諸君、茲ニ特ニ御報告申上ゲテ置カネバナラヌ事ガアルノデアリマス、唯今申上ゲマシタ事ハ、總ジテ對外的關係、即チ世界列強ニ對シマシテ、此十年間据置ノ關稅ヲ内地ト同様ニシタイト云フ一種ノ對外的意味ハ、是デ全ク終了ラシマッタノデアリマス、然ルニ此對内的關係、即チ内地ト朝鮮トノ關係此關係ニ於キマシテハ、御承知ノ如ク、朝鮮ノ政令其他ニ對シマシテハ、此帝國議會ノ立法事項ニ屬シテ居リマセヌガ爲メニ、直接ニ之ヲ監督致シマスコトガ出來ヌノデアリマスカラ、委員會ニ於キマシテハ、關稅法ハ斯様ニ改正セラレテモ、朝鮮ノ政令其他ノ法規ト内地稅ノ關係トハ、ドウ云フコトニナルノデアアルカト云フコトニ就テノ質問應答ガ、幾度カ繰返サレタノデゴザイマス、其結果ニ依リマスト云フト、是ハ皆ナ御報告申上ゲマセヌデ、一二此要點ヲ申上ゲテ、跡ハ議長ノ許可ヲ得テ速記録ニ留メテ置クヤウニ、此書類ヲ提出シタイト思フノデアリマスガ、一二ノ要點ダケヲ申上ゲテ置キマス、朝鮮ノ出港稅ト云フモノヲ朝鮮ニ殘シテ置ク、即チ帝國内ノ他ノ地方ニ於テ內國稅ヲ課スル物品ヲ、朝鮮カラ内地ニ移出スル場合ニ於キマシ

テハ、原則トシテ其内國稅ト同一ノ出港稅、港ヲ出ル所ノ税金ト云フモノヲ取ル、ソレカラ朝鮮ニ於テ特別ノ關稅率ヲ賦課シタル物品ノ、前ニ申上ゲマシタ如ク、特ニ朝鮮ニ於テ稅率ヲ低メタヤウナ物ニ對シマシテ、若シソレヲ内地ノ方ニ移出致シマス場合ニ於キマシテハ、之ニ對シマシテ、一般關稅率トノ差額ヲ出港稅トシテ徵收スル、是ガ先ヅ出港稅ノ原則デアリマス、其他ニソレヲ運用スルニ就テ、十箇條許リノ箇條ガアルノデアリマスガ、尙ホ此朝鮮ニ内地カラ移入スル物デ、茲ニ大ナル問題ガ伏在シテ居ルノデアリマス、内地カラ朝鮮ニ移入致シマス所ノ物品ニ對シテハ、矢張移入稅ヲ取ルノデアリマス、内地ト朝鮮トノ關稅ハ共通ニ相成ッタノデゴザイマスカラ内地カラ朝鮮ニ物品ヲ入レル場合ニ、朝鮮總督府ガ税金ヲ取ルト云フコトハ、恰モ關稅ヲ二度取ルト云フコトニテアルノデアアル、外國カラ内地ニ入ッタ時分ニ關稅ヲ取ル、此關稅ヲ拂ッタ所ノ物品ガ再ビ朝鮮ニ入りマス時分ニハ、又朝鮮總督府ハ之ニ對シテ移入稅ヲ賦課スル、即チ二重ナル課稅ヲ受クルコトニナルノデアリマス、更ニ甚シキニ至ッテハ、從來砂糖若クハ其他數種ノ物品ニ對シマシテハ、外國品ヲ若シ原料ニ使ヒマシテ、更ニ之ヲ製品トシテ朝鮮ニ移入致シマシタ場合ニ於キマシテハ、外國ニ此製品ヲ輸出致シマシタ時ト同様ニ、關稅ヲ戻スト云フ制度ニ相成ッテ居ッタノデアリマス、關稅ヲ戻ス、即チ戻稅ト云フ制度ニ相成ッテ居ッタノデアリマス、然ルニ關稅統一ヲ致シマシタ結果トシテ、關稅ハ朝鮮モ内地モ同様デゴザイマスカラ、隨ッテ關稅ヲ賦課セラレマシタ物ニ對シテ、朝鮮ニ之ヲ移出致シマシテモ戻稅ガ無イ、單リ戻稅ナキノミナラズ、更ニ移入稅ヲ課セラル、ト云フ、甚ダ不可思議ナル現象ヲ見ルコトニ相成ッタノデアリマス、此點ニ對シマシテ委員會ハ、政府委員ニ對シテ斯ウ云フ質問ガ起ッタノデアリマス、關稅ヲ統一スル、韓國併合ノ宣言ガ茲ニ滿期ト相成ッテ、關稅ヲ統一スルト言ウテ居リナガラ、一面ニ於テハ朝鮮ニ入ル所ノ物ニ又再ビ關稅ヲ取ルト言フコトニ相成ッテハ、少シモ統一サレテ居ラヌデハナイカ、即チ日本内地ニ入ッタガ、日本ノ領土デアアル所ノ朝鮮ニハ、又再ビ關稅ヲ拂ハナケレバ持ッテ行クコトガ出來ナイト云フコトハ、甚ダ不合理デアアルマイカ、不徹底デアアルマイカ、斯様ナ質問ガ起ッタノデアリマス、此點ニ於キマシテハ、政府當局者モ、同ジク其不徹底ナリ、不合理ナ

リト云フコトハ認メラレタノデアリマス、左リナガラ朝鮮今日ノ財政ノ狀態ニ於キマシテハ、此移入稅ニ依ッテ得マス所ノモノガ、概算約七百萬圓ニ上リマス之ヲ昨年度ニ於キマシテ、七百萬圓ノ他ニ適當ナル財源ヲ見出スニ非ザレバ、直チニ此移入稅ヲ撤廢スルコトハ、財政ノ都合上遺憾ナガラ之ヲ實行スルコトガ出來ナイ、故ニ此分ダケハ移入稅ヲ存續シテ置クノデアアルケレドモ、成ルベク次ノ年度ヨリハ適當ナル財源ヲ見出シテ、此移入稅ノ撤廢ヲ行ヒ、以テ關稅ノ統一ヲ徹底的ナラシムル覺悟デアルト云フ言明ヲ得タノデアリマス、是ニ於テ更ニ起リマシタ問題ハ、然ラバ來年度カラ移入稅ヲ撤廢スル見込デアラナラバ、關稅統一ノ此問題モ更ニ一年延バシテ、即チ移入稅撤廢ヲ行フト同時ニ徹底的ニ關稅ノ統一ヲ行フノガ宜イヂヤナイカ、斯ウ云フ問ガ起ッタノデアリマス、而シ一面カラ政府ノ説明ノ要旨ヲ考ヘテ見ルト、蓋シ斯ウ云フコトニ歸著スルヤウデアリマス、先ヅ第一ニハ關稅統一ト云フコトハ、韓國併合ノ宣言ヲ基礎トシ、對外的ノ關係ヲ有ッテ居ルノデアアルカラ、此際即チ本年ノ八月二十九日ヲ以テ滿了スル此機會ヲ逸スルナレバ其間種々ナル障礙ノ生ゼストモ限ラヌノデアアル、即チ滿十年ヲ豫期シテ宣言セラレタル此滿期ニ於テ之ヲ行フト云フコトハ、自然ノ歸結デアアル、其自然ノ歸結ニ基ヅイテ之ヲ斷行スルコトハ、寧ロ我が國權ヲ伸張スル上ニ於テモ宜イト考ヘル、加之其關稅ヲ統一スルコトガ、假令移入稅ヲ存續スルガ爲メニ、或ル意味ニ於テ不徹底トナルニ拘ラズ、少クトモ三四點ノ利益ヲ持ッテ居ルノデアアル、即チ日韓ノ間ニ於ケル交通ガ自由ニナル、詳シク言ヘバ朝鮮カラ内地ニ來ル所ノ船舶ハ、開港場ニ非ズト雖モ、津、浦、何レノ場所ニモ自由ニ入港スルコトガ出來ルヤウニナル、即チ是等ノ船舶ニ對シテハ、從來噸稅ヲ課シテ居ッタノデアアルケレドモ、此噸稅ト云フモノモ課稅セヌデ濟ムコトニナル、其次ニハ今申上ゲマシタ如ク、内地カラ朝鮮ニ移入スル物ニ就テハ、移入稅ヲ課スルケレドモ、朝鮮ヨリ内地ニ移入スル物ニ就テハ、全部其制限ハ撤廢セラレルノデアアルカラ、多大ノ利益ガアルノデアアル、ソレカラ一般ニ出入スル荷物ト云フモノガ、稅關ノ手續ガ總テ省略セラレルコトニナル、其次ニハ旅客ガ往復スルニ就テモ、内地同様ニ自由ナル便利ヲ得ルコトニナルノデアアル、是等ノ數箇條ハ獨リ此韓國併合ノ宣言ヲ此際ニ於テ解決致シマス

ル、自然ノ歸結デアルノミナラズ、更ニ進ンデ兩者ノ交通移出入ノ上ニ於テモ、非常ナ便益アルモノデアルカラ、獨リ移入税ノ撤廢ガ、財政ノ關係上、一年或ハ猶豫ヲスルトシテモ、先ヅ之ヲ實行スルコトガ適當デアラウト云フ、政府ノ説明デアッタノデアリマス、是ニ於テ委員會ハ、政府ノ説明ニ滿腔ノ信賴ヲ置キマシテ、斯ノ如キ希望條件ヲ決定致シタノデアリマス、内地、臺灣、又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移入スル物品ニ對シ移入税ヲ課スルコトハ、關稅統一上不徹底ノ嫌アルニ依リ、次年度マデニ之ヲ撤廢スルコト、並ニ其撤廢以前ト雖モ、現在ノ課稅ヲ加重セシメザル程度ニ於テ之ヲ調和スルコトヲ望ム、是ハ前年ニ既ニ御説明ヲ申上ゲテアリマス、即チ移入税撤廢ノコトデアリマスガ、後半ハ假令移入税撤廢ノ以前ト雖モ、從來ヨリ課稅ガ重クナル物ハ重クナラナイ程度ニ調和スルノ必要ガアル、即チ調節緩和スルノ必要ガアル、譬ヘテ申シマスレバ、或種類ノ物ノ如キ、現行ノ儘デアレバ、從來ハ關稅ノ課カッタ物ガ、朝鮮ニ移入シテ關稅ガ戻サレタモノガ、戻サレナイバカリデバナク、更ニ移入税ヲ二重課セラレルト云フガ如キモノハ、須ク之ヲ調節緩和スルノ必要アル、斯様ナ意味ニ於テ、此希望決議ガ成立ッタノデアリマス、此希望決議ハ滿場ノ容ル、所ト相成リマシテ、政府ニ對シテ之ニ對スル所見ヲ求メマシタ、所ガ政府ハ全然此意味ニ同意ヲ致シマシテ、成ルベク次年度ヨリ財政ノ許ス限リ、適當ナル財源ヲ得テ之ヲ撤廢スルコト、及ビ撤廢以前ト雖モ、制令ニ依ッテ移入税ヲ輕減シ、若クハ免除スルノ方法ニ依ッテ加重ナルモノヲ調節スル見込デアアルノ斯様ニ言明ヲ致シタノデアリマスカラ、委員會ハ此誠意アル言明ニ満足致シマシテ、此條件ヲ附シテ滿場一致ヲ以テ、原案ヲ可決スルコトニ相成ッタノデアリマス、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク各案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ五案ヲ一括シテ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十七日可決奏上シ八月六日法律第四十九號(五二)、法律第五十號(五三)、法律第五十三號(五四)、法律第五十一號(五五)、法律第五十

二號(五六)ヲ以テ號レモ公布セララル

五七 戰時海上再保險法廢止法律案

戰時海上再保險法ハ之ヲ廢止ス

附則

戰時海上保險補償法ニ依ル保險契約及本法施行前ニ成立シタル戰時海上再保險法ニ依ル再保險ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

右ハ九年七月十四日本院ニ之ヲ提出ス翌十五日本案ノ第一讀會ヲ開キ田中政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

戰時中ニ海運界ノ危險ノ爲メニ、保險料ガ非常ニ暴騰ヲ致シマシテ、ソレガ爲メニ我ガ海運上ノ危險、又延テ海外貿易上ニ惡影響ヲ及ホス其危害ヲ防グ目的ヲ以テ、此政府ガ戰時海上再保險ノ制度ニ關スル法律ヲ制定シタ譯デアリマス、所ガ唯今平和克復セラレマシテ、總テノ狀態ガ平常ニ復セラレ、保險料モ隨ッテ舊ニ復シタト云フヤウナ事情ニ至リマシタノデ、最早此法律ノ存在ヲ必要ト致シマセヌノデ、此法律ヲ廢止致シタイト云フノガ、唯今議題ニナッテ居リマスノデアリマス、又申上ゲルマデモナク、幸ニ此法律ノ效果ニ依リマシテ、唯今申上ゲマシタヤウニ、貿易上ノ危害ヲ全ク除去スルコトヲ得マシタコト、又法律ノ適用ノ結果、政府ノ財政上ニ殆ド累ヲ

及ボスコトナクシテ、全ク豫期ノ目的ヲ達スルコトヲ得マシタコトハ、諸君ト共ニ政府ニ於テ、非常ニ欣幸ト致シテ居リマスル次第デアリマス、ドウゾ御審議ノ上御賛成アラシコトヲ希望致シマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十六日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長匹田銳吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ時局ニ際シテ、國家ガ海運事業ヲ保護シ、且ツ通商貿易ヲ保護助長スルガ爲メニ再保險ノ制度ヲ立テタノデアリマス、此結果ト致シマシテ此大戦亂ノ時局ニ際シテ、我海運事業ノ維持船舶ノ保護及通商貿易ノ助長ヲ致スコトガ出來タノデアリマス、ソレノミナラズ、此本法ノ實施ノ結果ト致シマシテ、我貿易業者ガ、節約シ得タル所ノ保險料金ハ、一億圓以上ニ達スルノデアリマス、又我ガ國家トシテ國家ノ純益トナリマシタモノハ、二千六百萬圓以上ニナルノデアリマス、斯ノ如キ好成绩ヲ收メタノデアリマス、今ヤ平和克復致シマシテ、最早此制度ヲ維持スルノ必要ガ無クナッタノデアリマシテ、本案ガ提出ニナッタノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、滿場一致ヲ以テ本案ヲ可決シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十七日可決奏上シ八月七日法律第五十七號ヲ以テ公布セララル

五八 獸疫豫防法ニ依リ下付スル手當金ニ關スル法律案

獸疫豫防法第十條ノ規定ニ依リ下付スル手當金額ハ同條ニ於テ六十圓、百五十圓、二百圓又ハ八十圓トアルヲ當分ノ内各百八十圓、四百五十圓、六百圓又ハ三十圓トス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ獸疫豫防法第四條、第四條ノ二、第五條又ハ第八條第一項ノ場合ニ該當シタルモノニ付テハ之ヲ適用セス

右ハ九年七月十四日本院ニ之ヲ提出ス同月十五日本案ノ第一讀會ヲ開キ田中政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今ノ議案ハ、獸疫ニ關スル政府ノ賠償金ノ金額ヲ増額スルコトニ關スル一部ノ修正案デゴザイマス、御承知ノ通り獸疫ノ恐ルベキ、又其豫防ニ方ッテ、出來ルダケ當局ニ於テ注意致シマシテ、聊カデモ其危害ノ虞、傳染ノ危険ガアルサウニ見エル場合ニ方ッテハ、其獸類ヲ撲殺スルコトニナッテ居リマス、然ルニ其法律制定ノ當時ハ、今ヨリ數十年前ノ制定デゴザイマスカラ、其獸畜ノ價格算定ノ仕方ガ如何ニモ低廉ニ失シテ居マスノデ、其價格ガ低廉デアリマス其結果、賠償金ト云フモノモ少ク、賠償金ノ少キガ爲メニ、時ニ或ハ當業者ハ、其恐ルベキ病氣ニ罹ッタ獸畜ヲモ、隱匿スルト云フヤウナ虞ナキニシモアラズ、若シサウ云フ事ガアッテハ、由々シキ大事デアリマ

スルカラシテ、其賠償金ヲ今日ノ時代ニ相當ナル程度ニ進メマシテ、萬一ノ危害ヲ防ガントスル
ノガ本案ノ目的デアリマス、ドウゾ宜シク御審議ノ上、御賛成アラシコトヲ希望致シマス
次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十六日委員會ヲ開キ委員長
及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ
同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長大林森次郎君ハ委員會ノ經過及結果
ニ付左ノ報告ヲ爲ス

獸疫豫防法ノ第十條ニ於テ、獸疫防遏ノ必要上撲殺ヲ命ジマシタル、獸類並ニ燒棄又ハ埋没ヲ命
ジマシタル物品ニ對シマシテ、手當金トシテ其評價額ノ一部ヲ所有者モ下付スルコトニ規定シ
テアリマスルガ、此獸疫豫防法ノ制定サレマシタノハ明治二十九年デアリマシテ、其當時ト今日
トノ物價ノ實況ヲ較ベマスルト、著シキ差ガアリマスノデ、手當金ノ額ヲ現行法ニ規定シテアリ
マスルヨリカ、三倍ニ高メヤウト云フ改正ノ趣旨デアリマス、委員會ニ於キマシテハ、當局者ノ
説明ヲ求メ、質問應答ヲ重ネマシタ結果、防疫上遺憾ナキヲ期スル爲メニハ、最モ緊急必要ナル
モノト認メマシテ、全會一致可決致シマシタ次第デアリマス、此段報告致シマス

院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十
五日可決奏上シ八月二日法律第三十號ヲ以テ公布セラレ

五九 成田鐵道及中越鐵道買收ニ關スル法律案

第一條 政府ハ成田鐵道株式會社及中越鐵道株式會社所屬ノ鐵道及其ノ附屬物件並兼業ニ屬ス

ル資産ヲ買收ス

第二條 前條ノ規定ニ依ル買收期日ハ政府之ヲ指定ス

第三條 兼業ニ屬スル資産ノ買收價額ハ地方鐵道法第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ準シ之
ヲ計算ス

第四條 政府ハ買收ノ爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ九年七月十四日本院ニ之ヲ提出ス翌十五日本案ノ第一讀會ヲ開キ元田國務大臣ハ左ノ如ク細
旨ヲ辯明セリ

本案提出ノ理由ハ、成田鐵道ハ多年國有鐵道ノ兩國驛及上野驛カラ成田驛マデハ、直通列車ノ運
轉ニ、事實上ハ國有鐵道網ノ一部ト致シマスル作用ヲ爲シテ居ッタノデアリマス、其上ニ房總線
ト常磐線トノ連絡スル幹線デアリマシテ、之ヲ國有鐵道ト爲シテ政府ニ於テ經營スルコトガ、最
モ適當ト信ジマスル、次ニ中越鐵道ハ伏木港ヲ控ヘマシテ、北海道樺太方面トノ水陸連絡ヲ圖ル
重要ノ鐵道デアリマス、然ルニ私設鐵道ニナッテ居リマスル爲メニ、設備モ不完全デアリマシテ、
産業ノ發達上、又連絡上甚ダ遺憾ノ點ガ少ナカラヌノデアリマス、政府ニ於キマシテハ、之ヲ買
收致シマシテ、一面ニハ唯今申上ゲマスル産業ノ發達上ニ資スルト同時ニ、北陸方面ノ日本海ト

相連絡スルノ完全ナル鐵道ヲ敷クト云フコトヲ必要ト認メマシテ、今回之ヲ買收スルコトニ決シマシタ次第デアリマス、尙ホ附加ヘテ申上ゲテ置キマスルノハ、此買收法案ヲ當議會ニ出シタト云フ點デアリマス一日遅クナリマスレバ一日鐵道ガ粗惡ニナリマシテ、而シテ買收スル上ニ於キマシテモ、非常ニ多大ノ經費ヲ要スルコトニナルノデアリマス、今日デアリマシテモ、鐵道ノ不完全ナルニ拘ラズ、之ヲ虐使シテ段々唯ダ收益ダケヲ、舉ゲルコトヲ圖ツテ居ルヤウナ次第デアリマス、詰マリ政府ガ之ヲ國有ニ買收シナケレバナラヌト云フコトノ前途ガ見エテ居リマスカラ、サウ云フコトニモ自ラ勢ヲ成シテ居ルノデアアル、斯様ナ場合デアリマスカラシテ、一日モ速ニ買收スルノ必要ヲ認メマシテ、本議會ニ之ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御協賛ヲ願ヒマス

前川虎造君ハ質疑ヲ爲シ元田國務大臣之ニ應答ス

前川虎造君ノ質疑

鐵道ハ特別會計ナルガ故ニ、唯ダ新タニ鐵道ヲ敷クトカ、或ハ私設ノ鐵道ヲ買上ゲルトカ云フコトノ外、吾々ハ鐵道經濟ニ向ッテ喙ヲ容ル、ノ機會ガ少ナイノデアリマス、故ニ私ハ此機會ニ於テ、政府ノ鐵道方針ニ就テ、大體其方針ノ在ル所ヲ伺ッテ置ク必要ガアルト思フノデアリマス、昨年カラ本年解散以前ノ議會ニ於キマシテ、高松正道君ガ南海鐵道ヲ買收スルヤ否ヤト云フコトノ質問ヲ發シタノデアリマス、時ノ床次鐵道院總裁ハ、買收ヲスルノデアアルト答ヘラレタノデアリマス、是ハ昨年ノ鐵道敷設法改正案ノ委員會ニ於テモ、床次鐵道院總裁ハ、明カニ南海鐵道ノ買收ヲ聲明サレテ居ルノデアリマス、其上本年四月選舉間際ニ方ッテ、和歌山市ニ床次當時ノ內務大臣ガ、元ノ鐵道院總裁ノ時分ニ、和歌山縣ニ於ケル有志ハ、紀勢鐵道ノ起工祝賀會ヲ致スノデアアルト云フ、大ナル宴會ガ開カレタノデアリマス、然ルニ斯ノ如クナッテ居ル所ノ此南海鐵道ノ買收法案ハ議場ニ現レナイデ、成田鐵道ト中越鐵道ト此買收案ガ現レテ、而シテ鐵道ヲ此儘デ捨置イタナラバ虐待ヲシテ非常ニ困ルカラ、之ヲ買收スルノガ急グノデアアルト云フ御説明デア

ル、一體南海鐵道ノ買收ノ意思アリヤ否ヤト云フコトガ、屢々問題ニナッタノハ、南海鐵道ハ紀勢鐵道ノ完成ト同時ニ、當然買收セラルベキ鐵道デアアルト云フコトヲ會社ガ知ッテ、盛ンニ虐待ヲ致シテ居ルノデアアル、故ニ吾々ハ買フモノナケレバ早ク買ハナケレバ、政府ノ國有ニナッタ曉ニ、大ナル修繕ヲ加ヘナケレバナラヌヤウニナッテハ、國家ノ非常ニ損失デ、ソレガ故ニ之ヲ御買ニナルヤ否ヤト云フ意思ヲ確メタノデアアル、然ルニ之ヲ買フノデアアルト言ハレテ、今尙ホ虐待ヲデット御覽ニナッテ居リナガラ、同ジ御意味ニ於テ、中越鐵道ト成田鐵道ヲ買收ニナルト云フノハ如何ナ譯デアアルカ、之ヲ一ツ第一ニ承リタイ、ソレカラ一體鐵道ト云フモノヲ國有ニスル本義ハ、若シ鐵道經濟ガ許スナラバ、日本全國ノ私設鐵道ヲ成ルベク國有ニ致シテ、鐵道ノ統一ヲ圖ルト云フノガ、大體ノ主義デアリマス、然ルニモ拘ラズ、昨日來委員會ニ於テ問題トナッテ居リマスル大阪ノ梅田ト、ソレカラ天王寺間ノ國有鐵道ノ一部デス、即チ城東線ノ一部、此城東線ノ一部ヲ岡崎邦輔君ガ社長ヲセラレテ居ル所ノ、京阪電氣鐵道ヘ拂下ノ約束ガ出來タサウデアアル、而モ此約束ガ極メテ迅速ニ行ハレ、五月十日ニ總選舉ガ濟ムト、五月二十日ニ最モ迅速ナル方法ニ依ッテ、會社ノ社長ノ岡崎君ト、ソレカラ鐵道大臣ノ元田肇君トノ間ニ締結サレタノデアリマス、ソレデ一體鐵道ノ不用ニナッタモノヲ拂下ゲルト云フコトハ、法律ガ認メテ居リマスガ、此不用ナルモノハ、鐵道トシテ最早使ハヌト云フ場合ヲ指シタモノデアアル、然ルニ國有デハ要ラナイガ、私設トシテハ必要デアアルト云フモノヲ、私設會社ニ拂下ゲルト云フ規定ハ、如何ナル所ニ御設ケニナッテ居ルノカ、況ヤ此鐵道ノ計畫ノ變更ニ依ッテ、大阪ト梅田ノ停車場ヲ改築スルト云フコトハ、引較ベテ、サウシテ鐵道ノ停車場ノ位置ヲ市ノ中央ヘ持ッテ行ッテ、彼處マデ京阪電車ヲ延バサセテ、サウシテ彼ノ現在ノ建物ヲ此私設會社ニ賣渡スト云フヤウナ事ハ、私ハ鐵道大臣ノ方針ヲ甚ダ疑ハザルヲ得ヌノデアリマス、尤モ鐵道政策ノ上カラハ、鐵道院ニハ自ラ有セラル、所ノ御考ハアルノデアリマセウ、併ナガラ其土地其物ハ、現在膨脹ニ膨脹ヲ重ネツ、アル所ノ大阪市デハナイカ、而モ是ハ東京市タルヲ問ハズ、大阪市タルヲ問ハズ、將來都市計畫ト云フモノヲ立テ、各其立場ヲ今日作リツ、アル際デハナイカ、然ルニ鐵道省ハ之ト没交

涉ニ自ラ停車場ノ土地ヲ拵ヘ、不用デアルトシテ私設會社ニ拂下ゲ私設ノ鐵道ヲ市ノ真中マデ
 延長セシメテ、市ノ計畫ニ妨害ヲ加ヘナケレバナラヌト云フ必要ハ何レニ在リマスカ、斯ノ如キ
 遣方デハ、吾々ハ此鐵道特別會計其モノニ向ッテ大ニ疑ハザルヲ得ナイノデアアル鐵道大臣ハ市ノ
 發達ヲ無視シ、市ノ計畫ヲ無視シテ大概ノ許可ハ遲キハ一箇年、早キモ三月位キ掛ルニ拘ラズ、
 此問題ニ限ッテ僅カ三日ノ間ニ迅速ニ取計ヒ、大阪府知事ノ如キ、京都府知事ノ如キハ、僅カ二日
 ノ間ニ御拂下ニナッテモ、市ニハ何等關係ハナイト云フ副申ヲスルト云フ位ニ迅速ニ運バレタノ
 デアル、吾々ハ斯ノ如キ事デ以テ鐵道經濟ヲ御遣リニナリ、鐵道ト云フモノヲ斯ノ如ク暗黒ニ、
 唯ダ鐵道大臣ガ鐵道ヲ敷クト云フコトハ、鐵道ヲ買フト云フコトノミ諮ッテ、其他ハ議場ニ諮ル
 コトハ要ラナイ、其他ノ事ハ工事ガ遅クナラウガ、繰延ベヤウガ何デモ構ハヌト云フ此權能ハ或
 ハ現在アルノカモ知レマセヌガ、併シ此權能ニ立籠ッテ、此迅速ヲ御勝手ニ御計ヒニナッテ、次
 ニ鐵道敷設案ヲ御出シニナッテ、前ノモノヲ御忘レニナルト云フ遣方ハ、日本全國ノ鐵道發達ノ上
 ニ於テ、大ナル障礙ニナルモノト私ハ考ヘルノデアアル、現在南海鐵道デモサウデアリマス、是ハ
 買收セヌ積リデアアル、買收セヌ積リデアルト云フ舌ノ裏ニハ、紀勢鐵道ヲヤラヌト云フ御考ガア
 ルノデアリマスガ、紀勢鐵道ヲオヤリニナラナケレバ、之ヲ買取スル必要ハナイデアリマセウ、
 併ナガラ紀勢鐵道ハ名古屋ヲ終點トシ、梅田ヲ起點トスル縱貫鐵道デハナイカ、然ルニ和歌山ダ
 ケ敷イテ、和歌山ト梅田トノ連絡ヲ何ニ依ッテ御取リニナル積リデアアルカ、若シ此間ニモウ一本
 鐵道省ガ鐵道ヲ敷設ナサルト云フ御考デアアルナラバ、現在ノ彼ノ鐵道ニ向ッテ與ヘル補償ヲ如何ニ
 スルノデアアルカ、今日ハ交通頻繁デアリマシテ、南海鐵道ニ乗ルノニハ押合、ヘシ合非常ナ難澁
 ラ感ジマス、併ナガラ南海鐵道自身ハ收入ヲ多クシ、配當額ヲ多クシヤウト云フ考デ、以テ成ルベ
 ク箱ヲ少ナク付ケルト云フヤウナ事ヲヤッテ居ルノデアアル、若シ是ガ適當ニ箱ヲ運轉サスナラバ、
 斯ノ如キ混雜ハ致サヌノデアリマス、然ルニ此鐵道ヲ其儘置イテ、紀勢鐵道ノ連絡ノ爲メニ、モ
 ウ一本併行線ヲ鐵道省ガ御敷ニナルト云フナラバ、現在ノ南海鐵道ニ對スル補償ヲ如何ニ爲サ
 ルノデアアルカ、殊ニ本年ニ於テ南海鐵道ニ對シテ賃金値上ヲ御許ニナッテ居ル、隨ッテ此値上カラ生

シテ來ル所ノ利益ハ、鐵道買收價格ニ影響ヲ來スノデアリマス、若シ御買ニナルトスルナラバ、
 何故ニ賃金ヲ引上ゲルコトヲ御認可ニナッタノデアリマスカ、吾々ハ徹頭徹尾其真意ノ在ル所ガ
 分ラヌノデアリマス、之ニ向ッテ十分ナル御答辯ヲ願ヒタイ

元田國務大臣ノ應答

唯今御質問ガゴザイマシタガ、御質問ノ項ヲ擧ゲテ御尋ニナルナラバ、何事デモ御辯明ヲ致シマ
 ス、何カ此間ニ妙ナ事デモアリサウニ、返答モ御聽ニナラヌ中ニ、激越ナル態度ヲ以テ御述ニナッ
 タコトヲ、私ハ前川君ニ對シテ甚ダ遺憾トスルノデアアル、南海鐵道ヲ或ハ買收シヤウト云ヒ他ノ
 鐵道ヲ買收スルコトニナッテ、何故ニ今回南海鐵道ヲ買收セヌカ、是ハ御尋ニナルコトハアリ
 サウナ事デアアル、私就任以來是等ノ點モ十分ニ取調ベテ見マシタ、南海鐵道ハ殆ド線路ヲ虐使致
 シマシテ、唯ダ買收價格ノ上ルヤウニ、收益ヲ出スト云フコトニ、目下努メテ居ルヤウデゴザイ
 マスガ、之ニハ附帶ノ事情モアリマシテ、鐵道ノミデハアリマセヌ、而シテ之ヲ買上ゲマスコト
 ニ致シマスレバ、餘程ノ大金ヲ要スルノデアリマシテ、今日ノ運輸ノ有様カラ見マスレバ、將來
 二線路位アッテモ少シモ差支ナイ、既設ノ會社ガソレガ爲メニ、營業ガ出來ヌト云フヤウナ左様
 ナ場所デアリマセヌ、故ニ斯ク高キ價格ヲ出シテ南海鐵道ヲ買フノガ國家ニ利益デアアルカ、紀勢
 鐵道ガ連絡スル曉ニ於テ、政府自ラ架ケルノガ利益デアアルカ、篤ト熟考致シマシタガ、三分ノ一
 位キ出上ル所ノ新シキ鐵道ヲ造ルニ拘ラズ、南海鐵道ヲ三倍モ出シテ買收スル必要ハ、國家
 ノ爲メニナイト私ハ認メマス、私ハ此點ニ就テハ唯ダ考慮致シマシタノハ、國家ノ利益ノミ數字
 ノ上カラ直グ出ルノデアリマシテ、今日敷設スルト買收スルトハ約三倍ノ差ガアル、斯様ナル多
 大ノ額ヲ出シテ、是非買ハナケレバナラヌト云フ必要ハ認メテ居リマセヌ、故ニ是ハ紀勢鐵道ヲ
 完成スル場合ニ於テ、必要ニ應ジテ政府ニ於テ尙ホ一線ヲ架ケルモ差支ナイ、經費ノ上カラ申シ
 マシテモ亦南海鐵道ガ前カラヤッテ居ルガ、新シク政府ノ線路ガ出來タラ、ソレガ爲メニ會社ニ
 多大ナル影響ヲ及ボスカト云ヘバ、決シテ運輸貨物ノ上ニ於テ、人員ノ上ニ於テ、多大ノ影響ヲ

及ボサヌト云フコトヲ確信致シテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ今回他ノ二鐵道ヲ買收スル所ノ案ヲ具シテ御協賛ヲ仰グニ拘ラズ、南海鐵道ノコトハ提案致シマセヌ、理由ハ是ダケデアリマス、他ニ何等ノ理由モアリマセヌ、又御質問ノ行途ノ内ニ、梅田ノ「ステーション」ノ事ニ就テ、私ナリ、岡崎君ナリガ懇意デアリマシテ、其内ニドウカト、斯ウ云フ質問ガアリマシタ、十分ナ要領ヲ得マセヌカラ一々御答辯ハ申上ゲマセヌガ、豫算第六分科ノ委員會ニ於キマシテ、城東線ノ線路ノ利害ハ無イ、斯ウ云フコトニ關係シタ、何か交渉ノ顛末ガアルト云フコトデアアルカラシテ、詳細シク承リタイト云フ質問ガ荒川君カラ出マシタ、其當時ニ於キマシテ私ハ、其事ハ書類ヲ調べ上デ以テ明確ナル御答辯ハ致シマセウガ、決シテ左様ナル御疑惑ヲ受ケルヤウナ問題デハナイ、斯様ニ御答ハ致シマシタ、尙ホ其次ノ委員會ニ於キマシテ書面ノ寫ヲ提出致シマシテ、速記録ニ顛末ヲ明カニ載セテ置キマシタ、尙ホ武内君デアリマシタト思ヒマス、其書面ト云フモノヲ寫取リタイト云フコトデ、御貸シ申シテ置キマシタ、此間ニ何等不都合ナ事ハナイノデアリマス、御尋ニナル事ハ御分リニナラヌ事ハ、十分御尋下サレバ、私モ自分ノ辯明ノ出來答辯ノ出來ル限リハ致シマスガ、其事實ヲ明ニセズシテ、何か奇怪ナ事デモアル如ク縷々辯セラレルト云フコトハ、近來動モスレバ流行スルカノヤウニ思ヒマスカラ、ドウカ左様ナコトデナクシテ、殊ニ前川君ニハ豫テ格別御知合ヲ辱ウシテ居リマスカラ、何デモ御聽ニナリマスレバ、私ノ明答シ得ル限リハ御答致スノデアリマス、以上申述ベタダケヲ以テ、十分明白ダラウト思ヒマスデ、尙ホ再ビ繰返ス必要モナイト思ヒマスガ、唯ダ豫算ノ第六分科ノ委員會ノ速記録ニ於キマシテハ、其中ニ書面等ハ朗讀ヲ致シテ載セテゴザイマスカラシテ、是等モドウカ御一覽下サイマシテ、御分リニナラヌ事ガアレバ、何時デモ辯ズルコトニ致シマス

前川虎造君ノ再質疑

私ハ何モ鐵道大臣ト京阪鐵道會社ノ岡崎君トノ間ニ、奇怪ナ事ガアルト云フ意味ヲ以テ伺ツクノ

デハアリマセヌガ、モウ一應伺ツテ置キタイトハ、彼ノ城東鐵道ノ不用物ヲ拂下ゲルト云フコトハ、鐵道等ハ使ハズニ、其鐵道ヲ廢メテヤル、其鐵道ノ線路用地ガ不用ニナツタ、或ハ又ソレニ使ツテ居ル所ノ他ノ原料ガ不用ニナツタ場合ニハ、拂下テモ宜シイ其途ハ開ケテ居リマス、併シ鐵道トシテ引續キ使フベキ線路ヲ私設會社ニ御讓渡ニナルコトハ、不用物ヲ拂下ゲルトハ違フ、然ルニ梅田ノ停車場改築ト云フコトガ、今カラ幾年先ニ出來ルカ判ラヌモノヲ、極ク瞬間ニ改築ノ出來タ曉ニハ、其會社ニ彼ノ停車場ヲ賣渡シテヤル、又城東線ノ一部ノ線路ヲオ前ノ會社ニ賣ツテヤル、デアアルカラ大阪市ノ頭、即チ市ノ真中トモ謂フベキ地位ニ在ル停車場ヲ置ケト云フガ如キ御約束ヲ爲シタノハ、大阪市ノ經營スル事業ヲ無視シタノデハナイカ、何故ニソレヲオヤリニナルナラバ、大阪市ノ意見ヲ聽イテ、市ノ計畫ニ支障ヲ與ヘヌト云フコトヲ御認メニナツタ上ニ、何故御約束ヲ爲サラヌカ、市ハ現在都市計畫ニ伴フ所ノ自然ノ經過、色々ノ計畫ガ大阪ニアルノデアリマス、然ルニ大阪市ノ真中ニ京阪電車ガ突込來ルト云フコトハ大阪市ノ電車ノ計畫、及都市ノ經營ニ大ナル支障ヲ來スノデアリマス、是ハ何故ニ鐵道省ガ單獨ニ御許シニナリ、御契約サレタカト云フ、此二點ヲ一應伺ツテ置クノデアリマス

元田國務大臣ノ應答

唯今ノヤウナ簡單ナル御尋デアリマスレバ、私モ能ク分リマスガ、前ニハ大分道行ガ長カッタヤウニ思ヒマスカラ、又私モ其點ニ就テ一寸申上ゲタノデアリマス、是ハ私此所デ口デ申上ゲルヨリハ、書面ニ基キマシテ、第六分科ノ委員會ノ速記録ニ其顛末ヲ載セテアリマスレバ、其書面モ載セテアリマス、之ヲ御覽下サイマシタ上デ、尙ホ御質問ガアリマスレバ御答致シマセウ、ガ速記録モ出マセウガ、是ガ若シサウ云フ書面ガアレバ見セテ吳レ、見セラレヌト私ガ應ジナイ、或ハ又其顛末ヲ聽イテモ、少シモ答辯セヌカト云フ場合ニ御尋下サルノハ御尤デアリマスガ、委員會ニ於キマシテ十分ニ私ハ顛末ヲ答ヘテ、且ツソレニ對スル書面モ寫シテ載セテアル積リデアリマス、況ク諸君ノ御判斷ヲ仰ガレルヤウウニ致シテアリマス、何等其間ニ御尋ニナル事ヲ避ケ

ルト云フコトニ致シテ居ラヌノデアリマス、ソレヲ御覽下サイマセヌト云フト、一々之ヲ繰返スト云フコトハ、御迷惑デアラウト思ヒマスカラ、御覽ノ上ニドナタデモ宜シウゴザイマスカラ、前川君ニ限リマセヌデ、御疑問ノ事デアリマシタラ、其際御答致シマスカラ、ドウゾ御覽下スツテ御判斷ヲ願ヒマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十六日委員會ヲ開キ委員長理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長上林安太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ニ對シマシテハ、過日當局大臣ヨリ詳細ノ説明ガアリマシタ通り、成田鐵道ハ房總線ト常磐線ト聯絡致シマスル、延長四十五哩八分ノ重要ナル幹線デアアルノデアリマス、又中越鐵道ハ伏木港ヲ中心ト致シマシテ、北海道樺太及北清浦潮方面等ノ水陸連絡ヲ計ツテ居リマス所ノ、延長三十一哩ノ重要ナル鐵道デアリマス、之ヲ私設鐵道ニ委セテ置キマシテハ總テノ點ニ就キマシテ設備モ不完全デアリ、又產業發達ノ上甚ダ遺憾ノ事ガ多イカラ、今回政府ニ於キマシテハ、兩鐵道ヲ買收致シマシテ國有ニ移シ、旅客貨物運送ノ統一ヲ圖リマシテ、交通ノ便利ヲ企圖シタイト云フ趣意デアアルノデアリマシテ、委員會ハ三回開キマシテ、審議ノ末適當ナル提案ト認メマシテ、滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ次第ゴザイマス、ドウゾ本會ニ於キマシテモ滿場一致可決アラント望ミマス、尙ホ可決ニナリマシタ上ハ、一日モ早く買收ノ實行ヲシテ戴カナケレバ、從業員モ不安ノ念ヲ懷キ、又鐵道モ完全ヲ致シマセヌカラ、當業者ニ於キマシテハ一日モ早く買收ノ實行ヲ致シテ吳レト云フ希望モアリマシタノデゴザイマス、其他南海鐵道、城東線等ニ就キマシテモ、質問應答等モアリマシタケレドモ、是ハ省キマスカラ、ドウゾ速記ニ就テ御覽ヲ願ヒ

マス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十七日可決奏上シ八月六日法律第五十五號ヲ以テ公布セラル

六〇 南滿洲鐵道株式會社ノ株式引受ニ關スル法律案

政府ハ現ニ所有スル南滿洲鐵道株式會社ノ株式ノ外更ニ其ノ株式額面一億二千萬圓ヲ引受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ株式ヲ引受ケタルトキハ政府ハ其ノ引受ノ日ニ於テ南滿洲鐵道株式會社ノ發行ニ係ル英貨社債額面一千二百萬磅ノ元利支拂義務ヲ承繼ス此ノ場合ニ於テハ政府ノ引受ケタル株式ニ付株金一億一千七百十五萬六千圓ノ拂込アリタルモノト看做ス
第一項ノ規定ニ依ル株式引受ハ株式申込證ヲ以テスルコトヲ要セス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ九年七月十七日本院ニ之ヲ提出ス同月十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ古賀政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ南滿洲鐵道株式會社ノ増資ニ就キマシテ、政府ノ引受株ニ關スル法律案デゴザイマス、會社ニ於キマシテハ、増資ノ必要上本年四月ニ從來ノ資本金二億圓ニ加フルニ、尙ホ一億四千萬圓ノ増資ヲ決定シタノデアリマス、而シテ當時政府ノ持株トシテハ、之ヲ保留シテ置キマシタ、今度其保留シタ持株一億二千萬圓ノ負擔ヲ、政府ニ於テ負擔シヤウト云フ法律案デゴザイマス、而シテ此一億二千萬圓ノ政府ノ持株ハ現金ヲ以テ之ヲ支拂フニ非ズシテ、從來滿鐵會社ニ於テ英吉利ヨリ借受ケタ英貨一千二百萬磅ノ義務ヲ、其儘ニ政府ニ於テ之ヲ引受ケルト云フ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長國澤新兵衛君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

(前略)南滿洲鐵道會社ノ基金資本ハ、是マデハ二億圓デアツテ、其半數一億圓ハ政府ノ出資トナツテ居ッタデアリマス、今回之ガ四億四千萬圓ト云フコトニナリマシタノデ、其増額ノ二億四千萬圓ノ半額、即チ一億二千萬圓ノ額ヲ政府ノ出資トシテ持ツコトニ相成ッタデアリマス、之ヲ從來滿鐵會社ガ社債トシテ持ツテ居リマシタ所ノ二億圓ノ中一億二千萬圓、即チ外債ノ英貨一千二百萬磅ノ社債ノ元利償還ヲ繼承スルコトニナツテ、此資金ニ充テル譯デアリマス、其

結果ガ一方ニ於テハ、從來持ツテ居ッタ所ノ二億萬圓社債ノ中ニ、八千萬圓ノ内債ヲ殘スノミニナリマシテ、一億二千萬圓ノ分ガ浮イテ參リマシタ、又將來新タニ殖エタ所ノ二億四千萬圓ニ相當スル所ノ、新債ヲ募集シ得ベキ分ガアリマスノデ、ソレト新シク出來タ所ノ額トニ依リマシテ、約五億萬圓程ノ資金ヲ集メルコトニ相成リマスノデ、滿鐵會社ノ我ガ滿蒙ニ對スル使命ヲ果タス上ニ於テ、十分效果ヲ舉ゲルコト、思フノデアリマス、斯ル意味ヲ以テマシテ、委員會ニ於キマシテハ、此政府案ニ滿場異議ナク決シタ譯デアリマス、此事ヲ以テ報告ト致シマス

討論ニ入り高木正年君ハ反對、牧山耕藏君ハ贊成ノ演說ヲ爲ス

高木正年君ノ反對演說

此南滿洲會社ノ資本増加ニ對スル法律案ハ、頗ル重大ナル問題デアルト思フノデアリマス、而シテ此問題ハ頗ル慎重ナル所ノ調査ト考慮ヲ要スベキモノデアルト考ヘマスガ爲メニ、私ハ延期ノ意味ニ於テ、本案ニ反對ノ意見ヲ縷陳致サウト思フノデアリマス、此問題ハ新タニ我ガ國庫ガ一億二千萬圓ノ出資ヲ爲スト同一ノ事柄デアリマス、此出資ニ代フルニ、南滿洲鐵道ガ曾テ外國ニ有スル所ノ債務ヲ我ガ國庫ガ引受ケテ、新タニ特殊トシテ、一億二千萬ノ出資ニ代フルト云フコトガ、此法律案ノ本體デアリマス、何故私ハ此問題ヲ以テ議會掉尾ノ重大案トシテ、之ガ即決ニ躊躇セザルヲ得ヌカト申シマスレバ、外國ニ負ヘル所ノ南滿洲鐵道ノ社債ヲ其債權者ノ承諾ヲ得ズシテ、之ヲ他ノ債權者ニ代フルト云フコトモ、確ニ是ハ國際間ニ於ケル所ノ、一ツノ疑問デアルト思ハネバナラヌデアリマス、果シテ之ガ合法デアルヤ否ヤト云フコトハ、政府ハ無造作ニ此事ニ就テハ、直チニ內國法ニ於テ、之ガ決定ノ出來得ルトハ申シマスモノ、未ダ以テ十分ニ之ヲ研究シ得タリト云フコトガ出來ナイト思フノデアリマス、第二ハ南滿洲ニ於ケル所ノ我國ノ事業上ノ上ニ就キマシテ、該會社ガ其業務ノ發展ヲ冀ハネバナラヌコトハ、斯ク此問題ニ就テ延期ヲ唱フル、私ニ於キマシテモ、無論是ハ希望セザルヲ得ヌ立場ニ在ルノデアリマス、併ナガラ今日マデ南滿洲鐵道ガ其事業ノ上ニ於キマシテ、如何ナル成績ヲ舉ゲテ居ルカト申シマス

ルト、東清鐵道ヨリ引續イダ以來、事業ノ中ノ運輸ニ關スル件、石炭ノ採掘ニ關スル件ニ於キマシテハ、別段敢テ非難ヲ加フベキ事ハ無イトシテモ、此社ノ事業ト爲セル其事業ノ上ニ於キマシテハ必ズシモ成功ヲ認メナイ、何故ニ斯ノ如キ状態ニ南滿洲鐵道ガ在ルカト云フト、畢竟スルニ半官半民ノ會社トシテ、最モ遺憾ナク總テノ失態ヲ露出シテ居ルノガ、今日該會社ノ現狀デアルト言ハネバナラヌノデアリマス、暫ク御聽下サイ、私ハ徒ラニ聲ヲ大ニシテ、會社ノ前途ヲ呪咀スルモノデナイ、願クハ該會社ヲシテ、最モ有效的ニ徹底的ニ、我ガ東洋ニ於ケル所ノ我國民ノ利益ヲ保護シ、我ガ國民ノ立場ヲ將來ニ鞏固ナラシメンガ爲メニ、斯ノ如ク此演壇ニ立ッテ論議ヲスルノデアリマス、私共ハ寧ロ今日ニ於テハ該會社ハ整理ノ時代デアルト確信スルノデアリマス、此時代ニ於テ徒ラニ資本ヲ増加シ、益、彼ノ會社ヲシテ放漫ニ流レシメ、國民ノ期待ニ反キ延テハ我國ノ財政ノ上ニ影響ヲ及ボシ、南滿ニ於ケル所ノ國民ノ希望ニ反スルガ如キコトハ、必ズシモ今後ニ於テ、絶無デアルトハ云ヘナイデアリマス、故ニ臨時議會ノ如キ總テ緊急ナルモノヲ議スル議會ニ於テ、斯ノ如キ前途ノアル問題ヲ、十分ナ攻究ヲ爲サズニ之ヲ論議スルト云フコトハ、寧ロ我々ガ最モ忠實ニ爲スベキ職務ノ上ニ於テモ、考慮シナケレバナラナイ事柄デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、決シテ南滿鐵道ノ將來ヲ沮止シ、其事業ヲ妨グルノデハナイノデアリマス、願クハ是ハ徹底的ニ整理セシメナケレバナラヌ、斯様ナ意味ニ於テ即チ本年冬期ノ議會マデ之ヲ延期シ、此間ニ於テ會社ニ於テモ十分社務ヲ整理セシメ、吾々ニ於テモ、外國ニ於ケル所ノ債務ヲ斯ク無造作ニ轉換スルコトガ、出來ルモノデアアルカナイカト云フコトモ併セテ攻究スルコトガ即チ臨時議會ニ於テ、我々ガ當然執ルベキ所ノ措置デハナイカト考ヘルノデアリマス、此意味ニ於テ、暫ク此問題ハ吾々ノ卓上ニ置イテ、來ル議會マデ之ヲ考慮ニ置カンガ爲メニ、此場合ニ於テ委員長ノ報告ニ反對致スノデアリマス、茲ニ一寸申上ケテ置カネバナラヌハ、兩三日前ニ本議會ヲ通過シタ豫算ノ中ニ、豫算外國庫ノ負擔ト爲スヲ要スル件ト云フノガアル、此中ニ南滿洲鐵道會社ノ社債ニ關スル保證ノ件ガ含まレテ居ル、此問題ガ既ニ當議場ヲ通過シタ爲メニ、此問題ハ一面ニ於テハ、既ニ議會ガ協賛ヲシテ居ルノデハナイカト、斯様ニ申サレル人ガアルカ

モ知レヌ、私ノ後ニ立ッ論者ガアリトスレバ、此事ヲ言ハレルカモ知レヌ、併ナガラ是ハ若シ此法律案ガ通ッタトキニ、政府ニ對シテ斯ル場合ヲ想像シテ豫メ其權能ヲ與ヘテ置イタノデアリマス、此法律案ガ否決ニナレバ、自ラ其效力ヲ失フノデアリマス、其例ハ一々記憶カヲ申上ケルノハ省キマスガ私ガ議會ニ立ッテカラ數多ノ例證ヲ記憶スルノデアリマス、次ニ又委員長ハ全會一致デアルト言ハレマシタ、先刻私ハ傍聽ニ參ッテ居ッテ、私共ノ同志委員ハ著席ガ遅カッタ爲メニ、委員長ハ其決議ヲ急ガレタノデアリマスガ、コチラノ發議ヲシナイ前ニ決議ヲセラレタノデ全會一致ト言ハレタケレドモ、併ナガラ其席ニ於テモ異議ヲ言ッタ人ガアルト云フコトハ、私ノ耳朶ニ殘ッテ居リマス、是ハ別ニ議論スルノデハアリマセヌガ念ノ爲メニ申シテ置キマス、以上申上ケマスルガ如ク滿蒙ニ於ケル我將來ノ利權ヲシテ、遺憾ナク我々ノ希望ヲ達成セシムガ爲メニハ、此會社ノ事業ノ上ニ於テ慎重ナル態度ヲ執ラシメルト云フコトガ、今日ニ於テモ最必要ナル事柄ト思フガ故ニ、更ニ此問題ニ就テ私ハ反對ノ意志ヲ表示スルノデアリマス

牧山耕藏君ノ贊成演說

本案ニ就キマシテハ、私モ委員ノ末席ヲ瀆シテ居リマシタカラ、今日採決ノ場合ニモ出席者ニ就テハ能ク承知致シテ居リマスルガ、唯今高木君ハ委員長ガ何カ爲ニスル所アッテ、特ニ採決ヲ急ガレタカノ如ク言ハレタノデアリマスガ、是ハ誤リデアリマス、憲政會ノ諸君ハ多數御出席デアリマシタ、實ハ午後一時ヨリ開會ノ答デアリマシタケレドモ、憲政會ノ諸君ガ御出席ニナラヌノデ、一時過ルマデ委員諸君ハ開會ヲ待ッテ居タノデアアル、憲政會ノ多數ノ御出席ヲ待ッテ始メテ、開會致シマシタノデ、此點ニ就テ高木君ノ御說ハ、明カニ誤マリデアリマスカラ、私ハ訂正致シタイト思ヒマス而シテ此委員會ニ於キマシテハ、滿場一致ヲ以テ此案ヲ可決シタノデアリマス、御異議ガアリマセヌカト云フコトヲ委員中ヨリモ發言ヲシ、委員長ヨリモ注意致シタノデアリマスケレドモ、憲政會ノ諸君ハ、反對意見ヲ述ベラレナカッタノデアリマス、ソレデ委員長ハ滿場一致ヲ以テ可決シタト云フコトヲ宣告致シタノデアアル、然ルニ此席ニ於テ、唯今高木正年君ヨリ反對

ノ御意見ヲ伺フト云フコトハ、吾々ノ洵ニ意外トスル所デアリマス、併ナガラ反對ノ御意見ガアリマシタ以上ハ、私共ハ又之ニ對スル所ノ贊成ノ理由ヲ述ベルコトハ當然ダト考ヘマスカラ、暫クノ間御清聴ヲ瀆シタイト考ヘマス、滿鐵ノ使命ハ私ガ申スマデモナク、滿洲ノ開發、日支兩國ノ利益増進ノ上ニ、重大ナル使命ヲ持ッテ居ルノデアリマス、而シテ其事業中ニハ、地方行政ニ關スル重要事項ヲモ掌ッテ居ルノデアリマス、唯今高木君ノ反對ノ御意見ノ主ナル點ハ、此英貨社債額面一千二百萬磅ノ元利仕拂義務ヲ繼承スルト云フ、此法文ニ就テハ御疑點ト思ヒマス、此點ニ就テハ委員會ニ於テモ質問ガ出タノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、何等立法上差支ナイ、現ニ關西鐵道會社買收ノ如キ先例モアルト云フコトデ、此問題ハ既ニ立法ノ先例ガアルノデ、何等差支ナイノデアリマス、ソレカラ資本増額ノ必要ハ認メルケレドモ、之ヲ延期シタイト云フ御議論デアリマス、此會社ハ明治三十九年、即チ今ヨリ十數年以前ニ設立致シタノデアリマシテ、其當時ノ資本二億圓ト云フモノガ、一遍モ増資サレナイデ今日マデ來テ居ルノデアアル、然ルニ事業ノ狀態ハドウカト言ヒマスルト、非常ナル發展ヲ遂ゲテ居ル、現ニ明治四十年ニ於ケル所ノ收入ハ一千二百萬圓デアリマシタ、之ニ對スル支出ガ一千萬圓、ソレガ大正七年ニ至リマシテハ、收入ガ九千六百萬圓、支出ガ七千四百萬圓、斯様ニ非常ナル急激ナル發展ヲ遂ゲテ居ルノデアリマス、今回増資サレントスル資本ノ總額ハ、株式ニ於テ二億四千萬圓、之ニ伴フ所ノ社債ガ矢張二億四千萬圓デ、合セテ四億八千萬圓、之ニ未拂込ノ株金二千萬圓ヲ加ヘテ、五億圓ヲ以テ、更ニ積極的ノ施設經營ヲ爲サントスルノデアリマス、唯今高木君ハ實ハ、委員ニナッテ居ラレナカッタガ爲メニ、委員會ノ經過ヲ能ク御承知デハナカッタノデハナカラウカ、又委員會ノ速記録ガ出來マセヌカラ、之ヲ御覽ニナラナカッタ爲メニ、種々ノ誤解ヲ生セラレタコト、思フノデアリマス、此五億圓ヲ以テ滿鐵會社ハ、如何ナル事業ヲ經營スルカト申シマス、其事業ノ概要ヲ申述ベマスト、鐵道ニ於テ一億六千二百七十一萬圓ヲ投ズルノデアアル、是ハ御承知ノ如ク現在滿洲ノ縱貫鐵道ハ、大連ヨリ奉天ニ至ル線ノミガ復線デアリマス、奉天以北長春ニ至ル線ハ單線デアリマス、此全部復線ニナッテ居リマセヌ爲メニ、滿洲全線ニ於ケル所ノ滯貨ハ年々夥シモイノデアリ

マシテ、特産物ノ輸送ガ十分ニ出來マセヌ爲メニ、大豆ノ如キハ往々停車場ニ堆積シ、間々腐敗シテ居ル、ドウシテモ此洲ノ縱貫鐵道、是ノ使命ヲ十分ニ果サシムルニハ、長春ヨリ大連ニ至ル所ノ線ヲ復線ニシナケレバ片輪デアアル、即チ此經費ガ之ニ見積ラレテ居ルノデアアル、其他大連ノ港灣ニ輸送シテアル所ノ貨物ヲ十分ニ集散致シマスニハ、大連港ノ設備ヲ尙ホ十分ニ致サナケレバナラス、其經費ガ四千二百四十萬圓、其他船舶新造、電氣及瓦斯製鐵事業ノ擴張、殊ニ唯今高木君ノ申サレマシタ御言葉ノ中ニ燃料ノ問題、石炭ノ問題モアリマスガ、現在ニ於テハ滿鐵ノ經營シテ居ル所ノ炭山カラ出マス石炭量ハ、年二百五六十萬噸デアアル、所ガ現在朝鮮及滿洲消費スル所ノ需要ヲ充タスニ足ラヌノデアリマス、之ニ對シマシテ約九百萬圓ヲ投ジテ、年々六百萬噸以上ヲ出スダケノ設備ヲスルノデアリマス、其他一々申シマスレバ諄々シクナリマスカラ以上ノ大要ニ止メマスガ、唯今申述ベタ如ク、是等ノ緊急必要ナル事業ヲ五億圓ノ資本ヲ投ジテ、今後五箇年間ニ之ヲ遂行シタイト云フノデアアル、即チ十四年前ニ生レタル所ノ滿洲鐵道株式會社ハ一回ノ増資モシナイノデアアル、今日ノ狀態ト當時ト比較致シマス、非常ナル差デアアル、又列國ニ於ケル特殊會社ノ狀態ニ見マシテモ、資本ノ増額ガ行ハレテ居ル、日本内地ノ各會社ノ狀態ヲ見テモ同様デアアル、十四年以前ノ赤坊ノ著物ヲ今尙著テ居ルト云フコトハ、是ハ出來ヌ話デアアル、ドウシテモ滿鐵會社ノ帶ベル所ノ使命ヲ果サント欲セバ、是ハ増資ニ依ル外バナイノデアアル、所謂積極的ニ仕事ヲセント欲セバ、増資ヲスルノ外ナイノデアアル、又高木君ハ唯今整理ヲシナケレバイカヌ、非常ナル亂脈デアアルト言ハレタノデアリマスガ、委員會ニ於キマシテ此問題ニ就テハ私ハ質問シタ所ガ、政府當局ハ、最近ニ於テ日本人四千人、支那人三千五百人、合セテ七千五百人許リノ冗員ノ大淘汰ヲシテ、之ニ依ッテ約八百萬圓許リノ經費ノ節減ガ出來テ居ルノデアアルト云フ、高木君ハ此事ハ御承知ナイノデアリマシテ、所謂滿鐵トシテハ冗員ヲ淘汰シテ居ル、出來ルダケ節約ヲシテ、必要ナル經費ニ之ヲ充用シテ居ルノデアアル、即チ唯今申述ベタル如ク、長春ヨリ奉天ニ至ル所ノ復線工事、是ナドハ大陸ニ於ケル交通政策上ヨリ見テ、一日モ早ク解決セナケレバナラヌ事業デアアル、現在ノ如ク長春奉天間ノ鐵道ヲ、單線ニ置クト云フヤウナ事ニ甘ン

ジテ居ラレル方ハ一人モ無カラウト思フ、現ニ滿洲ニ於ケル所ノ實業家ハ何ト言ッテ居リマス、
官民舉ッテ滿鐵ノ積極方針ニ贊同シ、之ガ資金ノ調達ニ援助奔走シテ居ルデアリマセヌカ、滿洲
ニ居ラレル所ノ憲政會ノ諸君ハ——本案ノ委員會ニ御出席ニナッテ、増資ニハ暗ニ贊成ヲシテ居
ラレタノデアリマス、故ニ是等ノ事情ヲ考察致シマスト、政府ノ提出シタル所ノ此案ハ、極メテ
時宜ニ適シタルモノト認メマシテ、私ハ之ニ贊成ノ意ヲ表スル者デアアル、高木君ハ、豫算外國庫
ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ト云フコトニ就テモ御論ガアリマシタガ、是モ既ニ院
議デ決ッテ居ル、社債二億四千萬圓ニ對スル政府ノ保證ト云フモノハ、衆議院ハ贊成ヲ與ヘテ居
ルノデアリマスカラ、之ニ關係ナイト仰セララル、ハ、非常ナル誤デアラウト思フノデアリマス、
馬場政府委員ハ辯明ヲ爲ス

馬場政府委員ノ辯明

唯今高木サンカラ、此法律案ノ適法デアるか否カニ就テ、政府ノ研究ガ不十分デアルト云フ御話
デアリマシタ、此點ニ就テハ職責上一言御斷リシテ置カナケレバナラヌト思ヒマス、滿鐵ノ本案
ニ關係ノアリマス英貨社債ハ、其發行ノ目論見書カラ見マシテモ、又國際間ノ慣例カラ論ジマシ
テモ、日本ノ國法ニ據ッテ居ルノデアリマス、日本ノ法令ニ據ッテ居ルノデアリマスガ故ニ、日本ノ
法律ヲ以テ債務者ノ交替ニ依リ更改ヲスルコトハ、何等違法デナイノデアリマス、ソレカラ又先
例トシテ關西鐵道株式會社ノ事ヲ委員會デ私ガ御答シマシタガ、是モ矢張英吉利ニ於テ發行シ
タ所ノ、關西鐵道會社ノ社債デアリマス、而シテ是ガ鐵道國有法ノ第四條ニ依リマシテ、我政府
ノ公債ニ當然權利義務ヲ繼承シタノデアリマス、本件ト同様ノ先例ト見ラル、ノデアリマスガ
故ニ、本件ハ何等違法デナイノデアリマス、此點ヲ辯明シテ置キマス

院議多數ヲ以テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通
可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十八日可決奏上シ八月二日法律第三十四號ヲ以

テ公布セララル

六一 郵便貯金法中改正法律案

郵便貯金法中左ノ通改正ス

第三條中「千圓」ヲ「二千圓」ニ、「預入金」ヲ「一度ノ預入額」ニ、「厘位」ヲ「錢位」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ九年七月三日貴族院ニ之ヲ提出ス同院ハ七月十九日本案ヲ可決シ即日之ヲ本院ニ送付ス
本院ハ翌二十日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ開キ野田國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セ
リ

本案即チ郵便貯金法中改正案デアリマスガ、此案ハ極メテ簡單ナモノデアリマシテ、第三條中ニ
「千圓」トアルノヲ「二千圓」ト改メ、從來ハ厘位ヲ取扱ッテ居リマシタガ、厘位ヲ捨テ、錢位ニ改ム
ルト云フ法案デアリマス、又此附則ニ「本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト云フダケノモ
ノデゴザイマシテ、此前議會ニ既ニ本院ヲ通過シマシテ、貴族院ニ至ッテ解散ニ遭遇シ、不成立ニ
了ッテ今日ニ至リマシタ案デアリマシテ、此度ハ貴族院ノ方カラ此方ニ回ッテ來マシタカラ、ドウ
ゾ滿場一致ヲ以テ御協贊アラントヲ希望シマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十一日委員會ヲ開キ委員
長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ七月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セ
リ
翌二十四日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長根本正君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲
ス

本案ノ第三條ニ一人ノ貯金ガ千圓ト云フコトニナッテ居リマシタノヲ、此度ノ改正ニ依リマシ
テ、二千圓ト改ムルコトニナリマシタ、是ハ、時運ノ進歩ニ從ヒマシテ、此増加ヲ爲スノ必要ガア
ルト云フコトデ、遞信大臣ノ細カナ説明及其他ノ政府委員ヨリモ、詳細ナル説明及應答ヲ、致シ
タコトデアリマス、尙ホ本問題ハ單ニ遞信省ノミナラズ大藏省ニ關係ノアル所ノ問題デアリマ
スカラシテ、此郵便貯金利子及此金額ヲ如何ナル方法ヲ以テ融通ヲシテ居ルカト云フコトヲ聽
キマシタ所ガ、此郵便貯金ハ大正三年マデハ三億圓餘デアリマシタガ、大正九年ニ至リマスル
殆ド九億圓ノ巨額ニ上ッテ、即チ毎年一億萬圓以上ツ、ノ増加ヲ見ルコトニナッテ居ルノデアリ
マス、其他色々、此金ノ郵便局デ扱フノ合計シマス、一箇年ニ十億萬圓以上ノ金ヲ取扱ッテ
居ルノデアリマス、而シテ此九億十億ノ金ハ、如何ナル方面ニ融通シテ居ルカト云フコトヲ質
問シマシタ所ガ、第一ニ公債、又此地方ノ或ハ村、其他ノ低利公債ニ用キテ居リマス、或ハ災害ノ
補助ニ用キ、種々様々ナル所ニ用キテ居ッテ、此郵便貯金ナルモノハ、大ニ國家財政ニ有利ナル方
面ニ使ハレテ居ル譯デアリマス、尙ホ此利子ニ就キマシテモ質問致シテ見マシタガ、是ハ先年ハ
四分三厘デアリマシタケレド、近頃ニナリマシテ四分八厘ト云フ率ニ増加セラレテアル、併ナガ
ラ此利子ナルモノハ、主ニ郵便貯金ハ元ヲ失ハナイ所ノ趣旨デアッテ、利子ニハ餘リ重キヲ措カ
ヌト云フヤウナ意味ノ答辯モアリマシタガ、之ニ就キマシテハ、委員中ヨリモ色々質問應答ガ

ア、テ郵便貯金ヲスル者ト雖モ、決シテ此利子ノ廉イノヲ好ム譯デハナイ、是ハ他ノ普通ノ銀行
ガ偶々危険ナモノガアルカラシテ此大丈夫ナル所ノ郵便貯金ヲ好ム譯デアアルカラ、此貯金ノ利
子ヲ上ゲルコトガ出来ナイノデアアルナラバ、他ノ普通ノ銀行ニ於テモ危険ノナイヤウニ、嚴重ニ
取締ヲシテ貫ヒタイト云フヤウナ質問モアリマシタ、之ニ對シマシテ大藏省ノ政府委員ハ、至極
尤デアアル、併ナガラ此銀行ニ色々失敗等ノアルノハ、其銀行ノ重役ガ事業ヲスル爲メデアアルガ故
ニ、其邊ノ取締ハ甚ダ容易ナラヌ事デアアルト云フ答辯デアリマスシテ、此事ニ就テハ詳細ナル審
査應答ガアリマシタ結果、政府原案ノ通りニ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタカラ、何卒諸君ニ於
テモ、最モ有利ナル貯金デアリマスル故ニ、御賛成アラントラ望ミマス
院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院
ニ通知ス八月二日法律第三十三號ヲ以テ公布セラル

第二 本院提出法律案

一 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第五條 開票區ハ郡市ノ區域ニ依ル

郡市長ハ開票管理者トナリ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第六條 地方長官ハ選舉長トナリ選舉ニ關スル事務ヲ統轄ス

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

第八條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 獨立ノ生計ヲ營ム者

第十條中「滿三十年以上」ヲ「滿二十五年以上」ニ改ム

第十三條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項中「前項」トアルヲ「前二項」ニ改ム

政府ノ特別ノ保護又ハ監督ヲ受クル法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ亦前項ニ同シ其ノ

法人ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第十四條 官吏ハ勅令ヲ以テ指定シタル者ヲ除ク外被選舉權ヲ有セス但シ退職者ハ此ノ限ニ在

ラス

選舉事務ニ關係アル吏員ハ其ノ選舉區内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

選舉事務ニ關係アル官吏吏員其ノ職ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦前項ニ同シ

第十五條 削除

第十六條 削除

第十八條第四項中「納稅額及納稅地」ヲ削ル

第十九條 削除

第二十二條 削除

第二十三條中「前二條」ヲ「第二十一條」ニ改ム

第二十四條中「第二十二條」ヲ削ル

第三十八條中「選舉權ヲ有セサルトキハ」ヲ「第十一條又ハ第十二條ニ該當スル者ナルトキハ」ニ改ム

第四十二條 町村ニ於テハ投票管理者ハ一名又ハ數名ノ投票立會人ト共ニ投票ノ翌日迄ニ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

第四十三條中「選舉會」ヲ「開票」ニ改ム

第四十四條中「選舉長ヲ經テ地方長官ニ」ヲ「選舉長ニ」ニ、「地方長官ハ」ヲ「選舉長ハ」ニ改ム

第六章 開票及開票所

第五十一條 開票所ハ郡市役所又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ開票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第五十二條 開票管理者ハ豫メ開票所ヲ告示スヘシ

第五十三條 地方長官ハ各開票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上七名以下ノ開票立會人ヲ選任シ開票ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ開票ニ立會ハシムヘシ但シ市ニ於テハ投票立會人ヲ以テ開票立會人トス

開票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十四條 開票管理者ハ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日、市ニ於テハ投票ノ翌日開票立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

第四十五條中「選舉長」ヲ「開票管理者」ニ、「選舉立會人」ヲ「開票立會人」ニ改メ第三項ヲ削ル

第五十六條 選舉人ハ其ノ開票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條中「選舉立會人」ヲ「開票立會人」ニ、「選舉長」ヲ「開票管理者」ニ改ム

第五十九條中「選舉長」ヲ「開票管理者」ニ改メ第二項ヲ削ル

第六十條 開票管理者ハ開票録ヲ作り開票ニ關スル顛末ヲ記載シ開票立會人ト共ニ署名シ投票録ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十一條 投票ノ點檢終リタルトキハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選舉長ニ報告スヘシ

第六十二條中「選舉會」ヲ「開票」ニ改ム

第六十三條中「選舉會場」ヲ「開票所」ニ改ム

第七章 選舉會

第六十四條 選舉會ハ選舉長ノ指定シタル場所及日時ニ於テ之ヲ開キ第六十一條ノ報告書ヲ調査ス

選舉ノ一部無効トナリ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テ第六十一條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉長ハ選舉會ヲ開キ他ノ開票管理者ノ報告書ト共ニ更ニ之ヲ調査スヘシ

第六十五條 選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第六十六條 選舉長ハ各選舉區内ノ選舉人中ヨリ三名以上七名以下ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉會開會ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉會ノ當日選舉會ニ參會セシムヘシ

選舉立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十七條 選舉長ハ選舉録ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉立會人ト共ニ署名シ第六十一條ノ報告書ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十八條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 選舉會場ノ取締ニ付テハ第五章ノ規定ヲ準用ス

第七十條第五項ヲ削ル

第七十一條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ之ヲ當選人ニ告知スヘシ

第七十二條第三項ヲ削ル

第七十四條中「第七十八條第四項」ヲ「第七十八條第三項」ニ改ム

第七十八條第二項但書ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

但シ第七十條第二項ノ規定ニ依リ當選人トナリタル議員闕員トナリタルトキハ二十日以内ニ
 第七十條第四項ノ規定ヲ準用シ當選人ヲ定ム
 第八十八條ノ二 議員候補者ハ戸別訪問ノ方法ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス違背シタル者
 ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條中「選舉會場」ヲ「開票所」ニ改ム

第九十一條中「投票管理者」ノ下ニ「開票管理者」ヲ、「選舉會場」ノ下ニ「開票所」ヲ加フ

第九十四條中「選舉會場」ノ下ニ「開票所」ヲ加フ

第一百五條ノ二 選舉ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カムトスルトキハ治安警察法第二條及第四
 條ノ届出ヲ要セス

第一百五條ノ三 議員候補者ハ選舉期日公布後選舉期日前選舉ニ關スル公開ノ集會ノ爲管理上支
 障ヲ及ホササル限り其ノ選舉區内ノ公立小學校ヲ使用スルコトヲ得

使用ニ依リテ生シタル費用及損害ハ議員候補者ノ負擔トス
 第一百七條中「投票管理者」ノ下ニ「開票管理者」ヲ加フ

第九十九條 削除

別表

東京府	議員數	選舉區	議員數
第一區	四人	第六區	三人
第二區	四人	第七區	一人
第三區	三人	第八區	四人
第四區	二人	第九區	四人
第五區	二人	第十區	二人

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

第一區	上京區	三人
第二區	下京區內 <small>(鴨川以西四條通北側以北)</small>	二人
第三區	船井郡 北桑田郡 南桑田郡 相樂郡 綴喜郡 久世郡 宇治郡 紀伊郡 乙訓郡 葛野郡 愛宕郡	二人

第四區	天田郡 何鹿郡 加佐郡 與謝郡 中郡 竹野郡 能野郡	三人
第一區	大阪府	二人
第二區	東區	四人
第三區	西區	四人
第四區	南區	四人
第五區	北區	三人

第六區	西成郡 東成郡 三島郡 豐能郡 北河內郡 中河內郡 南河內郡 泉北郡 泉南郡	四人
第七區	北河內郡 中河內郡 南河內郡	三人
第八區	泉北郡 泉南郡	二人
神奈川縣	第一區 橫濱市 第二區 橫須賀市 第三區 久良岐郡 第三區 橋樹郡	三人 一人 二人

第四區	三都郡 鎌倉郡 高座郡 愛甲郡 津久井郡 中郡 足柄上郡 足柄下郡	二人
第五區	足柄上郡 足柄下郡	二人
兵庫縣	第一區 神戶市內區 第二區 神戶市內區 第三區 神戶市內區 第四區 神戶市內區	三人

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案	新瀨縣	第一區	第六區	第五區	第四區	第三區	第二區	第一區	長崎縣		
	新瀨市	對馬郡	南松浦郡	壹岐郡	北松浦郡	南高來郡	北高來郡	東彼杵郡	西彼杵郡	佐世保市	長崎市
	一人	一人	二人	二人	二人	二人	一人	二人	二人		

刈羽郡	東頸城郡	中魚沼郡	南魚沼郡	北魚沼郡	古志郡	南蒲原郡	三島郡	西蒲原郡	中蒲原郡	東蒲原郡	岩船郡	北蒲原郡	高田市	長岡市
一人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	一人	一人				

第七區	第六區	第五區	第四區	第三區	第二區	第一區							
加多西郡	加東郡	美囊郡	明石郡	水紀郡	多馬郡	有川邊郡	武庫市	明石市	尼崎市	姫路市	須磨區	林田區	神戶市內
二人	三人	一人	一人	一人	一人	二人							

第十一區	第十區	第九區	第八區											
三原郡	津名郡	朝來郡	養父郡	出石郡	美方郡	城崎郡	佐用郡	赤穂郡	宍粟郡	揖保郡	飾磨郡	神崎郡	印南郡	加古郡
二人	二人	二人	二人											

茨城縣	第一區	第二區	第三區	第四區
	千葉郡	香取郡	海城郡	山武郡
	印旛郡	東葛飾郡	匝瑳郡	長生郡
	三	二	三	三
	人	人	人	人

茨城縣	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區
	水戸市	東茨城郡	鹿島郡	行方郡	那珂郡
	久慈郡	多賀郡	真壁郡	筑波郡	結城郡
	三	三	三	三	二
	人	人	人	人	人

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

埼玉縣	第九區	第十區	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區
	中頸城郡	西頸城郡	北足立郡	入間郡	南埼玉郡	北葛飾郡	北埼玉郡
	三	一	二	二	三	二	二
	人	人	人	人	人	人	人
	群馬縣	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區

群馬縣	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區
	前橋市	高崎市	山田郡	新田郡	邑樂郡	勢多郡
	佐波郡	利根郡	群馬郡	碓氷郡	北甘樂郡	多野郡
	二	一	二	二	二	二
	人	人	人	人	人	人

第七區	第六區	第五區	第四區
南 北 度 志 多 飯 一 安 名 阿 鈴 河 員 桑 牟 牟 會 摩 氣 南 志 濃 賀 山 鹿 藝 辨 名 婁 婁 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡			
二	二	二	二
人	人	人	人

第六區	第五區	第四區	第三區	第二區	第一區	愛知縣
額 幡 碧 海 中 葉 丹 知 東 西 愛 岡 豐 名 田 豆 海 部 島 栗 羽 多 春 春 知 崎 橋 古 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 日 日 知 市 市 屋 三 三 三 三 三 三 三 井 井 郡 市 市 市 人 人 人 人 人 人 人 郡 郡 郡 市 市 市						
三	三	四	一	一	三	
人	人	人	人	人	人	

栃木縣

第一區	第二區	第三區	第四區	奈良縣
宇 河 芳 上 下 安 足 那 鹽 都 內 賀 都 都 蘇 利 須 谷 宮 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 市 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡				
一	三	三	二	一
人	人	人	人	人

三重縣

第二區	第三區	第一區	第二區	第三區	津市
山 生 磯 宇 北 南 高 宇 吉 邊 駒 城 陀 葛 葛 市 智 野 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡					
二	二	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議

宮城縣										
第二區					第七區					
黑川郡	亘理郡	伊具郡	刈田郡	柴田郡	名取郡	宮城郡	仙臺市	下伊那郡	上伊那郡	諏訪郡
		三				一		三		
		人				人		人		

第四項 法律案

福島縣										
第三區			第三區							
信夫郡	伊達郡	福島市	若松市	若松市	若松市	若松市	若松市	若松市	若松市	若松市
		一								
		人								

六百九十九

長野縣										
第六區			第五區				第四區			
吉城郡	益田郡	大野郡	加茂郡	可兒郡	士岐郡	惠那郡	養老郡	安八郡	不破郡	本巢郡
				二						三
				人						人

長野縣										
第六區			第五區				第四區			
北安曇郡	南安曇郡	北佐久郡	南佐久郡	埴科郡	更級郡	小縣郡	下高井郡	上高井郡	下水内郡	上水内郡

六百九十八

山形縣	第一區	第二區	第三區	第四區	青森縣
	山形市	青森市	東津輕郡 南津輕郡 中津輕郡	北津輕郡 西津輕郡	上北郡 下北郡 三戶郡
	一人	一人	三人	二人	

秋田縣	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區
	秋田市	米澤市	西村山郡 東置賜郡	北村山郡 最上郡	東田川郡 西田川郡 飽海郡
	一人	一人	三人	二人	二人

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案 七百一

第六區	第五區	第四區	石城郡	雙葉郡	相馬郡	耶麻郡	南會津郡	河沼郡	大沼郡	北會津郡	西白河郡	東白川郡	石川郡	田村郡	岩瀬郡	安積郡	安達郡
			三人	二人	一人	二人	一人	二人	一人	二人	一人	二人	一人	二人	一人	二人	一人

第三區	第二區	第一區	東磐井郡	西磐井郡	氣仙郡	江刺郡	膽澤郡	和賀郡	稗貫郡	上閉伊郡	下閉伊郡	九戸郡	二戸郡	紫波郡	巖手郡	盛岡市
			三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	一人

富山縣

第三區	第二區	第一區	第三區
射水郡	下新川郡	中新川郡	河北郡
	上新川郡	高岡市	羽咋郡
		富山市	鹿島郡
			鳳至郡
			珠洲郡
	三人	一人	三人

島根縣

第一區	第二區	第一區	第四區
松江市	日野郡	鳥取市	水見郡
	西伯郡	東伯郡	東礪波郡
	東伯郡	氣高郡	西礪波郡
		八頭郡	
		岩美郡	
一人	三人	一人	二人

福井縣

第二區	第一區	第四區	第三區	第二區
吉田郡	坂井郡	雄勝郡	由利郡	山本郡
	大野郡	平鹿郡	河邊郡	北秋田郡
	福井市	仙北郡	南秋田郡	鹿角郡
		利利郡		
二人	一人	三人	二人	二人

石川縣

第二區	第一區	第四區	第三區
石川郡	能美郡	大飯郡	足羽郡
	江沼郡	遠敷郡	丹生郡
	金澤市	三方郡	今立郡
		敦賀郡	南條郡
二人	一人	一人	二人

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議

第五區	第四區	第三區	第二區	第一區	廣島縣	第五區
高山安佐	福山	吳市	尾道市	廣島市	英田郡	勝田郡
田郡	郡	市	市	市	郡	郡
三	一	一	一	一	二	二
人	人	人	人	人	人	人

第四項 法律案

七百五

山口縣	第八區	第七區	第六區
下關市	雙比神甲蘆	深沼世御豐加安	安藝
市	三郡	婆石奴品安隈羅調田茂	藝郡
一	二	二	三
人	人	人	人

岡山縣

第四區	第三區	第二區
隱岐郡	鹿美那邑	邇安
郡	郡	郡
一	二	三
人	人	人

第四區	第三區	第二區	第一區
香上川吉都後小淺和赤邑上兒御岡	阿房上備窪月田口氣磐久道島津山	郡	市
郡	郡	郡	郡
二	二	三	一
人	人	人	人

七百四

第四區	第三區	第二區	第一區	香川縣	第三區
三仲綾木大香九高	小豆川龜松	三美板麻阿	好馬野植波		
豐郡	郡	郡	郡	市	市
三	二	一	一	三	
人	人	人	人	人	

第五區	第四區	第三區	第二區	第一區	愛媛縣
南宇和	北宇和	西宇和	東宇和	宇摩	新居
郡	郡	郡	郡	郡	郡
二	三	三	一	一	
人	人	人	人	人	

第一區	第四區	第三區	第二區	和歌山縣
和歌山縣	大玖熊都佐吉大豐阿美厚	島珂毛濃波敷津浦武瀨狹		
郡	郡	郡	郡	郡
一	二	三	三	
人	人	人	人	

第二區	第一區	第三區	第二區	德島縣
海那勝名名德	東西日伊那有海	牟牟高都賀田草		
郡	郡	郡	郡	郡
二	一	二	三	
人	人	人	人	

大分縣		第十一區			第十二區			佐賀縣	
第一區	第二區	大分市	大分市	大分市	大分市	大分市	大分市	第一區	第二區
大分市	大分市	大分市	大分市	大分市	大分市	大分市	大分市	佐賀市	佐賀市
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

福岡縣		第三區			第二區			第一區		高知縣	
第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區
福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

沖繩縣	第一區	那霸區	第一區	一人
	第二區	鹿兒島郡	二	人
	第三區	日置郡	二	人
	第四區	揖宿郡	二	人
	第五區	薩摩郡	二	人
	第六區	出佐郡	二	人
		伊佐郡	二	人
		始良郡	二	人
		贈喉郡	三	人
		肝屬郡	三	人
		熊毛郡	二	人
		大島郡	二	人

北海道廳	第一區	札幌區	第一區	一人
	第二區	函館區	第一區	一人
	第三區	小樽區	第一區	一人
	第四區	旭川區	第一區	一人
	第五區	室蘭區	第一區	一人
	第六區	釧路區	第一區	一人
	第二區	首里區	二	人
	第三區	中頭郡	二	人
		國頭郡	二	人
		島尻郡	二	人
		宮古郡	二	人
		八重山郡	二	人

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

熊本縣	第一區	熊本市	第一區	一人
	第二區	飽託郡	三	人
		上益城郡	三	人
		下益城郡	三	人
	第三區	玉名郡	三	人
		鹿本郡	三	人
		菊池郡	三	人
		阿蘇郡	三	人
		葦北郡	二	人
		八代郡	二	人
		球磨郡	二	人

鹿兒島縣	第一區	鹿兒島市	第一區	一人
	第二區	東白杵郡	二	人
		西白杵郡	二	人
		兒湯郡	二	人
		東諸縣郡	二	人
		西諸縣郡	二	人
	第一區	北諸縣郡	三	人
		南那珂郡	三	人
		宮崎郡	三	人
	第五區	宇土郡	二	人
		天草郡	二	人

第七區	札幌支應管内 後志支應管内	二人
第八區	空知支應管内 浦河支應管内 室蘭支應管内	三人
第九區	函館支應管内 檜山支應管内	二人
第十區	上川支應管内 留萌支應管内	二人
第十一區	網走支應管内 宗谷支應管内	二人

第十二區
根室支應管内
釧路支應管内
河西支應管内

二人

本表ハ十年間ハ之ヲ更正セス

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ必要ナル
選舉人名簿ニ關シ本法ニ定ムル期日又ハ期
間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別段ノ規定
ヲ設クルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ次
ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

二 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第八條第一號中「二十五年」ヲ「二十年」ニ改メ第三號ヲ削ル

第十條中「三十年」ヲ「二十年」ニ改ム

第十一條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二號以下順次繰下ク

二 貧困ノ爲官公費若ハ慈善事業其ノ他ノ救助ヲ受ケテ生計ヲ爲ス者及之ヲ受ケタル後一箇
年ヲ經過セサル者

第十二條第二項中「又ハ官立公立私立學校ノ學生、生徒」ヲ削ル

第十三條第一項ヲ削ル

第十八條第四項中「、納稅額及納稅地」ヲ削ル

第十九條 削除

第二十二條 削除

第二十三條中「二」ヲ削ル

第二十四條中「第二十二條」ヲ削ル

第百九條 削除

附則

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討論 第四項 法律案

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ニ關スル第十八條第二十條第二十四條第二十六條第二十七條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

右兩案ハ孰レモ大正九年七月一日武富時敏君外七名(一)、植原悦二郎君外二名(二)之ヲ提出ス同月十二日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ(一)案ニ付テハ提出者(下岡忠治君)、(二)案ニ付テハ提出者(植原悦二郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

下岡忠治君ノ趣旨辯明

本員ハ我々同志ト共ニ提案ヲ致シマシタ、衆議院議員選舉法改正法案ノ提出理由ヲ説明致シマス、我々ハ曩ニ世界ノ大勢ト國內ノ趨向トニ顧ミマシテ、大戰後ノ帝國ノ使命ヲ完ウシ、大正維新ノ國運ノ轉回スベキ第一歩ハデス、何ハ忤措キ普通選舉法ヲ確立スルニアリト確信シタルガ故ニ、第四十二議會ニ於テ此法案ヲ提出致シタノデゴザイマス、然ルニ現内閣及其與黨ハ、此時運ノ要求ニ應ズベキ緊要ナル問題ニ反對シテ、是ガ實行ヲ拒ミタルノミナラズ、議會ヲ解散シテ、洵ニ平地ニ波瀾ヲ起シテ、不必要ニ議會ノ解散ヲ斷行致シタノデゴザイマス、而モ其總選舉ニ臨ムニ方リマシテハ、第一ニハ世界共通ノ普通選舉案此モノヲ以テ、何カ國家ノ基礎ヲ脅威スル、社會ノ組織ヲ危ウスルト云フガ如キ、奇々怪々ノ論法ヲ以テ、地方ノ良民ニ對シ、鬼面人ヲ嚇カスガ如キ態度ヲ以テ臨ンダノデアリマス、又第二ニハ數年來地方ノ各種ノ問題、鐵道、港灣、道路、學校、其他有ユル利權ヲ好餌ト爲シテ、國家ノ法規ヲ濫用シテ、黨勢ノ擴張ニ努メタル結果トシテ又新タナル選舉法、黨略本位ヲ基礎トシテ、昨年制定セラレタル此選舉法ニ依ル御蔭ト、又

第三ニハ選舉界ヲ極端ニ濁濁セシメタル、金力及種々ノ干渉壓迫ヲ行ウタル權力ノ濫用此三ツノ結果ニ依テ即チ幾多ノ政治上ノ罪惡ガ重テ居リマス、此幾多ノ罪惡ノ結晶トシテ、選舉ニ政府與黨ガ多數ヲ占メ我々ハ形式上ハ確カニ負ケテ居ルノデゴザイマス、併ナガラ畢竟ハ不自然ナル現象デアリマシテ、人工的ニ出來タル一時ノ幻影ニ過ギナイ、必ズヤ真正ナル國論ヲ代表スルモノトハ、我々ハ受取ラヌノデアリマス、先ヅ第一ニ都市ニ於ケル狀況ハ如何デアリマス、政治ノ中心タル東京、此方面ニ於キマシテハ、普通ノ反對派ト云フモノハ何人出マシタカ、文化ノ中心タル所ノ都市ニ於テ、五月十一日ニ於ケル開票ノ結果ガ判ツタ時ニハ、政友會ノ幹部諸君モ、錯愕色ヲ失ハレテ居ッタト云フコトハ事實デアアル、我々ハ固ヨリ都市ヲ重ンジ、地方ヲ輕ンズルト云フコトハ決シテ考ヘテ居リマセヌ、固ヨリ地方ハ大事デアアル、併ナガラ兎ニ角政治ノ中心タル所ノ此普通選舉案ニ對スル傾向ハ、由ツテ以テ國論ノ趨向ヲトスルコトガ出來ルノデアリマス、即チ我々ハ數ニ於テ負ケテ居ルケレドモ、實ニ於テハ負ケテ居ラヌ、今日ノ大政黨ガ、必シモ國論ヲ代表スルモノニ非ズト信ズル一ノ理由デアリマス、又今回ノ選舉ニ於キマシテ、有識階級ニ屬スル有權者、即チ學者、教育家、新聞記者、辯護士、官吏其他有ユルサウ云フ職業ニ從事スル人ノ有様ハ如何デアッタカ、又地方ニ於テ覺醒シタル青年ノ大部分ハ、何レモ皆ナ普通選舉ノ必要ヲ認メテ、我黨若クハ我々同志ノ爲メニ投票シタコトハ、蔽フベカラザル事實デアリマス、此有識ノ階級ト云フモノハ、正ニ一國ノ眞ノ輿論ノ源泉トナツテ居ルモノデアリマシテ、我々ハ此特徴ハ、明カニ二百八十一名ノ大多數ヲ有シテゴザル所ノ政友會ガ、必シモ真正ナル國論ヲ代表スルモノニ非ズト信ズルノデアアル、又原首相ハ今回ノ總選舉ニ依リ、先ヅ國論ガ自カラ定マリ、由ツテ以テ政局ノ安定ガ出來タ、斯ウ云フコトヲ申サレテ居リマス、併ナガラ今日ノ政局ハ、誰ガ見テモ是デ安定シテ居ルト見ルコトハ出來ナイ、民心ノ動搖ハ日ニ益、甚シク何時政變ガ勃發スルヤ測リ難キ狀勢デアリマス、惟フニ現内閣ノ累積セル失政ハ、總選舉ニ依テハ帳消シニハナラナイ、又無能無爲ノ閣臣ガ、絶對多數ノ威力ニ依テ、有能ニハナリマセヌ、假令一昨日ノ議場ニ於テ不信任案ハ否決サレマシタトハ云ヘ、併ナガラ一步議院外ニ出レバ、現内閣ヲ呪咀スルノ聲天

下ニ滿チテ居リマス、乃チ其運命ハ正ニ風前ノ燈同様デアリマス、是レ即チ今日ノ多數黨ガ真正ナル國論ヲ代表シテ居ラヌト云フ第三ノ理由デアリマス、斯ノ如ク總選舉ノ結果ハ、我々ハ成程少數黨ニハナツテ居ル、併ナガラ此普選問題ニ關シテ、形式上ノ國民ノ審判ハ明瞭ニナツタニ拘ラズ、真正ナル輿論ヲ代表スルノ責任ハ我々ニアリト確信スルガ故ニ、茲ニ本期議會ニ於テ、更ニ衆議院議員選舉改正法案ヲ提出スルノ已ムヲ得ザルニ至ッタノデゴザイマスルカラ、ドウカ諸君ニ於テハ、十分ニ考慮ヲ煩シテ、反省シテ之ニ贊成セラレンコトヲ希望致シマス、若シ是ガ本年通過セズンバ來年之ヲ出シマス、來年通過セザレバ再來年出ス、又第二第三ノ解散モ辭スル所ニ非ズシテ、我々ハ此目的ヲ貫徹スルマデハ、何所マデモ勇往邁進スル決心デアル、惟フニ人類社會ニ於テ、今日ノ政治組織ノ形式ノ中デ代議政治ニ如クモノハ、無イト云フコトハ申スマデモナイ事デアアル、而シテ代議政治ナルモノハ、有ユル階級、有ユル方面ノ思想感情、及利害ヲ代表シ、之ヲ調和シ、之ヲ統一シテ、國家ノ意思ヲ決定スルモノデアルト云フコトハ、諸君モ御承知ノ通リデゴザイマス、隨テ普通選舉ナルモノハ、代議政體ノ當然ノ歸結デアルト云フコトハ、賢明ナル諸君確ニ御了承ノ事デアラウト思フ、是故ニ苟モ憲法政治ヲ行ハザレバ熄ム之ヲ行フ以上ハ、國情ノ許ス限リニ於テ、成ルベク一日モ早ク此普通選舉ヲ行フト云フコトハ、是ハ憲政有終ノ美ヲ濟ス上ニ於テ、御互ノ責任デアアルト謂ハナケレバナラヌノデアアル、而シテ國情ガ果シテ普通選舉ヲ許スヤ否ヤト云フコトヲ觀マスル標準ハ、何ニ依ルカト申セバ、詰マリ其國民ノ政治能力ガ、果シテ普通選舉ヲ運用スルニ足ルヤ否ヤニ依テ決スルノデアリマス、而シテ現時ニ於ケル我が日本一般國民ノ政治能力ガ、果シテ普通選舉ヲ運用スルニ足ルヤ否ヤト言フコトハ、何ヲ基ニシテ觀ルカト云フト詰マリ、國民ノ智識——普通教育ナリ、其上ノ教育ノ程度如何ニ依テ決スルノガ一番正當デアアル、御承知ノ如ク是マデハ政治能力ノ標準ハ、何ニ求メテ居ッタカト云ヘバ、財產階級、即チ資産ノ程度ニ依テ決メテ居ッタノデアアル、言ハズトモ知レタ事デアリマスルガ、詰マリ立憲國ノ祖國タル英吉利ニ於キマシテハ、歴史的ノ因襲トシテ、此財產制限ト云フモノヲ用キ來ツテ居ッタコトハ御承知ノ通りデアアル、併ナガラ今日一般ノ知識ノ程度ガ、有產階級ト或ハ無產

階級トニ於テ、殆ド其區別ヲスルコトガ出來ナイト云フ程、民智ガ一般ニ普及シテ居ルト云フコトハ、是モ爭フコトノ出來ナイ事デアアル、隨テ政治能力ヲ鑑別スル所ノ標準ヲ財產ニ求メルト云フコトハ、不合理デアアル、國民ノ知識ノ程度如何ニ依テ決定スルコトガ、最モ條理ニ適ツテ居ルモノデゴザイマス、今我國ニ於ケル所ノ一般國民教育ノ状態ヲ見ルナレバ、憲法ノ施行セラレタ時、即チ今日ヨリ三十年前ニ比較シテ見ルト、實ニ隔世ノ感アル程違ッテ居リマス、當時ハ義務年限ガ四年、場合ニ依レバ之ヲ三年ト爲スコトヲ得ト云フ、極ク程度ノ低イモノデアッテ、就學ノ歩合モ洵ニ少イ、殊ニ高等ノ教育ヲ受ケヤウト云フ者ノ範圍ノ非常ニ狭カッタコトハ、御承知ノ通りデアリマス、然ルニ今日ニ於テハ、固ヨリ義務年限ハ六年デアアルガ、六年以上ノ教育ヲ受ケル者、即チ高等教育ヲ受ケル者ハ、殆ド小學校卒業生ノ半分以上ニ上ツテ居ルノデアリマス、十數年來サウ云フコトニナツテ居ルノデアアルカラシテ、隨テ殆ド八年ノ義務教育ヲ受ケテ居ルト、同様なル状態ヲ呈シテ居ルト謂ハザルヲ得ナイ、外國ノ例ヲ見テ看マスト、立憲國ノ先輩、殊ニ普通選舉ノ元祖トモ謂フベキ佛蘭西ノ如キハ如何デアアルカ、義務教育ハ七箇年デアリマス、七箇年デアアルガ而モ五箇年ニシテ、此義務ヲ免ズルト云フ規定ニナツテ居ル、殊ニ伊太利ノ如キハ六箇年ノ義務教育デアリマシテ、三箇年ニシテ之ヲ免除スルト云フ規定ニナツテ居ルノミナラズ、之ヲ實際ニ見テ看マスト、伊太利ハ千九百十二年ニ普通選舉ノ制ヲ施イタ國デアリマスルガ、其當時ノ有權者ノ總數ハ七百七十五萬人、其中デ二百五十萬人ハ文字ヲ解スルコトノ出來ナイ、即チ三分ノ一ハ文字ヲ解スルコトノ出來ナイト云フ程度デアアル、決シテ我々ハ伊太利ノ眞似ヲスルカリ爲サレト云フコトハ申シマセヌ、申シマセヌガ、普通選舉ヲ各方面ニ行ウテ居ル國々ニ於ケル民智ノ程度ト、之ヲ我國ノ現在ニ於ケル民智ノ程度ト比較スルトキハ、決シテ諸外國ニ劣ツテ居ラヌト云フコトヲ斷言シ得ル譯デアアル、乃チ此點カラ考ヘマシテ、先ヅ議論ノ上ニ於テ——骨子ノ上ニ於テ我々ハ普通選舉ヲ我が帝國ニ行フト云フコトハ、寧ロ國情ニ於テハ既ニ之ヲ許シテ然ルベキモノダト云フ斷言ヲシテ、差支ナイト信スルノデアリマス、然ラバ他ノ方面カラ觀テ看ヨ、乃チ此時代ノ推移ノ趨向ニ依テ、我が國情ノ嚮フ所ノ如何ト云フコトヲ觀察ヲシテ見ルノ

ニ、御承知ノ通り有史以來ノ大戦争、其結果トシマシテ、世界ハ今ヤ方ニ改造ノ問題デ、非常ニヤカマシキ潮流ニ漂ハサレテ居ルト云フ状態デアアル、各國ノ政治家、學者、有ユル憂國ノ士ガ、如何ニ此狂瀾怒濤ヲ乗切ラウカト色々ニ苦心ヲ爲シツ、アル時代デゴザイマス、我ガ帝國ハ固ヨリ戦争ノ渦中ヨリハ離レテ居ツタ、併ナガラダ此大潮流ノ外ニ立ツテ、何時マデモ泰平ノ夢ヲ貪ルコトノ出来ナイト云フコトハ、判リ切ツタ事デアアル、現ニ過去一年間ニ於ケル所ノ、我精神界及物質界ニ於ケル狀況ハ如何デアリマスカ、政治上、經濟上、社會上、改造革新ト云フ機運ガ各方面ニ横溢シ居ルコトハ、疑フベカラザル事實デアアル、例ヘバ昨年ニ於ケル一年間ノ同盟罷工ノ状態ヲ見ルト、著シイモノダケデモ數十回ノ同盟罷工ガ行ハレテ居ル、大小ノモノヲ合スレバ、實ニ無慮六百以上ニ上ルト云フガ如キ驚クベキ現象ヲ呈シテ居ル、此一事ダケヲ以テ見マシテモ、我々ハ如何ニ時勢ノ急轉直下ニ來ツテ居ルカト云フコトヲ看取シテ、之ニ對スル適當ナル手段方法ヲ考ヘル必要ガアラウト信ズル譯デアアル、殊ニ一般ガ政治的ニ各自ノ自覺ヲ得テ、猛然起ツテ現ニ普通選舉ノ要求ヲ爲シツ、アルト云フコトハ、疑フコトガ出来ヌノデアリマシテ、何時マデモ彼等ヲ政治圈外ニ置キ、彼等ヲ冷遇シ、又彼等ヲ壓伏スルト云フ場合ニハ、疑モナク彼等ガ議院政治ヲ呪ヒ、終ニハ最モ忌ムベキ所謂直接行動、斯ウ云フモノヲ爲スニ至ルト云フ憂ノアルコトハ、判リ切ツタ事デアアル、天下ノ憂ニ先ダツテ憂フベキ者ハ、宜シク此點ニ就テ、最モ思フ致サナケレバナラヌ時デアラウト思ヒマス、然ルニ普通選舉ニ反對ヲスル人ハ動モスレバ曰ク、昨年選舉法ヲ改正シタノデアアル、然ルニ一回モ未ダ之ヲ行ハズシテ、再ビ是ガ改正ヲ爲スト云フガ如キハ、實ニ輕舉ノ至リデアアル、立法府ノ威信ニ關スルノデアアル、斯ウ云フコトヲ申ス原首相ノ如キモ、二言目ニハ此言葉ヲ以テ、自家ノ政策ノ辯明ヲ爲スツテ居ルノデアアル、併ナガラ政治ハ活物デアアル、泰平ノ御代ニ居レバ泰平ノ政治ヲ行ヒ、非常ノ時ニ於テハ非常ノ英斷ヲ以テ政治ヲスルノガ必要デアアルト信ズル、時勢ガ急轉直下シテ居ル際ニハ、之ニ應ジテ昨日拵ヘタモノヲ今日變ヘテモ、決シテ差支ナイノデアリマス、政府自ラニ於テモ、各種ノ事ニ就テ始終變ツテ居ル、我々ハ政府ノ無方針ノ多イコトハ悲シミマスケレドモ、併ナガラ時ト場合ニ依レバ過ハ改メ、改過遷善ノ

方法ヲ行フト云フコトハ、結構ナ事ダト思ヒマス、例ヘバ非常ニヤカマシイ問題ニナツテ居ル労働問題ハ如何デアリマスカ、實ニ重大ナル關係ヲ有シテ居ル問題デアアル、然ルニ此問題ニ關シテ、床次内相ガ從來保持シテ居ツタ所ノ意見ハ如何デアリマスカ、昨年ノ初メ頃マデハ、横ノ組合ハ宜シクナイ、縦ノ組合ヲ認メルト云フコトニセヨ、地方長官會議ニ於テモ、明カニ此事ヲ説明セラレテ居ツタ、然ルニ一箇年経タズシテ、今日ニ於キマシテハ餘程考ガ變ツテ來テ居ルヤウデアアル、サウ云フ舊式ナル組合制度デハ逆モイケナイ、唯ダ無暗ニ協調調和ト云フ事バカリデハイカナイ、矢張相當ニ權利ヲ認メ、労働者ガ資本家ニ對立シタ相當ノ權利ヲ認ムルト云フ必要ノ見地カラ今日ニ於テハ縦ノ組合ガ横ノ組合ニ變ツタヤウデアリマス、即チ労働組合法トシテ内務省ガ成案ヲ作ラレテ、一般ニ發表セラレタモノハ、縦ノ組合ニ非ズシテ横ノ組合デアアル、一箇年ノ間ニ床次内相ノ意見ガ全然變ツテ居ル譯デアアル、又市制町村制ノ如キ地方制度ニ就テモ、同様デゴザイマス、地方ニ於ケル階級制度ノ撤廢ト云フコトハ、中々重大ナル問題デアリマス、我々モ慎重ニ考慮ヲ要スル所ノモノト認メテ居リマスルガ、併ナガラ時勢ガ急轉直下シテ非常ナル勢ヲ以テ進ム以上ハ、之ニ應ジ、隨テ從來階級制度ヲ維持シテ居ツタ此制度ヲ打破ルト云フコトガ、最早今日デハ必要デアルト云フコトハ、殆ド滿天下ノ承認シテ居ル所デアリマス、政府ハ中々之ヲ行ハウトハシナカッタ階級制度ノ維持ト云フコトハ、是非共必要ダト云フ議論ヲ昨年邊リマデ非常ニ固執シテ居リマシタ、併ナガラ既ニ階級制度撤廢ニ關スル意見ヲ定メテ、必ヤ此來ルベキ冬ノ議會ニハ、之ヲ提案セラル、コト、確信シテ居ル、即チ此制度ニ關スル政府ノ意見ガ、一年ノ間ニ非常ナル變化ヲシテ居ルト云フコトハ、歴々トシテ我々ハ見ルコトガ出來ル譯デアアル、又陪審制度モ同様デアリマス、是モ我々實ハ歡迎スルモノデアアル、併ナガラ中々此陪審制度ヲ行フカ行ハヌカト云フコトニ就テハ、司法部内ハ勿論、各方面ニ於テモ贊否交々意見ガ多イ譯デアリマシテ、政府ハ是マデハ容易ニ之ヲ行ハウト云フ考ハ無カッタノデアリマスガ、殊ニ司法部内等ニ於テハ、容易ニ之ヲ許サウト云フ考ハ持ツテ居ラナカッタガ、聞ク所ニ依レバ既ニ此問題ニ關スル方針ハ決定シテ、恐ラク此次ノ議會ニハ、之ヲ提案セラル、順序ニナツテ居ルト云フコトヲ聞イ

テ、私ハ國家ノ爲メニ非常ニ結構ナ事ダト思フガ、兎ニ角此制度ナドモ、一年ノ間ニ時勢ノ急轉直下シタ結果、斯ノ如ク意見ノ變更ヲ爲サザルヲ得ザルニ至ッタ譯デアリマス、斯ノ如ク各種ノ制度ニ就テハ、一年カ二年ノ間ニ根柢的ノ變更ヲモ尙ホ辭サレズシテ、國政ノ改善ヲ行ハウト云フ考ヲ持ッテ居ルナラバ、其根本ニ當ル所ノ普通選舉各種ノ改造ノ土臺ニ當ル普通選舉ニ關シテハ、何ヲ苦ンデ之ヲ阻止シテ、相變ラズ頑固ニ之ニ反對スルノデアアルカ、我々其意ヲ知ルニ苦シムノデアアル、我々ガ是モ怪訝ニ堪ヘザル所ハ、原首相ガ第四十二議會ニ於ケル我黨ノ普通選舉論ノ説明者島田君ノ片言隻語ヲ捉ヘテ、我々ノ提出シタル普通選舉案ヲ以テ、國家ノ基礎ヲ危ウシ、社會ノ組織ヲ脅威スルモノナリト斷定シタ一事デゴザイマス、所謂一犬吠テ萬犬實ヲ傳フ、誠ニ一般ノ人々ガ尾ニ鱗ヲ附ケテ、有權者ヲ騙シ、普通選舉案ガ行ハル、ト云フコトデアレバ、何カ財産ヲ持ッテ居ル者ノ其財産ハ總テ取ラレテ、一般ノ無産階級ニ分配セラレルモノデアルト云フヤウナ愚ナコトヲ言ヒ、甚シキニ至ッテハ、普通選舉案ガ國家ノ基礎ヲ危ウスル、國體ニマデ響クモノデアルト云フヤウナ輕佻ナル議論ヲ唱ヘテ、地方民ニ臨ムト云フ狀況デアッタノデアリマス、若シ嚴格ナル意味ニ於テ衆議院議員選舉法ノ罰則ヲ適用スルナラバ、私ハ上ハ總理大臣ヲ首メ、普選案反對論者ノ大部分ハ、虛偽ノ風説ヲ流布シテ、他人ノ當選ヲ妨害シタモノデアアル、大正九年二月十二日島田君ガ普選案ヲ提出セラレタ理由ノ用語中ニ階級打破ト云フ言葉ヲ使ハレタノハ事實デゴザイマス、併ナガラ能ク當時ノ速記ヲ調べ見マシテ、何所ニ是ガ國家ノ基礎ヲ危ウスルトカ、社會ノ組織ヲ脅威スルト云フ事ガアリマスカ、能クソレヲ點檢シテ見ル必要ガアル、島田君ノ説明中ノ要點ニ關スルモノヲ二三抜イテ、諸君ガ此所ガ非常ニ危險ナ所デアルトカ、是ガ非常ニ怪シカラヌ所ダト思ハレル所ヲ抜イタモノヲ、試ミニ讀ンデ見マス、「唯今議題トナッテ居リマスル本案ヲ概略説明ヲ致シマスル其要旨ハ」——根本ガ此ニ在ル、「其要旨ハ大分細カク論ジマスレバ非常ニ多岐ニ涉リマス要スルニ其大眼目ハ財産ノ上ニ對スル選舉資格ヲ改メテ人其者ニ對スル所ノ選舉資格トスルト云フノガ大精神デアリマシテソシテ是ハ納稅資格ノ條件ヲ改メマスルノデ是ガ大眼目デアアル」大體ノ眼目ガ是ニ在ル、物ニ在ルノヲ人ニ改メ、

斯ウ言ハレタノデアリマス、又曰ク「物ニ對スル資格ヲ改メテ人ニ對スル所ノ資格ニ引直スノデアリマスカラ思想ニ於テハ大革命デアリマス言葉短シト雖モ此中ニ含マレタル所ノ意味ハ極メテ深遠デアリマス、如何ナル意味デアルカト云ヘバ階級制度ノ打破如何ニシテ階級制度ヲ打破スルト申シマスレバ、選舉權ノ大擴張デアッテ世ニ稱スル普通選舉案デアリマス」何カ是ガ國家ノ基礎ヲ危ウシ、社會ノ組織ヲ脅威スルヤウナ事ガアリマスカ又曰ク「不幸ニシテ議會中ノ聲ハ多數ニ反對デアルト云フニ至ッテハ此議會ノ改造ノ必要ガアルト思フノデアリマス、此議會改造ハ外デハアリマセヌ直接運動ハ私ハ嫌フノデアアル、何所マデモ憲法的順序ヲ經テ改造ヲスルト云フノガ進歩ヲ望ミ平和ヲ望ム所ノ良民ノ希望デアリマス」ドウデスカ、何所ニ是ガ國家ノ基礎ヲ危ウスルトカ、社會ノ組織ヲ脅威スルト云フヤウナ嫌ガアリマスカ、又曰ク「唯今存シテ國民多數ノ人ノ反感ヲ買ウテ居ル者ハ何ゾヤ曰ク藩閥ナリ曰ク軍閥ナリ此軍閥ト藩閥ハ最早日ハ西山ニ傾カントシテ居ル時ニ新タニ起ッタノハ黨閥デアリマス、更ニ新ニ起ッタノハ財閥デアリマス藩閥未ダ盡キズ軍閥尙ホ餘力ヲ收メズシテ黨閥之ニ加ハリ財閥之ニ乘ジテ此少數ノ人ガ日本ヲ支配シテ居ル事ガ若シ私ノ推定ノ如ク眞實デアラナラバ、慶應二年三年ノ日本ハ、大正ノ八年九年ニ稍、鬚髯タリト私ハ極メテ前途ヲ痛憂スルモノデアリマス」(中略)能ク聽イテ下サイ、是ハ諸君ガ非常ナル誤解ヲ爲サッテ居ルコトヲ認メルカラ、私ハソレヲ辯明スル、暫ク御聽下サイ——「其移變ヲ促ス手段ハ何ゾヤ選舉權ヲ擴張シテ多クノ人ニ投票權ヲ與ヘルト云フコトガ憲法的デアッテ進歩的デアッテ、更ニ平和的デアルト云フコトデアラナラバ之ニ向ッテ異論ハ無カルベキ筈ダト私ハ思ッテ居ル」斯ウ云フノデアリマス、徒ラニ他人ノ言論ニ難辯ヲ付ケルト云フコトガ御上手デアアルカ、得意デアアルカ知ラヌケレドモ、此言葉ヲ以テ立憲政治ノ將來ヲ呪ヒ或ハ國家ノ基礎ヲ危ウスルトカ、社會ノ組織ヲ脅威スルトカ云フガ如キ濡衣ヲ著セルニ至ッテハ、實ニ言語同斷ト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、昔三百年前ニ徳川家康ガ、方廣寺ノ大佛ノ鐘ニ「國家安康」ト云フ四字ガアッタ、之ヲ見付ケ出シテ、之ヲ以テ豊臣氏ヲ討滅スルノ開戦ノ口實

ニ使ッタコトハ、歴史ノ上ニ諸君御承知ノ通りデアル、彼ノ時分ニハ武力ノ戰爭ノ時代デアリマ
 ス、戰國時代デアリマス、此時代ニ於ケル此家康ノ態度ト雖モ、天下後世ノ識者ハ之ヲ矚蹙シテ
 居ルモノデアル、況ヤ今日ハ憲法政治ガ行ハレ、言論ヲ以テ雌雄ヲ決スルト云フ時代ニ於テ、斯
 ノ如キ片言隻語ヲ捉ヘテ、我々ヲ誣ヒ、天下ヲ誤ルニ至ッテハ、其罪惡決シテ許スベカラザルモノ
 デアリマス、假リニ百歩ヲ讓ッテ島田君ノ言ニ不當ナ事ガアッタトシマセウ、又言葉ニ誤リガアッ
 タノミナラズ、島田君ガ何カ特別ノ目的ヲ持ッテ居ッタコトガアッタトシマセウ、ソレガアッテモ一
 向構ハヌノデアリマス、何トナラバ法律施行ノ責任ハ、島田君ガ一人負ウノデナイ、今日ノ時ニ
 於テハ、總理大臣原敬氏ハ法律施行ノ全責任ヲ負ウテ居ル人デアリマス、ソレ故ニ夫子自ラドウ
 考ヘテ居ルカ、夫子自ラハ衆議院議員選舉改正法トシテ我々ノ提案シタモノ、即チ普通選舉ノ施
 行ト云フコトガ、果シテ國家ノ基礎ヲ危ウスルモノナリト考ヘテ居ラレルノデアリマセウカ、ド
 ウデアリマセウカ、先ヅ是カラ聽カナケレバナラヌノデアアル、此世界改造ノ大眞理ガ二三士ノ言
 論ニ依テ動カサレルトカ、或ハ一二ノ黨派ニ依テ——黨派ガドウ云フ目的ヲ持ッテ居ルニ拘ラ
 ズ、如何ナル目的ヲ持ッテ居ルトシテモ、其黨派ニ依テ眞理ガ變ヘラレルト云フヤウナコトハ、有
 リ得ベカラザル事デアアルノデアリマス、實ニ大正ノ今日ニ於テハ、奇々怪々ナル事ト謂ハザルヲ
 得ナイ、之ヲ要スルニ普通選舉ハ、立憲政治ノ當然ノ歸結ニシテ、恐ラクハ諸君ニ於テモ、早晚之
 ヲ實施セザルベカラザルコトハ、之ヲ承認セラレル所デアラウト思ヒマス、最早曩ニ諸君ガ主張
 セラレテ居ッタ所、即チ一回ダモ行ハズシテ改正ラスルト云フコトハ、宜シクナイト云フ御議論
 ハ、最早一回施行シタカラ其理由ヲ消滅シマシタ、願ハクハ諸君ニ於テモ、一ツ本心ニ立返ッテ一
 日モ早く其普通選舉案ノ施行ト云フコトニ注意シ、是ガ實行ニ努力セラレンコトヲ望ムノデゴ
 ザリマス、若シ徒ニ諸君ガ之ヲ抑ヘテ、大勢ニ逆行シテ、是ガ促進ヲ拒ムト云フコトデアッタナラ
 バ、其結果ハ實ニ却テソレコソノ之ヲ壓迫スル結果ハ、國家ノ基礎ヲ危ウスシ、社會ノ組織ヲ脅威ス
 ルト云フコトニナラウト思フノデアリマス、若シ天下ニ安全ナル政治ヲ行ハント欲スレバ、普通
 選舉ノ實行ヨリ急ナルハ無シ、又若シ天下ニ危險ナル政治アリトスレバ、此普通選舉實行ヲ拒ム

所ノ、政友會ノ諸君ヨリ非立憲ナルハ無イノデアリマス、願クハ政友會ノ諸君モ國家ノ大局ニ顧
 ミラレテ、ドウゾ過去ノ主張ヲ拋擲シテ、我々ノ提案ニ對シテ同意セラレンコトヲ切望致ス次第
 デアリマス、尙ホ吾々ノ提案中ニハ、選舉區ノ改正、即チ中選舉區ヲ拵ヘルト云フコト以外ニ、
 數個ノ改正ノ事項ヲ含ンデ居リマスケレドモ、是ハ細目ニ涉ルコトデアリマスカラ、何レ委員會
 ニ廻サレヤウト思フカラ、委員會ニ於テ委シク辯明スル考デアリマスカラ、ドウゾ此案ニ對シテ
 贊成セラレンコトヲ切望シテ、此壇ヲ降ルコトニ致シマス

植原悦二郎君ノ趣旨辯明

私ハ茲ニ我黨提案ノ理由ヲ説明致シマス、私ガ申スマデモナク、選舉法ハ憲法附屬ノ大法典デア
 リマス、雷ニ之ガ憲法附屬ノ大法典デアアルノミナラズ、立憲政體ノ本義カラ申シマスレバ、選舉
 法ハ立憲政治ノ基礎デアルト云ウテモ、敢テ過言デナイノデゴザイマス、眞實ニ立憲政治ガ實現
 出來ルカ出來ナイカト云フコトハ、憲法其モノヨリハ、寧ろ選舉法ノ如何ニ依ルト云フテモ事實
 ノ上カラ誤リト申スコトガ出來ナイノデアリマス、名義ニ於テ我國モ立憲政體デアアルニ違ヒア
 リマセヌ、併ナガラ立憲政體ノ本義ニ基イテ、國民ノ意思ニ依テ政治ヲ行フト云フ徹底的ノ事實
 ガ我國ノ政治ノ現狀ニ於テ實現サレテ居ルカト申シマスレバ、遺憾ナガラ私共ハ之ヲ否定シナ
 ケレバナラヌノデアリマス、立憲政治ノ論理的歸結ハ、國民全體即チ普通選舉ノ實現ニ依ッテ實
 現サルベキモノデアアル、若シ之ヲ否定スル者ガアルナラバ、立憲政治ノ敵デアリマス、事實ニ於
 テ此理由ハ御異議ノアルベキ筈ハナカラウト思ヒマス、唯ダ問題トナリマスル所ハ、昨年以來色
 色ノ議論ヲ取纏メテ考ヘテ見マスケレドモ、三ツノ點ニ止マルト思ヒマス、第一ニ普通選舉、即
 チ唯今實現シヤウト云フコトニ異議ノアル、第一ノ點デアリマス、第一ノ點ハ、三圓ノ直接國稅
 ヲ基礎トシタ選舉法ガ、昨年定メラレタバカリデアアル、故ニ此選舉法ヲ一年或ハ二年ニ於テ、改
 正スルコトハ出來ナイコトデアアルト云フコトデアリマス、第二ノ理由トスル所ハ、今日ノ狀態ニ
 於キマシテ、普通選舉ハ國民ノ要望スル事ニ非ズト云フコトデアリマス、第三ノ反對スル所ノ理

由ハ普通選舉ハ或ル意味カラ言ヘバ、過激思想ニ屬スル所ノ系統ニ依テ生ジ出タルモノデアアル、普通選舉ヲ實行スレバ、我が國家ノ基礎ヲ脅威スルモノデアアル、此三點デアリマス、之ニ就テ私共ハ一々細密ナル所ノ解剖ヲ致シ、果シテ此根柢ガ正シクアルカ、正シクナイカト云フコトガ、普通選舉ヲ今日實行スルヤ否ヤト云フ事ノ、最後ノ決定ヲ見ラレルノデアアルト信ジテ居ルノデアリマス、故ニ私ハ此三ツノ普通選舉實行ノ反對ニ就キマシテ、細密ナル所ノ解剖ヲ企テ、見タイト思ヒマス、第一ノ問題ニ就キマシテゴザイマス、昨年選舉法ヲ改メタノデアアルカラシテ、之ヲ一二年ノ中ニ改メルト云フコトハ、輕舉デアアル、輕卒ナ事デアアル、政府トシテハ、斯ノ如キ事ハ出來ナイ事デアアルト云フ議論デアリマスガ、御承知ノ通り法律ハ、時代ノ變遷ニ伴ウテ變化スル程宜シイノデアリマス、若シ之ヲ希望シナイナラバ、日本ヲ封建時代ノ如キ状態ニ致シ日本ヲ鎖國ノ如キ状態ニ至シ、日本ヲ世界各國カラ切り離スナラバ、此状態ヲ維持スルコトガ出來マス、併ナガラ今日ノ日本ハ日本ノ日本デアリマセヌ、今日ノ日本ハ世界ノ日本デアリマス、故ニ我國ガ世界ノ競争場裡ニ於キマシテ我國ノ今日ノ地位ヲ維持シ、更ニ之ヲ進展セシメヤウトスルナラバ、我が國家ヲシテ世界ノ大勢ニ順應セシムルト云フコトハ、最モ必要ナル點デアリマス、ソコデ問題トナリマスル事ハ、此二三年ノ間ノ世界ノ大勢ハ如何デアアルカ、之ニ順應スルニ方ッテ、我が國內ニ於テモ、相當ノ施設ヲ施ス必要アリヤ否ヤト云フ問題デアリマス、私ガ申スマデモナク、「ナポレオン」戦争ヨリ歐洲大亂マデハ、約一世紀以上ノ時日ヲ費シテ居リマスガ、「ナポレオン」戦争以來歐洲ノ大亂マデニ於ケル所ノ一世紀有餘ノ年月ト、歐洲戰亂開始ノ後此五六年ノ年月ニ於テ世界ノ變化ハ如何デゴザル、此六七年ノ間ニ世界ハ急轉直下ニ變化致シタコトハ私ガ申サズトモ、諸君ガ御承知ノ事デアラウト存ジテ居リマス、併ナガラ之ヲ明瞭ニスル爲メニハ、一二ノ事實ヲ捉ヘテ、之ヲ諸君ノ面前ニ立證スル必要ガアルト承知致シテ居リマス、歐洲戰亂ノ爲メニ殆ド世界ノ政治ハ一變致シマシタ、世界ノ勢力ノ均衡ハ一大變化ヲ致シマシタ、數年前ニ於テ、動モスレバ世界ニ於テ覇ヲ稱ヘルデアラウト言ハレタ、「カイザル」ガ今日ノ如キ末路ニ陥ルト誰レ一人豫想シタ者ガアリマスカ、數年前ニ「カイザル」ハ、我ハ神ノ命ニ依テ獨逸ヲ

支配スルノミナラズ、歐洲ヲ支配シ世界ヲ支配スルモノデアアルト言ッタ時ニ、殆ド歐米ノ國民モ、呆氣ニ取ラレテ居タノデアリマス、然ルニ世界ノ國民ガ殆ド豫想ダニシ能ハザル所ノ「カイザル」ガ、今日ノ悲境ニ立至ッタ状態ヲ見マシテモ、如何ニ世界ガ急轉直下ノ状態ニ在ルカト云フコトガ、御了解デゴザイマセウ、數年前ニ露國、露國ト申セバ其人口ニ於テ、其富源ニ於テ其領域ニ於テ殆ド世界ニ此ノ右ニ出ヅルモノガ無イ程ニ、強國ト睨マレテ居ッタノデアリマス、其露國ガ今日如何ナル状態ニ立至リマシタカ、五六年前ニ露國ノ今日ノ状態ヲ豫想シ得タ者ハ、殆ド無イト申シテモ差支ナイ、ノミナラズ日本ト最モ關係ノアル所ノ英國デ申シマシテモ、數年前ニ英國ガ、其外交軍備ノ問題ニ對シテ、其領土タル所ノ濠洲、加奈陀、南阿、新西蘭等ニ向ッテ外交軍事ノ權ニ參與セシムルト云フガ如キコトハ、英國ノ政治家自ラモ、能ク之ヲ想ヒ當ラザリシ所デアリマス、ソレヲ今日サセテ、彼等ガ何トモ不思議トモ異様トモ思ッテ居リマセヌ、是ハ國際上ノ勢力ノ立場カラノ御話デアリマス、併ナガラ是等ノ國家ガ、此歐洲戰亂ノ爲メニ、悉ク國際關係ノミナラズ、其國內ニ於テ戰後ノ改造ニ汲々トシテ居ルデアリマセヌカ、戰後ノ改造トハ何ヲ意味スルノデアアルカ、歐米諸國ニ於テ、立憲政體ハ其名ノ如ク實現サレテ居リマス、併ナガラ立憲政治ガ普通選舉ヲ基礎トシテ實現サレマシテモ、今迄ノ幾多ノ傳統的ノ理由ニ依リマシテ、歐米諸國ニ於テモ、行政機關、外交ノ基礎、國防ニ於テモ缺陷アルコトヲ、歐洲ノ戰亂ニ依テ自覺スル機會ヲ得タノデアリマス、之ガ爲メニ歐米諸國ニ於テハ、戰後ノ改造ト云フコトヲ以テ、戰後ノ國家經營ノ第一要求ト致シテ居リマス、此事ハ私ガ申上ゲズトモ諸君御承知ノ事デアアル、若シ諸君ガ世界ノ大局ヲ考ヘ、我國ノ現狀ニ就テ十分ナル研究ヲ遂ゲ、我國ヲシテ世界ノ一等國タル所ノ現狀ノ地位ヲ維持セシメントスルナラバ、我國ノ總テノ改造ノ基礎タル所ノ普通選舉ニ、反對ノ起ルベキ筈ハナイノデアリマス、尙ホ諸君ニ、國際上ノ關係ヲ國家ノ地位バカリデナク、歐洲ノ戰亂ガ齎シタ、思想上ノ變化ノ急轉直下ノ一例ヲ舉ゲテ申上ゲマス、言フマデモナク英國ト云ヒ米國ト云ヒ、自由主義ト個人主義トヲ以テ、金科玉條トシ來ッタ所ノ國デアリマス、故ニ歐洲大陸ニ於ケル所ノ佛國ト云ヒ、獨逸ト云ヒ是等ノ國ガ盛ニ國家ニ於テ鐵道ヲ經營シ、國家ニ於テ幾

度ノ官業事業ヲ經營スルニ拘ラズ、英國ニ於テモ、米國ニ於テモ、傳統的ノ自由主義ト個人主義トヲ尊重スルガ故ニ、是等ノ事業ヲ悉ク排斥シテ居リマシタ、然ルニ歐洲戰亂ノ結果、如何ナル状態ニナリマシタカ、若シ歐洲戰亂前ニ於テ一ノ社會主義者ガアツテ、國家トシテハ食糧品ニ對シテモ公定相場ヲ定メナケレバナラヌ、國家トシテハ國民ノ生活ノ安定ヲ圖ラントスルガ爲メニ物價ノ調節ヲモ營マナケレバナラナイト申シマシタナラバ、是ゾ危險人物トシテ、歐米諸國ニ於テモ米國ニ於テモ、政府自ラ物價ノ調節ヲ圖リ、政府自ラ幾多ノ事業ヲ經營スルノミナラズ、其本來ノ主張ノ個人主義ヲ棄テ、鐵道國有論マデモ既ニ唱ヘテ居ルノミナラズ、更ニ一段進ンデ土地國有ノ議論マデモ盛ニ行ハレテ居ルノデアリマセヌカ、是等ノ點ヲ考ヘマシタナラバ、如何ニ歐洲戰亂ガ此數年ノ間ニ思想ノ上ニ、物質ノ上ニ、非常ナル所ノ變化ヲ及ボシタカト云フコトハ明瞭デアラウト思ヒマセヌ此状態ヲ考ヘマシテ、若シ日本ガ歐洲ノ大勢、即チ世界ノ大勢ニ順應シ、日本國家ノ健全ナル發達ヲ圖リ、日本ノ國家ノ現在ニ得タル所ノ地位ヲ確保シ、更ニ其進展ヲ圖ラウトスルナラバ、總テノ政治ヲ國民ノ基礎ノ上ニ置テ普通選舉ニ、反對スベキ理由ハ無イノデアリマス、是ハ對外關係ヨリ來ル所ノ、普通選舉ノ必要ナル理由デアリマス、更ニ歩ヲ進メマシテ國內ノ状態カラ見マシテ、普通選舉ハ果シテ時期尙早デアルカ、又是ガ果シテ國民ノ要望ニ副ハザルモノデアアルカト云フコトヲ、研究スベキ必要ガアルト思ヒマセヌ、第一ニ我國ガ鎖國ノ状態ヲ破リマシテ、安政條約ヲ締結シタ以來、其六十年間ノ日本ノ進歩發達ハ、頗ル急激ナルモノデアッタニ違ヒアリマセヌ、ケレドモ其六十年ノ世界ニ無比ナキ長足ノ進歩デアルト云フ此時代ノ進歩ト、此五六年ノ日本ノ進歩トヲ比較致シマシテ考ヘマシタナラバ、進歩發達ノ問題ハ年月ノ問題デハナイ、若シ進歩發達ノ問題ガ年月ノ問題デナク、總テノ其社會ノ境遇ニ依テ、或ハ其社會ノ思想上ノ變化ニ依テ、變化ヲ及ボスモノデアルト云フ事ガ分リマシタナラバ、昨年改メテ選舉法デアアルカラ、今年之ヲ改メルト云フコトハ、輕舉ナリト云フ論據ハ、根柢カラ覆サレナケレバナラナイノデアリマス、諸君、御承知デモゴザイマセウ、此五六年ノ間ニ於ケルガ如ク、日

本ニ經濟産業ノ急激ナル進歩ト變化トヲ見タコトガ、日本ノ歴史上何所ノ點ヲ見マシテモ、之ニ比較スベキモノガアリマセウカ、又日本ノ思想上ノ問題ヲ考ヘテ見テモ宜シウゴザイマス、數年前マデハ「カール、マルクス」或ハ「クロボトキン」ト云フヤウナ著書ニ至ツテハ、殆ド日本ノ書店ニ於テ發見スルコトハ出來ナカッタノデアアル、然ルニ今日ハソレガ何處ニ於テモ發見セラル、ノミナラズ、國民ノ或一部ハ競ウテ之ヲ讀ンデ居リマスノミナラズ、此二三年ノ間ニ於ケル所ノ物價ノ暴騰ト、貧富ノ懸隔ノ非常ナル所ノ状態ト、細民ノ生活難ノ爲メニ、非常ナル所ノ人心不安ノ状態ガアルノミナラズ、之ヲ本トシテ、思想上ニ於テモ一大激變ヲ見タコトハ争フベカラザル事實デアリマス、私ハ此問題ヲ明ニスル爲メニ生活上ノ不安ガ第一ニ國民ノ間ニ作ラレテ、今日スレバ宜イカト云フ問題ガ、或者ヲシテ「カール、マルクス」ヲ慕ヒ、或者ヲシテ「クロボトキン」ノ著書ニ憧レシムル所以デアリマス、思想ガ本デナクテ、吾々ガ好マザルト云フ思想ヲモ國民ヲシテ吸收セシムルノハ、國民ノ生活不安ノ状態ガ其根柢ヲ作ツタノデアリマス、又モウ一ツ私ハ例ヲ引イテ申上ゲマス、此三四年前ノ事デアリマス、「アトリスミス」ガ日本ニ參リマシテ飛行ヲヤッタ、彼レノ曲乘ヲ致シマシタトキニハ、我國ノ陸海軍ハ「アトリスミス」ノ飛行機ハ、彼レハ見世物ノ飛行機デアルト云フテ居リマシタ、然ルニ私共ハ昨年陸軍ニ招待サレマシテ、各務ヶ原ヘ行ツタ、所謂佛蘭西カラ態、將校ヲ雇入レテ來テ、高等飛行術ダト云フ「アクロバチックフライング」ト云フモノハ、「スミス」ノヤッタ曲乘ニ違ヒナイノデアアル、政府部内ニ於キマシテモ數年前ニハ「數年前デハアリマセヌ、三四年前ニ彼レハ見世物ノ飛行機デアルト云フウタモノヲ、歐洲戰亂ノ實狀ヲ見テ覺ル所ガアツテ、態、佛蘭西カラ將校ヲ呼ンデ、此曲乘ノ飛行術ヲ軍事上ニ應用シナケレバナラナイト云フ、状態マデニ立至ツタ實例ヲ考ヘマシテモ、政府當局ガ氣付イテ居ルカ、氣付イテ居ラヌカト云フコトハ別問題デアリマスガ、歐洲戰亂ノ齎ラシタ物質的ノ變化ト、生活上ニ對スル所ノ一大變革ト、思想界ノ激變トハ争フベカラザル事實デアアル、是等ノ事實ヲ私共ガ考慮致シマスル場合ニ、普通選舉ガ時期尙早デアアル、昨年ヤッタ選舉法デアアルカラ、今年之ヲ改メ

ルコトハ出來ナイト云フ事實ハ、悉ク消滅シナケレバナラナイ。法律ハ人間ノ爲メニ作ルモノ
 デ、法律ニ依テ吾々ガ——何時デモ法律ノ規定ニ依テ拘束サルベキモノデナク、之ガ時代ニ適應
 セザルモノデアラナラバ、私共ハ何時ナリトモ之ヲ改ムルニ差支ガ無イノデアリマス、若シ昨
 年作ッタ法律デアルカラ、之ヲ改メレバ法律ノ權威ヲ失スルト云フヤウナ、政府當局者ニ御考ガ
 アッタナラバ、此當局者ハ官僚政治家デアアル、軍閥政治家デアアル藩閥政治家デアアルト云フニ外ナラ
 ナイノデアアル、吾々ハ國民ノ要求スル所ニ依ッテ、國民ノ生活状態ニ適フ法律ナラバ、何時ナリト
 モソレニ適應スベキ法ヲ定ムルコトガ、立憲政治ノ本義デアリマス、此點カラ考ヘマズレバ、私
 共日本ノ國內ノ事情ニ就テ考ヘマシテモ、今日普通選舉ガ尙早デアアルト云フ理由ハ、何所ニモ成
 立タナイト思ヒマスガ、若シ強テ理由ヲコヂケレバ、茲ニ一ツアルト思フ、選舉法ノ問題ニ依
 テ議會ヲ解散シタ、而シテ、選舉法ノ問題ヲ選舉場裡ノ問題トシテ總選舉ガ行ハレタ、其結果政
 府與黨ガ絶對多數ヲ得タガ故ニ、是ガ國民ノ議論デアアルト云フ議論ヲ以テ普通選舉ニ今日御反
 對爲サルカモ知レナイ、是ノ問題ニ就テハ私ハ斯ノ如ク解釋シス致スコトガ當然デアアルト思
 フ、若シ私共ガ普通選舉ガ國民ノ要望デアルカ如何ト云フコトヲ定ムルニハ、今日選舉權ヲ有
 テ居ラナイ者ニ尋ネナケレバナラヌト思フノデアリマス、今日選舉權ヲ有シテ居ル者ハ、我國ノ
 六千萬ノ人口デ僅カ三百萬、而モ是ハ直接國稅ヲ一箇年ニ三圓宛支拂フ所ノ資産階級デアリマ
 ス、我國ハ資産階級ノ國家デアアリマセヌ、我國ハ國民全體ノ國家デアアルト云フコトヲ、苟モ政
 治家タル者ハ念頭ニ置イテ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、此場合ニ若シ私共ガ選舉權ヲ擴
 張スルカシナイカト云フ問題ヲ國論ニ問ハウト云フナラバ、歐米諸國ノ一部ニ於テ行ハレテ居ル
 所ノ「レフエレンダム」一般投票ニ依テ採決スルヨリ、公平ナル判斷ヲ得ル途ハナイノデアリマ
 ス、併ナガラ是ハ我國ノ今日ノ法律ノ上カラ、實行不可能ナルコトデアアルト致シマスレバ、國家
 ノ政局ニ立ツ者ハ、此問題ニ就テ、深甚ナル考慮ヲ費サナケレバナラヌノデアアル、原内閣ハ唯今
 問題トナリマシタ所ノ、陪審制度ヲ採用スルト云フコトヲ聲明爲スッテ居リマスガ、陪審制度ニ
 依レバ、幾分是マデノ司法官ノ特權ヲ失フコトニナリマスガ故ニ、司法官部内ニハ隨分反對ガア

リマス、若シ陪審制度ヲ司法官全部ノ會議デ、採用スルカ採用シナイカト云フ問題ヲ出シタナラ
 バ、必ズ否決サレト思ヒマス、ソレヲ以テ、陪審制度ガ國民ノ要求デアアルトカ、要求デナイトカ
 陪審制度ヲ日本國家ニ行ウテ善イトカ惡イトカト云フ問題ハ、凡ソ一國ノ經綸ヲ考慮スル政治
 家ノ、俄ニ斷定スベキ事デナイノデアリマス、況ヤ今日ノ選舉法ハ、三圓ト云フ納稅資格ヲ制限
 サレ、而モ日本ノ六千萬ノ中、僅ニ三百萬ノ有權者アルノミナラズ、更ニ諸君ニ向ッテ問ハント
 スル事ガアル、今日ノ選舉場裡ノ腐敗状態、今日ハ如何ナル——是ハ諸君、暫ク憲政會ノ諸君、或
 ハ政友會ノ諸君ノ御耳障リニナリマスカ知レマセヌガ併シ眞理ヲ正サントスル爲メニハ、冷靜
 ニ國家ニ重大ナル此問題ヲ審議スル場合ニ、暫ク御忍ビテ願ヒタイト思フ、デ此場合ニ今度ノ總
 選舉ニ於テ、選舉干渉ガアッタト言ヘバ、政友會ノ諸君ハ大隈内閣ノ當時ハドウダト仰シヤル自
 分ノ内閣ノ時ニ有ッタ無イカノ事實ヲ明カニスルコトヲ避ケテ、大隈内閣ノ時代ハドウダ、寺内内
 閣ノ時代ハドウダ、此事實ハ何ヲ證明スルカ、如何ナル内閣ガアッテモ——如何ナル内閣デアッテ
 モ、選舉ハ内閣ノ便利ノヤウニ多少干渉モシ、不公平ナル遣方ヲスルト云フ事實ヲ證明スルモノ
 デアリマス、是ハ公平ニ考ヘマシテ、私共此處ニ列スル所ノ議員ニ其眞情ヲ語ラシメタナラバ、
 日本ノ今日ノ選舉場裡ヲ以テ御満足ナサル方ハ、一名モ無カラウト思フ、實際ニ於テ國民ノ輿論
 ヲ代表スルコトニナッテ居リマセヌノミナラズ、今日ノ三圓階級ノ農民ノ選舉人ト、今日ノ教育
 ヲ受ケマシタ青年諸君トハ、政治上ノ見解ノ問題ニ就キマシテ、甚シキ差ガアル、親爺ガ有權者
 デ、其子ハ權利ヲ有ッテ居ラナイガ、國家社會ノ問題ヲ考慮スル所ノ能力ニ就テハ、如何ニ是ガ優
 テ居ルト云フ此事實ハ、何人ト雖モ否定ハ出來ナイト思ヒマス、私ハ諸君ニ向ッテ、國家ノ爲メニ
 國民ノ爲メニ、此重大ナル所ノ問題ニ就テ、黨利黨略ノ目的ヲ別トシテ、自己ノ立場、個人的ノ利
 害得失ヲ考慮スルコトナク、日本六千萬ノ國民ノ爲メニ、公平ナル所ノ慎重審議ヲ煩シタイノデ
 アリマス、今日ノ如ク我ガ選舉界ノ腐敗ノ状態ハ、殆ド私共ガ言フニ忍ビザル状態デアリマス、
 斯ノ如キ腐敗シテ居ル所ノ政界ノ實狀ヲ知ッテ此状態ヲ知ッテ此状態ニ於テ多數ヲ制シタカラ、是
 ガ國論デアアルト云フ議論ハ、聊カ以テ受取レナイ議論デアリマス、此立場ヲ申シマシテモ今日普

通選舉ノ要求ガ、國民ノ要望スル所デナイト云フ議論モ亦成立タナイコト、存ジマス、ソコデ私共ガ第一、第二ノ普通選舉ニ反對スル所ノ理由ハ、之デ相當ニ解剖サレ、其根柢ヲ覆サレタモノト信ジテ居リマス、更ニ第三ノ問題デアリマス、第三ノ問題ニ就キマシテハ、十分ナル所ノ諸君ノ御考慮ヲ煩シタイ、普通選舉ハ我が國家ノ基礎ヲ危ウクスルモノデアアル、普通選舉ハ或ル意味カラ言ヘバ、露西亞ノ過激派思想ニモ酷似シテ居ルト云フ議論デアリマス、幾萬ノ印刷物ヲ以テ縣廳カラ郡長カラ、斯ノ如キ思想ヲ喧傳シタ事實ハ證明出來マス、諸君ガ此事實ヲ否定ナサルカ私共ガ普通選舉ヲ主張スル所ノ根柢ガ何所ニ在ルカヲ、諸君ニ明瞭ニ御理解ヲ願ヒタイ、暫クノ間御清聴ヲ煩シタイ、私共ハ斯ウ云フ見地ニ於テ、普通選舉ヲ主張スルノデアリマス、歐羅巴戰爭ノ實狀ニ照シマシテ、一番有力ナル所ノ國家ハ少數者ガ政權ヲ左右シテ居ッタ所ノ國家デナク、全體國民ガ國家ハ我物ナリト、義務ト責任トヲ感ジタ者ガ最も有力ナルモノデアルト、斯ウ云フコトデアリマス、若シ此通りガ事實デアリマスナラバ、普通選舉ニ反對スル理由ハ今日ニ於テ何所ニモ存立シマセヌゾ、ノミナラズ、是ガ歐羅巴戰爭ノ事實ニ於テ世界ニ與ヘラレタ新シイ思想デアアルベカリデナク、我國ノ建國ノ精神カラ申シマシテモ、一視同仁、四民平等ト云フコトハ、我國ノ建國ノ精神デアリマス、然ラバ三圓以上ノ者ガ政治ニ携ハル權能ヲ有シテ、其他ノ國民ニ其代表者ガ之ヲ拒絕スルト云フ理由ガ何所ニ存在シマスカ、私共ハ三圓以上ノ納稅ヲシテ居ル者ノ代表者デアリマスヨ、其等ノ投票ニ依テ得タ——二百萬ダケノ投票ニ依ッテ得タ所ノ吾ヒガ、若シ一番有力ナル國家ハ、國民全體ヲシテ其國家ニ對スル責任ト義務トヲ感知セシムルモノナルノミナラズ、我國ノ建國ノ精神ニ依ッテ、四民平等ノ此原則ヲ實現セントスル場合ニ普通選舉ニ反對スルト云フ理由ハ、如何ナル根柢ニ御立チデゴザイマスカ、當ニ思想上ノ問題ベカリデアリマセヌ、之ヲ總テノ問題ノ上ニ就テ私ハ考慮致シタイ、私共ガ國民ニ、普通教育ヲ國民ノ義務教育トシテ授ケテアル、何デアリマスカ、私共ハ是ガ直接稅三圓以上ヲ納ムル者ノ子弟デアアルカラナイカラト云フコトノ問題ヲ度外シテ、日本ノ國民全體ヲ向上發展セシムルコトガ、日本ノ國家ノ最も有力ナル者ナラシムルト云フ此論據ニ依ラナケレバ、普通教育——國民義務

教育ノ根柢ハ成立タナイノデアリマス、此立場カラ言ヒマシテ、私共ハ教育ニ於テモ、今日小學教育ベカリデナイ、中學校教育、大學教育ニ至ルマデ、國民ヲシテ機會ノ均等ヲ得セシムルコトガ必要デアルト思ヒマス若シ日本ノ國家ヲシテ最も有力ニ發達セシムルコトガ、日本ノ國內ニ生レタ總テノ國民ノ其全部ノ才能ヲ最高度ニ發達セシメ之ヲ發揮セシムルコトガ、國家ヲシテ、最も有力ナラシムル所以デアリ、個人トシテ、人生生活ノ充實ヲ圖ラシムル所以デアルト致シマスレバ、原則ニ於テ之ニ反對スルコトガ出來ヌノミナラズ、今日之ヲ否定スル理由ハ、如何ナル點カラ見テモ成立シナイノデアリマス、私ハ第一第二第三ノ普通選舉反對ノ理由ニ對シテハ、之ニ對抗シ、而モ其根柢ヲ打破リ、吾ヒノ主張ヲ力説シ得ルダケノ根柢ヲ申上ダグタイト思ヒマス、更ニ進ミマシテ我國ノ現狀ハ如何デアルカ、我國ノ現狀ハ、政治ニ就テモ、産業ニ就テモ、教育ニ就テモ、如何ナル方面ヲ見マシテモ、殆ド明治以來官僚、藩閥、薩閥長閥ノ餘弊ヲ承ケテ、殆ド傳統的ノ機關ヲ有スルノミニシテ、總テノ狀態ニ於テ行詰ツテ居ルト云フコトハ、諸君ニ於テモ御異論ノナイ所デアラウト思ヒマス、第一ニ財政ノ問題、稅制ノ問題ニ就テモ、政府ハ之ヲ認メテ居ルデアリマセヌカ、今日ハ財政稅制ノ根本的的改革ヲ要スル、濁リ財政經濟ノ根本的的改革ベカリデアリマセヌ、政治ニ於テモ、私共ハ普通選舉ヲ實現シ、總テノ問題ノ基礎トナル所ノ、國民生活ノ要素タル政治ノ基礎ヲ國民全體ニ置クト云フコトガ最も必要ナル事デハナイカ、又財政經濟ノ問題ベカリデアリマセヌ、諸君ニ對シテ持ニ御考慮ヲ願ヒタイ問題ハ此數年間ニ起リマシタ人心ノ動搖ハ、勞働ト資本トノ問題デアリマス、此ノ問題ニ就キマシテハ、恐ラク資本家モ隨分戰々競々タルモノデアリマセウ、今日ノ勞働者ノ狀態ガ此狀態デ推シ進ミマスレバ、殆ド産業ノ根本ヲ危クスルト云フコトニ就テハ、必ズ資本家階級ノ方々モ憂慮セラレテ居ルニ違ヒナイト思ヒマス、又勞働者ノ立場カラ申シマスレバ、勞働者ハ時々刻々其生活ヲ脅威サレテ居リマス、今日ノ經濟組織、産業組織ノ狀態ハ資本家ニ重クシテ勞働者ニ輕キ狀態デアリマス、故ニ我國ニ於キマシテモ、貧富ノ懸隔ハ年ヲ逐ウテ著シクナリマス、明治初年頃歐米諸國ノ人ガ我國ヲ訪問シテ、一番羨シダノハ何カト云ヘバ、日本ノ國民ハ實ニ貧富ノ懸隔ガ少ナイ、國民殆

ド生活ノ困難ヲ感ズル者ガ無イト言ハレタ、其状態ハ今ヤ一掃セラレテ、今日ニ於キマシテハ、多數ノ國民ハ生活ノ安定ヲ得ザル状態デアリマス、若シ國民ガ生活ノ不安ニ襲ハレマシタナラバ、其結果ハ寺内内閣ノ時代ノ米相場ノ實例ニ依ツテモ分ル、生活ヲ脅サレタ者ガ失望ノ状態ニナル時ニハ、社會ノ秩序ヲ混亂スルト云フ事實ハ、諸君御承知デアリマセウ、今日ニ於テ國民ノ間ニ生活ノ不安ニ襲ハレテ居ル者ガ無イカ、之ヲ訴ヘル途ハ何デアルカ、參政權ニ依ツテ訴ヘルヨリナイ、自己ノ生活ノ安定ヲ得ル一ノ要素ハ、政治ニ於テ發言權ヲ得ルト云フコトデアリマス、政治ニ發言權ヲ有セザル者ハ、其主張ヲ國家ノ政治ノ上ニ實現スルコトハ出來ナイ、唯今モ下岡君ガ申サレマシタガ、若シ斯ノ如キ政治ノ状態ガ日本ニ繼續スレバ、望ムベキ事デハナイ、我々ガ實ニ忌ミ嫌フコトデアルガ、或ハ直接行動ニ出ヅル虞ナシト言ウタコトハ、結局此勞働階級ノ者ガ生活ノ不安定ヲ訴ヘル、政治的ノ針路ガ開カレザルニ於テ在ルト謂ツテモ宜イノデアリマス、此意味ニ於テ普通選舉ハ、勞働ト資本ト云フヤウナ問題ガ、社會的ニ現レテ來タ場合ノ安全瓣デアリマス、勞働ト資本トノ問題ヲ温情主義ニ非ズシテ、協調ノ立場ニ勞資ガ協力一致シ、國家ニ對シ、産業ニ對シ、義務ト責任トヲ完全ニ感ゼシムル途ハ、唯ダ普通選舉ノ安全瓣ヲ開クノ一途アルノミデアリマス、此意味ニ於キマシテモ、私ハ當ニ政治上ノ哲理ノ上カラ、普通選舉ノ必要ヲ論ズルバカリデナク、今日ノ日本ノ實狀ニ鑑ミマシテモ、之ヲ今日實現スルコトハ、勞資協調ノ問題ヲ解決スルニモ、我國今日ノ世界ノ大勢ニ順應スベク要求シテ居ル所ノ、諸般ノ根本的改革ヲ爲スニ就テモ、此普通選舉ノ實行ガ總テノ問題ノ鍵デアルト思ヒマス、此意味ニ於テ私共ハ普通選舉ヲ主張シ茲ニ前ノ四十二議會ニ於キマシテ此問題ノ爲メニ解散サレ、今日政府與黨ガ多數ヲ制スルト言ツテ居リマスケレドモ、其選舉ハ國民ノ輿望ト認ムルニ足ラズ、情實ヤ制度ノ上ニ行ハレタモノデアルト云フコトハ、日本六千萬ノ國民中、今日有權者ハ僅ニ二百萬ニ過ギナイト云フ此事實ニ基キマシテ、如何ニ議會ニ於テハ多數ヲ制シマシテモ、是ハ國民ノ輿望デナイト云フ確信ヲ私共ハ有スルガ故ニ、茲ニ此選舉法改正案ヲ提出シタ所以デアリマス、尙ホ更ニ私ハ此内容ニ就テ一言説明ヲ要スルト思ヒマス、仍テ此提案ノ理由ヲ説明致シマス、此私共ノ提出シタ案ガ如何ナル案デアアルカト云フコト

ヲ、提出者トシテ私ガ之ヲ説明スベキ責任ガアルノデアリマス、諸君、暫ク御清聽アラソコトヲ希望致シマス、御承知ノ如ク、現行ノ選舉法ニ於キマシテハ、直接國稅三圓以上ヲ納ムル者ト限定サレテ居ルノデアリマス、私共ハ之ヲ悉ク廢シテ、納稅資格ニ依ツテ選舉權ヲ定ムルト云フコトノ不條理ナルノミナラズ、立憲國ノ國民トシテハ、選舉權ハ與ヘラレルト云フヨリハ、寧ロ有スル當然ノ權利デアアル、此權利ヲ此議會ガ認ムルカ認メナイカト云フ問題デアルト思ヒマスガ、私共ハ立憲國ノ國民トシテ選舉權ハ當然有スベキ權利ナリト云フ理由ノ下ニ、私共ハ國民トシテ財產ヲ認ムベキモノニ非ズ、人間ヲ認ムベシト云フ理由ニ基キマシテ、納稅資格ヲ撤廢スルコトニ決定シタノデアリマス、更ニ私ハ現在ノ選舉人ノ年齢ノ二十五歳ヲ改メマシテ、二十歳以上ト致シマシタ、此理由ヲ申上ゲマス、我國ニ於テハ、國民第一ノ義務トスル所ノ徵兵ノ義務モアリマス、是ニ就テ滿二十歳以上ノ者ハ、國家ノ最モ重大ナル所ノ、兵役ノ義務ニモ服スルコトニナツテ居リマスノミナラズ、民法ニ依リマシテモ、二十歳以上ノ者ハ、自己ノ行動ニ就テ、政治上、社會上、法律上、其責任ヲ負ハナケレバナラヌコトニ規定サレテ居リマス、兵役ノ義務ニシテ、既ニ國家ノ重大ナル義務ヲ負フベキ所ノ年齢ニ達シタト云フコトヲ承認スルコトハ、是ハ政治上ニモ其資格アリト云フコトヲ認メ得ラレル、正當ナル理由デアルト確信シテ居リマス、此意味ニ於キマシテ、私共ハ年齢二十歳以上ノ男子ニハ、選舉權有ルコトヲ原則トシテ認ムルコトニナツタノデアリマス、勿論白痴ヤ、狂人ヤ、不具者、是等ノ者ハ自己ノ行動ニ就テ、社會上ニモ、法律上ニモ責任ヲ有シ能ハザル者ナルガ故ニ、是等ヲ除外シテ居ルハ勿論デアリマス、更ニ私共ハ現在ノ選舉法ニ依リマシテ、被選舉人ノ年齢三十歳ト定メテアルヲ、私共ハ之ヲ二十歳ニ致シタノデアリマス、被選舉人ハ選舉人ノ信頼ニ依ツテ出ヅルガ故ニ、年齢ヲ二十歳デアアル、三十歳デアアルト云フ制限ハ要ラナイモノト信ジマス、故ニ……撤廢シロト云フ方ニ一言説明致シマス、ドウカ政友會總體ノ諸君、サウ云フコトヲ御聽ニナル方ガアリマスカラ、時間ノ費エデハアリマスケレドモ、其人ノ幾分ノ蒙ヲ啓クコトモ亦必要ナリト思ヒマス、未成年者ヲ構ハナクナイト云フ理由ハ、私共社會的ニ政治的ニ、法律的ニ、自己ノ行動ニ就テ責任ヲ有スル者ニ限リマシタ、斯ウ言ウテ説

明シテ居リマス、子供ハ自己ノ行動ニ就テ、法律的ニ政治的ニ責任ヲ有セザル者デアリマス、並ニ私共ハ現行法ニ依リマシテ、官公私立學校ノ教師、神官、僧侶ニ對シテ、被選舉權ヲ與ヘナイコトニ規定サレテ居ルノヲ、私共ハ撤廢スルコトニ規定致シマシタ、凡ソ國家ノ教育ニ從事スルダケノ資格アル者ガ、國家ノ政治ニ參與スルコトガ出來ナイト云フ理由ハ無イ、又宗教ノ問題デアリマス、是ハ我國ノ選舉法ガ、歐米諸國ニ於ケル所ノ選舉法ヲ摸倣シタカラシテ、斯ノ如キ規定ガ加ヘラレタルモノデアアル、何故ナラバ歐米諸國ニ於テハ、政教混亂ノ爲メニ甚シク政治上ノ混亂状態ヲ招イタコトガアリマス、歐米諸國ニ於テハ、僧侶ガ隨分政治上ニ立入ッテ、一國ノ政權ヲ左右シタト云フ實例ガアルガ故ニ、歐米諸國ハ此傳統的ノ歴史ニ鑑ミマシテ、選舉法ニ僧侶ニ被選舉權ヲ與ヘナイ規定ヲ有スル國ガ多イノデアリマス、ケレドモ我國ニ於テハ此虞ハ絶對ニ無イノミナラズ、今日宗教ヲ以テ世ヲ救ヒ、人ヲ導カウトスル者ガ、政治上ニ於ケル所ノ被選舉權ヲ與ヘラレナイト云フ理由ハ無イト信ジマスルガ故ニ、私共ハ此規定ヲ撤廢スルコトニ致シマシタ、更ニ私共ハ官公私立學校ノ學生ニ、選舉權ヲ與ヘナイ規定ヲ現行法ニ設ケテ居リマスケレドモ、是モ學生ト雖モ國家ニ對スル所ノ義務ト責任——兵役ノ義務ニシテモ同様デアリマス、ソレヲ負ヒ、社會的的政治的ニ、自己ノ行動ニ就テ責任ヲ有スル以上ハ、之ニ與ヘルコトハ當然デアアルノミナラズ、若シ立憲的政治ガ國民ノ政治デアラナラバ、是等ノ學生ニモ選舉權ヲ與ヘテ、政治的ノ訓練ト經驗ヲ積マセルコトガ、立憲政治ノ健全ナル發達ヲ圖リ得ル所以デアルト考慮致シマシテ、是等ニモ選舉權ヲ與フルコトニ致シマシタ、其他三四私共改正ヲ加ヘタ點ハアリマスケレドモ、唯今申上ゲタ所ノ條項ニ附帶シテ起ル所ノ、當然ノ改正ナルガ故ニ、其他ノ說明ハ省略致シマス、要スルニ今日世界ノ大局カラ見マシテモ、我國内ニ於ケル所ノ實狀カラ鑑ミテモ、立憲政治ノ本旨カラ研究致シマシテモ、今日普通選舉ヲ實現スルコトハ、私共焦眉ノ急ナリト考ヘマシテ、此案ヲ提出シタ理由デアリマス、故ニ一黨一派ノ問題ニ就テ考慮スルコトナク、自己ノ選舉區ト自己トノ政治的ノ個人的關係ニ就テ考慮スルコトナク、六千萬ノ國民ノ爲メニ我國將來世界的發展ノ爲メニ、此問題ノ迅速ナル解決ニ御努力アラント切望シテ已マザル

者デアリマス

鳩山一郎君ハ質疑ヲ爲シ下岡忠治君及植原悦二郎君之ニ應答ス

鳩山一郎君ノ質疑

私ノ質問ハ甚ダ簡單ナノデアリマス、武富君外七名ノ今回御提出ニナリマシタル選舉法中改正法律案ハ前ノ議會ニ於テ提出ニ相成ッテ居リマス、選舉法中改正法律案ト違ッテ居ル節ガアルノデアリマス、前議會ニ於テ藤澤君ハ第八條ノ第三號ヲ削ラレタ代リニ、第十一條ノ四號ノ次ニ、五トシテ「貧困ノ爲メ官公費若ハ慈善事業其ノ他ノ救助ヲ受ケ生計ヲ爲ス者及之ヲ受ケタル後一年ヲ經過セサル者」トシテ「生業ニ從事セズシテ他ノ扶養又ハ扶助ヲ受クル者但シ中學校師範學校若ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シ又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者」ハ此ノ限ニ在ラズ「斯ノ如キ修正案ヲ出シテアルニ拘ラズ、今回又ソレヲ訂正セラレテ、第八條ノ所ニ持ッテ行ッテ、獨立ノ生計ヲ營マザル者ト云フヤウニ規定セラレテ居ルノデアリマス、此兩者ノ間ニ意味ガ全ク同一デアラナラバ、私之ヲ答メマセヌ、併ナガラ前ノ修正ニ依リマスレバ、第六ノ但書ニナッテ居ル所ノ中學校師範學校、若ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シ、又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト限定セラレタル者ハ、選舉權ガアルコトニナルノデアリマス、今回ノ改正ニ依リマスレバ、學生ノ大部分ハ、獨立ノ生計ヲ認メザルモノト看做スノガ至當デアリマスルカラ、隨ッテ學生ノ大部分ハ前同ノ修正案ニ依レバ選舉權ヲ有シ、今回ノ御提出ノ案ニ依リマスレバ、之ヲ有セザルコト、ナルノデアリマス、先刻下岡君ノ御説明ヲ承リマス、矢張選舉權付與ノ根本理由ハ政治ヲ理解スル能力ノ有無ニ依テ、之ヲ與ヘルト否トヲ決メルト云フ御話デアリマス、之ニ依ッテ考ヘマスルト、此高等學校ニ在學中ノ學生ヲ除外スル理由ハドウ云フ譯デアアルカ、又前回ニ提出セラレタル案ヨリモ、更ニ選舉權ヲ狭ク規定セラレタノハドウ云フ譯デアアルカ、時勢ノ進運ニ依ルト云フ理由ニ依ッテ、修正案ヲ御提出ニナッテ居リマスガ、時勢ノ進運ハ、選舉權ヲ此春ヨリモ限定スルヤウナ時勢ニナッタノ

デアアルカ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ植原君ニモ亦同様ナ質問ガアルノデアリマス、植原君ハ前ノ議會ニ於カレマシテモ、亦唯今此壇上ニ於カレマシテモ、非常ニ學生ニ選舉權ヲ拒否スルノ理由ナシト云フコトヲ詳論セラレテ居リマス、果シテ然ラバ、學生ニ選舉權ヲ與ヘルト云フ御趣旨ナラバ、何ガ故ニ他人ノ救助ヲ受クル者ヲ、特ニ今回選舉權ナシトシテ御斥ケニナツタノデアアルカ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、若シ藤澤君ガ前議會ニ於テ説明セラレタ如ク、扶養ヲ受クル者ハ——矢張扶養ヲ受ケテ學校ニ在ル者ハ權利ガアル、他人ノ救助——權利トシテデナク、他人ノ救助ヲ受クル者ハ、選舉權ナシト云フヤウナ藤澤君御同様ノ御解釋デアラナラバ民法上カラ考ヘテ、随分不思議ナル結果ヲ生ズルノデアリマス、例ヘバ叔父ニ世話ニナツテ居タ學生ハ、選舉權ガ有ツテ叔父ガ死シタ後ニ其妻ニ世話ニナルト選舉權ガ無クナルト同様ニ叔母ガ死亡シタ後ハ其夫ニ世話ニナルト、選舉權ガ無クナルト云フヤウナ不思議ナル結果ガ生ズルノデアリマス、是モ矢張前ノ修正案ヨリハ、其選舉權ガ限局サレテ居ルノデアリマス、其點ニ就テ御辯明ヲ願ヒタイノデアリマス

下岡忠治君ノ應答

鳩山君ノ唯今ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、曩ノ議會ニ修正案ヲ提出致シマシタ、其趣意ハ、此度提案シタ所ノ獨立ノ生計ヲ營ム者ト云フノト大體ハ同ジデゴザイマス、併ナガラ御説ノ通りニ此第六號ニ於テ、但書ヲ以テ、中學校、師範學校、若クハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シ、又ハ之ト同等ノ學力ヲ有シテ居ル者ダケハ、之ヲ除クト云フ事ダケハ違ッテ居ルノハ、御質問ノ通りデゴザイマス、併ナガラ之ヲ削リマシタ理由ハ、大體ニ於テ中學校、師範學校ナリ、或ハ是ト同等ノ學校ヲ卒業シタヤウナ者ハ、二十五歳以上トシテ、獨立ノ生計ヲ營ムト云フ部類ニ大體ハ入ツテ居リマス、學生ハ一切許シテ居ラヌノデアリマス、現行法ノ規定ニ於テ——國民黨ノ案ハ學生ニ關スル規定ハ、之ヲ削除スルト云フコトニナツテ居リマス、憲政會ノ案トシテ、御承知ノ通り第十二條ニ於テ「陸海軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若ハ事變ニ際シ召集

中ノ者又ハ官立公立私立學校ノ學生、生徒亦前項ニ同シ」尙ホ中學校ナドヲ卒業シテ、更ニ高等ノ學校ニ入ツテ居ル者デアツテ、相當ニ立派ナ智識ヲ有ツテ居ル者ハ澤山アルケレドモ、併ナガラ却テ其人々ガ營業ヲ營ミ、職業ニ従事スルト云フコトニナリマス、大體其者ハ獨立ノ生計ヲ營ムト云フ部類ニ入ル者ガ多クテ、例外トシテハ確ニゴザイマス、例外トシテハゴザイマスケレドモ、凡ソ法律ヲ拵ヘル上ニ於キマシテハ、先ヅ大體ヲ見テ立法スルト云フコトハ、貴方モ御承知ノ通りデゴザイマスカラ、強テ此但書ヲ置イテ置ク程ノ必要ハ無イ、絶對ニ此規定ガ惡イト云フ考デハナイガ、強テ之ヲ置ク程ノ必要ガ無イト云フ趣意ニ於テ、此規定ヲ削ッタ譯デゴザイマス、左様御承知ヲ願ヒマス

植原悦二郎君ノ應答

鳩山君ノ御質問ニ御答致シマス、鳩山君ノ御質問ニ就キマシテ、御答シナンデモ、鳩山君ガ「貧困ノ爲官公費若ハ慈善事業其ノ他ノ救助ヲ受ケテ生計ヲ爲ス」ト、斯ウ云フ意味ヲ御了解下スツタナラバ、鳩山君ニシテ扶養ト救助ト御間違ナサルコトモナカラウシ、又貧困ノ爲メト云フ形容詞ガ總テノ事ヲ限定シテ居ルコトモ御分リニナラウト思フカラ、ソレ以上御答スル必要ハ無カラウト思ヒマス

次テ討論ニ入り小久保喜七君、中西六三郎及鳩山一郎君ハ反對樋口秀雄君、砂田重政君及田淵豐吉君ハ賛成ノ演説ヲ爲ス

小久保喜七君ノ反對演説

(前略)此普選問題ハ四十二議會ニ於テ解散ノ理由トナツタノデアリマス、此解散ノ理由ト相成ッタト云フコトハ、諸君ガ御承知ノ通り、其會議ノ席上ニ於テ總理大臣ノ演説、即夜内閣カラ御出シニナツタ解散ノ理由、其後累次ノ總理大臣ノ演説ニ依ツテ明カデアリマス、而シテ唯ダ私ハ反對

黨ノ首領諸君ニモ、此點ニ就テハ深ク敬意ヲ拂フタノデアリマス、犬養君ノ如キハ、老軀ヲ提ゲテ東北ニ、或ハ中國ニ、此普選案ノ爲メニ遊説ニ御努メニナッタノデアリマス、其憲政會ノ總裁ノ加藤君ノ如キモ、關東會ニ於テモ十分ニ御論ジニナッタガ、四月二十日ノ關西大會ニ於テノ御演説ナドニ至リマシテハ、二時間ノ演説ノ其三分ノ二ハ、普通選舉問題ヲ以テ盡スト云フ位マデ御論ジニナッタ、而モ此普通選舉問題ハ、四十二議會ニ於テ委員會ヲ七回モ八回モ開イテ討議シ、本會ニ於テモ非常ノ討議ヲシ、而シテ此解散ノ結果トシテ殆ド千回萬回ノ演説ヲ開イタ結果、國民ハ遂ニ普通選舉即時實行不可能ナリト云フ意ヲ現シタノデアリマス、即チ我黨ハ二百八十餘名ニ達シ、又其他ノ中流諸君ニ於テモ、普選反對ノ人ガ多イト云フコトハ、國民ノ意志ガ普選反對デアルト云フコトハ、是ハ明カナル證據デアアル、併シ諸君ノ御議論ハ、普通選舉ト云フコトガ勝ヲ制シタトハ見エナイ、多數デアルガ、權威アル多數トハ見エナイト言フ、先日關君ノ御演説ガアリマシタガ、如何ナル意味デアアルカ、今日マデ私ニハ判ラナカッタ、併シ唯今下岡君ノ演説、又植原君ノ演説ヲ聽イテ始メテ判ッタ、即チ二點デアリマス、何トナレバ、一ハ政友會ガ鐵道其他ノ議論ヲ以テ、地方民ヲ欺シタノデアアル、甘言ヲ以テ投票ヲ得タノデアルト云フコトデアリマスガ、私ハ此言葉ハ甚ダ其當ヲ得ナイ言葉ト思フ、苟モ普通選舉ノ前提ハ諸君何デアアル、普通選舉ノ前提ハ、即チ知識ノ普及デアリマス、知識ノ普及ヲ外ニ致シテ、選舉ノ議論ガ成立ツモノデハナイ、吾々ニ欺サレテ選舉ヲスルト云フヤウナ有様ナレバ、決シテ之ヲ以テ知識ノ普通ト云フコトハ言ヘナイ、然ラバ地方民ヲ欺シテ、政友會ガ多數ヲ得タトハ言ヘナイノデアアル要スルニ反對黨諸君ハ、所謂普通選舉者ノ自殺デアルト私ハ信スルノデアアル、故ニ私ハ此說ハ採ルニ足ラヌ、次ニ干渉デアアル、干渉トハ何事デアアル、諸君、何故ニ干渉デナイト云フノカ、若シ二十五年ノ議會ノ品川子ノ如ク、内務大臣自ラ干渉ヲヤツテ、國家ノ爲メニ干渉ヲヤツタト明言スルガ如ク、或ハ大隈内閣ノ下ニ、時ノ内務大臣ガ議員買収ノ爲メニ、被告人トナルヤウナ場合ガアレバ、格別、現内閣ニハ何等干渉ノ實ハ無イ、干渉ノ事實ガ無イ證據ハ諸君ガ舉ゲタデハナイカ、即チ諸君ハ一昨日ノ決議案ニ、干渉ノ問題ヲ提議シナイデハナイカ、二十九議會ノ憲政會諸君ノ不信任問題ノ中ニ

ハ、六箇條ヲ舉ゲテ、其中最モ詳シク論ジタノハ干渉問題デアアル、私ノ親愛ヲ致ス武富君ノ如キハ、陰險惡辣ノ干渉ト言ヒ、尾崎君ノ如キハ殆ド二時間ニ亙ッテ、其三分ノ二ハ干渉論ヲ論ジタノデアリマス、然ルニ如何デアリマス、一昨日ノ議會ニ而モ五點舉ゲテ、第一解散ノ不當ナル普通選舉ヲ阻碍スル、次ニ經濟政策ヲ誤リ、一般外交ヲ誤ッタ、西伯利問題ニ於テハ終始一定ノ方針ナク、遂ニ尼港ノ慘虐ヲ演出シタト云フヤウナ詳シイ事マデ論ジマシタガ、根ガ無イカラ此選舉干渉ヲ論ズルコトハ出来ナイ、私カラ言ハシムレバ、一昨日ノ選舉干渉ヲ拔イタ彼ノ決議案ハ、反對黨諸君ガ、現内閣ニ選舉干渉ノ無イト云フ裏書ヲシタモノト謂ハナケレバナラヌ、私ハ與黨トシテ實ニ喜バシイノデアリマス總理大臣首メ内閣ノ各大臣ハ、御満足デアッタラウト私ハ思フノデアリマス、諸君、如何デアリマス、斯ノ如ク公平ニ行ハレタ選舉ニ於キマシテ、普通選舉即時反對ノ議員ガ多數舉ッタト云ヘバ、國民ノ意思ハ茲ニ明カニナッタ、然ルニモ拘ラズ、之ヲ委員會ニ移シテ審議討論スルト云フガ如キハ、是レ國民ノ意思ヲ侮蔑スルモノデアリマス、私ハ國民ノ意思ヲ尊重スルト云フ意味カラ致シテ、本案ノ即決否決アランコトヲ深ク希望致シマス

樋口秀雄君ノ贊成演説

私ハ本日上提致サレマシタル衆議院議員選舉法中改正法律案、即チ普通選舉ノ法案ニ贊成ノ意見ヲ申述ベタイト思ヒマス、其趣旨ヲ申述ベマスル前ニ、唯今政友會領袖小久保君、私ノ畏敬致シテ居リマスル小久保君ガ此壇上ニ立タレマシテ、此普選案ノ即決否決ト云フ異ナ説ヲ承ッタノデアリマス、小久保君ノ御説ニ依リマスルト、本日提出致サレマシタル所ノ普通選舉法案ハ、前ニ吾々普選論ヲ提出致シマシタ人々、殊ニ國民黨ノ諸君ノ言ハレマシタル言葉ヲ捉ヘテ、國民ノ意思ノ尊重、即チ帝國議會ト云フモノニ多數ノ基礎ヲ有スルモノハ、即チ是ガ國論デアルト云フコトヲ頻リニ御辯解ニナツテ居リマス、成程表面ノ事實ハ此ノ如クデアリマセウガ、甚ダ失禮ナル申分カハ存ジマセウガ、私ハ政友會ノ二百八十餘名ノ議員諸君ガ、悉ク普選反對論者デアルト思ヘナイ理由ヲ持ッテ居ルノデアリマス、暫ク御聽ナサイ、何故私ガ爾ク信ズルカト思ヒマスル

ト、此政友會ノ畏敬スベキ同僚諸君ノ中ニ、嘗テ普通選舉法案ヲ提出致サレタノミナラズ、最近ニ於キマシテモ、黨議決定前ニ於キマシテハ、普通選舉運動ニモ參加致サレ、其主張ヲ欲通致シタ諸君ガ、指ヲ擧ゲテ數ヘレバ二十餘人ニ餘ッテ居ルノデアアル、加之今回御選出ニナリマシテ、新々ニ吾々ノ同僚トナラレマシタ諸君ノ中デ、前カラ政友會ニ籍ヲ置カレ、又其黨議ニ服シテ居ラレタト云フ明カナ證據ノアリマス方々ハ、私ノ見マシタ所デハ、約其半數ニ過ギヌト思フ、唯ダ今回選舉場裡ニ立タレンガ爲メニ、政友會ニ御加盟ニナッタ方々デアリマス、其等ノ方々ガ、必シモ普選論ニ反對デアッタヤ否ヤハ、是ハ今日以後ニ檢證スベキ問題デアッテ、既決ノ問題デハナイノデアリマス、例ヘバ一例ヲ擧ゲテ申シマスレバ、今回新々ニ政友會員トシテ當選致サレマシタ、私ノ同郷長野縣カラ出ラレマシタ所ノ一議員ハ、其以前今回ノ選舉ニ立タレマシタ數日以前マデ、其選舉區ニ於ケル青年會及教育會等ニ臨ンデ普選急進ノ必要ヲ絶叫サレ、之ガ爲メニ青年ノ同情ヲ得タ人デアッタノデアリマス、然ルニ今回ノ選舉ニ立タンガ爲メニ、手ノ裏ヲ翻スガ如クニシテ政友會ニ加入サレ、隨ッテ本日ノ此案ニハ御反對ニナルカモ知レマセヌガ、此ノ如キ意思ハ、果シテ正當ナル御本人ノ意思デアルヤ否ヤヲ私ハ疑フ者デアリマス、加之數日以前政友會ノ諸君ノ中ニハ、一度ナラズ二度マデモ其總務ノ御一人ガ御贊成ニナッタ所ノ說、而モ演壇ニ立タレマセヌケレドモ、他ノ二人ノ總務マデ贊成ノ意ヲ表サレタ所、提案ヲ忽チ休憩後ニハ一轉シテ、翻ッテ否決セラレタ所ヲ見マスレバ、政友會諸君ノ中デ、黨議ナルモノガ果シテ纏ッテ居ルヤ否ヤ、政友會ノ議員ノ間ニ、分裂ノ現象ガアリハシナイカト私ハ疑フノデアリマス、政友會ノ意思ガ一致シテ居ラレナイト云フ證據ガ、再三此議會ニ現レタノデアリマスカラ、之ヲ以テ多數デアルト云フ御辯明ハ、聊カ方角違ノ御考デハナカラウカト思ヒマス、唯今國民、憲政兩黨カラ提案者ノ說明ヲ得マシタ所ヲ更ニ敷衍致シ、吾々ガ此案ニ對シテ贊成ヲ表シテ居ル、而モ是ガ我國民ノ意思デハナカラウカト思フ點ヲ申述ベテ見タイト思フノデアリマス、曩ニ四十二議會ノ終リ解散ノ當日ニ於キマシテ、原總理大臣閣下ハ、此普選案ノ提出者タル、サウシテ其說明者タル島田君ノ言葉ニ依ッテ、再三諸君ノ言ハレタルガ如ク、階級打破デアアルカラシテ、此普選論ノ提案ノ趣旨ガ

危険デアルト云フ御說ガアッタ、其總理大臣ノ說明ヲ致サレマシタ論理ノ順序ハ、ドウ云フ順序デアッタカト申シマス、總理大臣ノ言ハレタニハ、階級制度ヲ打破スル、現狀ヲ打破スル、單純ナル選舉權ノ打破ニ非ズシテ、之ヲ撤廢スル理由ハ、現在ノ社會ノ狀態ヲ打破スルニ在リト云フヤウナコトヲ述ベテ居ラレル、諸君、此原總理大臣ノ御述ニナリマシタ言葉ハ、表面カラ聽キマスルト、如何ニモ論理上ノ連絡ガアルヤウニ見エマス、併ナガラ階級制度ノ打破ト云フコトヲ直チニ言葉ヲ變ヘラレマシテ、現狀打破ト云フ居ラレル、又更ニ進ンデ現在ノ社會狀態ヲ打破スルモノデアアル、斯ウ云フコトヲ言ハレテ居ル、併ナガラ御承知ノ通り此階級ナルモノハ、必シモ二三ノモノニ止マッテ居ラナイ、總テノ階級制度ヲ打破スルト云フコトハ、島田君ト雖モ一言モ言ウタコトガ無い、原總理大臣ハ階級打破ハ即チ社會狀態ノ打破デアルト、斯ウ御測論ニナッタノカ、誤解ニナッタノカ、強テ御解釋ニナッタカハ知りマセヌガ、此間ニハ非常ナル論理ノ錯誤ガアルト私ハ信ジテ居ル、試ミニ伺ヒマスルガ、嘗テ政友會ノ諸君、並國民黨ノ諸君ハ、藩閥打破ト云フコトヲ絶叫セラレタ貴重ナル歴史ヲ御持チニナルコトハ御忘レニナリハシマイト思フ、藩閥打破、即チ是亦一種ノ階級打破デハナカッタノデアリマセウカ、而巳ナラズ畏レ多キ事ナガラ、明治天皇陛下ノ御大業ノ隨一タル維新ノ革新ナルモノハ、是レ九百年來日本ノ間ニ長ク根ザシテ居ラレタ武門階級、上ニ將軍アリ、諸侯アリ、武士アリ、其下ニ農工商ヲ置クト云フガ如キ、階級制度ヲ一舉ニ打破セラレタコトデハナカッタデアリマセウカ、者シ階級打破ナルガ故ニ、一切ノ事危険思想デアルト言ハル、ナラバ、畏多イ事ナガラ、先帝陛下ノ御維新ノ御大業、是亦危険デアルト謂ハナケレバナラヌ、斯ノ如キハ我々忠良ナル日本國民ノ、口ニスルコトダモ恥ツベキ事デアルノニ、原總理大臣ハ何故ニ階級打破ガ、危険デアルト言ハル、ノデアルカ、加之此階級打破ト云フコトハ、一切ノ社會的階級ヲ、總テ打破スルト云フ意味デハナカッタノデアアル、普選論ノ提出者トシマシテ階級打破ト云フコトハ、此選舉ニ關スル獨占階級の特權ノ、有リヤ無シヤト云フコトニ關シテ、財産ノ資格ニ依ル選舉權ノ階級ヲ打破スルニ止ッテ居ルト云フコトハ、聰明ナル原首相其他御承知デナクテハナラヌ、然ルニ何ゾヤ強テ言葉尻ヲ捉ヘテ、非ヲ飾ッテ、之ヲ

以テ社會ノ現狀ヲ脅威スルトカ……社會ノ制度ヲ打破スルト言ハルルノハ、抑モ如何ナル所以デアルカ、御承知ノ通り世界ノ進化ノ歴史ハ、即チ階級變遷ノ歴史デアリマス、若シ其時世ニ應ジナイ所ノ、既ニ停滞シ、腐敗シタル級階ニ何時迄モ囚ハレテ居ッタナラバ、彼ノ印度ノ如ク國運進捗ヲ得ズシテ、空シク國家ノ瓦解トナルヤウナ虞ガアル、時代ニ應ゼザル社會ハ、忌憚ナク之ヲ打破シテ可ナリデアアル、サウシテ時代ニ應ズル所ノ新タナル階級ヲ造ルコソ、社會進化ノ階梯デアリマスルノニ、此明カナル事ヲ聰明ナル首相御承知デナイ筈ハアリマセヌノニ、強テ之ヲ言葉ニ藉ッテ解散セラレマシタガ故ニ、我々稱シテ之ヲ不當ナル解散ト言フ何人ト雖モ、之ヲ陳辯スルコトハ許サヌト私ハ思フ、加之原總理大臣ハ、解散ノ御演說ノ時ニハ左程ニナカッタデアリマスルガ、其後原總理大臣若クハ其與黨ノ諸君ノ言フ説ト致シテ、新聞紙上ニ傳ハリ其刷物トシテ全國ニ配布サレマシタモノ、中ニハ更ニ此階級打破ト云フコトノ危険ナル意味ノ種々ナル妄説ヲ附加シテアッタト私ハ思フ、乃チ例ヘバ此普通選舉論ハ階級打破ノ思想デアリマシテ、或ハ社會問題、労働問題ト云フガ如キモノヲ誘ヒ來ル、危険ナル思想デアアルト云フガ如キ説ガアッタ、甚ダ奇怪至極ナ事デアリマシテ、苟モ政治家トシテ思想問題ヲ取扱ハントサレル方ガ、斯ノ如キ明瞭ナル事實ヲ諒解ナキニ至ッテハ、到底思想問題ノ御料理ノ任ニ非ズト私ハ失禮ナガラ思フ、嘗テ「ルイレイボー」氏ノ申シマシタ通り、思想ナルモノハ譬ヘテ申シマセバ、綿火藥ノ如キモノデアアル、之ヲ空中ニ燃シマセバ、何等ノ危険ガナクテ燃エテシマウ、然ルニ之ヲ壓迫シ、之ニ城壁ヲ作り、壓迫シタ後ニ點火シマセバ、驚天動地ノ破壊力ヲ持ッテ居ル、今ヤ世界ノ平和締結ニ方リマシテ、國際聯盟、其他ノ會議カラ誘ハレテ、種々ナル社會問題ニ關スル思想労働問題ニ對スル、呼聲ガ次第ニ高クナル時ニ方ッテ、此思想ヲ如何ニシテ處理シテ、國家ヲ安泰ノ位置ニ置カレヤウト云フ原サンノ御考デアリマセウ、之ヲ床次内務大臣ハ思想問題ハ思想ヲ以テ自由ニ討究シタ上、自ラ屏息セシムルノガ最善ノ道デアアルト斯ウ言ハレタ、成程流石床次君デアリマス、其御言葉通りニヤラレルト思ヒキヤ、言葉ト行フ所トハ餘リ反對デアアル、近頃起リ來ッタ民衆思想社會問題ニ關スル、民衆思想労働問題ニ關スル絶叫等ノ聲ガアル毎ニ、現政府ハ唯ダ或ハ警察

力、或ハ洋刀ノカヲ以テ徒ラニ之ヲ抑ヘントスルハ、即チ綿火藥ヲ堅キ殻中ニ於テ點火セラレントスル愚ヲ、演ジテ居ルモノデハナイカト思ヒマス、殊ニ御承知ノ通り、此社會問題ニ致シマシテモ、労働問題ニ致シマシテモ、新タニ起リ來ッタ如キ一切ノ危険思想ナルモノハ、其根柢ハ一ツノ生活ノ不安カラ、來スモノデアアル、或ハ之ニ對スル無理ナル壓迫カラ來ルノデアアル、生活ノ不安ガ此危険ナル思想ヲ誘ヒ、壓迫ノ力ガ之ヲ激成シマシテ、遂ニ之ヲ惡化スルノハ、何レ如何ナル國ニ於キマシテモ、思想發展ノ常道デアアルデアアル、然ルニ此徑路ヲ御承知デアリナガラ、原首相並ニ其閣僚諸君ノ爲サル、所ハ、毫モ思想問題ニ諒解アル爲サレ方トハ信ズルコトハ出來ナイノデアリマス、殊ニ此社會問題労働問題等ノ如キハ、今回普通選舉論ガ第四十二議會ニ提出サレマシタ當時、普通選舉論ガ盛ニナリマシタヨリハ遙ニ以前ニ於テ、現内閣ノ不徹底ナル經濟政策ノ爲メニ、物價ノ天井知ラズノ騰貴ノ爲メニ、中産以下ノ階級ガ生活ノ壓迫ヲ感ジ、不安ヲ感ジマシテ、是カラ誘ヒ出シタ所ノ思想デアアル、然ルニ何ゾヤ之ヲ後ニ起リ來ッタ所ノ普通運動ノ結果デアアルカノ如キ牽強附會ノ辯ヲ弄シ、是ニ依ッテ選舉場裡ニ依ッテ、天下多數ノ者ヲ或ハ一二ノ愚者ナリ——其愚者ヲ迷ハサントスルニ至ッテハ、其立憲政治家ノ爲ス事トシテ甚ダ奇怪至極ト私ハ思フ、況ヤ此普通選舉問題ガ獨リ、階級打破デアッタトシテモ、總テノ階級打破ハ必シモ危険ニ非ズ、況ヤ此普通選舉ニ伴フ所ノ階級ハ憲法ノ精神ニ依ッテ、我々國民ハ當然有シ得ナイ權利ヲ時代ノ進化ニ伴ウテ、制限ヲ設ケテ居リマス所ノ納稅資格ノ制限ニ依ッテ、從來此與ヘラレテ居ラナカタツガ、而カモ其國民ノ智育ノ開發ノ程度ガ、政治上ノ自覺ノ進歩致シマシタル今日ニ於テ、最早ハ許シテモ宜シイノデアアルノミナラズ、最近ニ起リ來ル所ノ此種ノ運動ニ伴ヒマシテ、若シ此民衆ノ要求シマスル所ノ參政權ト云フモノヲ、飽マデ政府其他ノ諸君ガ拒マレルナラバ、其思想ガ那邊ニ爆發シ、如何ナル恐ルベキ結果ヲ我が國體ニ及ボスカト云フコトニ就イテ、誠心誠意尙ホ御考慮ヲ仰ギタイト思ッテ居ル、況ヤ此四十二議會解散ノ議會前ニ提出致シマシタル所ノ我我ノ案、ソレガ此日本ノ選舉界、否ナ國民ノ中ニ如何ニ受取ラレタカト云ウコトニ就テハ、徒ラニ表面ノミヲ見テ、御論ジナサルコトヲ許サナイ事實ガアル、第一斯ノ如キ重大ナル參政權ノ如

キモノヲ一度與ヘテ居ラレナガラ、之ヲ奪フト云フ結果ハ如何ニナルカ、例ヘバ今回政府ニ於キマシテハ、所得稅改正案ヲ提出致サレ、今ヤ熟議中デアアル、此所得稅法ノ改正ニ依リマシテ、三圓納稅ノ資格者ヲ減ズルコトハ實ニ夥シキ數デアアル、既ニ與ヘラレタル選舉ノ權ヲ、政府自身ノ提出致シマシタル所得稅法案ノ改正ニ依ッテ既得權ガ奪ハレル以上ハ、少クトモ若シ人民ノ意思ヲ尊重シ、人民ノ權利ヲ尊重スル政府デアラレルナラバ、之ニ對シテ當然ニ一部ノ御改正ガアルベキコト、思ヒマス、然ルニ何等其事ガ無イノハ如何ナルコトデアアルカ、況ヤ今回ノ選舉ニ於テ全國ヲ通ジテ最モ著シキ事實ハ、今回ノ選舉ノ最モ中心ノカトシテ、最モ政治運動ノ中心トナッテ、力ヲ現ハシマシタ者ハ青年デアリマス、此最モ選舉界ニ於テ有力デアリ、而モ政治上ニ自覺シテ活動致シマシタ多數ノ青年、是等ハ選舉權ノ無イ所ノ階級ニ屬シテ居ル、諸君ガ若シ青年ノ運動ヲ否定致シテ、青年俱ニ談ルベカラズト云フ御勇氣ガアレバ兎モ角、然ラズンバ自ラ之ヲ頼ンデ選出サレタ所ノ、最モ有力ナル政治上ノ中心ノ力、此政治上ノ力ヲ如何ニ御覽ニナリマス、彼等ハ諸君ノ爲メニ働キ、政治上ノ自覺ニ依ッテ、政治ニ參與スルニ足ルベキ資格ヲ示シテ居ルデハナイカ、是等ノ青年ニモ諸君ガ若シ選舉權ヲ與ヘルコトヲ拒ムト云フナラバ、寧ロ諸君ハ其位地ヲ翻シテ、斯ノ如キ勢力ニ依ッテ選バレタル現職ヲ御辭退ナサッタ方ガ、職務ニ忠實デアアル、其勇氣ハナイケレドモ、一方ニ於テ自ラ選舉界ニ於テ頼ンダ所ノ勢力、其諸君ノ味方ニ對シテ、尙更選舉權ヲ分ツヲ拒ムト云フノハ何タル心得違ノ御考デアアル、我々日本ト致シマシテハ、一大家族ノ如キ感ヲ以テ、上ノ陛下ヨリ下人民ニ至ル、然ラバ——此四海兄弟、殊ニ一大家族ト致シマシテ、我々兄弟タル者ガ——我々ノ子弟ガ、政治上ニ於テハ既ニ十分ノ能力ヲ持ッテ居ル、世界ニ對スル活動ニ於テモ、献身の奮勵努力ヲ致スノデアアル、其子弟ニ對シテ、我々ト同ジ權利ヲ與ヘルト云フコトガ、何人ニ如何ナル損害ヲ與ヘルト思ッテ居ルカ、自ラ有シタ所ノ特權ハ、之ヲ他人ニ分ツヲ客ムト云フガ如キ卑劣ナル御考ノ諸君ハ、大正九年ノ今ノ時最早無イト思ヒキヤ、所謂議場大多數ノ諸君ガ、舊ニ依ッテ依然トシテ改ムル所ヲ知ラズ、此普選案ニ對シ、殊ニ政治上ノ自覺アル政治ノ中心タル、新時代ノ勢力タル青年ノ輩ニ至ルマデ、選舉權ヲ賦與スルコトヲ拒ムト

云フガ如キ古老ノ意見ヲ學ンデ居ラレルナラバ、徒ラニ言葉ノ上デ諸君ハ詭辯ヲ弄スル必要ハ無イ、若シ其御考ガアルナラバ、今ノ時ニ於テ再ビ諸君ハ解散ヲ斷行スルノ勇氣アリヤ否ヤ、今回解散ガアッタナラバ、是コソ眞ノ國論ガ忽チ現レテ、諸君ノ今マデ迷ッテ居ラレタ事柄ハ一場ノ夢ト化シテ、御嘆息ノ種ニナリ、ハシナイカト思フ、尙ホ此普選案ヲ提案ノ理由ト致シマシテ説明スベキ事ハ多々アリマス、併ナガラ唯今小久保君ガ政友會ノ代表トシテ、他ノ理由ニ就テ反駁ヲ爲サラナイ所ヲ見マスルト、恐ラク諸君ニ於テモ、昔日ノ小選舉區ノ選舉ニ依ランガ爲メニ此普選論ニ反對ヲ致サレマシタガ、最早其他ノ其以外ノ點ニ於テハ、反對ガ無イト云フ御考デアアルカ、ソレ故ニ御反對ガ無カッタノト思ヒマスカラ、是デ私ノ贊成ノ論旨ハ止メマシテ、若シ更ニ諸君ニ於テ有力ナル——此提出案ニ對シテ有力ナル御反對ノ理由ガ出ルナラバ、之ヲ承ッタ上デ我が同志ノ輩カラシテ、悉ク反駁致シテ、諸君ノ反省ヲ促スヤウニ致シタイト思フ

中西六三郎君ノ反對演說

當面ノ政治問題ト致シマシテハ、普通選舉論ハ既ニ國民ノ批判ヲ經タルモノデアリマスカラ、茲ニ再ビソレハ論議スル必要ナキコトハ、唯今小久保君ノ言ハレタ通りデアリマス、サリナガラ提案者自ラモ説カレタル通り、此普選ノ要求ハ今後益々重要ナル政治問題トシテ、我國朝野ノ間ニ研究ヲ要スルモノデアリマス、提案者自ラモ、此議會ニ於テ成立ヲ待ツト言ハレル、必ヤ是ハ相當ノ機會ニ於テ成立スベキ時機ガアラネバナラヌ可能性ノアル問題デアリマスルガ故ニ、私ハ茲ニ本案ヲ迎ヘタル機會ニ於テ、當面此問題ヲ我々ガ取扱フ理由、其事ニ就テ一言ヲ費スコトヲ必シモ無用ニ非ズト考ヘルノデアリマス、私ハ此度ノ提案ヲ迎ヘルニ於テ、如何ニ考ヘマシテモ、我が議會ノ面目、議院ノ信用ノ上ニ於テ、一言ヲ費サザルヲ得ヌノデアリマス、選舉權擴張ナルモノハ申スマデモナク我が衆議院ガ多年共同ノ要求デアリマス、之アルガ爲メニ從來幾回カ權利ノ擴張ヲ見テ居ルガ、殊ニ現行法ノ提出サレマシタル時ニ於テ、我が院内ノ議論ハ、選舉區制ノ上

ニ於テコソ大小ノ議論ガ岐レマシタガ、選舉權ノ基礎タル其資格ノ上ニ於テハ、殆ド全部ガ納稅存續ノ必要ヲ認メテ居ッタコト、僅ニ昨年ノ春ノコトデアリマス、二圓ト云ヒ三圓ト云ヒ、其差額僅ニ一步ノミニシテ、納稅ノ存續ハ其當時大體認メテ居ッタ、然ルニ本年ノ春ニ至リマシテ、突如トシテ、憲政會並ニ國民黨ノ諸君ハ前議ヲ抛ッテ、我が國民要求ノ聲ニ從フト云フ名ノ下ニ、急速ナル權利ノ擴張ヲ試ミントサレタノデアリマス、之ガ爲メニ我々餘リニ急激ナル主張ノ變更デアアル爲メニ、其理由ヲ尋ヌルニ方ッテ、昨年ノ春以來ヨリ我國ノ内外ノ情勢ガ、著シク變化ヲシタコトヲ知ラナイカト言ハレタノデアリマス、私ハ此説明ヲ聽キタル時ニ於テ、如何ニモ其説明ガ、提案者ノ誠意ナリヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ヌノデアリマス、何故ナレバ昨年ノ春、是ハ如何ナル時デアッタカト云ヘバ、既ニ歐洲ノ大戰亂ノ終熄期デアリマシテ其當時ヨリシテ、世界各國ノ人心ノ變化動搖、又ソレガ爲メニ被ル所ノ人心ノ動搖モ、凡ソハ將來ヲ推測シ得ベキ狀態デアッタコトハ申スマデモナク、又其等ノ爲メニ國家百般ノ重大ナル施設ハ、此將來ノ國家社會ガ戰後ニ於ケル所ノ各般ノ影響ヲ裁量シテ、議定サレテ居ッタノデアリマス、然ルニ唯ダ獨リ此選舉權ニ關スル事ノミニ於テ、昨年ノ議會ニ於テ世界ノ變化、我國ノ變化ヲ豫測スルコトガ出來ナカッタト云フガ如キハ、假令提案者諸君ノ口ヨリ親シク之ヲ聽クト雖モ、吾々ハ提案者諸君ノ聰明ヲソレマデニ疑フコトハ出來ナイノデアリマス、又恐クハ天下民衆ハ、諸君ヲソレ程眼前一步ヲ解セザル人ト信ズル者ハ恐クハ無イノデアリマセウ、ソレ故ニ私ハ此提案ヲ爲スガ爲メニ、已ムヲ得ズ斯ル辯明ハ爲サラウト雖モ、諸君モ亦昨年ノ春ニ於テ、世界各國我國ノ將來ノ人心ノ變化ニ就テハ、大體ニ其了解推測ヲ持ッテ居ラレタト云フコトヲ疑ハナイ、其機會ニ於テ諸君ハ何ト説カレタカト云ヘバ、即チ今ハ斯ル急速ナル變化ヲ爲スベキ場合デハナイ、又世界ノ人心ノ動搖ハ遠カラズシテ止マル所ヲ見テ、徐ニ我國ニ處スル所以ヲ講ズルモ晚シトシナイト云フコトヲ説カレテ居ッテ、我々ハ其眞摯ナル忠實ナル諸君ノ意見ニハ、深ク敬意ヲ拂ッテ居ッタノデアリマス、然ルニモ拘ラズ僅ニ一年ヲ隔ッタル此春俄ニ諸君ハ——國民黨ハ一躍シテ納稅ニ全ク關係ナキ擴張ト云フコトヲ行ハントシ、憲政會ノ諸君ハ納稅撤廢トハ言ハレテ居ルガ、矢張財產關係ニ多少

ノ基礎ヲ留メテ、獨立生計ノ者ニ此權利ヲ與ヘントスル、一朝ニシテ著シキ擴張ヲ行ハントサレテ居ル、而シテ總理大臣ガ昨年議決シタル所ノ立法ヲ未ダ一度モ行フコトナクシテ、直チニ改廢ヲ試ミルガ如キハ、我が國家政府議會ノ威信如何ト言ハレタルニ對シテハ、假令一度モ之ヲ實施セザルト雖モ非常ナル必要ガアレバ、幾度改廢スルモ宜イト云フコトヲ、今下岡君ガ説カレタノデアリガ、元來憲法附屬ノ法典ト云フモノハ、他ノ經濟其他各般ノ施設ニ對スル措置ト違ッテ、一度其權利ノ擴張ヲ爲シタル以上ハ、是ハ假令如何ナル事情ガ到來スルト雖モ、復タ再ビ縮小スルト云フコトハ絶對ニ不能ノ事デアリマス、故ニ此種ノ權利ノ擴張ハ最モ大切ニ取扱ハネベナラヌガ爲メニ、憲法附屬ノ法典トシテ、故ラニ立法上ニ於テ深キ注意ト警戒トヲ懈ラズニ參ッテ居ルモノデアアル、ソレ程ノ立法ガ昨年ノ春新ニ改正サレマシタモノヲ、一度モ實行ヲ見ズシテ直チニ改正ヲスルト云フ如キハ、國家ノ非常ナル時機等デアレバ姑ク措イテ、唯ダ内外ノ情勢ガ我等ノ想像ニ副ハザリシト云フダケノ理由ヲ以テ輕シク改廢ヲ爲サントスルト云フコトハ、如何ニモ斯ル重大ナル立法ヲ取扱フ上ニ於テ、餘リ輕卒無責任デアアル、嘗ニ議院ノ立場ニ於テ爾ク遺憾ニ思フノミナラズ、恐ラクハ國民ノ大多數ニ於テモ、斯ノ如ク輕卒ナ取扱ヲスルヲ見テ、議院ノ信用ヲ疑ハザルモノ幾何カアリマセウ、恐クハ健全ナル思想ヲ有スル國民ノ多數ハ、此ノ如キ法律案ヲ最モ慎重ニ注意深ク取扱ハル、コトニ向ッテハ、我々ト其希望ヲ同ジクスルコトヲ疑ハヌノデアリマス、之アルガ爲メニ正ニ此度ノ選舉ニ於テ、諸君ノ主張ハ國民ノ前ニ破レタデアアリマセヌカ、元來普通選舉權、此要求ヲ基礎作ッテ居ル所ノ多クノ議論、學說如何ニモ論理ノ徹底シタル了解スベキ説少シトセヌノデアリマス、恐クハ何レノ國ニ於テモ、當初學者思想家ガ此種ノ議論ヲ唱ヘタル、其議論其物ニ就テハ如何ヤウニモアリマセウナレドモ、何レモ相當ノ論議、穿鑿、研究ヲ遂ゲタモノデアリマセウ、併ナガラ選舉權其物ヲ一般ノ國民ニ附與スルト云フ、其權利ヲ受取ル所ノ多數ノ國民ガ、其學者、思想家ノ研究ノ總テヲ諒解スルト云フコトハ、容易ニ望マレナイノデアリマス、是ガ故ニ相當ノ道理アル學說、若クハ主張ノ下ニ、諸外國ガ普通選舉ヲ行ッタト云フコトハ、既ニ年アルノデゴザイマスカ、其普通選舉ヲ實行シタルコトノ結果ニ於テ、之

ヲ要求シタル民衆ガ、十分ノ満足ヲ償ヒ得タルヤ否ヤト云フコトヲ考慮致シマス、普通選舉ヲ實施シタル國々ノ其多クハ、却テ此實施ノ以後ニ於テ、是等ノ要求ヲ爲シタル階級ノ多數民衆ハ、寧ロ失望ヲ來シテ居ルト云フコトヲ認メルノデアリマス、雷ニソレノミナラズ、却テ一步ヲ進メテ會テ要求シタル此普通選舉ニ満足セズシテ、更ニ新ナル請求ヲサヘ試ミテ居ル程ノ有様デアアル、是ハ私ノ考デハ、輕卒ニ此種ノ權利ヲ附與スル關係トシテ、動トモスレバ斯ノ如キ結果ニナルベキ道理ノモノデアルト思フ、何故ナレバ唯今申ス通り、民衆多數ガ其理論ヲ一切諒解シ、而シテ彼等ノ行動ガ其理論ノ全體ノ上ニ立ツナラバ、理想家ノ如ク其結果ヲ見ルニ宜シカラウガ、多數ノ民衆ハ、動トモスレバ彼等一身ノ若クハ特殊ノ人間ノ利益ノ爲メニノミ、此理想、此議論ノ中デ、身勝手ナル所ノミヲ彼等ノ思想ノ間ニ殘シテ、而シテ彼等ガ國家社會ノ爲ニ盡サナケレバナラヌ所ノ半面ノ用意ニ於テ、動トモスレバ缺ル所ガアルノデアリマス、之ガ爲メニ其實施ノ結果ハ、歐米諸國ニ於テ、學者思想家ノ要求シタル通りノ状態ニ到來セズシテ、却テ失望ヲ見ルガ如キ今日ノ情況デアアル、又寔ニ昨今海外諸國ノ社會狀態人心ノ動搖スル所ヲ觀レバ、我等國民ハ此機會ニ於テこそ、最モ深キ警戒ノ下ニ、我等民族ノ將來ノ幸福ヲ考慮セニヤナラヌ時デアリマス、然ルニ徒ラニ外國ノ風潮ヲシテ、其風潮ガ偶、我國ニ移シ植エラレテ、國民ノ一部ガ其要求ヲ急ニスルト雖モ、俄ニ此聲ノ爲メニ、直チニ斯ル重大ナル法律ヲ實行スルト云フコトニ於テハ、確ニ諸君ハ餘リニ斯ル問題ニ輕躁デアッテ、昨年ノ春ニ於テ最モ周到ナル注意、深キ議論ヲ爲サレタル其議論こそ、諸君ノ平常ノ注意深キ判斷ニ依ッテ生ジタノデアラウト思フ、斯ル今日ノ諸君ノ主張、今日ノ諸君ノ態度ハ、偶、純然此種ノ政策ニ伺ッテ、其最善ノ批判ノ下ニナルニ非ズシテ、將來ニ於テ此問題ガ如何ニ推移スルカト云フコトヲ豫想サレ、偶、此問題ニ先鞭ヲ著ケラル、コトヲ望ムニ外ナラヌト思フノデアアル、又此提案ヲサレタ諸君ノ議論ヲ承ルト、實ニ驚クベキ一節ガアリマス、此頃我國ニ於テ議會政治ヲ否認スル議會ヲ往々耳ニスル、是ハ普通選舉ヲ拒絕スルガ爲メニ、國民ノ反動デアアルト云フコトヲ說カレテ居ル人ニニシテ止ラヌ、私ハ此論ヲ聽イテ實ニ驚イタノデアリマス、議會政治ヲ呪咀スル聲ハ、諸君ガ常ニ模範トセントセ

ラル、歐米各國ノ普通選舉ヲ疾ヨリ行ッテ居ル國々ニ於テ、先以テ生ジタル聲デハアリマセヌカ、普通選舉ヲ行ハザルガ爲メニ此聲ガ生ズルニ非ズシテ、普通選舉ヲ現ニ行ッテ居ル國々ニ於テ、此頃動トモスレバ此聲ガ生ジテ居ルノデアアル、普通選舉ヲ行ヘバ必ズ此種ノ論ガ起ルトハ私ハ言ハナイ、併ナガラ普通選舉ヲ行ハナイガ爲メニ、此論ガ生ズルト云フ諸君ノ議論ハ全ク詭辯ト言ハナケレバナラヌ、元來近來動トモスレバ、直接行動ト云フガ如キコトガ政治論ノ間ニ聞エマスルガ、是トテ普通選舉ヲ行ハザル國々ニ於テ始メテ生ズル議論デハナク、却テ普通選舉ガ疾クヨリ行ハレタル國々ニ於テ、此頃動トモスレバ直接行動ト云フガ如キ事ヲ唱ヘル人心ノ推移ヲ見テ居ルノデアアル、如何ニ外國ノ制度ヲ模倣スルニ急ナレバトテ、今現ニ普通選舉ヲ行ッテ居ル國々ニ於テ、幾多ノ憂フベキ現象ヲ生ジタル場合ニ於テ、漫ニ外國ノ例ニ倣ウテ此種ノ權利ヲ附與セントスルニ至ッテハ、餘リニ其模倣性ニ過ギタルヲ驚カザルヲ得ナイ、先程植原君ガ日本ノ日本ニ非ズト言ハレタノハ、唯ダ偶、言葉ノ間違デアリマセウ、言葉ノ間違デアリマセウガ、併シ日本ノ日本ニ非ズトデモ言フ位ノ頭デナケレバ、ソナナ大膽ナ事ハ言ハレマイト思フ、私ハ此普通選舉ヲ唱ヘル所ノ諸君ノ中ニ、餘リニ外國ニカブレ過ギテ、其病膏肓ニ入レル人ガアルト思フ、私ハ豫メ申シタル如ク、現在ノ當面ノ問題トシテハ、多ク論ズルコトヲ須タヌト思フ、サリナガラ斯ノ如キ問題ヲ黨争ノ問題ノ爲メニ、若クハ黨勢擴張ノ爲メニ弄ブト云フガ如キコト萬一アルヲ許シマセヌ、ノミナラズ我國ニ於テ、相當ノ時期ニ於テ相當ノ用意ヲ整ヘテ、完全ニ更ニ選舉權ノ擴張ヲ爲スト云フコトハ、必ズ我が政府、我々ノ將來擔當スル所ノ責任デアルト思フ、健全ナル國民——健全ナル國民、眞摯ナル國民ハ必ズ靜ニ我々ガ將來ニ向ッテ、之ガ爲メニ思惟スル所ノモノヲ待ッテ、彼等ノ要求ニ満足スルコトガアラネバナラヌト思ヒマス、此意味ニ於テ私ハ斯ノ如キ案ハ、現在唯今ニ於テハ、最近ノ國民ノ批判ノ下ニ、即決否決スルヲ相當ト信ズル者デアリマス

砂田重政君ノ賛成演説

諸君、私ハ本日ノ議題ニ供セラレテ居リマスル、選舉法ノ改正案ニ賛成ノ理由ヲ述ベル者デアリマス、私ノ主トシテ述ベマスル賛成案ハ國民黨ノ提案致シテ居リマスル選舉法ノ改正案デアリマス、此選舉法ノ改正案ニハ、重要ナル二ツノ意味ヲ含ンデ居ルノデアリマス、其一ツハ選舉權ノ擴張ト、今一ツハ被選舉權ノ擴張ヲ含ンデ居ルノデアリマス、即チ此選舉權ハ、神官、神職、僧侶、其他諸宗ノ教師及小學校教員ニ對スル被選舉權ヲ與ヘヨト云フコトヲ要求シテ居ルノデアリマス、然ルニ本日ノ議會ノ空氣ヲ見マスルト、此改正案ヲ即決否決スルト云フ多數ノ方々ガアルヤウニ見受ケラレルノデアリマス、果シテ然ラバ、此被選舉權ノ擴張ヲ行フト云フコトニモ、諸君ハ反對ヲサレルノデアリマス、諸君ノ擁護セラル、政友會内閣ハ、殊ニ其内務大臣デアアル床次氏ハ、神職或ハ諸宗ノ教師ヲ招聘サレテ、而モ其席上ニ於テ、日本ノ國民思想ノ善導ヲ圖ル爲メニハ、宗教家ト政治家ト相待ツテ、始メテ其效ヲ舉ゲルコトガ出來ルト云フコトヲ宣言サレタメデアリマス、又此多數ノ神職僧侶ニ對シテ、斯ノ如ク内相ガ演說ヲサレ、會合サレテ居ル人々ニ對シテ、被選舉權ヲ與フルト云フコトガ今日尙早ニシテ、又斯ノ如キ人々ニ被選舉權ヲ與フルト云フコトハ、國家ニ取ツテ危險ナルモノデアルト諸君ハ言ハル、ノデアリマス、小學校ノ教員ニ被選舉權ヲ與ヘヨト云フコトハ、今日マデ全國ニ於ケル小學校教員ノ叫デアリマス、文部大臣ハ本日ノ東京日日新聞紙上ニ、今日選舉法ノ改正案ヲ提案シテ居ルモノハ、人氣取リニ過ギナイト云フコトヲ言ハレテ居ル、諸君、全國ニ於ケル教育者ノ會合ノ席上ニ於テ、此教育者ヨリ被選舉權ヲ與ヘヨト云フコトヲ絶叫シテ居ル此教育者ノ言モ、人氣取リノ言ナリト諸君ハ言ハルルノデアリマス、私ハ文部ノ重責ヲ負ハレル文部大臣ガ、全國ノ教育者ノ此言ヲ人氣取リノ言ナリトシテ、之ヲ即決セラル、ヤ否ヤト云フコトヲ、刮目シテ見ヤウト思フノデアリマス、是ハ被選舉權ニ關スル一端ヲ述ベタノデアリマスガ、選舉權ノ擴張ニ就キマシテハ既ニ幾多ノ我々ノ同志ノ人々ヨリ、詳細ニ涉ツテ之ヲ主張サレマシタ、更ニ進ンデ其必要ノ所以ヲ論ズルコトハ茲ニ省キマス、併ナガラ此選舉權ヲ今日擴張スルト云フコトニ反對ヲセラル、此反對ノ理由ニ對シテハ、私ハ相當ノ反駁ヲ加ヘナケレバナラヌト思フ、我々ノ主張致シマスル選舉權ハ、從來ノ

三圓以上即チ三百萬人ノ選舉權者ニ對シ、私共ノ主張スル所ヲ以テスレバ、一千三百萬人ノ日本國民ニ選舉權ヲ與ヘヨト主張スルノデアリマス、此一千三百萬人ノ人々ニ對シテ選舉權ヲ與フルト云フコトガ、今日時機ニ非ズ、尙早デアルト云フ根據ハ何レニ在ルノデアリマス、先程來小久保氏中西氏ノ御演說ヲ承リマシタガ、何故ニ尙早デアアルカト云フコトニ就テ、一言之ニ及バレヌノデアリマス、中西君ハ民衆ノ多數ニ選舉權ヲ與ヘルダケニ、今日ノ民衆ハ自覺ヲシテ居ラナイト云フ意味ニ歸著スルノデアリマス、若シモ中西君ガ政友會ヲ代表シテ、此千幾百萬ノ日本國民ヲ信任セズト云フコトヲ言明セラル、モノト致シマスナラバ、是ハ由々シキ大事デアリマス、我々ハ此千三百萬人ノ中ニハ、或ハ少數ノ無識階級ガアルカモ知レナイ、併ナガラ其大部分ヲ占メル日本ノ現代ノ國民ハ、政治上ニ於テ自覺ヲ持チ、政治上ニ相當ノ知識ヲ備ヘタル者デアルト云フコトヲ確信スルモノデアリマス、又小久保氏ノ主張ニ依リマス、此選舉法改正ノ問題ハ、既ニ國民ノ聲ニ問ウタ、其問ウタ結果ハ、今日明カニナツテ居ルデナイカト云フコトヲ主張サレタ、今同行ハレタル選舉ハ、果シテ政友會ノ諸君全部ガ、普通選舉ハ尙早ナリト云フ旗印ヲ以テ進マレタカドウカ、九州ニ於テモ、大阪市ニ於テモ普通選舉ヲ唱ヘタ候補者ガアルノデアリマス、而モ其選舉ニ金力モ無ク、何等ノ干渉モ無カッタカドウカト云フコトニ就テ、先程下岡君ノ演說ニ對シテ、政友會ノ武藤金吉氏ヲ首メトシテ多數ノ諸君ガ、大隈内閣ノ時ニハドウシタト云フコトヲ言ハレタ、大隈内閣ノ時ハ成程干渉ガアリマシタ、是ハ政友會ノ總理デアリ、現在内閣總理大臣デアアル原敬氏ヨリモ、先日ノ三木君ノ話ニ對シ、大隈内閣ノ時ハドウデアッタト云フコトヲ、手ヲ振り足ヲ踏ンデ主張サレタノデアリマス、諸君、諸君ハ大隈内閣ニ於テ斯ノ如キ罪惡ヲ爲スナレバ、現在ニ於テモ斯ノ如キ罪惡ヲ爲スコトヲ快シトスルノデアアルカ、即チ言ヲ換ヘテ言ヘバ、諸君ハ大隈内閣ガ左様ナ事ヲシタデハナイカト言ハレル以上ハ、諸君ガ選舉干渉ヲ爲シタリト云フコトヲ、認メラレテ居ルモノト謂ハナケレバナラヌ、若シ政友會ノ諸君殊ニ、總理大臣ガ、此選舉ヲ何等ノ干渉ニモ依ラズ何等ノ力ニ依ラズシテ、普通選舉ノ可否ト云フコトヲ眞ニ國民ノ輿論ニ聽クト云フ決心ヲ持タレタナラバ、此議會ヲ解散スルト同時ニ、内閣ヲ辭職シテ國民

ノ前ニ何故ニ聽カナイノデアアル、斯ノ如クニシテ政友會ノ人々ガ、斯ノ如クニシテ二百八十ノ絶對多數ヲ得タナラバ、我々ハ國民ノ輿論ハ、必ズ普通選舉尙早ニアルト云フコトヲ認メルノデアアル、然ルニ自ラ權力ノ地位ニ立チ、而シテ其力ヲ以テ顯得タル二百八十ハ、何等ノ權威ノ無イト云フコトヲ斷言スルノデアアル、又一面ニ於テ普通選舉ニ對スル反對ノ議論ハ、此選舉法ヲ一回モ實施セズシテ、而モ之ヲ改正スルト云フコトハ、誤ッテ居ル現ニ國民黨及憲政會ノ主張ガ、變ッテ居ルデハナイカト云フコトヲ中西君カラ言ハレタ、併ナガラ是ハ今日マデ屢、其例ガアルノデアアル、民法ノ一部分ハドウデアアルカ、商法ノ一部分ハドウデアリマスカ、未ダ一回モ之ヲ實施ゼズシテ改正ヲ斷行シタデハナイカ、此現在行ハレテ居リマスル選舉法ノ改正ニ就テモ、初メ政友會ハ選舉權ヲ五圓以上ノ人々ニ與ヘルト云フ案ヲ提出サレテ、途中ニシテ之ヲ撤回シテ、現在ノ三圓案ヲ提出サレタノデアリマセヌカ、サウスレバ國民黨、憲政會ガ、時ノ時運ニ依リ、國民思想ノ状態ニ依ッテ其選舉法ヲ改正スル上ニ於テ、意見ヲ異ニスルト云フコトハ、何等怪ムベキ理由ニナラヌノデアリマス、又今回ノ反對ノ理由トシテ、小久保君、中西君カラハ、殆ド明瞭ナル答ヲ得マセヌガ、政友會ノ總理ニ在ル原大臣カラノ説明ニ依レバ、此議會ヲ解散シ普通選舉ニ反對シタル理由ノ一トシテ、議院内ニ於ケル思想上ノ問題、院外ニ於ケル危險ナル騷擾ノ状態ヲ鑑ミテ、解散ヲシタモノデアルト云フコトヲ言ハレテ居ル、院外ニ於ケル騷擾ノ状態ヲ惹起シタル者ハ何人ノ罪デアリマス、私ハ其當時ノ寫眞ヲ持參致シテ居ル、政友會ニ屬スル多數ノ壯士ヨリ成ル鐵血團ト云フ白旗ヲ押立テ普通選舉ノ叫ヲ爲ス團體ニ對シテ挑ミ掛ッタ者ハ何人デアリマスカ、而モ之ニ加フルニ警視廳ノ巡查ヲ以テシ、徒ラニ民衆ノ激怒ヲ挑發スル如キ行動ヲ執リタル者ハ、現内閣ノ責任デアルト云フコトヲ斷言スルノデアリマス、殊ニ院内ニ於ケル議員ノ思想ノ上ニ於テ、階級制度ヲ撤廢シテ、國家ノ基礎ヲ危ウスル如キ思想ガアルト云フコトガ、即チ解散ノ理由ニナッテ居ルノデアリマス、普通選舉ヲヤル階級打破ト云フコトノ必要ハ、教育ニシテモ上流ノ者ヲ教育スル、物價問題ニ就テモ上流ニ媚ビル、甚シキハ言フニ忍ビナイケレドモ、徵兵スラ上流社會ニ便宜ヲ與フル傾ガアルカラ、此階級ヲ打破セザルヲ得ナイ、打破セザルヲ得ヌガ

爲メニ、普通選舉ヲ唱ヘルノデアアルト云フコトヲ島田君ガ言ウタ、此言ウタ言葉ハ社會ノ組織ヲ破壞スルモノデアリ、國家ノ爲メニハ反對セザルヲ得ナイト、斯様ニ總理大臣ガ言ウテ居ルノデアアル、若シモ島田君ノ此演說ガ階級思想ヲ撤廢シテ、國家ノ基礎ヲ危クスル議論ナリトスルナラバ、原總理大臣モ島田君同様ニ、國家ノ基礎ヲ危ウスル危險思想ヲ持ツモノデアルト私ハ言フノデアアル、即チ私ハ茲ニ證據ヲ舉ゲテ居ル、七月七日ノ豫算委員會ニ於テ、原總理大臣ハ如何ナル事ヲ言ウテ居ルカ、鈴木君ノ危險思想トハ如何ナルモノヲ言フノデアアルカト云フ質問ニ對シテ、原總理大臣ハ斯様ニ答ヘラレテ居ル、「階級制度ト申スモノハ一例ヲ申セバ華族ナルガ故ニ徵兵ヲ免レル華族ナルガ故ニ稅ヲ納メナイ平民デアアルガ故ニ是以上ノ權利ヲ持テナイト云フヤウナ事ガ若シアリマシタナラバ、是ハ顯著ナル例ヲ申スノデアリマスルガソレハイケナイノデアアッテ階級制度ノ打破セザルベカラザルモノデアリマス」ト言ウテ居ル總理大臣ハ斯様ナモノガアルナラバ、之ヲ打破シナケレバナラヌト云フコトヲ言明サレテ居ルノデアアル、此總理大臣ノ主張ト島田君ノ演說トノ間ニ幾ラノ差ガアリマスカ、原總理大臣ノ危險思想ト稱スルモノハ、其續キニ「併ナガラ華族ガアルトカ國家ニ功勞アル者ニ相當ノ恩賞ガアルコトハ當リ前我國ノ憲法ガ認メテ居ル、若シ何モカモ平等ガ宜シイト云フコトヲサウ云フコトヲ俄カニヤラウト云フナラバ現在ノ社會組織ヲ打破シナケレバナラヌノデアアル」斯ウ言ウテ居ル、島田君ノ演說中ニハ、華族制度ヲ全部撤廢セヨト云フ主張ヲ何所ニシテ居リマスカ、日本ノ恩賞ヲ與ヘル總テノ規定ヲ全廢セヨト云フコトヲ何所ニ主張シテ居ル、果シテ然ラバ島田君ノ主張モ、原大臣ノ演說モ同一デアアル、此島田君ノ主張ガ危險思想ナラバ、原總理大臣モ危險思想デアルト謂ハナケレバナラヌ、斯ノ如ク觀マスルナラバ、何レノ點カラ見マシテモ、此吾々ノ主張スル一千萬人以上ノ人々ニ選舉權ヲ與ヘヨト云フ主張、多數ノ人々ニ對スル被選舉權ヲ與ヘヨト云フ主張ハ、今日ニ於テ反對スベキ何等ノ理由ガ無イノデアアル、此觀易キ道理ヲ内閣總理大臣原敬氏ノ如キ明敏ナル頭腦ヲ持タル、方ガ、之ヲ誤解サレル氣遣ハナイ、若シモ此分リ易キ理窟ガ分ラナイ者トスルナラバ、總理大臣トシテノ資格ハ無イト謂ハナケレバナラヌ、此理窟ガ分ッテ居リナガラ、尙ホ斯ノ如キ事

ヲ爲シ、之ニ依ッテ此現任ニ於ケル日本ノ思想界ニ變動ヲ起シ、而モ我々普通選舉ヲ唱ヘル人々、危險思想ヲ持ツモノ、如クニ主張シテ解散ヲ斷行シタト云フコトハ、一面ニ於テハ國民ヲ誑カシタモノデアルト謂ハナケレバナラス、國民ヲ誑カスト同時ニ、一面ニ於テハ諸君此議會ヲ解散スルニ就テハ、陛下ニ解散ノ理由ヲ奏上シテ御裁可ヲ受ケナケレバナラス、是ハ貴族院議員ノ中ヨリモ、明カニ如何ナル理由ヲ以テ 陛下ニ解散ノ理由ヲ奏上シタルカト云フコトヲ質問サレテ居ルノデアアル、私ハ斯ノ如キ事ヲ現在ノ内閣ニ質問スルノ必要ハ無いノデアアル、總理大臣ハ天下ニ告白シテ居ルト同一ノ理由ヲ以テ 陛下ニ解散ノ理由ヲ奏上シタルモノト謂ハナケレバナラス、果シテ然ラバ先程國民ヲ誑カス如キ理由ヲ以テ、之ヲ以テ 陛下ニ奏上シタルモノト致シマスルナラバ、日本ノ國民ノ中ニ於テ原總理大臣ハ、議會ノ内部ニ於ケル代議士ノ中、普通選舉論者ヲ危險思想ヲ持ツ者ナリト、讒訴シタルモノデアルト謂ハナケレバナラス、諸君ハ之ヲ何トサレルノデアアリマスカ、私ハ斯ノ如キ理由ヲ以テ此議會ヲ解散ヲ爲シ、而モ其解散シテ現レタル議會ニ於テ、議會ヲ解散スルガ如キ重大ナル問題ヲ、一回ノ委員會ニモ付託セズシテ、直チニ之ヲ葬リ去ルト言フコトニ至ッテハ、政友會ノ横暴ト云ハズシテ何ゾ、私ハ斯ノ如キ横暴ヲ容サナイノデアアル、又諸君ニ於テモ直チニ良心ニ依ッテ之ヲ判斷サレテ、此案ヲ相當ニ委員ニ付託サレ慎重審議サレテ、決ヲ採ラレンコトヲ切望シテ止マヌノデアアリマス

鳩山一郎君ノ反對演説

私ハ憲政會並ニ國民黨兩黨ヨリ御提出ニナリマシタル、選舉法改正案ニ反對スル者デアリマス、大戰爭カラ大改造ヘ、此大戰爭カラ大改造ヘト云フ言葉ハ、平和克復ニナリマシタ本年ノ現代ノ「モット」デアリマス、歐洲ノ大戦亂ハ平和條約ノ締結ト國際聯盟ノ成立トニ依リテ終熄ハ告ゲタノデアリマスガ、併ナガラ二十世紀ニ捲起ッタ所ノ風雲ハ、決シテマダ熄マナイノデアリマス、有史以來未ダ曾テ見ザリシ所ノ戰爭ハ、又百年罕ニ觀ル所ノ思想ノ大動亂ヲ來タシテ居ルノデアリマス、歐洲ノ戰亂其者ニ對シマシテハ、對岸ノ火災ノ如クニ見エタ所ノ我帝國ハ、此思想ノ大動

亂ト云フモノニ對シテ、斯クノ如ク晏如シテ居ル譯ニハ行カナイノデアリマス、普通選舉問題ハ此世界ノ改造ト云フ思想ノ潮流ニ乘ッタモノデアリマス、是ニ於テ乎我等ハ大改造ト云フ思想ガ、歐羅巴ニ於テ如何ナル働ヲ爲シテ居ルカト云フコトヲ先ツ第一ニ考ヘマシテ、次ニ我國ノ普通選舉論者ガ其説ク所ニ於テ、十分ニ明白ニ選舉權ノ根本ノ理由ヲ、説明シ得テ居ルカドウカト云フコトヲ考察スル必要ガアルノデアリマス、歐羅巴ノ大改造ノ思想ハ、之ヲ最モ根本的ニ要求ラシテ、而シテ其實行ヲ爲シ得タル國ノ何處デアリマス、勿論露西亞デアリマス、獨逸モ矢張之ニ次イデ政治組織ノ上ニ非常ナル改革ガアッタデアリマス、英米ニ於キマシテハ、無論政治組織ノ上ニ動搖ハ來シタノデハナイケレドモ、併シ社會組織ノ一部デアアル所ノ勞働問題ガ、其效果ヲ現シテ居ルモノデアリマス、非國家的同盟罷業、此事ハ英米ニ於ケル雜誌ガ能ク度々評論ヲシテ居ル所デアリマス、先々月ノ雜誌ニ於キマシテモ「英吉利ノ自由ノ將來」ト云フ題ノ下ニ、英吉利ハ勞働問題ノ爲メニ、今マデ我々ガ死守シテ居ッタ所ノ自由主義ト云フモノガ破壊セラル、消滅セラル、カモ知レナイト云フコトヲ論ジテ居リマス、其一節ヲ讀ミマスケレドモ、勞働運動ノ倫理的性質ト云フモノハ、眞ノ意味ノ自由デハナイ、個人ガ其確信ノ爲メニ、其熱愛ノ爲メニ、活動シテ居ルモノデハナイ、知識アル勞働者ノ階級ハ、「マルクス」ノ經濟論ノ福音ヲ宣傳スルノヲ悦ンデ居ルノダラウケレドモ、是ハ教壇ノ演説ト同ジク獨斷的ノモノデアアル、サウシテ遂ニ無産階級ト有産階級トノ衝突ト云フモノガ、戦後ノ一大問題ニナルノデアアル、此團體ニ於テ自由ノ精神ト云フモノヲ諒解シテ居ラナカッタナラバ、而シテ「モップ」ト「ブレッス」此ノ二ツノモノニ依ッテ國ヲ支配セラル、ト云フコトニナッタナラバ、英吉利ノ「デモクラシー」ト云フモノハ、是ハ「シヴィルウス」ヲ起スヨリ仕方ガナイ、結局專制ト無政府主義ノ戰爭ニナルダラウト云フコトヲ言ッテ居ルノデアリマス、尙ホ他人ハ此思想ノ動亂ノ事ヲ目シテ、世界的ノ病氣デアルト云ッテ居ルノデアリマス、最モ僅カ働イテ、サウシテヨリ多ク賃銀ヲ得ントスル運動ハ、今ヤ世界到處ニ風靡シテ居ルノデアアル、而シテ其要求ハ一段達スレバ亦達セントシテ、此運動ニハ理想ト云フモノヲ持ッテ居ラナイト云フコトヲ言ッテ居リマシテ、英吉利ノ識者ハ勞働運動ト云フモノニ對シ

テ、其理想ノ無イノヲ慨シテ居ルノデア、御存ジノ如ク英吉利ハ千九百十八年選舉ガアッタノデアリマスケレドモ、此場合ニ於テハ、マダ勞働問題ト云フモノハ餘リ烈シクナカッタケレドモ其後ノ社會組織ノ一部ニ對シテ、一般的ノ運動ガアッタノヲ恐レマシテ、此次ノ選舉ニ於テハ、必ズ自由主義ヲ真正ニ理解シテ居ラナイ所ノ議員ガ澤山出ルヤウニナリハシナイカト云フテ其結局ヲ非常ニ危シク居ルノデアリマス、斯ノ如クニ世界ノ思想ノ動搖ト云フコトハ決シテ是ハ良キ方面ニ於テノミ動イテ居ルノデアリマス、英米ニ於テスラ、其危險ナル方面ニ思想ノ動搖ノアルト云フコトハ、識者ノ一般ニ言ッテ居ル所デアリマス、此際ニ階級制度打破ト云フコトヲ言ッタナラバ、其言葉ハ歐米ノ事情ヲ詳シク知ッテ居ル所ノ總裁黨首ニ於テハ必ズ取消スデアラウト私ハ信ズルノデアリマス、勿論歩一步我々ガ吾人生活上、社會生活ノ發展ヲ圖ルト云フノハ、人後ニ落ル譯デアリマセヌケレドモ、唯徒ラニ舊ヲ覆ヘシ新ヲ立テルト云フコトハ、寧ろ禍ヲ無用ニ求ムルモノト謂ハナケレバナラヌ、憲政會ノ齋藤君ガ思想動搖ノ際ニ此風ノ吹模様ヲ見、此風ノ治マル所ヲ見テ、而シテ後ニ徐ロニ制度ノ改善ニ力ヲ盡スノガ、適當デアルト云フヤウニ言ハレテ居ルノデアリマス、私ハ此言葉ニ敬意ヲ拂フ者デアッテ世界ノ思想ノ動搖ガ如何ニ治マルカト云フコトヲ見テ、而シテ後ニ普通選舉ノ問題ヲ解決シテモ未ダ晩シト爲サヌノデアリマス、楮内ニ普通選舉ヲ説ク所ノ人ハ、其選舉權ヲ賦與スル所ノ根本ノ理由ヲ、十分ニ説明シテ居ルカドウカト云フコトヲ考ヘマス、永井君ハ先達此壇上ニ於テ五箇條ノ誓文ヲ引キ、又明治八年ノ立憲政體トヲ詔書ヲ御引キニナツテ、而シテ今日民衆全體ノ上ニ選舉權ヲ與フルノハ、至當デアルト云フコトヲ論セラレタノデア、併ナガラ明治八年ノ立憲政體ノ御詔書ヲ詳ニ御讀ミニナツタナラバ、漸次ニ立憲政體ヲ樹立セヨト云フコトガ書イテアル、而シテ其次ニ以テ行ッテ斯ウ云フ言葉ガ書イテアルノデアリマス、事ヲ爲スニ輕カルベカラズ、進ムニ輕クアッテハイカナイ、爲スニ急ナルベカラズト書イテアルノデアリマス、明治八年ノ立憲政體ノ詔書ガ出テ、立憲政體ノ根本トナルベキ所ノ憲法ハ、明治二十二年ニ發布セラレテ居ルノデアリマセヌカ、而シテ先達此選舉權ガ擴張セラレ、百五十萬人ガ三百萬人ニナツタノデア、此際急ニ千何百萬人ニスルト云フコトハ、

此立憲政體ノ御詔書ノ御趣旨ニ背クモノト私ハ思フノデアリマス、植原君ハ選舉權ヲ賦與スル根本ノ理由ニ就テ、斯ウ云フコトヲ言ッテ居ラレ、國家ト云フモノハ國民ノ全體ニ依ッテ組織セラル、モノデア、國民全體ガ國政ニ就テ發言權ヲ有スルト云フコトハ、寧ろ當然デアルト云フヤウニ説明ヲシテ居ラレマス、此選舉權ト云フモノヲ權利ト云フコトニ考ヘタナラバ、民法第一條ニアルガ如ク、吾々國民全體ガ、此權利ヲ持タナクテハナラヌト云フコトニ歸スルノデアリマス、併ナガラ吾々ハ團體ヲ構成スル一分子トシテ、其團體ノ爲メニ或義務ヲ負擔シナケレバナラナイト云フヤウニ解釋致シマシタナラバ、是ハ國民全體ガ其權利ヲ持ツニ非ラズシテ、政治ヲ理解シテ居ル者ガ此義務ヲ負フト云フコトニナルノデアリマス、如何ナル選舉論ヲ説ク人デモ、制度選舉ヲ説ク人デモ普通選舉ヲ説ク人デモ、一般ノ除外例ト云フモノヲ認メテ居ル、一般ノ除外例、即チ子供デアルトカ、精神病者トカ云フノハ皆ナ除外例デアッテ、如何ナル選舉法デモ認メテ居ルノデアリマス、丁度民法ノ能力ニ關スル規定ノヤウナモノガ、總テノ選舉論ニモアルノデアリマス、之ヲ以テ考ヘマシタナラバ、此選舉權ト云フモノハ、吾々ガ團體ノ構成分子ノ一ツトシテ、其團體ニ對スル義務トシテ、一面見ルコトガ出來ル所ノモノデアルト云フヤウニ解スルノガ、相當デア、先刻貧困ノ爲メニ救助ヲ受ケタル者ハ此權利無シト云フテ、是ダケハ昨年ノ御提案ニハ無クシテ、本年ノニハ有ルノガ、此際一寸植原君ニ申上ゲテ置クノデアリマセケレドモ、救助ト扶養ト云フモノハ勿論違フノデアリマス、扶養ト救助ト違フガ故ニ、民法ノ扶養ノ規定ニ依ッテ、不都合ナ結果ヲ生ズルデハナイカト云フ事ヲ申上ゲルノデアリマス、全ク問題外ノ説明ヲシテ得々タルモノト私ハ解釋スルノデアリマス、尙ホ夫婦ノ事ヲ考ヘ、戶主家族ノ關係ヲ考ヘタナラバ、一國ヲ組織シテ居ル所ノ人ハ單ニ選舉權ヲ持ツト云フコトノ論結ハ、ドウシテモ得ラレナイノデアリマス、本年ノ春松田委員長ガ此席ニ於テ述ベラレタル通りニ、選舉權ヲ與フル根本ト云フモノハ、政治ヲ理解スル能力、之ニ依ッテ選舉權ヲ與フルノデアルト云フコトヲ、明白ニ述ベラレテ居ルノデア、然ルニ此壇上ニ於テ説明ヲスル人々ハ、皆ナ外交問題ガドウデアルトカ、物價ガ

ドウデアアルトカ、國民生活ガドウデアアルトカ、或ハ内ニ人心ガ疲弊シ、外ニ國威ヲ失墜スルトカ、外國ニ其例ガ少ナイトカ、或ハ國際聯盟ガ成立シタトカ、全ク我が國民ノ政治能力ノ有無トカ、全ク無關係ナルコトヲ長クト此席ニ述ベラレ、サウシテ自分ノ提案ノ理由ヲ説明シ得ヤウナ顔ヲシテ居ラレルコトヲ長クト此席ニ述ベラレ、サウシテ自分ノ提案ノ理由ヲ説明シ得ヤウナニ於テ原内閣ガ解散ヲシタノハ、一部ノ固陋ノ人、一部ノ守舊ノ人ノ怖レヲ唆ツテ、其利益ヲ得テ、多クノ議員ヲ此席ニ得ンガ爲メノ一芝居デアアルト云フコトヲ言ハレタ、其間違ッテ居ルト云フコトハ、今マデ私ノ述ベタ事デ明デアアル、關君ノ言葉ヲ採ツテ言ッタナラバ、此ノ世界ノ誤ッタル改造ノ思想ニカブレテ居ル所ノ日本ノ人々ノ心ヲ煽テ、サウシテ其利益ニ依ツテ、自分等ガ多數ヲ得ントシタ一ノ芝居デアアルト云フコトヲ、私ハ並ニ斷言スルノデアアリマス、佛蘭西ニ「メラール」ト云フ人ガアルノデアアリマス、「サンヂカリスト」ノ首領デアアル、理想アル「サンヂカリスト」トシテ、佛蘭西ノ「サンヂカリスト」ガ非常ニ尊敬ヲシテ居ルノデアアリマス、併ナガラ近年ニナツテ佛蘭西ノ勞働組合ニハ理想ガ無イ、唯ダ僅カヲ働イテ、ヨリ多ク賃銀ヲ得タイト云フノデ、全ク其理想ナシトシテ、此人ハ黨首ノ位置ヲ退イテ、寧ロ勞働運動ト云フモノハ國家ニ害アリト云フコトヲ、此頃發表シテ居ルノデアアリマス、憲政會ノ諸君ハ、世界ノ思想ガ動搖スル際ニハ、普通選舉ヲ唱ヘルト云フコトハ、國家ノ基礎ニ危イ感ジガアルト云フコトヲ御自覺遊バシテ、「メラール」ノ如クニ矢張御運動ニ御注意アラント云フモノハ、昨年提出セラレタ案ヨリモ、選先刻私ガ申述ベマス通りニ、本年御提出ノ改正案ト云フモノハ、一定ノ主義ナクシテ今回舉權ノ範圍ヲ狹隘ニ限定シテ居ルノデアアル、此事ヲ考ヘマシタナラバ、一定ノ主義ナクシテ今回此改正案ヲ提出セラレタモノデアアルト、認メナケレバナラヌノデアアリマス、故ニ此變更セラレタト云フコトダケヲ以テ、今回ノ改正案ノ鼎ノ輕重ヲ問フノニ、十分デアアルト私ハ信ズルノデアアリマス、而シテ國民ノ公平ナ判斷ニ訴ヘテ、明確ナル答辯ヲ得タル今日此以上申上グル必要ハナカラウト信ジテ、私ハ此壇ヲ降りマス

田淵豊吉君ノ贊成演説

(前略)私ハ政友會ノ原サンガヤラレタ所ノ解散ニ就キマシテ、私ハ形式上不當ト認メナイモノデアアル、政友會ハ最モ進歩シタル方法ニ於テ、解散ヲ斷行シタト思フノデアアリマス、併ナガラ諸君、私ハ此進歩シタル方法ニ於テ、最モ舊キ思想ニ於テ、普通選舉ヲ危險ナリトスル時代錯誤ノ最モ舊キ精神ニ於テ、否ナ頭數ヲ殖スガ爲メニ、陋劣ナル精神ヲ以テ之ヲ斷行シタト云フコトヲ、私ハ信ズルノデアアリマス、私ハ斯ウ云フヤウナ例ヲ引クト云フコトハ、甚ダ不謹慎トハ思ヒマスケレドモ、眞直ニ言ヘバ、私ハ不謹慎デナイト思フ、最モ進歩シタル火力ノ強イ水素瓦斯ヲ以テ彼ノ銀行ノ金庫ヲ破ツタ、其時ニ於テハ其人ガ果シテ善人デアアルト云フコトハ、私ハ言ヘナイノデアアリカ知ラヌト思フ、最モ文明ノ利器ヲ利用シテ、而シテヤツテ居ルケレドモ、其精神ニ於テ惡ケレバ、善クナイノデアアリカ知ラヌト思フ、サウスレバ形式ノ問題デハナイ、精神ノ問題デアアルト私ハ思フ、裁判所ノ立ッテ居ルノハ、裁判所ノ建物其物デハナイ、人間ノ精神其物デ在ル、道德的、法律的、憲法的、宗教的ノ精神カラ、其所ニ裁判所ガアルト思フ、故ニ政友會ノ諸君ガ憲政黨ノ人ニ對シテ、或ハ國民黨ノ人々ニ對シテ抗辯シタカラト云ウテ、吾々ノ精神ヲ毫末モ枉ゲルコトハ出來ナイ、矢張不當ノ解散ト云フコトヲ私ハ斷言シテ憚ラナイノデアアル、私ハ一昨年土佐ニ行キマシテ土佐ノ前幹事長ニ會ヒマシタ、サウシタラバ前幹事長ガ言フノニ、政友會カラ問ウテ來テ居ル、小選舉區ニシタラバオ前ノ國デハ損デアアルカ得デアアルカト云フコトヲ問ヒニ來タカラ、決シテ損デナイト云フコトヲ答ヘタト云フコトデアアル、政友會ノ遺口ハ皆ナサウデアアル、又彼ノ選舉權ヲ擴張シタナラバ損ガ行カヌカ、得ガ行クデアアルカ、能ク其影響ヲ調査シテ來テ貰ヒタイト云フコトヲ、憲政會ノ總務ノ口カラ言ウテ居ル、君ハ分ラナイカ知ラナイガ、詰マリ政友會ガ損デアアルカ得デアアルカト云フコトガ第一ノ問題デアアツテ、國家ノ安危ニ繫ル問題ハ第二段デアアルト思フ、ソレカラ是ハ些ッと言ヒ過ギルカモ知レマセケレドモ、政友會ハ市町村ノ制度カラ改メテ行ッタナラバ宜イト云フノハ、先ヅ市町村デヤツテ氣遣ヒナカッタナラバ、是ニ於テヤラウト云フヤウナ魂膽カラ、先ヅ市町村ヲヤラウト云フノデアハナイカト思フ、損ヲシナイカ得ヲシナイカト云フコトガ、彼等ノ第一ノ問題デハナカラウカト思フ、諸君、私ハ政友會ガ成ルベク人員ヲ

多クシテ二百四五十名ノ黨員ヲ得タナラバ、モウ二月モ経タラバ原サンハ退クノデアアル、陸軍大臣ガ退カヌトカ海軍大臣ガ退カヌト退クカラ退カヌト言フノデアアル、ダカラ殆ド我々ハ多勅トカ云フコトハ問題ガ無イノデアアル、政友會ガ、何ガ故ニ今回ノ解散ヲシタカト云フノニ、多クノ黨員ヲ得ルナラバ、此所デ原内閣ガ更ツテモ、牧野トカ權兵衛サンガ來テモ氣遣ナイヤウニシテ置キタイ爲メニ、解散ヲシタモノデアアルト思フ、故ニ私ハ解散ガ不當デアツテ、政友會ハ成ルベク生命ヲ長クスル爲メニ、解散ヲ斷行シタ、形式ハ合ツテ居ル、ケレドモ精神ハ非常ニ面白カラザル點カラ解散シタト云フコトヲ他ノ人ガ言ハナイカラ私ガ愛ニ言フノデアアル、諸君、吾ハ平民デアアル、衆議院議員デアアルカラト云フノミヲ以テ平民内閣ト云フノハ、ソレハ原サン一人ノ爲メデアアル、平民内閣ト云フモノハ、平民ト行動ヲ一ニシテ、「トラス、セ、ビーブル」ト「ロイド」デヨ「ジ」ガ言ハレタ平民ト行動ヲ同ジクシ、平民ノ心ヲ酌ンデ平民ノ危急存亡ヲ以テ、國家ノ我ガ事トスルノデ、初メテ平民内閣ト云フコトガ出來ル、原サン一個ガ衆議院議員デアアル、平民デアルトカ云フノハ、殆ド問題ニナラナイ、諸君、昔西洋ニ於キマシテ、或ル王様ガ斯ウ云フコトヲ話シタ、王様ガ海濱ニ立チマシテ言フノニ、波ヨ退ケ、俺ハ王デアアルカラ波ヨ退ケ、波ヨ、我ガ處ヘ來テハイカヌト言ツタ所ガ、波ハ滔々トシテ、我ガ袖ヲ濡シテ、我ガ足マデ濡シテシマツタ、サウシテ賢イ王様ハ侍從ヲ顧ミテ曰ク、君ハ王様ハ何ヨリモ偉イモノデアアルト言ウタケレドモ、波ハ此處マデ來テ居ルデハナイカ、サウ云フ嘘ヲ言フナト言ハレタト云フコトガアル、私ハ原サンガ陛下ニ奏上シタ場合ニ、ドウカ此普通選舉ヲ施カナクテモ、二年ヤ三年ヤ四年ヤ五年施カナクテモ、日本國民ハマダ瞞シテ置ケル、日本國民ハ些ット溫和シイ國民デアアル、彼等ハブウ言ウテ居ルケレドモ、表面デアアルト云フコトヲ言ウタカドウカ、大イニ原サンハ日本帝國ガ今日世界ノ大ナル思潮ノ影響ヲ受ケテ、如何ナル状態ニ在ルカト云フ事ニ就テハ、陛下ニ少シモ隠スコトナクシテ、日本ノ状態ヲ御奏上ニナツタカ如何ト云フコトヲ、私ハ原サンニ聽キタイノデアアリマス、唯タ憲政會トカ國民黨ガ去年出シタノニ又取入レタ、サウ云フ下ラヌ事、島田サンガ階級打破ト言ツタトカ言ハナイトカ言ウテ、下ラヌコトハ聽キタクナイ、我々ハ普通選舉ト云フモノハ、最モ

嚴肅ナ問題デアツテ、國民ノ生活ナリ、思想ナリ總テヲ盡ス爲メニ必要デアアルト云フコトヲ、十分ニ考ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス、諸君、私ハ諸君ノ或人ヨリ曩ニ委員會ニ於テ、獨逸ハ何ガ故ニ普通選舉デアリナガラ、斯ノ如キ官僚軍閥ノ跋扈シテ、遂ニ戰敗ヲ招イタカ、其理由ガ分ラヌト云フコトヲ言ハレタ人ガアツタヤウニ思フ、併ナガラ諸君、私ハ獨逸ハ普通選舉デアツテ、四十有餘年前既ニ二十五歳以上ノ男子ハ、一家ニ何人アラウガ普通選舉ヲ斷行シタ、是ハ「ビスマーク」ノ英斷デアアル、併ナガラ諸君、此故ヲ以テ獨逸ハ普通選舉ノ國デアアルト思フノハ大ナル誤リデアアル、獨逸ハ普通選舉ノ國デナクテ、獨逸ハ最モ中堅トセラレテ居ル彼ノ普魯西ニ於テ、普通選舉ハ斷行セラレテナイデ、サウシテ三級制度ハ止メテ、サウシテ口デ投票スルト云フ所ノ記名式投票ニナツテ居ッタガ爲メニ、「カイザー」ガ之ヲ憂ヘテ、サウ云フ事ハイケナイカラ、ドウカ普通選舉ヲ施イテ吳レト言フ二十年前カラ言ツタニ拘ラズ、獨逸貴族及官僚軍閥ガ之ヲ遮ツテ、遂ニ獨逸ノ此普魯西ノ普通選舉ヲ遮ツタノデアリマス、ソレガ爲メニ普通選舉ハ獨逸ニ施カレズシテ、軍閥官僚ノ徒ガ跋扈シテ、遂ニ獨逸帝國ヲ支配シテ、今日ノ如キ大ナル戰敗ヲ招イタト云フコト、或ハ彼ノ英吉利ガ何ガ故ニ千八百八十二年ノ改革以來、ヤツテナイト云フコトヲ言ハレタデアリマセウ、併ナガラ諸君、英吉利ハ彼ノ千八百三十二年デシタカ、或ハ千八百六十四年千八百八十二年ノ大改革ニ於テ、殆ド普通選舉ニナツテ居ル、所ガ英吉利ハ義勇兵ノ國デアアルカラシテ、普通選舉ノ斷行ヲ躊躇シテ居ッタ所ガ今回ノ大戰ニ於テ男モ女モ戰鬪ニ加擔シタト云フノデ、女權擴張マデヤツタデハナイカ、詰マリ英吉利ハ義勇兵デアツタケレドモ、日本ハ獨逸ノ如ク、國民兵即チ徵兵制度ヲ執ツテ居ルガ故ニ、日露戰爭ノ後ニ於テ、普通選舉ヲ斷行シナケレバナラヌ譯デアアルト思フノデアリマス、其點ヲ諸君ハ知ラナカッタト思フ故ニ、私ハ此普通選舉ハ、既ニ日露戰爭後ニ於テヤラナケレバナラヌデアリマシタ、ケレドモ今日マデ延ビタ所ガ、賢イ所ノ政友會ノ人々、先見ノアル政友會ノ人二十三名率先シテ、普通選舉ヲ提唱セラレタ、十餘年前ニ茲ニヤラレタト云フコトハ、其等ノ人ノヤツタ事ハ間違ッテ居ルニシロ、其精神ニ對シテハ敬意ヲ表スルノデアアル、然ルニ原サンガ政友會ノ内閣ノ作ツテカラト云フモノハ、アレハ子供ガヤツタ事

デアルカラ、自分ハ知ラヌト云フノハ、子供ガ泥棒シタノダカラ親ガ知ラヌト云フノト能ク似テ居ル、是ハ人ニ聽クヨリ諸君ハ能ク知ッテ居ル等デアルカラ、諸君自身ニ聽ケバ能ク判ル、島田君ガドウ言ッタトカ外ノ人ガドウ言ッタカト云フヤウナコトヲ言ハレマスガ、普通選舉ハモウ十餘年前カラ唱ヘラレテ居ル、而モ今日ノ日本人ハドウカト云フト、一般ノ形勢ガ急轉直下シテ是ガ輿論ニナッテ居ル、ソレヲ知ッテ居リナガラ、政府ニ立ッテ居ルヨリハ、宜シク辭職シテ野ニ下ルト云フコトガ、其等ノ人ノ良心ヲ満足セシムル所以デアルト思フ、何時マデモ其地位ニ戀々トシテ此議會ニ赤イ顔ヲ晒シテ居ルト云フコトハ、帝國議會ノ體面ヲ汚スコト酒呑ノ私ヨリ甚シイト思フ、諸君、諸君ハ政友會内閣ハ干涉シナイト言ヒマス、ケレドモ私等ノ方ノ郡長ヘ言ッテ來タコトハ、普通選舉ト云フヤウナ人ハ、危イモノデアルト云フヤウナコトヲ言ッテ來タ、郡長様ハ又ソレヲ村長ノ人ニ言ッタ、我々ハ村長サンカラサウ云フコトヲ聽イタ、ソレガ干涉デナクテ何デスカ、或ハ警察官ガ片方デ餘ッタカラト言ッテ吾々ノ方ヘドン、警官ヲ向ケテ來タト云フコトハ、是ハ干涉デアルカナイカ知レマセヌガ、一寸可笑シク思フ、サウ云フヤウナ點ニ於テ、私ハ色色ノ疑惑ヲ懷クノデアアル此選舉界ヲ十分ニスルニ就テハ、普通選舉ヲ斷行シナケレバ、我日本帝國ノ國民トシテイカヌト思フ、諸君、此衆議院ハ三百萬人カラ選バレテ來タモノデアッテ、殘ル千五百萬人ガ、マダアトニ殘ッテ居ルノデアアル、議院ハ上院中院下院ト言ヒマスガ、實ハ是ハ衆議院デナクテ中議院デアルト思フ、中議院ト云フモノハ、決シテ國民ノ大多數ヲ代表シテ居ルモノデナイ、諸君ハ勝手ナコトヲ言ッテ吠エルケレドモ、僅カニ三百萬人ノ人ホカ代表シテ居ナイ、併ナガラ私ハ三百萬人ノ人ノホカ代表ヲシテ居ナイカラト云ッテ、國家ノ選良デナイト云フヤウナ、暴慢ナル言ヲ吐ク者デナイ、吾々ハ三百萬人ノ人カラ選舉サレタト云フ意味ヲ以テ、日本國民ヲ代表シナイト云フコトデハナイノデアリマス、併シナガラ私ハ思フ、憲政會ハ智ニ於テ長ジテ居リ、政友會ハ情ニ於テ長ジテ居ル、國民黨ハ即チ意志ニ於テ長ジテ居ル、政友會ノ諸君ハ、唯ダ情ニ驅ラレテ、國民ノ意思トスルコトガ出來ナト、僅カナ人ヲ胡麻化セバ宜イ、三百萬人ノ人ヲ胡麻化セバ宜イト云フ心ヲ以テ上ッテ來テ居ル、千何萬人ノ民心ヲ以テ心トシナイ、若シソレガアッタト

スレバ、原總理大臣ノ言明ニ反シテ居ルト私ハ思フ、原總理大臣ハ國民ノ意思ヲ問フト言ッタ居ル位地ヲ利用シテ旨イ事ヲシヤウ、此處デ言ッテハ失禮カモ知レマセヌガ株デモ賣ッテ儲ケヤウト云フコトバカリ考ヘテ居ル、斯ウ云フヤウナ考デハ、逆モ日本帝國ハ旨ク行カナイ、ソコデ一人デモ愚圖々々言ハウトスルト黙ッテ居レト云フコトデ、政黨ノ力ヲ以テ壓迫シテ居ル、併ナガラ諸君、今日ノ日本ノ五六千萬ノ國民ハ、此議會ニ於テ諸君ガ何ヲ言ッテ居ルカト云フコトヲ注意シテ居ルデハナイカ、諸君ハ此處ニ來テ自己ノ利益ヲ圖リ、自己ニ都合ノ好イヤウナコトヲ圖ラウトシテ居ルカ、諸君ハ十年モ經テバ此處ニ居ラヌ、悉ク死ンデシマウカモ知レヌ、又不當ナル解散ニ依ッテ諸君ハ選舉サレテ來タ、併ナガラ斯ウ言ッテハ失禮デアアルガ、サウ永クハ保タナイ、漸ク一期位シカ保タナイト思フ、サウ云フ人ニ向ッテ私ハ辯論ヲ費スノ餘裕ヲ持タナイカ知レマセヌガ、斯ウシテ此集ニ集ッテ居ル諸君ニ私ガ大ニ敬意ヲ拂フト致シマシテモ、後來諸君ハドウカ日本帝國ノ國民ガ、如何ナル狀態ニ居ルカト云フコトヲ御承知ヲ願ヒタイ、諸君、諸君ハ人種平等ヲ出サレタデハナイカ、政友會ガ出サレタ人種平等ニ諸君ガ一致シナガラ、國民ノ全部ニ選舉權ヲ與ヘナイ、選舉權ノ不平等ヲ唱ヘラレト云フコトハ何故デアアル、諸君ハ市町村ノコトガ早イト言ッテ居ルカ、市町村ニ普通選舉ヲ行フノガ早イノデハナイ、段々ヤッテ居ル中ニ、政友會ガ市町村ヲ旨ク胡麻化シテ、政友會ノ代表者ヲ出セルヤウニナッテカラト云フノデアアル、斯ウ云フ事ハ甚ダ宜シクナイ、諸君、今日日本ノ勞働者ハ、亞米利加ニ向ッテ、或ハ外國ニ向ッテ諸君ハ勞働者ノ代表ヲ華盛頓ニ出シテ居ル、然ルニ内ニハ少シモ勞働者ノ團體ノ代表ヲ認メナイト云フナラバ、私ハ虞レル、日本ノ勞働者ノ多クハ、外國ノ人ニ向ッテ日本ノ惡口ヲ言フ、或ハ外國ニ行ッテ、日本ノ國ト外國トヲ爭ハスヤウナコトハシナイカト云フコトヲ虞レル、今日ハ國際聯盟マデモ結バレルヤウナコトニナッテ居リマスヤウナ時代デアルカラ、餘程「インターナショナル」ニナッテ居ル、日本國民トシテハ、内ニハ勞働者ニ選舉權ヲ與ヘルト云フコトガ、最モ肝要適切ノ事ト私ハ思フ、故ニトウカ諸君ハ日本國民ノ心ヲ心トシテ、下ラヌ揚足ヲ取ッテ居ナイデ滔々トシテ漲ル日本國民ノ思潮タル普通選舉ヲ行フト云フコトハ最モ重大ノコト、思フ、諸君ガ一人ノ永

井柳太郎君ヤ中野正剛君ヲ鎗玉ニ上ゲタカラト云ツテ、何モ大ナル成功デハナイ、六千萬國民ノ大部分ハ何シテ居ル、神戸ノ東町ヤ東京萬年町トカ云フヤウナ危イ源ガアル、警視廳ナドデハ此邊ノ眞ノ事情ヲ調べナケレバナラヌ、諸君ハ三百萬人ヲ欺シテ、或ハ三百萬人ノ代表者トナツテ居ルト考ヘテ居ラレマスガ、日本國民ノ總テカラ選舉サレタモノデナイ、諸君ヨ、諸君ドウカ今日ヨリ本心ニ立戻ツテ、サウシテ成ルベク普通選舉ヲ早クスルト云フコトガ私ハ必要デハナイカト思フ、諸君ヨ、簡單ニヤリマス、ドウカ下ラヌ等ヒヲ止メテ、此議會ヲシテ日本ノ公明正大ナル議會ニシテ戴キタイト願フノデアリマス、私ガ諸君ノ言動ヲ見テ見マスルニ、諸君ハ總選舉ト云フ冊子ヲ、或ハ數萬或ハ數十萬、全國津々浦々マデ配ラレテ、普通選舉ヲ施クナラバ露國ノ如クナルゾ、獨逸ノ如ク危ナクナルゾ、共產主義ニナルゾ、社會主義ニナルゾト云フヤウナコトヲ諸君ガ言ハレタト云フコトハ、私ハ是ハ諸君ノ何所カラ出タカ知レマセヌケレドモ、多分政友會ノ本部或ハ本部ニ近イ所カラ、斯ノ如キ巨額ノ金ヲ出シテヤッタト云フコトハ、察スルニ難カラザルト思ヒマス、斯ノ事ヲ以テ田舎ノ津々浦々ノ人モ、普通選舉ト云フモノハ危イモノデアルト云フコトヲ言フナラバ、何ガ故ニ原首相ハ普通選舉ハ危クナイケレドモ、來年ハヤラヌケレドモ、再來年位ハヤルカモ知レヌト、イ、加減ナ事ヲ言フテ人ヲ惑ハスト云フノハ、前後撞著矛盾ノ甚シイモト思ヒマス、斯ウ云フ意味ニ於テ私ハ諸君ノ良心ニ向ツテ之ヲ聽キ給ヘ、諸君ハ普通選舉ヲ贊成シナガラ、普通選舉ヲ贊シタナラバ、惡イト思フカモ知レヌガ、諸君ノ望ム所ノ彼ノ所得稅ノ綜合問題ハ、立口快刀亂麻ヲ斷ツ概ガアル諸君ガ普通選舉モ施カズ、而シテ此所得稅ノ綜合問題ヲ持出サウトスルノハ、即チ顛倒トハ言ヒマセヌケレドモ順序ヲ誤ツテ居ルト思フ、諸君、諸君等ガ三百萬人ニ依ツテ選舉サレテ居ルカラ、直接國稅ハ輕クシテ、サウシテ間接消費稅ト云フモノハ非常ニ重イモノデアアル、人民ハ空氣ト水ト此光線ト、其食糧ニ飢エテ居ルデハナイカ、諸君ハソレヲ知ラズシテ、度々「キヤピタリスト」資本家ノ爲メニ使ハレ、而シテ營々ト三年五年間議員生活ヲ送ツテ、サウシテ議員ノ徽章ヲ付ケテ得々ト思フ馬鹿デハアルマイ、諸君彼ノ貴族院ニ就テモ政友會ノ原サンデモサウデアアル貴族院ノ或ル者ト提携シテ、サウシテ元老ト貴族院ノ

鼻息ヲ窺ハンガ爲メニ普通選舉ヲ拒ンデ居ルト云フコトハ、前後撞著矛盾ノ甚シイモノト思ヒマス、貴族院ヲ改良シ、貴族院ノ勢力ヲ殺ガントスルナラバ、先ヅ國民ニ訴ヘテ、サウシテ國民ノ普通選舉ノ力ニ依ツテヤラナケレバナラヌト思フ、諸君ハドウカ本心ニ立戻ツテ、普通選舉ヲ斷行セラレテ、サウシテ血稅ヲ拂ツテ居ル人モ、普通選舉ヲ有ツテ居ル、西伯利ノ野ニ於テ戰ツテ居ル、人々モ、普通選舉ヲ有ツテ居ル、尼港ニ於テ虐殺ニ遭ツタ人モ、普通選舉ヲ有ツテ居ルト云フヤウニナツテ戴キタイ、此意味ニ於テ普通選舉ノ斷行ハ、一日モ早カラシムコトヲ私ハ願フ、諸君ハドウカ少シ本心ニ立戻ツテ、ドウカ此澎湃タル日本ノ此天地ニ漲ツテ居ル、普通選舉ノ大問題ヲ解決シナケレバ、或ハ虞ル、諸君ノ足下ガ危イデハナイカ、日本ノ大ナル三千年來ノ國史ヲ傷ケテハイケナイト云フコトヲ、私ハ痛切ニ思フカラシテ、私ハ此壇上ニ立ツテ、諸君ノ反省ト、サウシテ國民黨、政友會、無所屬、庚申俱樂部、並ニ憲政會ノ諸君ハ、ドウカ本心ニ立戻リテヤラレタイト云フコトヲ願ウテ、此壇上ヲ引拂積フリデアリマス(後略)

原國務大臣ハ左ノ反對意見ヲ述フ

諸君、本日議題ト相成ツテ居ル衆議院議員選舉法改正案、此問題ハ當春議會ニ於テ十分ニ論ジ盡サレテ居ルノデアリマス、然ル上ハ又本日此議場ニ於テ、贊成反對ノ論ヲ闘ハシ、其是非ノ論自ラ定マル所ガアルヤウニ思フノデアリマス、斯様ナル場合ニ於テ、私ハ又喋々ノ辯ヲ繰返シテ申ス必要ハナカラウト思ヒマス、極メテ簡單ニ理由ヲ述ベタイノデアアル、下岡君ハ本案提出ノ理由ヲ説カレマシタガ、此理由ハ當春唱ヘラレタノト大同小異デアリマス、併ナガラ如何ナル譯カ、此數日以來、本期議會ニナツテ以來、島田君ノ演說中ニアリマシタ階級打破ト云フコトニ就テ、度々色々ナ方々カラ辯明ヲ努メラレルノデアリマス、何故ニ之ヲ頻リニ辯護セラレ辯解セラレルノデアルカラ私ハ怪シム、左様ニ今日辯明セラレル程ナラバ、當時言ハレザリシガ一番宜カッタノデアアル、當時言ハレタル事ハ、速記ニ明瞭ニ載ツテ居ル、然ルニ今日今期議會ニ於テ頻リニ辯解セラレルノハ是ハドウ云フ理由デアアルカ、我々ハ其理由ヲ解スルニ苦シムノデアリマス、併シ是ハ

御隨意デアル、辯明ハ幾ラ爲サツテモ爲サルマイトモ御隨意デアリマスカラ、強テ此點ハ争ヒハ致サナイ、而シテ普通選舉ノ必要ナル理由ヲ喋々言ハレル此點ハ下岡君バカリデハナイ、植原君モ言ハレル、左程普通選舉ヲ必要ナリトスルナラバ、何故ニ昨年選舉法改正案ノ際ニ、之ヲ唱ヘラレナイノデアルカ、昨年ハ是ト全ク反對ノ意見ヲ述ベラレテ居ル、普通選舉ヲ飽マデ排斥セラレテ居ル、而シテ今年春ニ提出セラレタル場合ニ、齋藤隆夫君ノ演說デアリマシタカ、時勢ガ大層變化シテ居ル、此一年間ニ大層變化シテ居ルト云フコトハ誰ニモ了解ハ出来マセヌガ、其中ニ講和條約ガ出来タトカ——講和條約ノ成立セントスルコトハ、昨年現行選舉法改正案ヲ議スル時ニ分ツテ居ッタ事柄デアアル、是モ理由ニナラナイ、免ニ角ニ是マデ普通選舉論ヲ主張セラル、ナラバ、昨年ニ於テ力ヲ籠メテ主張セラレナケレバナラナカッタ、然ルニ當時ニ在テハ、全ク是ト反對ノ論ヲ唱ヘテ、今日ハ又喋々之ヲ唱ヘラル、ノデアアル、此選舉法改正案ハ何時カラ實行セラルルノデリマス、今日焦眉ノ急ニ追ッタヤウニ頻リニ言ハレルガ、何時カラ實行セラル、ト云フノデアアルカ、本案ヲ見レバ次ノ總選舉ト云フ四年先ノコトデアリマセヌカ、今日之ヲ實行セザレバ、天下亂レテ大變ナコトノヤウニ言ハレルガ、其實行ハ四年先キノコトデアアル、當年ノ春ニ次ノ總選舉ヨリ施行スル法文ニ書カレタナラバ、是ハ少シ理由ガアル、當春次ノ總選舉ト言ハルル前ニハ、大正十年ガ宜カラウ、九年ノ十月カラガ宜カラウト云フ御議論ガアッタサウデアリマスカ、免ニ角次ノ總選舉ハ十年ノ四月ガ改選ノ時期デアリマスカラ、理由ガアル、今日之ヲ喋々唱ヘラレテ、如何ニモ之ヲ實行シナケレバ、何カ大變ナ事デモ生ジヤセヌカト云フヤウニ言ハレル、其選舉ハ四年先キノコトデアアル、之ヲ要スルニ此論ハ——即チ此論ト云フモノガ、最早天下ニ明瞭ニナツテ居ルモノデアアル、則チ普通選舉論者ノ唱ヘテ居ル昨年改正シタル法律ヲ、今回再ビ改正セントスルコトニ國民ノ多數ハ同意シナイノデアアル、又階級打破ヲスルガ爲メニ、普通選舉ヲヤラウト云フコトニモ國民ハ同意シナイノデアアル、是ハ明瞭デアアル如何ニ争ハレテモ是ハ争ヘナイ事實デアアル、加之普通選舉ノ善惡ヲ頻リニ言ハレルガ、吾々ハ當時何ト申シタ、吾々ハ選舉權ノ擴張ニ異議ハ無い、異議無いノミナラス、選舉權ヲ擴張シ來ッタノデアアル、空論——議論

ニ非ズシテ吾々ハ之ヲ實行シ來タノデアアル、故ニ選舉權擴張ニハ更ニ異議ハナイ、異議ハ無いノミナラス、漸次擴張スルニ至ツテハ、遂ニ普通選舉ニモ相成ルデアラウ、相當ノ時機デアレバ是モ差支ナイ、唯今昨年制定シタル法律案ヲ今回變ヘル、而モソレガ社會ノ組織ヲ脅威スルヤウナ意味カラ改正スルト云フコトニ同意ハ出来ナイ、吾々ハ此普通選舉自體ト云フモノニ危険モ何モ無いノデアアル、相當ノ時機ヲ選ビ、相當ノ趣意ヲ選ブノデアアル、故ニ吾々ハ相當ノ時機ニ到達スレバ、此問題ヲ解決スルニ躊躇シナイノデアアル、斯様ナ次第デアアル、故ニ今年春提出セラレ、是ガ問題トナツテ改正セラレ、國民ノ輿論既ニ一定シタ今日ニ於テ、斯ノ如キ案ヲ再ビ提出セラルルト云フコトハ吾々ハ憲政會並ニ國民黨ノ爲メニ措マザルヲ得ヌ、故ニ是ハ徐ロニ相當ノ時機ヲ考ヘテ、國家ノ利益ニ顧ミテ之ヲ解決スベキ問題デアアルト思フ、今日何同モ同ジ事ヲ繰返シテ理由ナキ說ヲ唱ヘル時機デナイト考ヘマスカラ國家ノ爲メニ吾々ハ之ニ反對ヲ致シマス

岩崎勳君ハ討論終局ノ動議ヲ提出シ三木武吉君ハ委員付託ノ動議ヲ提出ス

議長ハ先ツ三木君提出委員付託ノ動議ニ付テ採決スル旨ヲ述ヘ岩崎勳君ハ動議ニ反對ス

院議贊成者少數ニシテ委員付託ノ動議ハ之ヲ否決シ討論終局ノ動議ヲ多數ヲ以テ採用シ討論ハ茲ニ終局ス

次テ(一)案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ニ付記名投票ノ結果百五十五ニ對スル二百八十六ノ多數ヲ以テ第二讀會ヲ開カサルニ決シ次テ(二)案ニ付起立ニ依リ採決ノ結果少數ニテ第二讀會ヲ開カサルニ決シタリ